

EOS C400

デジタルシネマカメラ

Firmware ver. 1.0.2.1

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。

 **警告** 死亡や重傷を負うおそれがある内容です。

- 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
- 破損したときは、内部に触れない。
- 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。
感電の原因となります。
- 分解や改造をしない。
- 強い衝撃や振動を与えない。
- 指定外の電源は使わない。
- バッテリーチャージャーやACアダプターを使うときは、次のことに注意する。
 - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。
 - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
 - コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
 - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
 - 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
 - 電源に長時間つないだままにしない。
 - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
 - 0℃～40℃の範囲外で充電しない。
- バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
 - 液漏れしたものは使わない。
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。
 - 指定外の製品で使わない。
 - 熱したり、火中投入しない。
 - 指定外の製品で充電しない。
 - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
 - バッテリーを子供の手の届く範囲内に置かない。
 - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。
- レンズ、またはレンズを付けたカメラを太陽に向けたり、撮影をしたりしない。
太陽が画面外にあるときや逆光撮影の場合でも、レンズに入った太陽の光が集光し、故障や火災の原因となることがあります。
- レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。
光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。
- レンズキャップを外した状態で放置しない。
- 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
- 長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。
- 乳幼児の手の届くところに置かない。
ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。



禁止



強制

- 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。
電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となるおそれがあります。
- 設置時、カメラと接続機器を含む総重量に耐える十分な強度があることを確認のうえ、必要に応じて適切な補強を行う。

⚠ 注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。



禁止

- ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。
けがやカメラの故障の原因となります。
- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。
製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。



強制

- 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。
- 長い時間、画面を見続けず。
乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。

Contents

安全上のご注意	2	動画の記録方法を選ぶ	43
1. はじめに	8	ボリュームラベルを設定する	45
本書について	8	クリップファイル名を設定する	45
本文中の表記	8	カメラの水平を確認する	47
商品を確認する	9	冷却ファンの動作方法を選ぶ	47
各部の名称	11	ブラックバランスを調整する	49
LCDモニター	17	3. 撮影	50
LCDアタッチメントユニット	18	動画や静止画を撮影する	50
ハンドルユニット	19	撮影する	50
マイクホルダー	19	撮影時の画面表示	52
カメラグリップ	20	画面表示を切り換える	56
ワークフローの紹介：4K以上の高解像度	21	レックレビューで確認する	59
ACESワークフローによる		撮影設定を行う	60
カラーグレーディング	22	ダイレクトタッチコントロールで基本的な	
2. 準備	23	設定を行う	60
電源を準備する	23	カメラダイレクト設定を使う	61
バッテリーパックを使う	23	カメラダイレクト設定の基本操作	61
DC IN 12V端子を使う	25	映像の信号形式を選ぶ	62
アクセサリを準備する	26	サブ動画を同時に記録する	67
本機の構成例	26	プロキシ動画を同時に記録する	68
ハンドルユニットとLCDモニターを準備する	27	シャッタースピードを調整する	70
ハンドルユニットを取り付ける	27	シャッタースピードのモードを変更して	
LCDモニターを取り付ける	27	値を調整する	70
LCDモニターの位置を調整する	30	高周波の光源下で撮影する	71
カメラグリップを取り外す／取り付ける	31	フリッカーを抑える	72
レンズを準備する	32	ISO感度／ゲインを調整する	73
レンズを取り付ける	32	ISO感度／ゲインの値を調整する	74
日時を設定する	35	オートで調整する	75
日付と時刻を設定する	35	ダイヤルで調整する	76
メニューで設定を変える	36	NDフィルターを切り換える	77
メニュー操作の基本	36	アイリスを調整する	78
マイメニューを使う	37	レンズのアイリス設定を選ぶ	78
記録メディアを準備する	39	マニュアルで調整する	78
使用可能な記録メディア	39	ダイヤルで調整する	78
カードを入れる	40	一時的にオートで調整する	
カードを取り出す	41	(プッシュオートアイリス)	79
初期化する	41	オートで調整する (オートアイリス)	79
使用するカードスロットを切り換える	41	露出を補正する (AEシフト)	80
撮影データを修復する	42	測光方式を設定する	80
		ホワイトバランスを調整する	81
		ホワイトバランスセットで調整する	81
		プリセット設定／色温度設定で調整する	82
		オートホワイトバランス (AWB) で調整する	82

「安全上のご注意」(2～3ページ)と「取り扱い上のご注意」(243～244ページ)を必ずお読みください。

フォーカスを調整する	84	音声を記録する	105
レンズのフォーカスモードを選ぶ	84	音声の設定と記録音声	105
マニュアルで調整する	84	メイン動画とサブ動画の音声記録形式を 選ぶ	107
ワンショットAFで調整する	87	外部マイク／外部音声入力機器を本機に 接続する	108
連続AFで調整する	87	INPUT 1／INPUT 2端子の入力を切り換える	109
AF枠のタイプを変更する	89	記録する入力音声を選ぶ	109
設定した被写体を検出する (被写体検出機能)	89	録音レベルを調整する	110
選んだ被写体を追尾する	90	入力音声を調整する	111
手ブレを補正する	92	ヘッドホンでモニターする	112
ズームを操作する	93	カラーバー／テストトーンを記録する	113
レンズのズームモードを選ぶ	93	カラーバーを記録する	113
調整する	93	テストトーンを記録する	113
ライブ映像を表示する	94	WFM機能を表示する	114
ライブ映像システム例	94	表示する	114
リターン信号の入出力	94	波形モニターを設定する	114
ベクトルスコープを設定する	115	撮影中／最後に撮影したクリップにマークを 付加する	116
マーカー／ゼブラパターン／フォルスカラーを 表示する	95	撮影中にショットマークを付加する	116
マーカーを表示する	95	最後に撮影したクリップにOKマーク／ チェックマークを付加する	116
ゼブラパターンを表示する	97	メタデータを操作する	117
フォルスカラーを表示する	97	XF Utilityを使ってユーザーメモを設定する	117
タイムコードを設定する	99	News Metadata (ニュースメタデータ) を 操作する	118
タイムコードのモードを選ぶ	99	撮影情報 (シーン、テイク) を設定する	119
タイムコードの歩進方法を選ぶ	99	特殊記録を行う	120
タイムコードの初期値を設定する	99	スロー & ファストモーション記録を行う	120
ドロップフレーム／ノンドロップフレームを 切り換える	99	ブレ記録を行う	121
ユーザービットを設定する	101	常時記録を行う	121
外部機器と同期をとる	102	フレーム記録を行う	122
外部機器と接続する	102	インターバル記録を行う	123
外部のタイムコード信号に同期する (タイムコード入力)	102	アナモフィックレンズで撮影する	124
タイムコードを出力する	103	リモートコントローラー RC-V100 (別売) で リモート撮影する	125
外部のリファレンスビデオ信号に同期する (GENLOCK)	103		
リファレンスビデオ信号を出力する	104		

4. カスタマイズ

アサインボタン	126
アサインボタンの機能を変更する	126
アサインボタンを使う	127

カスタムピクチャーを使用する	130	出力映像にLUTを適用する	159
カスタムピクチャーファイルを選ぶ	130	LUTを適用する端子／出力先を設定する	160
カスタムピクチャーファイルを編集する	131	適用するLUTを設定する	160
Lookファイルで画質を調整して記録する	132	HDRに対するSDRのゲインの差を調整する	160
カスタムピクチャーファイルを保存する	133	ユーザー LUTを使用する	161
カスタムピクチャーファイルをコピーする	133	出力レンジを選択する	162
カスタムピクチャーファイルをクリップと 一緒に保存する	133	音声出力を選択する	163
カスタムピクチャーの設定項目	134	音声出力チャンネルを選ぶ	163
設定データの保存と読み出し	139	撮影データをパソコン／スマートフォンに 取り込む	164
設定データを保存する	139	撮影データをパソコンに保存する	164
設定データを読み込む	139	XF-AVC S／XF-HEVC Sクリップをパソコンに 保存する	164
5. 再生	140	RAWクリップを現像する	165
撮影データを再生する	140	撮影データをスマートフォンに保存する	165
インデックス画面	140	撮影データをFTPサーバーに自動で転送する ...	166
再生する	142	7. ネットワーク	167
再生時の画面表示	143	ネットワークに接続する	167
撮影データを操作する	146	Wi-Fiで接続	168
クリップメニューで操作する	146	イーサネットで接続	169
クリップメニュー一覧	146	ネットワーク機能を使用する前に	170
クリップ情報を表示する	147	ネットワークを有効にする	170
OKマーク／チェックマークを付加する	148	ウィザードで新規に接続設定を行う	171
OKマーク／チェックマークを消去する	148	機能設定を行う	171
ショットマークを付加する	148	その他の接続方法で通信設定を行う	175
撮影データを消去する	149	その他のネットワーク設定を行う	178
ユーザーメモ／GPS情報を消去する	149	接続設定（SET）を確認／編集する	179
6. 接続	150	通信設定（NW）や機能設定（MODE）を 確認／変更する	181
出力信号形式	150	ネットワークの接続状態を確認する	183
撮影／再生時の出力信号形式 （MON.端子、HDMI OUT端子）	150	クリップをFTPで転送する	185
撮影／再生時の出力信号形式 （SDI OUT端子）	153	1つのクリップを転送する	185
外部モニター／レコーダーを接続する	156	クリップをまとめて転送する	185
接続のしかた	156	映像をストリーミングで送信する	186
SDI OUT端子を使用する	156	ネットワーク機器でリモート撮影する （ブラウザーリモート）	187
MON.端子を使用する	157	ブラウザーリモートを起動する	187
HDMI OUT端子を使用する	157	リモート撮影する	188
MON.端子とHDMI OUT端子から 同時出力する	157		
出力映像に画面表示を重畳する	158		

XCプロトコル対応コントローラー／アプリで	
リモート撮影する	191
RC-IP100／RC-IP1000でリモート撮影する	191
リモートカメラコントロールアプリで	
リモート撮影する	192
Multi-Camera Controlでリモート撮影する	192
撮影データをスマートフォンに転送する	194
撮影データをFrame.ioに転送する	195

8. メニュー 196

メニュー一覧	196
カメラ設定メニュー	196
Custom Pictureメニュー	197
記録／メディア設定メニュー	198
オーディオ設定メニュー	200
モニタリング設定メニュー	201
アシスト設定メニュー	203
ネットワーク設定メニュー	205
アサインボタンメニュー	206
システム設定メニュー	207
マイメニュー	209

9. その他 210

ステータス画面を表示する	210
記録／出力信号と設定（詳細）	211
サブ動画記録	211
スロー & ファストモーション記録	221
トラブルシューティング	229
エラーメッセージ	236
取り扱い上のご注意／日常のお手入れ	243
アクセサリ紹介	246
主な仕様	247
バッテリーチャージャー CG-A20	251
コンパクトパワーアダプター CA-CP300 B	
(CG-A20用)	252
バッテリーパック BP-A60N	252
対応レンズと機能	253
動画の記録可能時間の目安	255
バッテリーの充電時間の目安	256
使用時間の目安	257
寸法図（単位：mm）	258
索引	260

本書について

ご使用の前に、必ず本書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。万一、カメラが正常に動作しないときは、「トラブルシューティング」(□ 229)をご確認ください。

本文中の表記

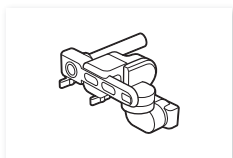
- **ご注意** 必ず守っていただきたいこと
- **MEMO** 知っておいていただきたいこと
- □ 参照ページを示す
- **参考** ▶ 参考になるページなどを示す
- 画面 LCDモニター（付属）の画面のこと
- LCDモニター LCDモニター（付属）のこと
- LCDアタッチメントユニット LCDアタッチメントユニット（付属）のこと
- ハンドルユニット ハンドルユニット（付属）のこと
- カメラグリップ カメラグリップ（付属）のこと
- バッテリー バッテリーパック BP-A60N（付属）またはバッテリーパック BP-A30N（別売）のこと
- ACアダプター 外部電源アダプター（市販）のこと
- SDカード SD / SDHC / SDXCメモリーカードのこと
- メモリーカード、またはカード CFexpressカード、またはSDカードのこと
- カメラモード 動画撮影モードのこと
- メディアモード 再生モードのこと
- アクセスランプ CFexpressカードアクセスランプ、またはSDカードアクセスランプのこと
- RAW Cinema RAW Light形式で記録したRAWデータのこと
- Multi-Camera Control Canon Multi-Camera Controlのこと
- 本書では開発中の画面を使用して説明しています。そのため、実際の製品とは異なることがあります。
- 本書では、見やすくするために加工した画面を一部使用しています。

商品を確認する

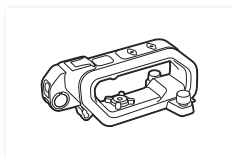
C400には、次のものが付属しています。ご使用になる前に足りないものはないか確認してください。



LCDモニター



LCDアタッチメントユニット



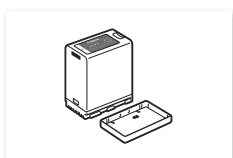
ハンドルユニット
(C400専用)



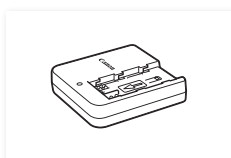
カメラグリップ (本体装着)



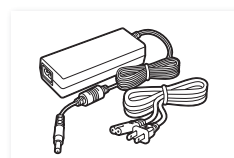
マイクホルダーと取り付けネジ
(M4: 2個)



バッテリーパック BP-A60N



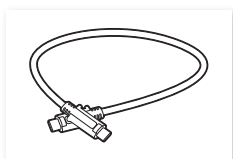
バッテリーチャージャー
CG-A20



コンパクトパワーアダプター
CA-CP300 B (CG-A20用)



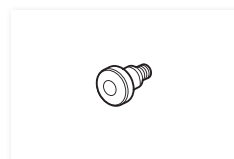
ボディキャップ (本体装着)



モニターケーブル MC-5U



六角レンチ (1/4インチ: 1個)



メジャーフック (本体装着)



クイックガイド

使う前に知っておいてください

必ずためし撮りをしてください

実際の撮影条件で事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。万一、カメラが正常に動作しないときは、「トラブルシューティング」(P.229)をご確認ください。

記録内容の補償はできません

カメラや記録メディアなどの不具合により、記録や再生ができなかった場合であっても、記録内容の補償はご容赦ください。

著作権にご注意ください

録画・録音したビデオは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

撮影方法にご配慮ください

本製品の使用においては、プライバシー保護および肖像権等の権利侵害を防止する観点から、撮影方法に十分ご配慮ください。

LCDモニターの画面について

画面は精密度の高い技術で作られています。99.99%以上の有効画素がありますが、まれに点灯しない画素や常時点灯する画素が発生することがあります。

ご注意

- **Cfexpressカードについて：**

カメラ内部の発熱により、Cfexpressカードが熱くなっていることがあります。撮影直後にカードを取り出すと、やけどの原因になる恐れや、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。

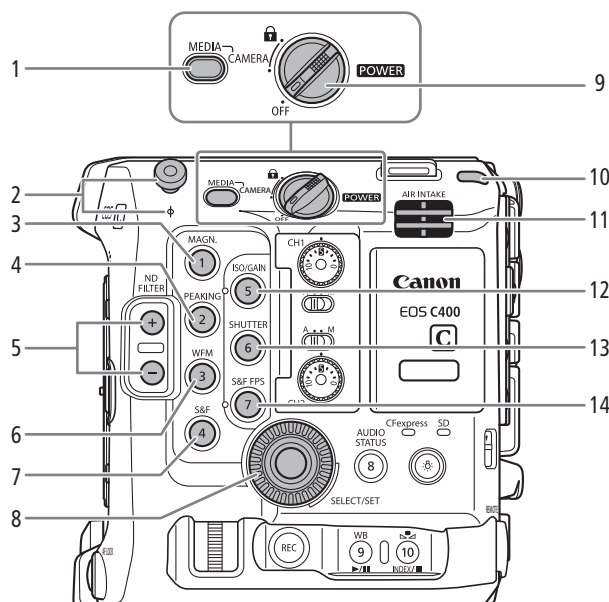
- **アクセスランプについて：**

アクセスランプ（ 40）が赤色に点灯／点滅中は、次のことを必ず守ってください。データを破損するおそれがあります。

- 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
- メモリーカードカバーを開けない。

各部の名称

各部の機能と使いかたについては、▶ 冊に記載されているページをご覧ください。
アサインボタンについては、▶ 冊 126をご覧ください。

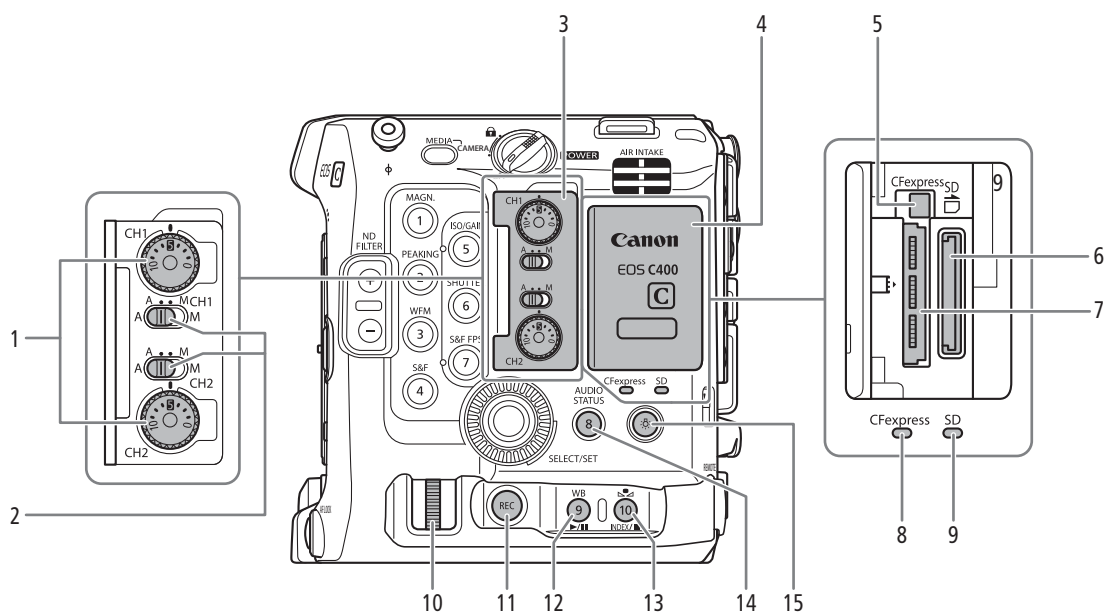


- | | |
|---|---|
| <p>1 MEDIA (メディア) モードボタン ▶ 冊 140</p> <ul style="list-style-type: none"> • カメラモードとメディアモードを切り換える。 <p>2 PEAKING (ピーキング) /カメラアサイン2ボタン ▶ 冊 85</p> <p>3 MAGN. (拡大) /カメラアサイン1ボタン ▶ 冊 86</p> <p>4 PEAKING (ピーキング) /カメラアサイン2ボタン ▶ 冊 85</p> <p>5 ND FILTER (NDフィルター) 切り換え +/−ボタン ▶ 冊 77</p> <p>6 WFM (WFM機能) /カメラアサイン3ボタン ▶ 冊 114</p> <p>7 S&F (スロー & ファストモーション記録) /カメラアサイン4ボタン ▶ 冊 120</p> | <p>8 SELECT (選択) ダイアル / SET (設定) ボタン ▶ 冊 36</p> <p>9 POWER (電源) スイッチ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 🔒 : キーロック。下記のコラム参照
CAMERA : カメラモードで起動
OFF : 電源OFF <p>10 POWER LED (電源LED) /タリールンプ (背面) ▶ 冊 50</p> <p>11 AIR INTAKE (吸気口) ▶ 冊 47</p> <p>12 ISO/GAIN (ISO感度/ゲイン) /カメラアサイン5ボタン ▶ 冊 73</p> <p>13 SHUTTER (シャッター) /カメラアサイン6ボタン ▶ 冊 70</p> <p>14 S&F FPS (スロー & ファストモーション記録フレームレート) /カメラアサイン7ボタン ▶ 冊 120</p> |
|---|---|

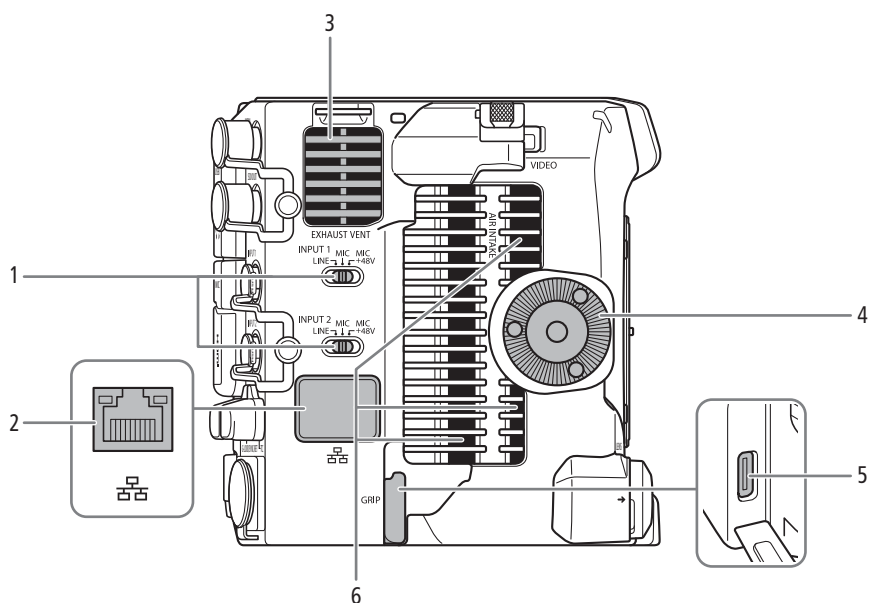
撮影設定をロックする (キーロック)

POWER (電源) スイッチを **🔒** (キーロック) にすると、スイッチやボタン*の操作が無効になり、誤操作を防止できます。POWER (電源) スイッチをCAMERAに戻すとキーロックは解除されます。キーロックで本機の操作を無効にしているときでも、リモートコントローラー RC-V100 (別売) やブラウザーリモートからは操作できます。

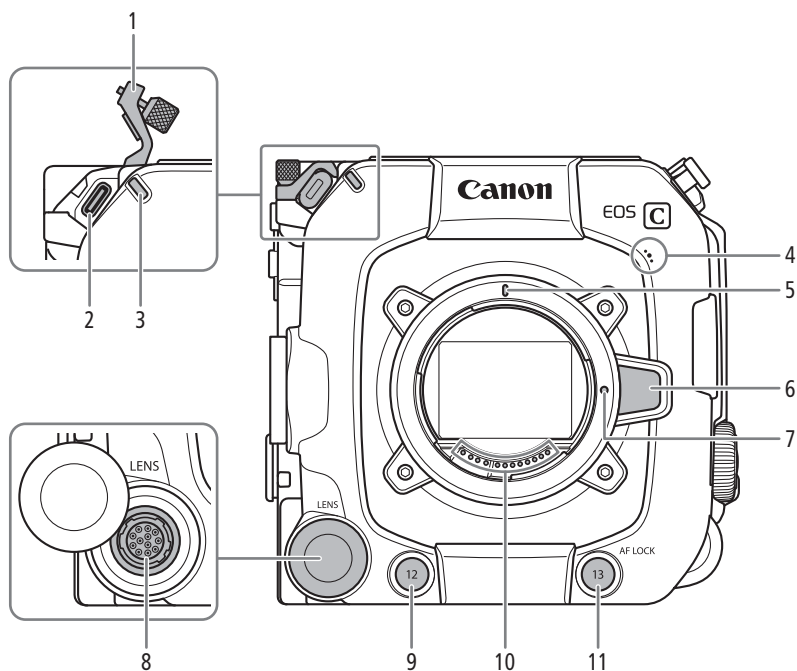
* カメラモードのときは、RECボタン以外。RECボタンを無効にすることもできる (冊 208)。



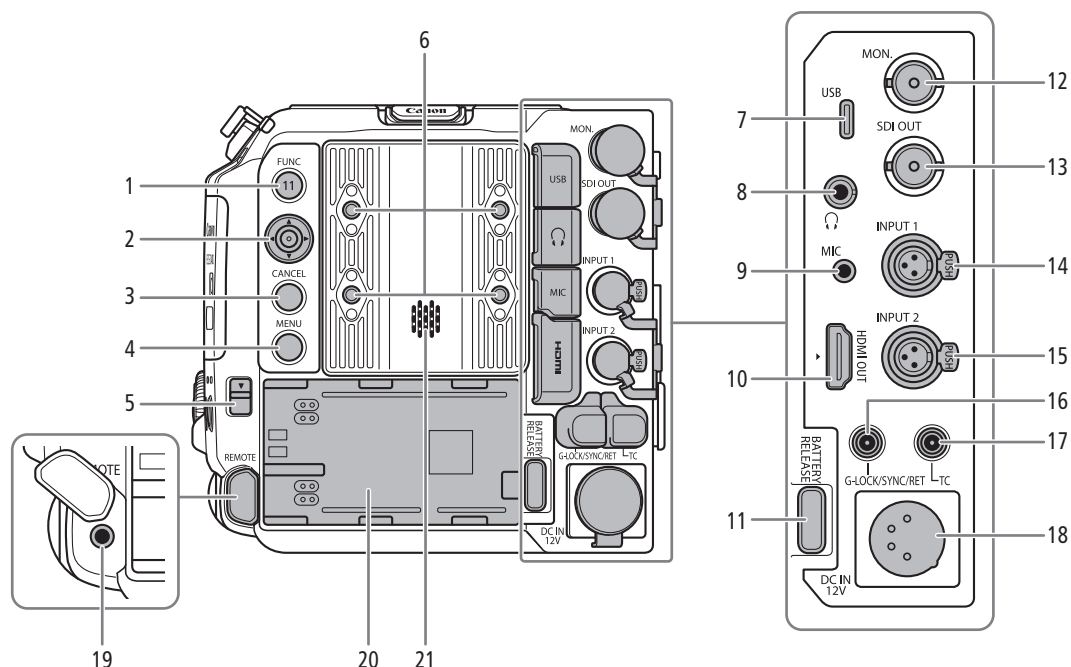
- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1 録音レベル調整つまみ (CH1 / CH2) ▶ 110 | 10 カメラダイヤル ▶ 76、78 |
| 2 録音レベル切り換えスイッチ (CH1 / CH2) ▶ 110 | 11 REC (記録開始/停止) ボタン ▶ 50 |
| 3 オーディオ操作カバー | 12 WB (ホワイトバランス) / カメラアイコン9ボタン / ▶/ (再生/一時停止) ボタン ▶ 81、142 |
| 4 メモリーカードカバー ▶ 40 | 13 (ホワイトバランスセット) / カメラアイコン10ボタン / INDEX (インデックス) ボタン / ■ (停止) ボタン ▶ 81、141、142 |
| 5 CFexpressカード取り出しボタン ▶ 41 | 14 AUDIO STATUS (オーディオステータス) / カメラアイコン8ボタン ▶ 126 |
| 6 SDカードスロット ▶ 40 | 15 ☆ (照明) ボタン |
| 7 CFexpressカードスロット ▶ 40 | |
| 8 CFexpressカードアクセスランプ ▶ 40 | |
| 9 SDカードアクセスランプ ▶ 40 | |



- | | |
|---|---|
| 1 INPUT 1 / INPUT 2 端子入力切り換えスイッチ ▶▶ 109 | 4 カメラグリップ取り付け部（ロゼット）▶▶ 31
ARRI社のロゼットに準拠。 |
| 2 イーサネット端子 | 5 GRIP （カメラグリップ接続）端子 ▶▶ 31 |
| 3 EXHAUST VENT （排気口）▶▶ 47 | 6 AIR INTAKE （吸気口） |



- | | |
|-------------------------|--|
| 1 VIDEO端子ロックカバー | 7 レンズロックピン |
| 2 VIDEO 端子 ▶▶ 27 | 8 LENS 端子 |
| 3 タリーランプ（前面）▶▶ 50 | 9 カメラアサイン12ボタン |
| 4 モノラルマイク ▶▶ 109 | 10 RFレンズ接点 ▶▶ 32 |
| 5 RFレンズ取り付け指標 ▶▶ 32 | 11 AF LOCK （AFロック）／カメラアサイン13ボタン |
| 6 レンズロック解除ボタン ▶▶ 32 | |



- 1 **FUNC** (ファンクション) / カメラアサイン11 ボタン ▶▶ 61、126
- 2 ジョイスティック ▶▶ 36
- 3 **CANCEL** (キャンセル) ボタン ▶▶ 36
- 4 **MENU** (メニュー) ボタン ▶▶ 36、126
- 5 メモリーカードカバー開くレバー
- 6 M4 ネジ穴 (M4 / 深さ 7.5 mm. 4 個)
- 7 **USB**端子
- 8 ヘッドホン端子 ▶▶ 112
- 9 **MIC** (マイク) 端子 ▶▶ 108
- 10 **HDMI OUT**端子 ▶▶ 156、157
- 11 **BATTERY RELEASE** (バッテリー取り外し) ボタン ▶▶ 24

- 12 **MON.**端子 ▶▶ 156、157
- 13 **SDI OUT**端子 ▶▶ 156
- 14 **INPUT 1**端子 ▶▶ 108
- 15 **INPUT 2**端子 ▶▶ 108
- 16 **G-LOCK/SYNC/RET**端子
- 17 **TC** (TIME CODE) 端子 ▶▶ 102、103
- 18 **DC IN 12V**端子 ▶▶ 25
- 19 **REMOTE** (リモート) 端子 ▶▶ 125
 - リモートコントローラー RC-V100 (別売)
または市販のリモコンを接続する。
- 20 バッテリー装着部 ▶▶ 24
- 21 スピーカー

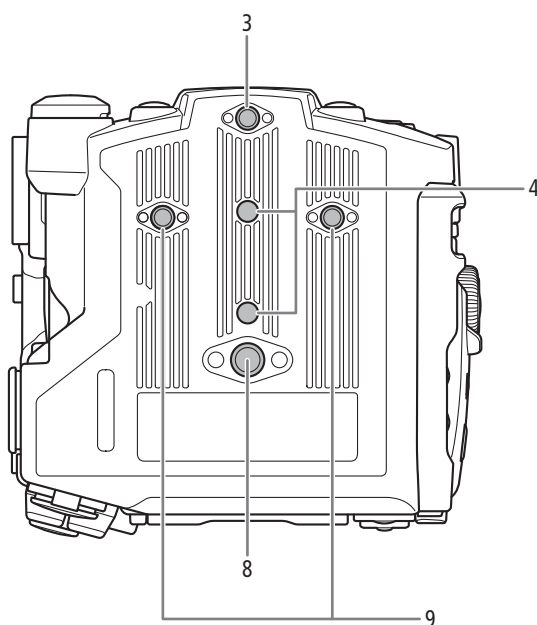
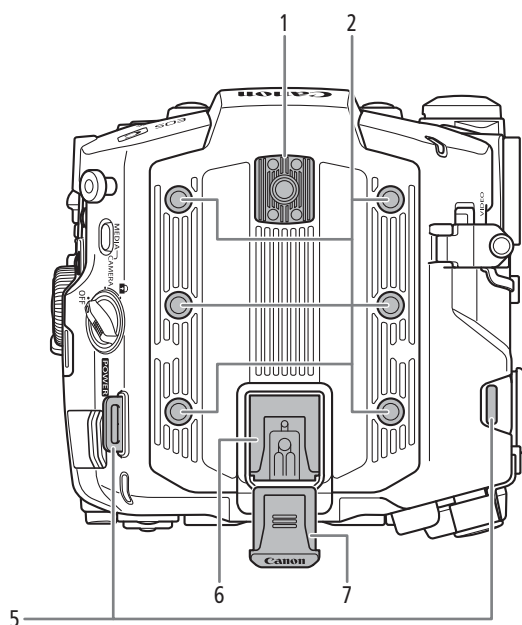
端子カバーを取り外す／取り付ける

本機の端子カバーは、取り外すことができます。端子カバーを取り外すときは、端子カバーを開けて、まっすぐに引き出します。端子カバーを取り付けるときは、端子カバーの取り付け部を取り付け口に差し込みます。

ネジで固定されている場合は、+のドライバー（市販）を使用して、端子カバーを固定しているネジを外します。

MEMO

- 端子カバーの取り付け部がつかみにくいときは、ピンセットなど先の細いものを使用してください。



1 アクセサリー取り付け部 ▶▶ 27

- ネジ穴 (1/4-20 / 深さ6.9mm)

2 1/4インチネジ穴 (1/4-20 / 深さ9 mm。6個)

3 1/4インチネジ穴 (1/4-20 / 深さ7.6 mm)

4 三脚回転止め穴 (深さ5.6 mm)

5 ストラップ取り付け部

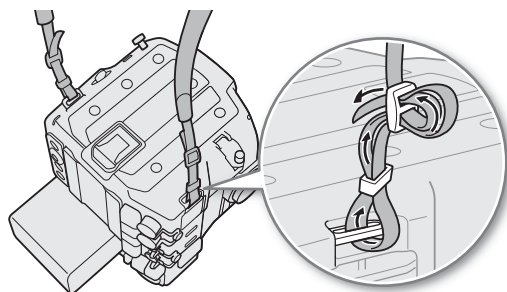
ショルダーストラップ SS-1200 (別売) を取り付け、ストラップの長さを調節します。

6 マルチアクセサリースュー

7 シューカバー

8 3/8インチネジ穴 (3/8-16 / 深さ7.8 mm)

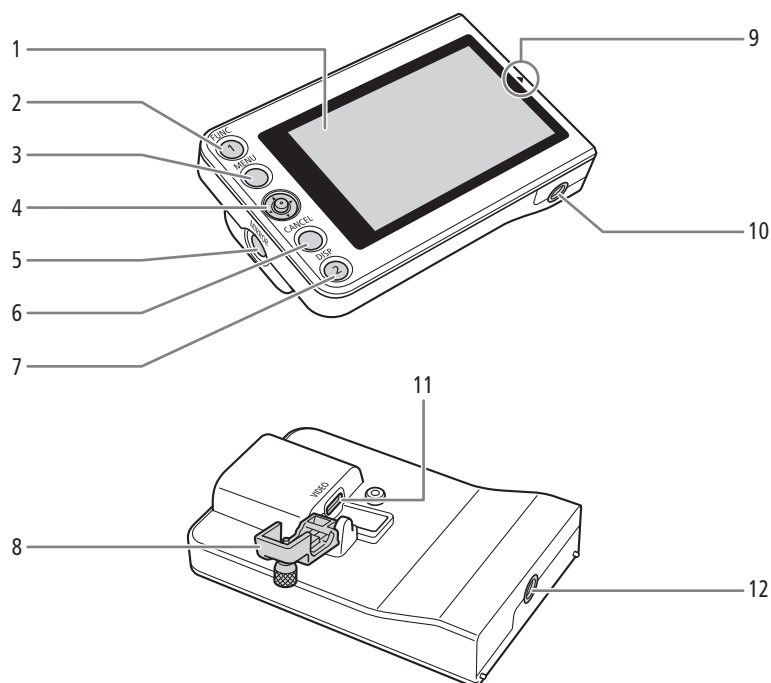
9 三脚補助用ネジ穴 (1/4-20 / 深さ7.6 mm。2個)



ご注意

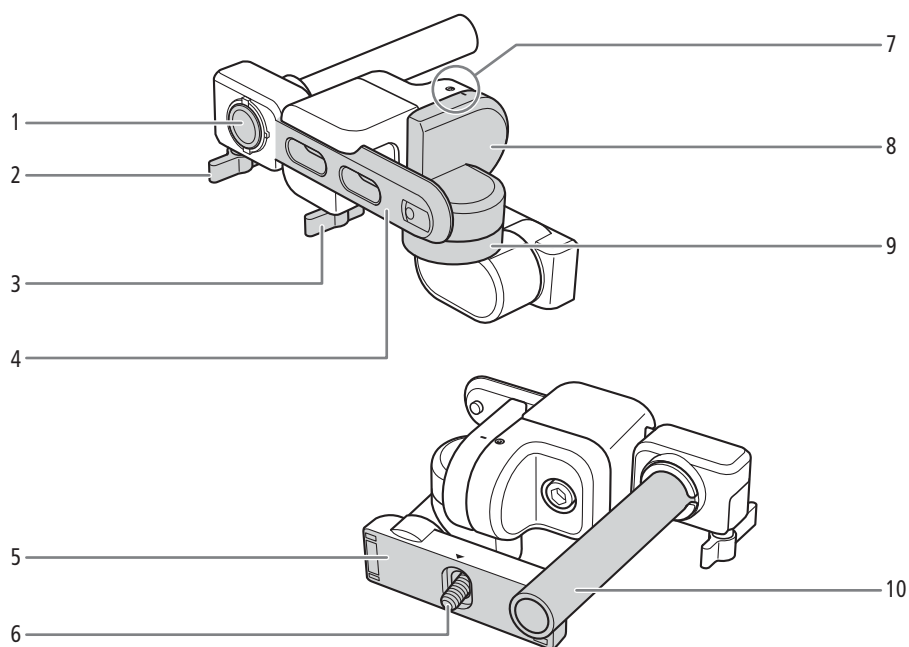
- ネジの長さがネジ穴の深さを超える三脚などのアクセサリーを使用すると、カメラ本体を破損することがあります。
- 1か所の三脚補助用ネジ穴を使って三脚を使用すると、カメラ本体を破損することがあります。

LCDモニター



- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1 LCDパネル (タッチパネル) ▶▶ 27、30 | 7 DISP (ディスプレイ) / LCDモニターアサイン2 |
| 2 FUNC (ファンクション) / LCDモニターアサイン1 | ボタン ▶▶ 52、56、126 |
| 3 MENU (メニュー) ボタン ▶▶ 36、126 | 8 VIDEO端子ロックカバー |
| 4 ジョイスティック ▶▶ 36 | 9 ▲ (LCDモニター位置合わせ) マーク ▶▶ 27 |
| 5 MIRROR (反転表示) 切り換えボタン ▶▶ 30 | 10 1/4インチネジ穴 (1/4-20 / 深さ11.2 mm) |
| 6 CANCEL (キャンセル) ボタン ▶▶ 36 | 11 VIDEO (ビデオ) 端子 ▶▶ 27 |
| | 12 1/4インチネジ穴 (1/4-20 / 深さ11.2 mm) |

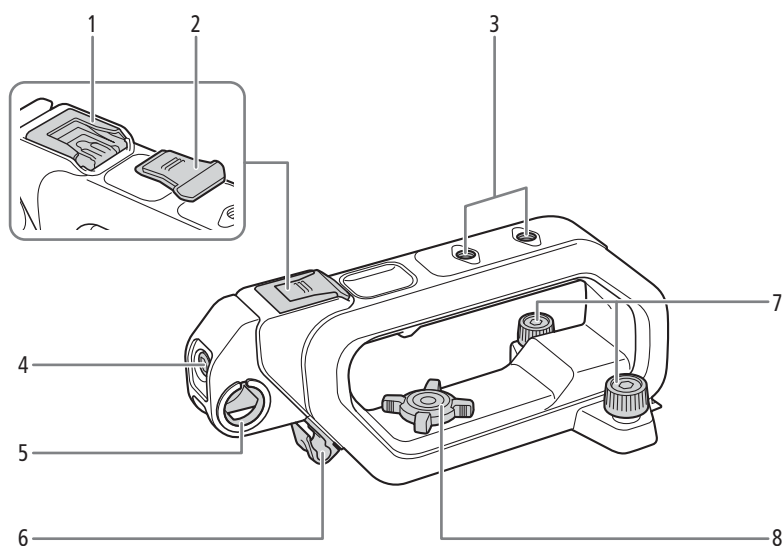
LCDアタッチメントユニット (27)



- 1 取り付け用穴
- 2 ロックレバー（左右）
- 3 ロックレバー（前後）
- 4 スライドレール
- 5 LCDモニター取り付け部

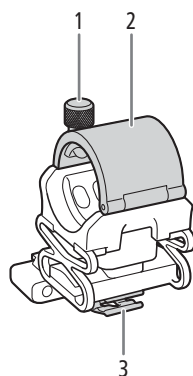
- 6 LCDモニター取り付けネジ
- 7 位置合わせマーク
- 8 ヒンジ部B
- 9 ヒンジ部A
- 10 スライドバー

ハンドルユニット (27)



- | | |
|----------------------------------|--------------------|
| 1 マルチアクセサリースュー | 5 LCDアタッチメント取り付け用穴 |
| 2 シューカバー | 6 ケーブルクランプ |
| 3 1/4インチネジ穴 (1/4-20 / 深さ6 mm。2個) | 7 取り付けネジ |
| 4 アクセサリー取り付け部 ▶ 27 | 8 取り付けネジ |

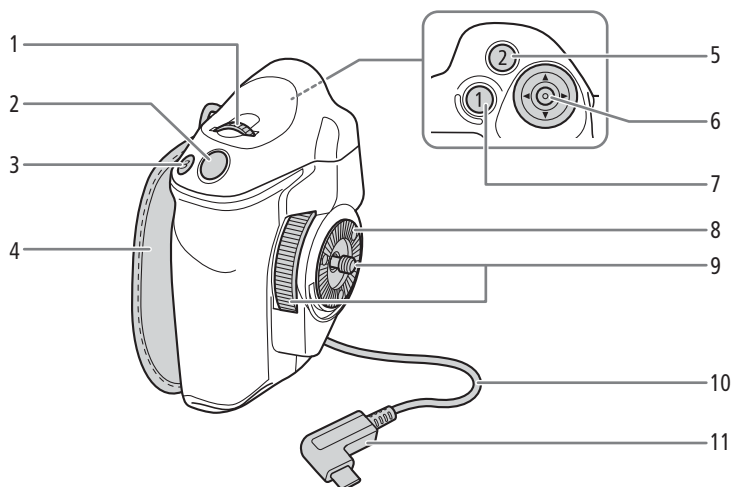
マイクホルダー (31、108)



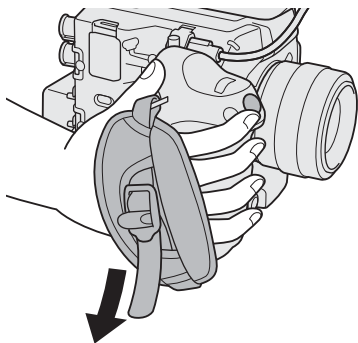
- | | |
|-------------|------------|
| 1 外部マイク固定ネジ | 3 ケーブルクランプ |
| 2 外部マイクホルダー | |

カメラグリップ (31)

ご購入時、カメラグリップはカメラ本体に取り付けられています。

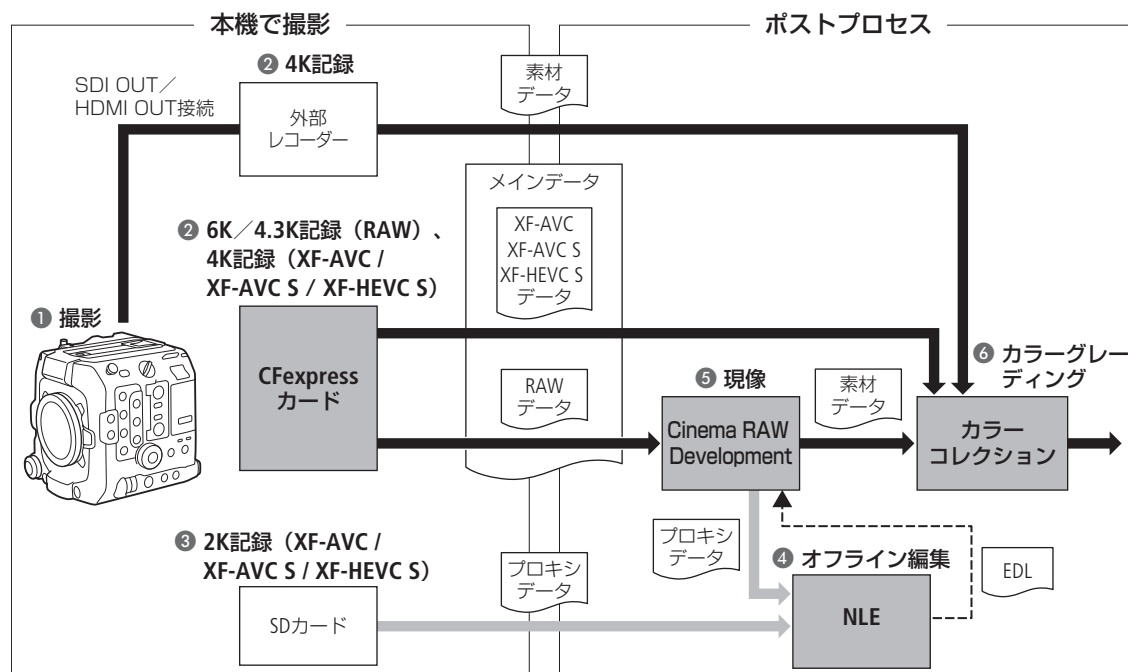


- | | |
|---|-----------------------|
| 1 グリップダイヤル ▶▶ 76、78 | 5 グリップアサイン2ボタン ▶▶ 126 |
| 2 REC (記録開始/停止) ボタン ▶▶ 50 | 6 ジョイスティック ▶▶ 36 |
| 3 グリップアサイン3ボタン | 7 グリップアサイン1ボタン ▶▶ 126 |
| 4 グリップベルト | 8 ロゼット |
| 人さし指をRECボタンに添え、グリップを軽く握った状態でベルトの長さを調節します。 | • ARRI社のロゼットに準拠。 |
| | 9 取り付けネジ |
| | 10 接続ケーブル |
| | 11 接続プラグ |



ワークフローの紹介：4K以上の高解像度

ここでは、本機を使って6K／4K撮影を行う場合のワークフローの例を紹介します。

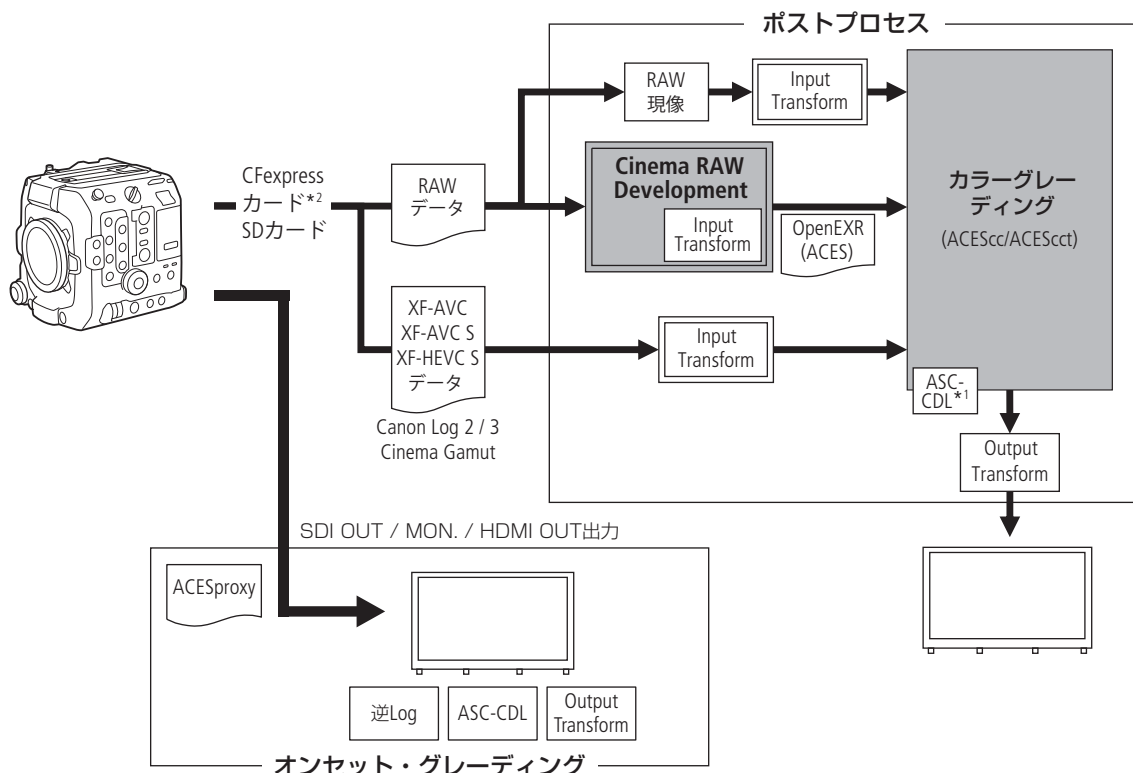


- ① 6K／4Kで撮影する（□ 62）。
- ② 本機のCFexpressカードに6K／4.3K RAWデータや4K YCbCr 4:2:2データを記録するか、SDI OUT端子やHDMI OUT端子に接続した外部レコーダーで4Kデータを記録する（□ 156）。
 - 6K／4K RAW以外で記録したときは、⑤へ進む。
- ③ 6K／4.3K／4Kでメインのデータを記録すると同時に、SDカードに2Kプロキシデータを記録する。
 - 2Kプロキシデータ（XF-AVC / XF-AVC S / XF-HEVC S）のクリップファイル名は、6K／4.3K／4Kで記録したメインの動画のクリップファイル名と関連付けられる（□ 45）。
- ④ SDカードに記録した2Kプロキシデータ、またはCinema RAW Developmentで生成したプロキシデータをNLEソフトウェアに取り込み、オフライン編集を行う。
- ⑤ 6K／4.3K RAWデータを記録したときは、現像ソフトウェアCinema RAW Developmentで現像（□ 165）して、素材データを生成する。
 - 現像時にプロキシデータを生成することもできる。
- ⑥ 素材データのカラーグレーディング処理を行う。

ACESワークフローによるカラーグレーディング

映画芸術科学アカデミー（AMPAS）が策定したACES（Academy Color Encoding System）色空間を使用してカラーグレーディングを行うことができます。また、撮影現場でカラーグレーディング後の映像を確認しながら撮影することもできます（オンセット・グレーディング）*。

* ASC-CDLと3D LUTによるカラー調整に対応するモニターが必要。



*1 ASC-CDLに対応するカラーグレーディング機材が必要。

*2 RAWはCFexpressカードのみ

ACESproxy : オンセット・グレーディング時にSDI OUT端子、MON.端子またはHDMI OUT端子から出力するACESproxyの映像データ。LUTを「ACESproxy」に設定すると出力できる（□ 159）。

Color spaces:

ST2065-1 : AP0色域、リニアガンマの色空間。

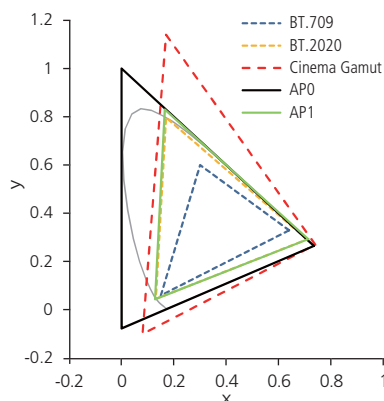
ACEScc : AP1色域、ログガンマの色空間。

ACEScct : AP1色域、ログガンマの色空間。ACESccに対し、トータリを持たせてCineonの特性に似せている。

Input Transform : 入力機器の色情報をST2065-1色空間に変換するテーブル。キヤノンのホームページからダウンロード可能。

Output Transform : ST2065-1色空間を出力機器の色情報に変換するテーブル。

ASC-CDL : カラーグレーディングの調整情報を記述したリスト。



電源を準備する

電源は、バッテリーパックまたはDC IN 12V端子から供給できます。バッテリーを取り付けた状態で、DC IN 12V端子から電源供給すると、DC IN 12V端子からの電源で動作します。

バッテリーパックを使う

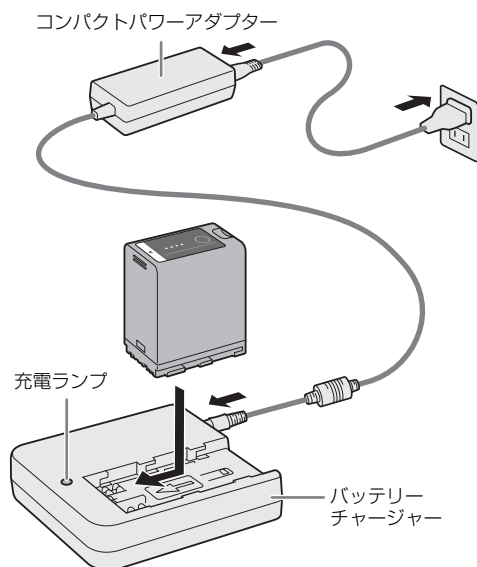
本機は、バッテリーパック BP-A60N（付属）またはBP-A30N（別売）を使用できます。インテリジェントシステムに対応しているため、分単位（目安）の残量を確認できます。残量をより正しく表示するために、ご購入直後にバッテリーパックを初めて使うときは、一度充電完了まで充電してから画面に「バッテリーパックを取り換えてください」が表示されるまでご使用ください。

充電する

付属のバッテリーチャージャー CG-A20を使って充電します。バッテリーパックを使うときは、ショート防止用端子カバーを取り外します（[図 243](#)）。

- 1 バッテリーチャージャーにコンパクトパワーアダプター CA-CP300 Bを、コンセントに電源コードを接続する
- 2 バッテリーチャージャーにバッテリーパックを取り付ける
 - バッテリーパックを押し付けながら、矢印の方向にカチッと音がするまでスライドさせる。
 - 充電ランプが点滅して、充電が始まる。充電中は、充電ランプの点滅のしかたで充電量（目安）を確認できる。点滅→点灯に変わったら充電終了。
- 3 バッテリーチャージャーからコンパクトパワーアダプターを、コンセントから電源コードを抜く
- 4 バッテリーチャージャーからバッテリーパックを取り外す

● ● ● ● ● ●	2秒間に1回点滅 → 0～49%
● ● ● ● ● ● ● ●	2秒間に2回点滅 → 50～74%
● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	2秒間に3回点滅 → 75～99%



ご注意

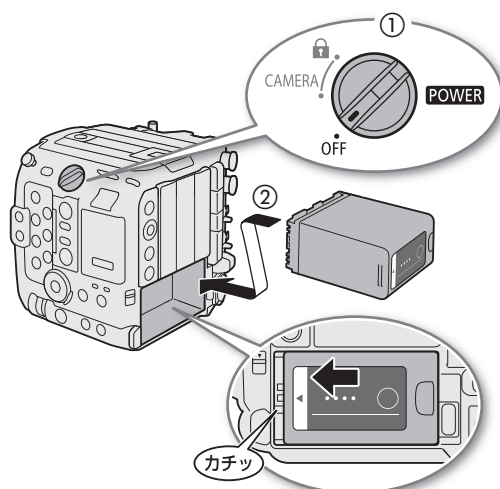
- バッテリーチャージャーに指定された製品以外を接続しないでください。
- 故障の原因となりますので、バッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプターを固定して使用しないでください。
- バッテリーチャージャー CG-A20（付属）、CG-A10（別売）の使用温度範囲内でも、バッテリーの内部温度によっては充電できない場合があります。

MEMO

- 10℃～30℃の場所で充電することをおすすめします。0℃未満、40℃を超える場所では充電できません。
- バッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプター、バッテリーパックに異常があると、充電ランプが消灯し、充電を中止します。
- バッテリーパックの取り扱いについては、「安全上のご注意」(□ 2)や「取り扱い上のご注意／日常のお手入れ」の「バッテリー」(□ 243)をご覧ください。
- バッテリーパックの充電時間とフルに充電したときの使用時間の目安は、256ページをご覧ください。
- フル充電したバッテリーパックも少しずつ放電します。使用直前に充電することをおすすめします。
- バッテリーパックは、充放電を繰り返すと少しずつ劣化して容量が少なくなります。本機に取り付けたバッテリーパックの寿命は、☛システム設定ステータス画面(□ 210)で確認できます。寿命をより正確に確認するには、バッテリーパックを充電してから画面に「バッテリーパックを取り換えてください」が表示されるまで使い切ってください。

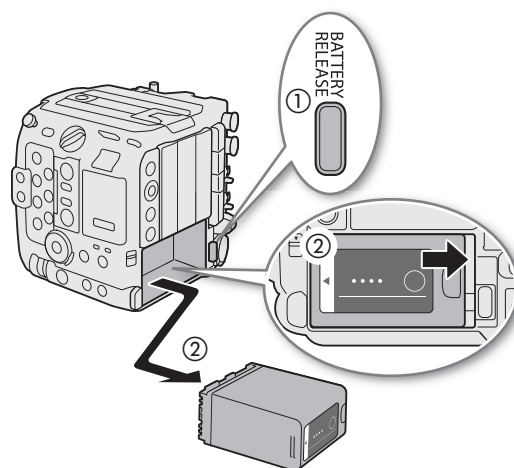
本体に取り付ける

- 1 本機の電源を切る (①)
- 2 バッテリーパックを図のように奥に押し付けながら、カチッと音がするまで左にスライドさせる (②)



本体から取り外す

- 1 本機の電源を切る
- 2 BATTERY RELEASE (バッテリー取り外し) ボタンを押しながら (①)、バッテリーパックを右にスライドさせて、バッテリーパックを取り出す (②)

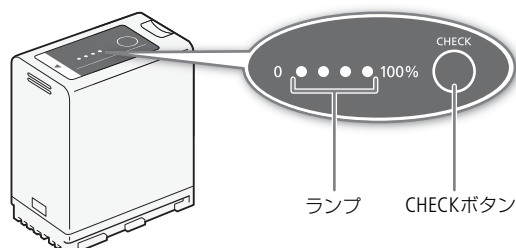


残量を確認する

バッテリーパックBP-A60N（付属）またはBP-A30N（別売）は、バッテリーパック上のボタンを押して残量（目安）を確認できます。また、本機に取り付けて電源を入れたあとは、カメラモード／メディアモードの各画面表示や、**☛**システム設定ステータス画面（ 210）で、分単位の残量（目安）を確認することもできます。画面の右上に表示される電源供給状態と**☛**システム設定ステータス画面やバッテリーのランプで表示されるバッテリー残量（目安）は、一致しないことがあります。

バッテリーパック上のCHECKボタンを押すと、約3秒間ランプが点灯してバッテリーパックの残量（目安）を確認できます。

   	0～25%
   	26～50%
   	51～75%
   	76～100%



DC IN 12V端子を使う

本機のDC IN 12V端子に、以下の仕様のACアダプターをつないで使用できます。電源機器は、お使いの国の安全規格に適合したものを使用してください。また、ACアダプターの取り扱いについては、メーカーの指示に従ってください。本機の消費電力については、251ページをご覧ください。

供給方法	接続できる電源の仕様
ACアダプター (DC IN 12V 端子)	XLR 4ピン（メス）コネクター / DC 11.5V～20V、10A（許容最大負荷電流）

- 1 本機の電源を切る（①）
- 2 ACアダプターのXLR 4ピンコネクターをDC IN 12V端子に差し込む（②）

ご注意

- DC IN 12V端子のコネクターを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってください。

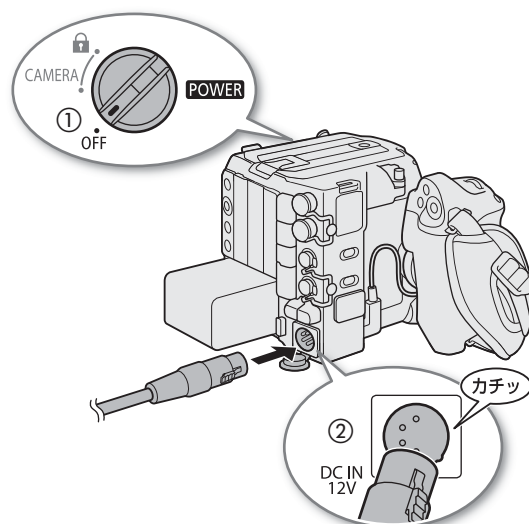
電源の電圧を確認する

電源の電圧は、画面表示（ 54）で確認できます。

MENU > **☛**システム設定 > 「DC IN警告(V)」を設定しておくと、DC IN 12V端子の電圧によって警告を通知します。DC IN 12V端子の電圧が設定値に達したときは、画面の電圧表示を赤色にしたり、警告を表示したりすることができます。

MEMO

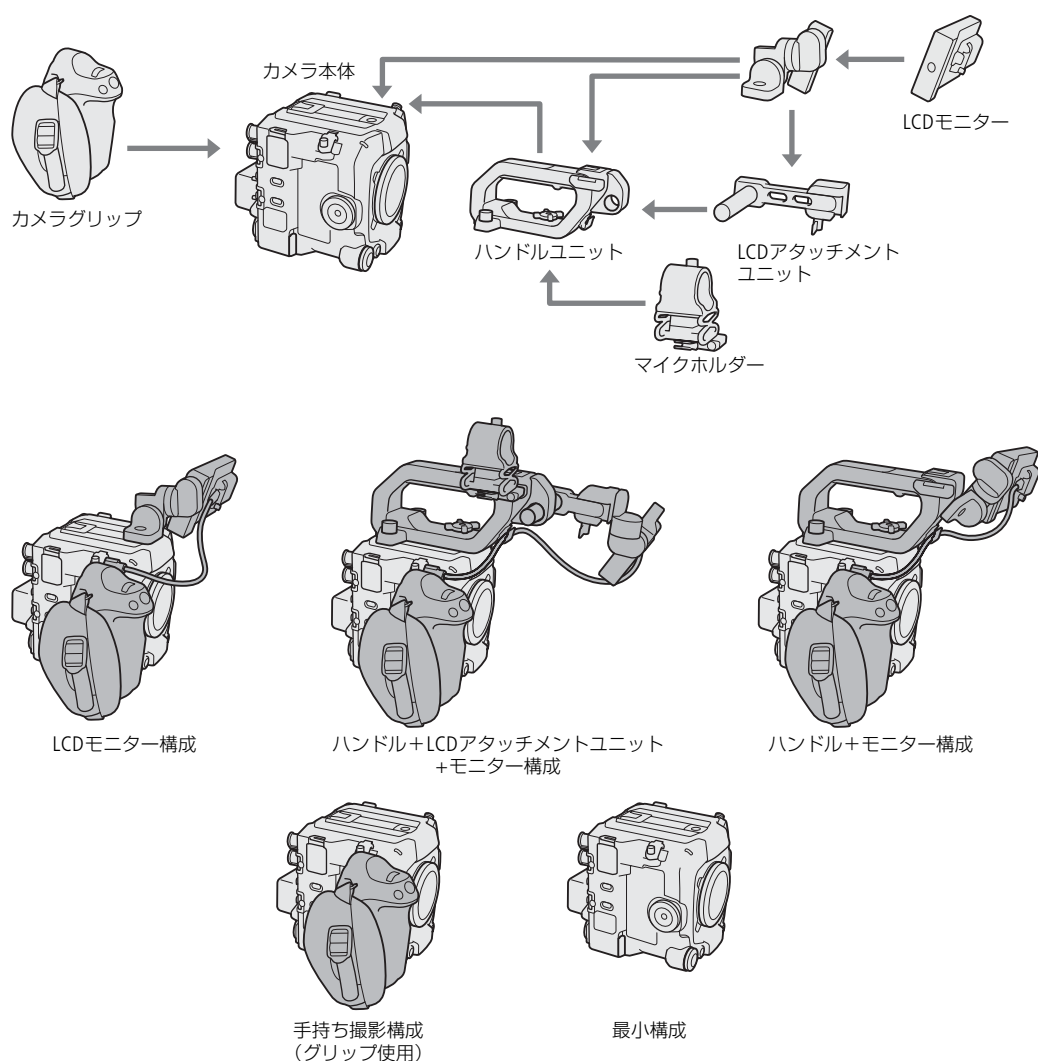
- 電源の電圧が、電源警告（ 209）の設定値以下になると、記録開始しません。また、撮影中に電源の電圧が本機の動作に必要な電圧以下になったときは、記録を停止して、本機の電源が切れます。



アクセサリーを準備する

本機は、撮影シーンに応じて、付属品／別売品のさまざまなアクセサリーを組み合わせることで撮影できます。付属品に加えて、別売品のアクセサリーを組み合わせると、本機の機能を拡張することもできます（□ 246）。本機に対応する別売アクセサリーについては、キヤノンのホームページからダウンロードできる「CINEMA EOS SYSTEM システム拡張ユーザーガイド」（PDFファイル）をご覧ください。なお、付属品のハンドルユニットとLCDモニターの取り付けや位置の調整については、「ハンドルユニットとLCDモニターを準備する」（□ 27）をご覧ください。ここでは、付属品のカメラグリップとマイクホルダーについて説明します。

本機の構成例



ご注意

- 構成を変更するときは、本機やアクセサリーが落下したりしないように、机などの安定した所で装着・調節してください。

ハンドルユニットとLCDモニターを準備する

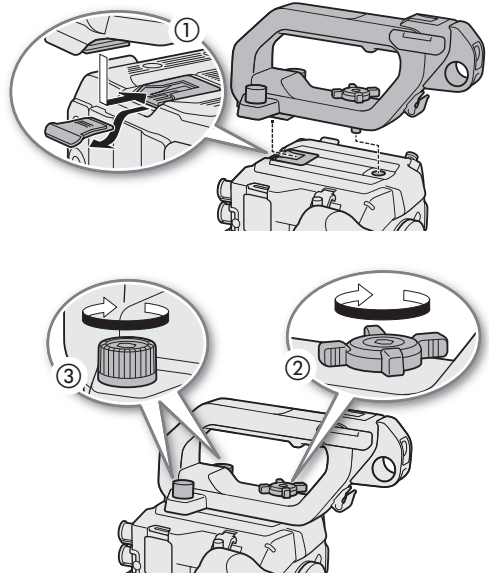
本機の初期設定を行うときは、LCDモニターの画面が必要です。ここでは、ハンドルユニットとLCDモニターの取り付けについて説明します。

ハンドルユニットを取り付ける

- 1 ハンドルユニット底面の取り付け金具をカメラ本体上部のアクセサリシューに差し込み、レンズ側にスライドさせる (①)
- 2 取り付けネジでしっかりと固定する (②、③)

MEMO

- ハンドルユニットには1/4インチネジ穴があり、市販のアクセサリを取り付けることができます。
- ハンドルユニットに重量の重い別売／市販のアクセサリを取り付けるときは、必要に応じて1/4インチボルト用六角レンチ (付属) を使用し、取り付けネジをしっかりと固定してください。
- ハンドルユニットのマルチアクセサリシューにオフカメラシューコードOC-E4A (別売) を取り付けた場合は、動作保証外です。

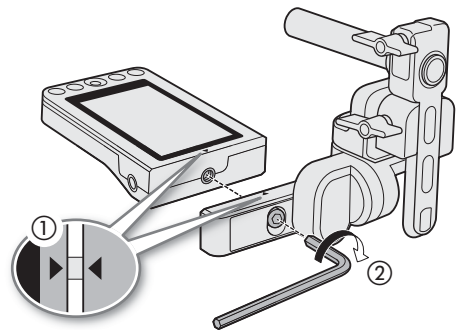


LCDモニターを取り付ける

LCDモニターは、LCDアタッチメントユニットと組み合わせて、ハンドルユニットまたはカメラ本体に取り付けて使うことができます。

LCDモニターをハンドルユニットに取り付ける

- 1 本機の電源を切る
- 2 LCDモニター取り付け部にLCDモニターを取り付ける
 - LCDモニターとLCDアタッチメントユニットの (位置合わせマーク) を合わせる (①)。
 - 1/4インチボルト用六角レンチ (付属) を使用して、LCDモニター取り付けネジで固定する (②)。



3 LCDアタッチメントユニットをハンドルユニットに取り付ける

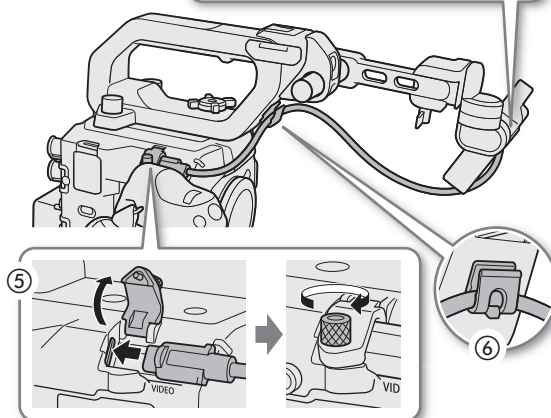
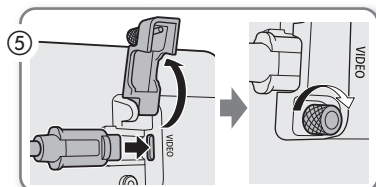
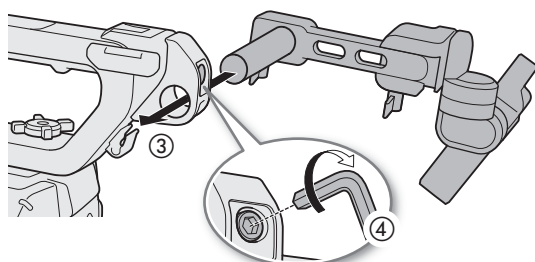
- LCDアタッチメントユニットのスライドバーをハンドルユニットのLCDアタッチメント取付用穴に挿入する (③)。
- 取り付けネジでしっかりと固定する (④)。

4 モニターケーブルMC-5U (付属) で、カメラ本体とLCDモニターのVIDEO端子を接続する

- VIDEO端子カバーのネジを回してカバーを開けて、ケーブルを挿入する。しっかりと挿入したら、カバーを閉じ、ネジをしめて固定する (⑤)。

5 ケーブルをハンドルユニットのケーブルクランプにとめる (⑥)

- ケーブルが画角や視野に入らないように、必要に応じてケーブルの位置を調整する。



LCDモニターをカメラ本体に取り付ける

1 本機の電源を切る

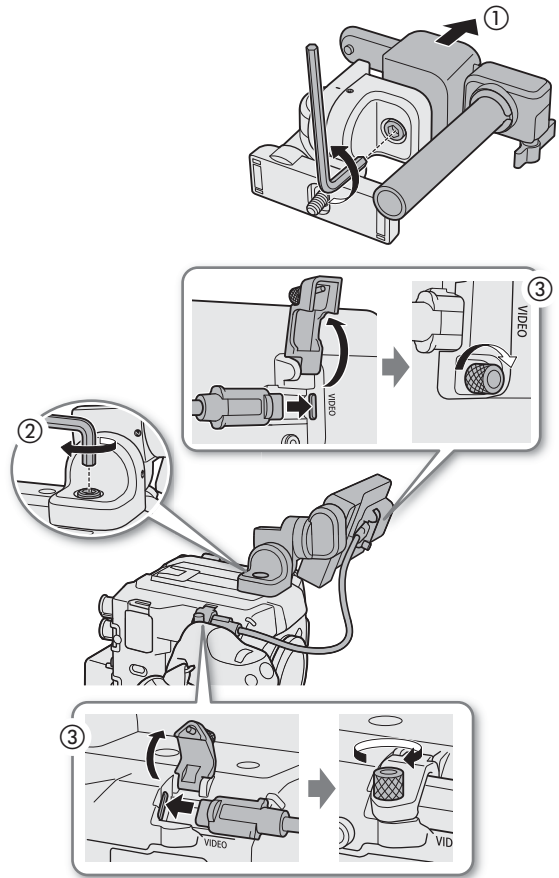
- カメラ本体にハンドルユニットを取り付けているときは、取り外す。

2 LCDアタッチメントユニットのネジを回して、スライドレールを取り外す (①)

3 本体のアクセサリ取り付け部に、ネジでLCDアタッチメントユニットを取り付ける (②)

4 モニターケーブルMC-5U (付属) で、カメラ本体とLCDモニターのVIDEO端子を接続する

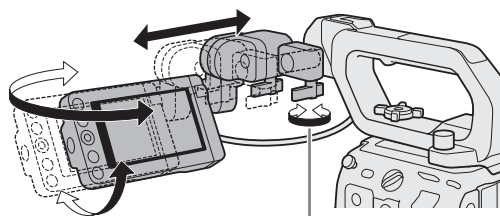
- VIDEO端子はVIDEO端子カバーのネジを回してカバーを開けて、ケーブルを挿入する。しっかりと挿入したら、カバーを閉じ、ネジをしめて固定する (③)。



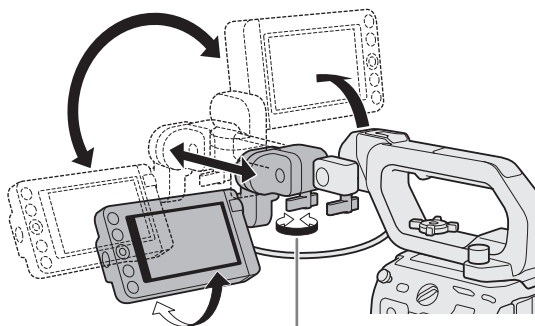
LCDモニターの位置を調整する

LCDアタッチメントユニットは回転や、前後左右の移動が可能のため、さまざまな撮影スタイルに対応できます。ここでは、カメラ本体の背面（バッテリー装着部がある面）側からLCDモニターや被写体を見ているときのLCDモニターの位置の調整について、説明します。

ロックレバー（左右）、ロックレバー（前後）を操作することで、左右前後に移動します。



ロックレバー（左右）



ロックレバー（前後）

MEMO

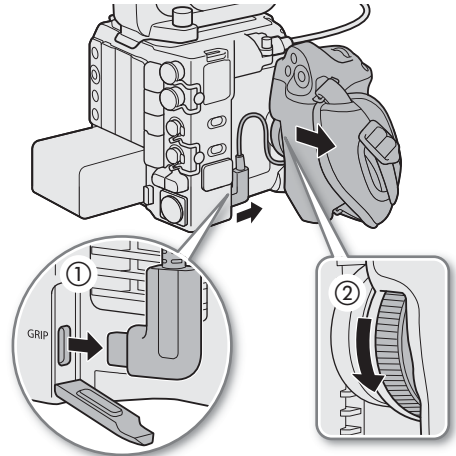
- 撮影スタイルに合わせて、画面の反転のしかたを切り換えることができます。LCDモニターのMIRROR（反転表示）切り換えボタンを押すたびに、左右反転→上下反転→上下左右反転→反転なしの順に切り換わります。
- LCDモニターは、明るさ、コントラスト、カラー、シャープネス、輝度の各項目を、**MENU** >  モニタリング設定メニュー（ 201）で変更できます。なお、この設定は記録される映像には影響しません。
- カメラモードのときは、LCDモニターの画面表示を、**MENU** >  モニタリング設定 > 「白黒: VIDEO端子」で白黒表示*に変更できます。
*表示文字などはカラーで表示される。
- LCDモニターのタッチパネルの応答性は、**MENU** >  システム設定 > 「タッチ操作レスポンス」で変更できます。

カメラグリップを取り外す／取り付ける

ご購入時、カメラグリップはカメラ本体に取り付けられています。カメラグリップを取り外せば、手持ち撮影用の最小幅構成にできます。

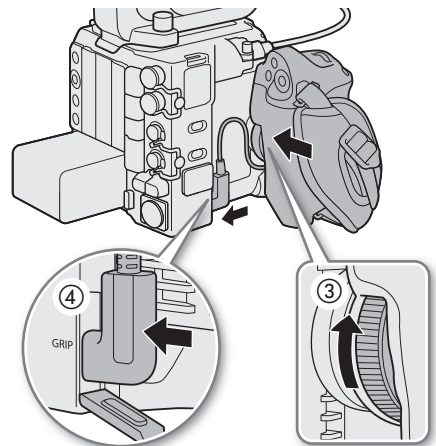
カメラグリップを取り外す

- 1 本機の電源を切る
- 2 カメラグリップの接続プラグを抜く (①)
- 3 カメラグリップの取り付けネジを回して、カメラグリップを外す (②)



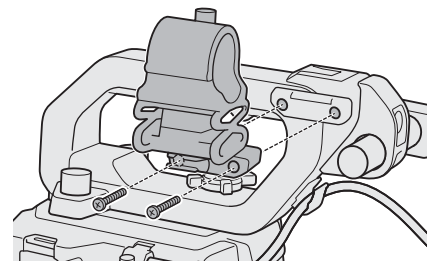
カメラグリップを取り付ける

- 1 本機の電源を切る
- 2 カメラグリップをお好みの角度に合わせ、取り付けネジを回して固定する (③)
- 3 GRIP (カメラグリップ接続) 端子にカメラグリップの接続プラグを奥までしっかり差し込んで接続する (④)
 - 接続プラグの端子が見えなくなるまでしっかり差し込む。
 - 接続が不十分だと、カメラ本体の操作が利かなくなることがある (□ 229)。



マイクホルダーを取り付ける

- 1 マイクホルダーをハンドルユニットに取り付ける
- 2 +のドライバー (市販) を使用して、2個のM4ネジ (付属) で固定する



レンズを準備する

レンズの取り付け／取り外しは、ほこりの少ない場所で素早く行ってください。取り付けるレンズの説明書も併せてご覧ください。

ご注意

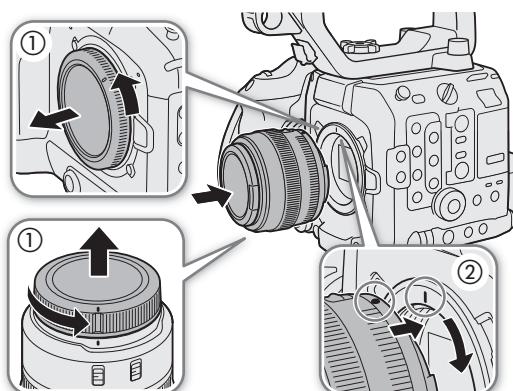
- レンズの取り付け／取り外しは、直射日光や強い照明を避けて行ってください。また、カメラやレンズを落とさないようにご注意ください。

MEMO

- **レンズを取り外したとき：**
 - レンズ／カメラ本体のレンズマウント、レンズマウントの内部に手を触れない。
 - カメラ本体のレンズマウントにボディキャップを、レンズにダストキャップを取り付けてください。キャップはゴミやほこりを落としてから使用してください。

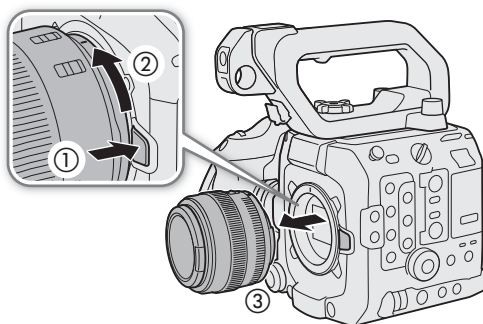
レンズを取り付ける

- 1 本機の電源を切る
- 2 レンズマウントからボディキャップを、レンズからダストキャップを取り外す (①)
- 3 本機とレンズの取り付け指標を合わせ、レンズを図のようにカチッと音がするまで回して、レンズを取り付ける (②)
 - レンズマウントとレンズにある赤い取り付け指標を合わせる。



レンズを取り外す

- 1 本機の電源を切る
- 2 レンズロック解除ボタンを押しながら (①)、レンズを図のように回転が止まるまで回す (②)
- 3 レンズを取り外す (③)
- 4 レンズマウントにボディキャップを、取り外したレンズにダストキャップを取り付ける



MEMO

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズを使用する場合、手ブレ補正をONにするとバッテリーの持ちが悪くなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正をOFFにすることをおすすめします。
- 取り付けたレンズによっては、次の動作になることがあります。
 - レンズ型名情報の一部が省略されて表示される。
 - フォーカスモードスイッチがAFのときに手動でフォーカス調整できない。
 - フォーカスプリセットが動作しない（超望遠レンズ）。
 - レンズに搭載されたパワーズーム機能が使用できない。

- 本機のセンサーサイズは、RF-S/EF-Sレンズが対応するサイズ（APS-C）より大きいので、RF-S/EF-Sレンズを装着すると、ケラレが発生することがあります。
- レンズのフォーカスモードスイッチをAFにして電源を切ると、自動的にレンズの全長を最短に収納できます（対応レンズのみ。☞ 209）。
- VRレンズ装着時は、ハンドルユニットに付けたアクセサリやグリップを握った手などが映り込む可能性があります。一度確認してから、撮影を開始してください。

マウントアダプター EF-EOS R 0.71xを使用する

- 本機に、EF-EOS R 0.71xとこれに対応するEFレンズを装着すると、「センサーモード」が「Super 35mm (Crop)」のときに、フルフレーム相当の画角の映像を撮影することができます。また、オートフォーカスや周辺光量補正、倍率色収差補正が使用できます。対応レンズについては、キヤノンのホームページでご確認ください。
- * 本機のセンサーモードを「フルサイズ」にすると、ケラレが発生します。
- マウントアダプター EF-EOS R 0.71xを使用してEFレンズを取り付けると、AF範囲を制限する枠が表示されるレンズがあります。

レンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターのファームウェアを更新する

本機に取り付けたレンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターのファームウェアを更新することができます（カメラモードのみ）。最新のファームウェアについては、キヤノンのホームページでご確認ください。以下は、レンズの場合を例に説明します。

- 1 レンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターのファームウェアをキヤノンのサイトからダウンロードしてSDカードのルートフォルダーに保存し、SDカードを本機のカードスロットに入れる（☞ 40）
- 2 ファームウェアを更新するレンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターを取り付けたあと、本機をカメラモードで起動する
 - マウントアダプター／パワーズームアダプターのファームウェアを更新するときは、レンズも取り付ける。
- 3 MENU >  システム設定 > 「Firmware」> 「レンズ」、「マウントアダプター」または「パワーズームアダプター」を選ぶ
 - 取り付けているレンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターのバージョン情報が画面に表示される。
 - メニュー項目が灰色になっていて選べないときは、取り付けたレンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターがファームウェアの更新に対応していないか、本機に入れたSDカードにファームウェアが保存されていない。レンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターやSDカードを確認して再度操作1から操作する。
- 4 「OK」を選ぶ
- 5 ファームウェアの更新ファイル（XXX.LFUまたはXXX.AFU）を選ぶ
- 6 「OK」を選ぶ
 - ファームウェアの更新が開始される。ファームウェアの更新は中止できない。
- 7 更新が完了したら、SETを押す

ご注意

- ファームウェアの更新中は次のことを必ず守ってください。
 - 電源を切らない。バッテリーや電源機器を取り外さない。
 - レンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターを取り外さない。
 - 他のボタンを操作しない。
 - メモリーカードカバーを開けて、SDカードを取り出さない。

MEMO

- プレ記録中はファームウェアの更新を行うことができません。
- ACアダプター、または十分に充電したバッテリーを装着して操作してください。
- エクステンダー EFを装着しているときは、取り外してから操作してください。

レンズの周辺光量、色収差、回折、歪曲収差を補正する

レンズの特性により、映像の四隅の明るさが中央部に比べて暗くなる（周辺光量の低下）、映像の周辺部に色ずれや色にじみが発生する（色収差）、映像の先鋭さが低下する（回折）、映像がゆがむ（歪曲収差）などの現象が見られますが、補正することができます。周辺光量の低下と色収差は、レンズごとの補正データを用いて補正できます。歪曲収差は対応するRFレンズのみ補正できます。

1 レンズを取り付けたあと、本機をカメラモードで起動する

2 MENU > カメラ設定 > 「周辺光量補正」、「色収差補正」、「回折補正」、「歪曲収差補正」のいずれかを選ぶ

- 取り付けているレンズの補正データが本機にないときは、「周辺光量補正」／「色収差補正」が灰色になっていて選べない。レンズがこれらの補正に対応しているかキヤノンのホームページで確認し、対応している場合はファームウェアをダウンロードして、本機のファームウェアを更新し、再度操作1から操作する。
- 取り付けているレンズに歪曲収差補正の補正データが格納されていないときは、「歪曲収差補正」が灰色になって選べない。

3 「入」を選ぶ

- 以降の撮影時に補正を行う。

MEMO

レンズごとの補正データについて

本機発売時点で販売している周辺光量／倍率色収差補正対応レンズ（一部を除く）の補正データは、あらかじめ本機に格納しています。将来発売されるレンズの補正データについては、補正データを含むファームウェアで本機のファームウェアを更新することによって、本機に取り込むことができます。最新のファームウェアについては、キヤノンのホームページでご確認ください。

周辺光量補正／回折補正を行うとき

- 撮影条件によっては、記録される映像の一部にノイズが発生することがある。
- 距離情報を持たないレンズでは、周辺光量の補正量が少なくなる。
- ISO感度／ゲインが高くなるほど、補正量が少なくなる。
- RF-S／EF-Sレンズのときは、周辺光量の低下が大きくなることがある。

周辺光量／色収差の補正ができない場合

- レンズの補正データが本機に格納されていないとき。
 - 他社製レンズを装着しているとき。他社製レンズを装着して各補正を「入」に設定できる場合でも、「切」にすることをおすすめします。
- レンズの現在の絞り値が取得できないときは、回折の補正ができません。
 - RAWクリップは色収差／回折補正／歪曲補正されません。同時に記録するプロキシクリップは、補正されます。

日時を設定する

はじめてお使いになるときは、日付と時刻の設定が必要です*。日時が設定されていないときは、日付と時刻を設定する画面が表示されます。

* 内蔵の充電式リチウム電池が放電したときも同様です。



日付と時刻を設定する

1 タイムゾーンを選び、カーソルを次の項目に移動する

ジョイスティック： 上下に押しして設定値を選び、ジョイスティックを垂直に押す。

SELECT（選択）ダイヤル： ダイヤルを回して設定値を選び、SET（設定）ボタンを押す。

- ジョイスティックを左右に押しても、カーソルを移動できる。
- タイムゾーンは、協定世界時（UTC）に基づいている。

2 1の操作を繰り返して、日付と時刻を設定する

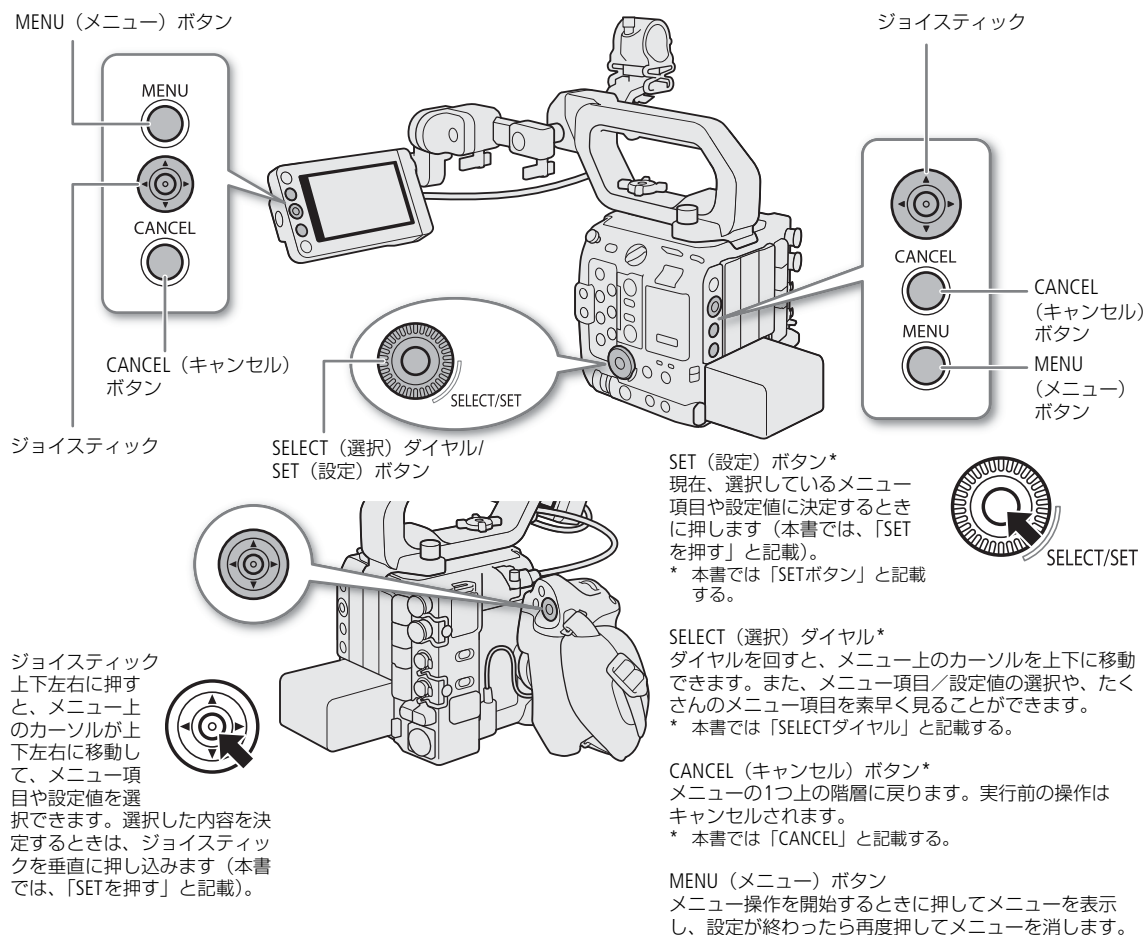
3 カーソルが一番右の「セット」にある状態で、時報に合わせてSET（設定）ボタンを押す

MEMO

- カメラモードのときは、**MENU** > モニタリング設定 > 「Custom Display 2」> 「日付/時刻」で、メディアモードのときは、**MENU** > モニタリング設定 > 「Custom Display」> 「日付/時刻」で画面に日時を表示できます。
- タイムゾーンまたは日時設定は、**MENU** > システム設定 > 「タイムゾーン」または「日付/時刻」で変更できます。
- 本機を3ヶ月近く使わないと、内蔵の充電式リチウム電池が放電して日時の設定が解除されることがあります。そのときは、内蔵のリチウム電池を充電してから設定し直してください（ 244）。
- GPSレシーバー GP-E2（別売）を使用すると、GPSから得られる時刻情報を本機に自動で設定できます（ 209）。

メニューで設定を変える

本機のさまざまな機能をメニューによって設定できます。また、よく使うメニュー項目をあらかじめマイメニューに登録して設定することもできます。メニューの種類については「メニュー一覧」(P196)をご覧ください。



メニュー操作の基本

ここではメニュー設定の基本操作について説明します。本書の各項目で説明されているメニュー設定を操作するときの参考にしてください。

例：「日時スタイル」を設定する場合

1 MENU ボタンを押す

- 画面にメニューが表示され、選択しているメニューの背景がオレンジ色になる。メニューは、最後にメニューを消した時の状態が保持されたまま、表示される (電源をOFF/ONすると初期状態に戻る)。

2 ジョイスティックを左右に押すかSELECTダイヤルを回して、設定するメニューを選ぶ

- 🔍のアイコンを選ぶと、「システム設定」メニューが表示される。
- メニューを表示したとき、選んでいるアイコンの背景がオレンジ色になっていないときは、ジョイスティックを上を押すか、CANCELを押して、アイコンの背景をオレンジ色にする。

3 SETを押す（ジョイスティックを垂直に押す、またはSETボタンを押す）

- ジョイスティックを下に押して、カーソルをメニュー項目に移動することもできる。

4 設定するメニュー項目を選び、SETを押す

ジョイスティック： 上下に押すと、現在表示しているメニューページ内のメニュー項目を対象にして、カーソルが移動する。左右に押すと、メニュー項目のページを切り換えられる。

SELECTダイヤル： ダイヤルを回すと、すべてのメニューページとメニュー項目を対象にして、カーソルが連続して移動する。

5 ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して設定内容を選び、SETを押す

- 現在選んでいる設定内容に▶が表示される。
- 表示しきれないメニュー項目があるときは、メニューの右端にスクロールバーが表示される。カーソルを上下に移動するとメニューがスクロールする。
- CANCELを押すと、カーソルが1つ上の階層に戻る。設定するメニュー項目によっては、「▶」を選んでSETを押しても、カーソルが1つ上の階層に戻る。

6 MENUボタンを押してメニューを消す

以降、この操作を次のように記載する。「～を選ぶ」は、「ジョイスティックを上下左右に押すかSELECTダイヤルを回して対象を選び、SETを押す」操作を示す。

例：MENU > ⏏システム設定 > 「日時スタイル」> いずれかを選ぶ

MEMO

- 他の機能の設定内容などによって設定できない項目は、灰色で表示されることがあります。
- MENUボタンを押すと、メニューはいつでも終了します。
- 操作ガイドとして画面に[SET]、[CANCEL]、[MENU]が表示されることがあります。このときはガイドに応じて、それぞれ、ジョイスティックやSETボタン、CANCELボタン、MENUボタンを押してください。
- リモートコントローラー RC-V100（別売）を使用しているときは、RC-V100の上／下／左／右／SET（設定）ボタンがジョイスティックと同様に機能します。SET（設定）ボタンは、ジョイスティックを垂直に押す操作と同じで、選択した内容を決定するときに使用します。
- 現在の設定内容の一部を、ステータス画面で確認できます（□ 210）。

マイメニューを使う

カメラモードでは、よく使うメニュー項目をあらかじめ登録しておき、必要なときに簡単に設定することができます。マイメニューにはメニュー項目を6個まで登録できます。また、マイメニューは5セット保存できるので、必要に応じて切り換えて使用できます。アサインボタン（□ 126）にマイメニューを割り当てておけば、1ボタン操作でマイメニューを開くこともできます。

マイメニューを選択する

MENU > ★ マイメニュー > いずれかのページを選ぶ

- マイメニューはページ（1～5）ごとに設定できる。使うマイメニューのページを選ぶ。

マイメニューを登録する

MENU > ★ マイメニュー > 「編集」> 「登録」を選ぶ

- マイメニューに登録するメニュー項目を選び、「OK」を2回選ぶ。

登録したメニュー項目を並べ換える

MENU > ★ マイメニュー > 「編集」> 「並べ換え」を選ぶ

- 並び換えるメニュー項目を選ぶと、選んだメニュー項目の左に◆が表示される。項目を移動して、SETを押す。

登録したメニュー項目を消去する

MENU > ★ マイメニュー > 「編集」 > 「消去」 を選ぶ

- 消去するメニュー項目を選び、「OK」を2回選ぶ。

登録したメニュー項目をすべて消去する

MENU > ★ マイメニュー > 「編集」 > 「設定初期化」 を選ぶ

- 「OK」を2回選ぶ。

マイメニューの名前を変更する

5セットのマイメニューにそれぞれ名前を付けておくと、マイメニューを識別するときに便利です。

MENU > ★ マイメニュー > 「編集」 > 「メニュー名変更」 を選ぶ

- 8桁の任意の英数字記号を入力する。

参考 ▶ 「スクリーンキーボードを使った文字入力」(38)

スクリーンキーボードを使った文字入力

文字入力のしかたは、操作しているメニューによって異なります。ここではスクリーンキーボードを使った文字入力のしかたを説明します。

1 文字を選び、SETを押して文字を入力する

- 「↑」 / 「↓」 / 「←」 / 「→」 を選んでもカーソルを移動できる。「<X」を選ぶと1文字消去する。
- 同じ要領で必要な文字入力を繰り返す。
- メニューによっては、表示されない文字がある。

2 文字の入力が終了したあと、「OK」を選んで入力を確定する

- 入力を確定すると、スクリーンキーボードが消える。
- 入力を途中で中止するときはCANCELを押す。



現在の文字数 / 入力可能文字数

記録メディアを準備する

本機では、動画や静止画などの撮影データをCFexpressカード、SDカード*に記録します。カードスロットは2つあり、2つのスロットのカードへの記録方法を選択できます。記録メディアを使用するときは、はじめに本機で初期化してください (□41)。

* SDカードは、カスタムピクチャーなどの設定データの保存や読み出しにも使用します。

使用可能な記録メディア

本機で使用可能な記録メディアです。動作確認済みのメモリーカードなどの詳細情報は、キヤノンのホームページなどでご確認ください。

CFexpressカード

CFexpress 2.0 Type Bに準拠したCFexpressカード。ただし、カメラの記録モードのビットレートによっては一部書き込めない場合があります。動作確認済みカードの情報はキヤノンのホームページなどでご確認ください。

SDカード

メモリーカードのタイプ	 SDメモリーカード、  SDHCメモリーカード、  SDXCメモリーカード
SDスピードクラス*	CLASS  CLASS 
UHSスピードクラス*	 
ビデオスピードクラス*	V30、V60、V90

ビットレートに対してスピードクラスが適切でない場合には、警告が表示されます。

* SDカードのデータ記録時の最低速度を保証する規格です。

動画・静止画の対応メディア

記録データ	CFexpress カード	SD カード
動画：RAW	●	—
動画：XF-AVC、XF-AVC S、XF-HEVC S (記録方式等により、CFexpressカードのみの場合あり)	●	●
静止画：JPEG	—	●

ご注意

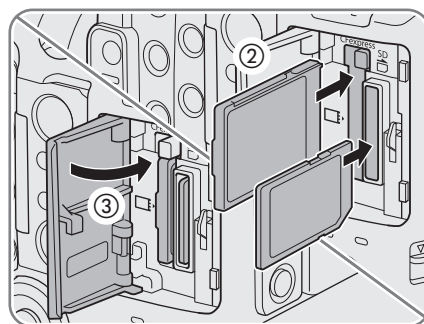
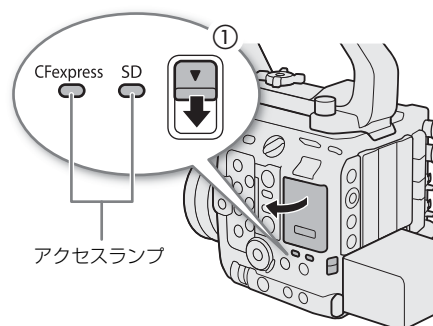
- カメラ内部の発熱により、CFexpressカードが熱くなっていることがあります。撮影直後にカードを取り出すと、やけどの原因になる恐れや、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。
- 撮影や編集を繰り返しているカードの場合、データの書き込み速度が低下し、記録が停止することがあります。あらかじめカードの動画や静止画をバックアップしてから、本機でカードを初期化してください。特に、重要なシーンを記録する前には、本機でカードを初期化してください。
- CFexpressカード、またはSDXCメモリーカードを使用するとき：**
これらのメモリーカードは、exFAT形式で初期化されます。
 - exFAT形式に対応した機器でのみ使用できる。exFAT形式に対応する、レコーダー、パソコン、またはカードリーダー／ライターなどでご使用ください。対応状況については、パソコン、OS、またはカードのメーカーにお問い合わせください。
 - exFAT形式に対応していないOSで使用すると、カードの初期化を促すメッセージが表示されることがある。**初期化するとデータが失われますので、キャンセルしてください。**
- 低ビットレートで短時間の記録を繰り返すと、カード容量が余っていても記録できないことがあります。

MEMO

- すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- SDHC メモリーカードに記録するときは、FAT32形式のため、クリップ内の映像ファイル（ストリーム）が約 4 GBごとに分割されます。本機では連続して再生されます。SDXC メモリーカードに記録するときは、exFAT形式のため、クリップ内の映像ファイル（ストリーム）が分割されません。

カードを入れる

- 1 アクセスランプが消灯していることを確認する
- 2 メモリーカードカバー開くレバーを下にスライドさせる
(①)
 - メモリーカードカバーが左に開く。
- 3 カードのおもて面をカメラ本体の背面（バッテリー装着部がある面）側にして、カードをカードスロットの奥までしっかり入れる。(②)
 - それぞれのカードスロットにカードを入ると、カードを2枚使うことができる。
- 4 メモリーカードカバーを閉じる (③)
 - カードが正しく入っていない状態で、カバーを無理に閉めない。



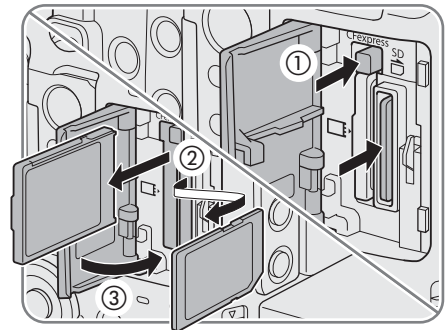
アクセスランプの光りかた

スロットの状態	
点灯（赤）	カードにアクセス中
点灯（緑）	記録／再生可能でかつ、スロットが記録／再生先として選択されている
消灯	カードが入っていない、または別のスロットが選択されている

アクセスランプは、MENU > システム設定 > 「カードアクセスLED」を「切」にすると点灯しません。

カードを取り出す

- 1 アクセスランプが消灯または緑色に点灯していることを確認する
- 2 メモリーカードカバー開くレバーを下にスライドさせる
 - メモリーカードカバーが左に開く。
- 3 アクセスランプが消灯していることを確認して、CFexpressカードは取り出しボタンを押し、SDカードはカードの底面を押す (①)
- 4 カードを取り出し (②)、メモリーカードカバーを閉じる (③)



初期化する

記録メディアをはじめて使用するときや、記録メディアに記録した動画／静止画などすべての情報を消去するときは初期化します。

- 1 MENU > 記録/メディア設定 > 「メディア初期化」を選ぶ
- 2 「CFexpress」、 「SDカード」 のいずれかを選ぶ
- 3 「OK」を選ぶ
 - 選んだカードが初期化され、すべての情報が消去される。
- 4 確認メッセージが表示されたあと、SETを押す

ご注意

- SD メモリーカードはFAT12 / FAT16形式、SDHC メモリーカードはFAT32形式、SDXC メモリーカードとCFexpressカードはexFAT形式で初期化されます。
- 初期化すると、動画、静止画、プロテクトしたカスタムピクチャーファイルなど、メモリーカード内のすべての情報が消え、元に戻せません。残しておきたいデータがあるときは、バックアップしてから初期化してください。
- SDカードの初期化は、カードによっては数分かかることがあります。

MEMO

- 「メディア初期化」を割り当てたアサインボタンを押して、「メディア初期化」サブメニューを表示することができます (□ 126)。

使用するカードスロットを切り換える

両方のスロットにカードを入れているときは、記録／再生に使うスロットを必要に応じて切り換えることができます。

- 1 アサインボタンに「スロット選択」を割り当てる (□ 126)
 - カメラモードとメディアモードで個別に割り当てる。
- 2 撮影一時停止状態 (STBY) ／インデックス画面のときに、アサインボタンを押す

MEMO

- MENU > 記録/メディア設定 > 「メイン記録先」で変更することもできます。
- 記録中または再生中にアサインボタンを押しても、スロットは切り換わりません。

- ブラウザーリモートを使って撮影するときは、ブラウザーリモート画面の「SLOT SELECT」を押して切り換えることもできます (187)。

撮影データを修復する

記録中の停電やカードの取り出しなどによって、カードに記録した撮影データ（クリップ、WAVファイル、News Metadata）に異常が発生することがあります。このようなデータは、修復することによって正常な状態に戻すことができます。

- 1 本機をメディアモードにして、修復するクリップがあるインデックス画面を表示する (140)
- 2 ?が表示されているサムネイルにカーソルを合わせる
- 3 クリップメニュー>「修復」>「OK」を選ぶ
 - 選んだクリップが修復される。
- 4 確認メッセージが表示されたあと、SETを押す

MEMO

- RAW、XF-HEVC S / XF-AVC Sのインデックス画面では、修復したクリップのサムネイルに▶が表示されます。
- 記録を開始してすぐに、停電やカードの取り出しが発生すると、撮影データが記録されないことがあります。また、0.5秒に満たない撮影データは、修復によって消去されることがあります。
- 修復を行っても正常な状態に戻らないことがあります。特に、ファイルシステムが壊れているとき、またはカードが物理的に壊れているときは修復できません。
- 修復は、本機で撮影したクリップ、WAVファイル、News Metadataのみ行えます。また、静止画は修復できません。

動画の記録方法を選ぶ

本機には、記録モードと2つのカードスロットを使ったさまざまな動画記録方法があります。また、記録メディアに記録しながらストリーミング送信することもできます（□ 186）。以下ではそれらの概要を紹介します。詳細については、各機能の説明をご覧ください。

記録モード

記録モード	メイン記録形式	説明
通常記録	すべて	設定した記録信号形式で動画を記録する最も基本的な記録方法
スロー & ファストモーション記録	すべて	記録フォーマットのフレームレート未満のフレームレートで記録すると、いわゆるアンダークランク撮影となり、ファストモーション効果が得られる。記録フォーマットのフレームレートを超えるフレームレートで記録を行うと、いわゆるオーバークランク撮影となり、スローモーション効果が得られる。音声は記録されない（ミュート）。
スロー & ファストモーション記録/音声 (WAV)	すべて	「Slow & Fastモーション/音声 (WAV)」を選ぶと、動画の記録先ではない方のカードに、WAV形式の音声記録される。
ブレ記録	XF-AVC / XF-AVC S / XF-HEVC S	記録開始操作の3秒前からの映像と音声を記録する機能。スロー & ファストモーション記録との併用は不可。
常時記録	XF-AVC S / XF-HEVC S	CFexpressカードには通常記録（RECボタンの操作（記録・停止）などに従って記録）を、SDカードには常時記録（RECボタンの操作に関わらず記録し続ける）を行う。
フレーム記録	すべて	RECボタンを押すたびにあらかじめ設定されたフレーム数分記録され、フレーム記録モードを終了するまでに記録された映像が1つのクリップになる。音声は記録されない（ミュート）。
インターバル記録	すべて	あらかじめ設定した記録時間間隔とフレーム数で間欠的に映像を自動記録する。音声は記録されない（ミュート）。

2スロット記録機能

2スロット記録機能	機能	
プロキシ動画記録	メイン動画をCFexpressカードに記録し、同時に、オフライン編集用にデータ量が小さいプロキシ動画をSDカードに記録する。プロキシ動画は、メイン動画に関連付いたファイル名で記録する。	68
サブ動画記録	メイン動画をCFexpressカードに記録し、同時に、異なる記録信号形式の動画（サブ動画）をSDカードに記録する。	67
音声記録	メイン動画をCFexpressカードに記録し、同時に、WAVファイル*をSDカードに記録する。 * スロー & ファストモーション記録で記録できるWAVファイルとは異なる。	107
リレー記録	撮影中のカードの空き容量がなくなると、自動的にもう一方のスロットに切り換え、連続して記録する。スロットの切り換えは双方向に可能。	—
ダブルスロット記録	メイン動画をもう一つのカードにも同時に記録する。撮影中に映像のバックアップを取ることができる。	—

1 記録モードを選ぶ

- MENU > 記録／メディア設定 > 「記録モード」

2 2スロット記録機能を選ぶ

- MENU > 記録／メディア設定 > 「2スロット記録機能」

同時に使用可能な動画記録の組み合わせ

		2スロット記録機能					
		切	プロキシ動画記録	サブ動画記録	音声記録	リレー記録*3	ダブルスロット記録*3
記録モード	通常記録	●	●	●	●	●	●
	スロー & ファストモーション記録	●	●*1	●*1	—	—	—
	スロー & ファストモーション記録/ 音声 (WAV) *2	●	—	—	—	—	—
	ブレ記録*3	●	●	●	—	●	●
	常時記録*3*4	●	—	—	—	—	—
	フレーム記録	●	—	—	—	●	●
	インターバル記録	●	—	—	—	●	●

*1 メイン記録方式がRAWのときのみ可能。ただし、スロー & ファストモーション記録のフレームレートが60Pを超えるときは不可。

*2 スロー & ファストモーション記録のフレームレートが60Pを超えるときは不可。

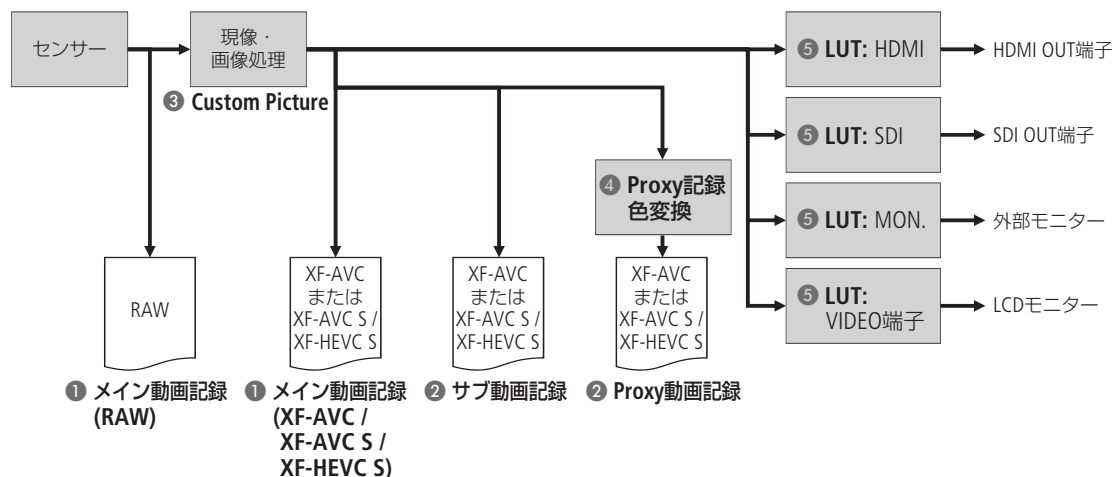
*3 メイン記録方式がRAWのときは不可。

*4 メイン記録方式がXF-AVCのときは不可。

MEMO

- ダブルスロット記録中、記録容量の少ないカードの空き容量がなくなると、両カードへの記録を停止します。なお、一方のカードに書き込みエラーが発生しても、他方のカードへの記録は継続します。

動画記録から出力について（概念図）



① メイン動画の記録信号形式を選ぶ（[□ 62](#)）

② 2スロット記録機能を選ぶ（[□ 43](#)）

- 音声記録、リレー記録、ダブルスロット記録も選択可能。メイン動画の記録形式や記録モードによって選択できない機能がある。

③ カスタムピクチャーを使用する（[□ 130](#)）

- カスタムピクチャーを使用した画質の調整ができる。

④ プロキシ動画の場合：Proxy記録色変換を選ぶ（[□ 68](#)）

- ガンマと色空間の設定を変換する。

⑤ 各出力映像に、LUTを適用する（[□ 159](#)）

- ガンマと色空間の設定を変換する。

ボリュームラベルを設定する

カメラモードのときに、CFexpressカードとSDXCメモリーカードにボリュームラベルを設定できます。ボリュームラベルを設定しておく、撮影に使用したカードを識別したり、管理したりするときに便利です。

1 MENU > 記録/メディア設定 > 「ボリュームラベル」> 「Canon」または「Canon+メタデータ」を選ぶ

Canon： CFexpressカードとSDXCメモリーカードのボリュームラベルが「Canon」になる。

Canon+メタデータ： CFexpressカードとSDXCメモリーカードのボリュームラベルが、「Canon」にメタデータのカメラインデックスとリール番号を加えた「CanonXYxxxx」（XはA～Zの1文字、YはA～Zおよび「_」の1文字、xxxxは0001～9999の4桁の数字）になる。

2 CFexpressカードまたはSDXCメモリーカードを初期化する（ 41）

3 クリップファイル名を設定する（ 45）

4 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- ボリュームラベルは、初期化したCFexpressカードまたはSDXCメモリーカードにはじめて記録するときに設定される。

クリップファイル名を設定する

本機内のカードに記録されるクリップのクリップファイル名を設定します（カメラモードのみ）。クリップファイル名にカメラやカードごとの文字を割り振ったり、任意の文字列を設定したりしておく、編集時に識別や整理がしやすくなります。以下の設定操作で文字を入力するときは、「文字入力のみ」（ 46）をご覧ください。

クリップファイル名の構成

	項目	内容
①	カメラインデックス	A～Zおよび「_」の2文字。カメラごとに異なる文字を設定する。
②	リール番号	0001～9999の4桁の数字。カードごとに異なる番号が自動的に振られる。任意の初期値を指定できる。新しいカード*に交換すると、初回の記録時に番号が1つ繰り上がる。 * 購入または初期化直後のカード。
③	クリップ番号	001～999の3桁の数字で、先頭に「C」が付いてC001～C999となる。999を超えると「C」が「D」に変わり、D001～D999となる。クリップ番号はクリップごとに自動的に振られる。任意の初期値の設定や、クリップ番号の付けかた（クリップ番号方式）も選択できる。
④	メインコーデック識別子	メインコーデックを示す大文字のアルファベット1文字で構成される (X：RAW、A：AVC/H.264、H：HEVC/H.265)
⑤	年月日	撮影した年月日と時間が自動的に設定される。
⑥	特殊記録識別子	ビデオカメラの録画モード（通常記録モード（「_」）、常時記録モードの常時記録側（「C」））を示す。
⑦	時分秒	撮影した時分秒が自動的に設定される
⑧	ランダムID	クリップごとにランダムに付加される、A～Z、0～9からなる2文字。
⑨	ユーザー定義	A～Z、0～9からなる5文字。
⑩	ストリーム番号	記録先がSD / SDHCメモリーカードのときにストリーム番号（001～999の3桁の数字）が付与される。
⑪	プロキシ識別子	プロキシクリップのときに「_Proxy」が付加される。

- 同時に記録したメイン動画とプロキシ動画のクリップは、クリップファイル名の①～⑩が同じになる。

カメラインデックスを設定する

1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「カメラインデックス」を選ぶ

2 A～Zのいずれかの文字を選び、「セット」を選ぶ

- A～Zおよび「_」の2文字を選ぶ。

クリップ番号方式を設定する

MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「クリップ番号方式」> 「オートリセット」または「通し番号」を選ぶ

オートリセット： カードの交換時に自動的に「001」にリセットする。

通し番号： カードを交換しても複数のカードに共通の通し番号（連番）を振る。

リール番号／クリップ番号を設定する

クリップ番号は、クリップ番号方式を「通し番号」に設定したときに任意の初期値を設定できます。

1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「リール番号」または「クリップ番号」> 「変更」を選ぶ

- 「リセット」を選ぶと、番号が「0001」または「001」にリセットされる。

2 数値を入力する

ユーザー定義を設定する

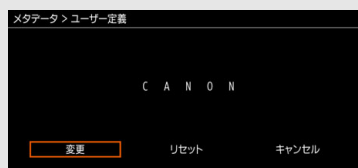
1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「ユーザー定義」> 「変更」を選ぶ

- 「リセット」を選ぶと、「CANON」にリセットされる。

2 文字や数値を入力する

文字入力のしかた

文字／数字入力のしかたは、操作しているメニューによって異なります。ここではスクリーンキーボード以外の文字／数字入力のしかたを説明します。



1 最初の文字や数字を選び、SETを押してカーソルを移動する

- ジョイスティックを左右に押しても、カーソルを移動できる。
- 同じ要領で残りの文字や数字を入力する。

2 文字や数字を入力したあと、「セット」を選んで入力を確定する

- 入力を確定すると、文字入力の画面が消える。
- 入力を途中で中止するときはCANCELを押す。

カメラの水平を確認する

水準器を使ってカメラの水平を確認できます。

1 MENU >  モニタリング設定 > 「Custom Display 1」 > 「水準器（数値）」または「水準器（バー）」のいずれかを選ぶ。

- 「水準器（バー）」を選ぶと次の設定ができます。
 - Tilt+Roll：TiltとRoll両方の傾きを表示する
 - Tilt：光軸の上下方向の傾きを表示する
 - Roll：光軸を中心とした回転方向の傾きを表示する
 - 切：表示しない

MEMO

- MENU >  システム設定 > 「水準器感度」または「水準器基準設定」で、水準器の感度や基準となる角度を設定できます。「水準器基準設定」は、カメラで検出している角度を基準角度とし、その基準角度に対する相対角度を表示します。
- 「水準器基準設定」は、水準器の角度を微調整する機能であり、次の姿勢付近でのみ有効になります。
 - 正姿勢、縦姿勢（Roll方向に90°、-90°回転）
 - 上下逆さま（Roll方向に180°回転）
 - レンズが上向き（Tilt方向に90°）
 - レンズが下向き（Tilt方向に-90°）

冷却ファンの動作方法を選ぶ

本機は冷却ファンを回転させて、本機内部の熱を排出します。カメラモードでは、冷却ファンが設定した冷却ファンの動作とファン速度で回転します。メディアモードでは、冷却ファンが設定したファン速度で常時回転します。

カメラモードで冷却ファンの動作を設定する

1 MENU >  システム設定 > 「ファンモード」 > 「オート」または「常時」を選ぶ

オート：撮影一時停止中は回転し、撮影中（画面に●RECが表示中）は自動的に停止する。ただし、撮影中でも、本機の内部温度が上昇（（黄色）が表示される）すると、冷却ファンが自動的に回転する（ が  の隣に表示される）。内部温度が十分下がると、再び冷却ファンは停止する。この設定は、冷却ファンの動作音を記録したくないときに使用する。

常時：常に回転する。

「常時」を選んだとき：

2 MENU >  システム設定 > 「ファン速度(常時)」 > いずれかを選ぶ

「オート」を選んだとき：

2 MENU >  システム設定 > 「ファン速度(STBY)」 > 撮影一時停止中のファン速度を選ぶ

3 MENU >  システム設定 > 「ファン速度(REC)」 > 撮影中のファン速度を選ぶ

- 「強制冷却」を選ぶと、回転数を最大にした冷却が可能（「ファン速度(STBY)」のみ）。

メディアモードで冷却ファンの動作を設定する

1 MENU >  システム設定 > 「ファン速度」を選ぶ

2 いずれかを選ぶ

で注意

- 冷却ファンの回転中は、EXHAUST VENT（排気口）から暖かい空気が排出されます。
- 冷却ファンの吸排気口（ 11、13）をテープなどで塞がないでください。

MEMO

- 高温下など撮影環境によっては「オート」にしてもファンが停止しないことがあります。

ブラックバランスを調整する

使用環境の温度が変わったときなど映像信号の黒がずれたときに、ブラックバランスを自動的に調整することができます。ブラックバランスの調整はカメラモードのみ行えます。

1 本体にボディキャップを取り付けて、本機をカメラモードで起動する

- レンズを取り付けているときは、本機の電源を切ってレンズを取り外し、ボディキャップを取り付ける。

2 MENU > カメラ設定 > 「ABB」> 「OK」を選ぶ

- 画面に「実行中」が表示され、ブラックバランス調整が行われる。調整には約1分程度かかることがある（23.98P / 24.00Pの場合）。

3 処理の完了メッセージが表示されたあと、SETを押す

- センサーの遮光が正しく行われていないときは、画面に「エラー」が表示される。エラーのときは、再度操作1から操作する。

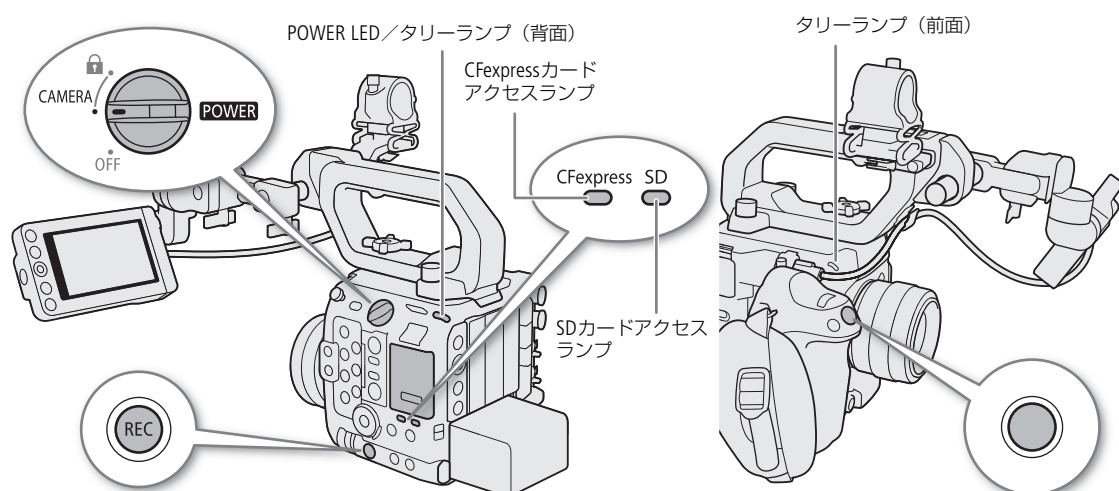
MEMO

- ブラックバランス調整が必要な場合：
 - 本機を初めて使用するとき、または長時間使用しなかったあとに使用するとき。
 - 周囲の温度が大幅に変化したとき。
 - センサーモードを切り換えたとき。
 - スロー & ファストモーション記録モードを有効または無効（別の記録モードに切り換える）にしたとき。
 - スロー & ファストモーション記録モードで撮影フレームレートの設定を変更したとき。
 - MENU >  システム設定 > 「リセット」> 「全設定」で、本機の設定をリセットしたとき。
- ブラックバランス調整中、画面の表示が乱れますが、故障ではありません。

動画や静止画を撮影する

ここでは、動画や静止画の基本的な撮影について説明します。音声の記録については、105ページをご覧ください。

撮影する



1 POWER（電源）スイッチを「CAMERA」にする

- 本機がカメラモードで起動し、撮影一時停止状態（STBY）になる。
- POWER LED／タリーランプ（背面）が緑色に点灯する。
- メモリーカードが入っているスロットのアクセスランプが赤色に点灯したあと、記録先として選択されているカードのアクセスランプが緑色に点灯する。

2 REC（記録開始／停止）ボタンを押す

- 撮影が始まる。タリーランプ（前面）は赤色に、POWER LED／タリーランプ（背面）は緑色から赤色に点灯し、画面の撮影状態が「STBY」から「●REC」に変わる。
- 記録先として選択されているカードのアクセスランプが赤色に点灯する。
- カメラグリップのRECボタンで操作して撮影開始することもできる。
- ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（□ 187、188）で、またはXCプロトコル対応機器を使って撮影開始することもできる。

3 もう一度REC（記録開始／停止）ボタンを押す

- 撮影が終了してクリップ*がカードに記録され、撮影一時停止状態（STBY）になる。タリーランプ（前面）は消灯して、POWER LED／タリーランプ（背面）は緑色に点灯する。
- 記録先として選択されているカードのアクセスランプが緑色に点灯する。

* 本書では、1回の撮影操作で記録される動画を「クリップ」と呼びます。クリップには、映像・音声のほか、メタデータが含まれることがあります。

静止画を記録する

カメラモードで、「Photo」を割り当てたアサインボタンを押して、静止画を記録できます。静止画はSDカードに記録され、記録される静止画のサイズ（□ 249）は、現在設定しているセンサーモード（□ 62）によって決まります。

1 いずれかのアサインボタンに「Photo」を割り当てる（□ 126）

2 撮影一時停止状態（STBY）中に、「Photo」を割り当てたアサインボタンを押す

- 「Photo」を割り当てたアサインボタンを押すと、画面の右側に「▶[Photo]」が表示され、静止画がSDカードに記録される。
- 記録中はSDカードのSDカードアクセスランプが点灯する。

撮影可能な静止画の解像度

センサーモード	メイン記録形式	メイン解像度	静止画解像度
フルサイズ	RAW	—	4096×2160
	XF-AVC	4096×2160、2048×1080	4096×2160
	XF-AVC S／XF-HEVC S	3840×2160、1920×1080	3840×2160
Super 35mm (Crop)	RAW	—	4096×2160
	XF-AVC	4096×2160、2048×1080	4096×2160
	XF-AVC S／XF-HEVC S	3840×2160、1920×1080	3840×2160
Super 16mm (Crop)	RAW	—	2048×1080
	XF-AVC	2048×1080	2048×1080
	XF-AVC S／XF-HEVC S	1920×1080	1920×1080

ご注意

- 万一のデータ破損に備えて、撮影したデータは必ずバックアップしてください。データ破損の場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

MEMO

- レックレビュー機能（□ 59）を使うと、カメラモードのまま、最後に撮影したクリップを再生して確認できます。
- メタデータ（□ 117）やNews Metadata（□ 118）を設定して撮影すると、メタデータやNews Metadataが動画と一緒にクリップ内に記録されます。
- 撮影中にリレー記録（□ 43）が発生すると、撮影された映像はそれぞれ別々のクリップとして記録されます。
- 1つのクリップには、約6時間まで記録できます。それを超えると、自動的に別のクリップを生成して記録します（RAW記録、スロー & ファストモーション記録以外）。
- MENU** >  システム設定 > 「タリーランプ設定」を「REC」以外にすると、PGMのタリー情報が入力されたときにタリーランプが点灯します。
- 動画や静止画を記録するときは、SDカードの誤消去防止ツマミの「LOCK」または「」を解除してください。
- 次の場合、静止画を記録できません。
 - 動画の記録中
 - スロー & ファストモーション記録モードのとき
 - プレ記録モードのとき
 - カラーバーの表示中
 - ブラウザーリモートの動作中

撮影時の画面表示

ここでは、カメラモードのときの画面表示について説明します。各項目の表示の入／切は、**MENU** >  モニタリング設定 > 「Custom Display 1」( 202) または「Custom Display 2」( 202) で指定できます。以下の表内では「CD1」、「CD2」と省略して表記します。アイコンの表示位置は、画面表示の設定 ( 56) によって異なります。下表のアイコンの表示位置は、画面表示の「DISPレベル1」が「全表示」のときの表示位置です。



フォーカス枠の表示

フォーカス調整のしかたによって、さまざまなフォーカス枠が表示されます。表示の入／切は、**MENU** >  モニタリング設定 > 「Custom Display 1」 > 「フォーカスモード」で指定できます。

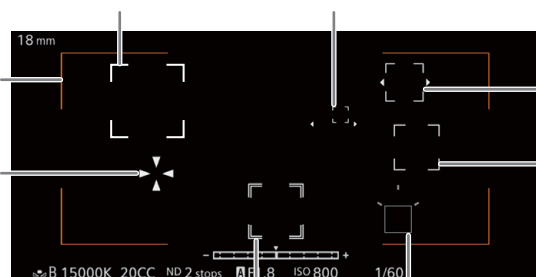
連続AF枠：白色、灰色、赤色、黄色 ( 87)

ワンショット枠：白色、緑色、赤色 ( 87)

瞳検出枠：メインで検出した被写体の瞳 ( 89)

フォーカス調整枠：赤色。One-shotAF時は合焦位置に止まらなかった、または特定できなかったとき、連続AF時は被写体がレンズの至近／無限縁の範囲外で合焦できないとき

追尾の被写体選択 ( 90)



被写体検出枠（メインで検出した被写体）：白色、灰色、緑色、赤色、黄色 ( 89)

被写体検出枠（メイン以外で検出した被写体）：灰色

追尾枠

フォーカス枠とフォーカスガイド ( 85)

画面の左側

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
      	ネットワークの接続状態／機能／転送状態 ( 183)	CD2 > ネットワーク機能
       	被写体距離バー	CD1 > 被写体距離 (バー)
0000 mm	焦点距離 (目安)	CD1 > 焦点距離
000.0 m	被写体距離 (数値)	CD1 > 被写体距離 (数値)
 	フォーカスモード ( 84)	CD1 > フォーカスモード
 	検出する被写体 ( 89)	
 	検出優先、検出限定	

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
	デジタルテレコン (93)	CD1 > デジタルテレコン
-9.9 レンズ情報	レンズの情報 • レンズによってレンズ固有の情報を表示することがある。	CD1 > レンズ
	電子手ブレ補正 (92)	CD1 > 電子IS
	レンズ光学IS (92)	
	選んだカスタムピクチャーファイル (130)	CD1 > Custom Picture
/ / / / / / / / / 	カスタムピクチャーのガンマ／色空間	
	Look ファイル (132)	
(赤色、黄色)	レンズ警告 (231)	CD1 > レンズ
	測光方式 (80)	CD1 > 測光方式
	LUTの適用状態	CD1 > LUT
	マルチアクセサリシューに装着したアクセサリの接続状態 (16) • アクセサリとの通信エラーや、アクセサリの電源OFF時、異常発生時に赤色で表示される。	CD2 > マルチアクセサリシュー
	GPS信号の受信状態 • 衛星未捕捉時は点滅し、衛星を捕捉すると点灯する。 • 本機にGPSレシーバー GP-E2を装着時のみ表示される。	CD2 > GPS
	冷却ファンの動作 白色：通常 (47) ／赤色：警告 (231)	CD2 > 温度/ファン
(緑色／黄色／赤色)	高温警告 (231) • 内部温度が上昇すると黄色で、本機を使い続けてさらに上昇すると赤色で表示される。	
	ユーザーメモ (117)	CD2 > User Memo

画面の上側

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
記録メディア状態／記録可能時間 (分) ／動画形式		CD2 > 記録可能時間
/ (緑色) 0000 min	: CFexpressカード、 : SDカード 緑色：記録可能／黄色：記録可能時間6分未満／赤色：記録可能時間1分未満／白色：認識中。 • 選択中のカードに▶が付く。	
(赤色) END	カードの空き容量なし	
(赤色)	カードなし／記録不可能	
	動画形式 (62) ／音声 (120)	

動画や静止画を撮影する

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
	ダブルスロット記録 (📖 43)	CD2 > 記録モード
撮影状態 (記録モード)		
STBY、●REC	動画記録：撮影一時停止中／撮影中	
S&F STBY、 S&F ●REC	スロー & ファストモーション記録 (📖 120)：撮影一時停止中／撮影中。	
PRE STBY、 PRE ●REC	プレ記録 (📖 121)：撮影一時停止中／撮影中	
CONT、●CONT	常時記録 (📖 121)：撮影一時停止中／撮影中	
INT STBY、 INT ●REC、 INT ●WAIT	インターバル記録 (📖 123)：撮影一時停止中／撮影中、インターバルカウンター	
FRM STBY、 FRM ●REC、 FRM ●STBY	フレーム記録 (📖 122)：撮影一時停止中／撮影中	
1s～10m00s	インターバルカウンター	CD2 > インターバルカウンター
REC★、STBY★ EXT REC★、EXT STBY★	記録コマンド状態 (📖 156) 「EXT」：記録メディアなしのときに表示	CD2 > 記録コマンド(EXT REC)
00.00P、00.00i	フレームレート (📖 62) • スロー & ファストモーション記録時は、撮影フレームレートも表示される (000/00.00P)。	CD2 > フレームレート
	キーロック	CD1 > キーロック
00:00:00.00 00:00:00.00 R / P / F / E	タイムコード (📖 99) タイムコードの設定状態 (📖 100)	CD2 > Time Code

画面の右側

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
電源供給状態		CD2 > バッテリー残量
/ / / (赤色) 000 min	バッテリーパック BP-A60N (付属) または別売のバッテリー残量と撮影／再生可能時間 (分単位) • が表示されたときは、充電したバッテリーパックと交換する。 • 本機／バッテリーの状態により、実残量と表示が異なったり、 システム設定ステータス画面やバッテリーのランプで表示されるバッテリー残量 (目安) と表示が一致しなかったりすることがある。	
DC IN 00.0V	ACアダプターの電圧 • 電圧が電源警告 (📖 209) の設定値以下になったときは、電圧が赤色で表示される。	
60(24)fps、60(30)fps	映像出力 (📖 129)	CD2 > 映像出力
	センサーモード (📖 62)	CD2 > センサーモード
0000x0000	解像度 (📖 62)	CD2 > 解像度/カラーサンプリング
00 bit、YCC000 00 bit	色深度、カラーサンプリング (📖 62)	
	静止画記録可能 (📖 51)	CD2 > Photo
(赤色)	SDカードなし／静止画記録不可能	
	ゲンロック (📖 103)	CD2 > Genlock

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
RET	リターン信号入力状態 リターン映像表示中	CD2 > Genlock
DISP (黄色)	画面表示出力 (158)	CD2 > オンスクリーン表示
PEAK1 PEAK2 (黄色)	ピーキング (85)	CD1 > ピーキング
MAGN (黄色) SET 倍率変更	拡大表示 (86)	CD1 > Magnification
	オーディオレベルメーター (110)	CD2 > オーディオレベル
LIM	INPUT リミッター (111)	
00, Off	ヘッドホン音量 (145)	—
yyyy.mm.dd HH:MM	日時表示	CD2 > 日付/時刻
CH0/CH0、 CH0+CH0	音声出力チャンネル (163)	CD2 > モニターチャンネル
 (水平／垂直)	水準 (バー) (47) 水準器 (数値)	CD1 > 水準器

画面の下側

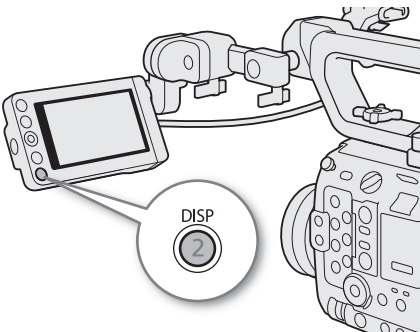
アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
Base 0000	Base ISO (74)	CD1 > Base ISO
追尾開始 終了 追尾再設定 終了 追尾終了	追尾ガイド、警告	
A_0001C001 ~ ZZ9999D999	カメラインデックス、リール番号、クリップ番号、クリップファイル名 (45)	CD2 > リール番号/クリップ番号
00 00 00 00	ユーザービット (101)	CD1 > ユーザービット
	露出バー (80)	CD1 > 露出バー
AE ±0.00	AEシフト (80)	CD1 > AEシフト
	ダイレクトタッチコントロール (60)	—
A/ B、 、 K 、 AWB 00000 K ±00	ホワイトバランス (81)	CD1 > ホワイトバランス
ND 00 stops	NDフィルター (77)	CD1 > ND Filter
A F00.0 / T00.0、closed	アイリス／絞り値 (F値、T値) (78)	CD1 > アイリス
A ISO 000000 00.0dB	ISO感度／ゲイン (73)	CD1 > ISO/ゲイン
1/0000.00、 000.00 (000.00) °*、 000.00Hz	シャッタースピード (70) * 「シャッターモード」が「アングル」、かつアサインボタン「出力：60⇄60(24)fpsまたは60(30)fps」で60(24)fpsまたは60(30)fpsを選んでいるときは、60Pと24Pまたは30Pの角度を表示する。	CD1 > シャッター
Acc1、 Acc2、	ワイヤレスマイク	CD2 > オーディオレベル

画面表示を切り換える

DISP（ディスプレイ）ボタンを押すと、画面に表示する情報量と画面表示のレベル（以降、「DISPレベル」と記載）を切り換えることができます（縦撮り用画面を除く）。カメラモードで撮影するときは、画面表示の内容をDISPレベルごとに設定できます（☞ 201）。

DISPボタンを押してDISPレベルを選ぶ

- DISPボタンを押すたびにDISPレベルが、DISPレベル1 → DISPレベル2 → DISPレベル3のように切り換わる。



カメラモード	メニュー設定 ^{*1}	表示内容
DISPレベル1	全表示	すべての情報を表示する。
	全表示（フレーム）	周辺部にすべての情報を表示する。各表示項目の大きさは「全表示」より小さい。
DISPレベル2 ^{*2}	撮影情報表示	撮影中に必要な情報に絞って表示する。
	FUNC/MENU操作時表示	通常は撮影状態以外の画面表示を表示しない。 FUNCボタンやアサインボタン、ジョイスティックを操作したときに、一部の撮影情報を一時的に表示する。
DISPレベル3 ^{*2}	REC/STBY表示のみ	撮影状態のみ表示する。
	表示なし	すべての画面表示を行わない。

^{*1} MENU > モニタリング設定 > 「DISPレベル1」、「DISPレベル2」または「DISPレベル3」

^{*2} 表示項目の大きさは「全表示（フレーム）」と同じ。

メディアモード	クリップ/静止画の再生中	インデックス画面/音声再生中
DISPレベル1	全表示	全表示
DISPレベル2	画面表示なし	
DISPレベル3	—	

MEMO

- 画面表示を透過にして、不透過度を設定することができます（☞ 158）。

画面表示を映像の周囲に表示する

映像の表示領域を画面の内側に少し狭めて、映像に重ならないよう周辺の余白領域に画面表示を行います（フレーム表示）。フレーム表示はDISPレベルと連動でき、フレーム表示を行うDISPレベルを**MENU > [] モニタリング設定 > 「フレーム表示対象」**で選択できます。



全画面表示



フレーム表示

MEMO

- フレーム表示を行うDISPレベルのときに、**MENU > [] モニタリング設定 > 「オンスクリーン表示: XXXXX」**を「切」または「切（クリーン）」にすると、各映像出力端子から出力される映像は全画面表示になります。
- **MENU > [] システム設定 > 「SDI出力形式」**が「4096x2160P / 3840x2160P」の場合、SDI OUT端子から出力される映像には、フレーム表示が適用されません。

タリー OSDを表示する

撮影中（REC中）は画面にタリー OSD（赤色の枠やバー）を表示することができます。タリー OSDを表示すると、離れた場所からモニターを見ても、撮影中かどうかを確認しやすくなります。

1 MENU > [] モニタリング設定 > 「タリー OSD: XXXXX」のいずれか > 「入」を選ぶ

- タリー OSDを表示する画面と出力先を確認／変更します。

2 MENU > [] モニタリング設定 > 「タリー OSD位置」> いずれかを選ぶ



フレーム



上部



下部

MEMO

- 記録される動画／静止画には影響しません。

縦撮り用の画面表示にする

縦位置で撮影するときは、画面表示の向きを回転させることができます。

MENU >  モニタリング設定 > 「OSD表示方向：XXXXX」>
「 右90度回転」または「 左90度回転」を選ぶ

MEMO

- 撮影画面を回転中、ダイレクトタッチコントロール（「記録設定」除く）とフレーム表示は使用できません。



レックレビューで確認する

アサインボタンに「レックレビュー」をあらかじめ割り当てておくと、現在使用中の記録メディアに撮影した最後のクリップ（メイン動画）の映像をカメラモードで再生して確認できます。

1 アサインボタンに「レックレビュー」を割り当てる（🔧 126）

2 MENU > 📷 システム設定 > 「レックレビュー」> いずれかを選ぶ

クリップ先頭から： クリップの先頭からすべて再生する。

最終4 sec： クリップの最後の4秒間のみを再生する。

3 撮影が終了したあとにアサインボタンを押す

- 操作1で設定した再生範囲に応じて、直前に撮影した映像が再生される。画面の上側に「▶ REVIEW」が表示される。
- レックレビューで映像を再生するときは、本機のスピーカーから音声は出力されません。音声は、🔊（ヘッドホン）端子、MON.端子／HDMI OUT端子、またはSDI OUT端子から出力されます。
- ジョイスティックを使って、映像の早送り／早戻しができます（🔧 144）。
- CANCELを押すと、レックレビューを中止して、撮影一時停止状態（STBY）に戻る。
- レックレビューが終了すると、自動的に撮影一時停止状態（STBY）に戻る。

MEMO

- 撮影中に記録先のカードが自動的に切り換わった場合、直後にレックレビューを行うと、新たに記録先となったカード内のクリップが再生されます。

撮影設定を行う

撮影時によく使うカメラ、記録、アシストなどの基本設定を、ダイレクトタッチコントロールで行うことができます。また、FUNCボタンで操作するカメラダイレクト設定で、ホワイトバランスや露出関連の設定を行うこともできます。

ダイレクトタッチコントロールで基本的な設定を行う

カメラ設定、記録設定、アシスト設定の各メニュー設定のうち、撮影時に良く使う項目をタッチ操作で変更できます。各機能の詳細については、それぞれの節をご覧ください。

設定可能な項目

項目	設定内容
ホワイトバランス	調整方法（オート、セット、プリセット、色温度設定）、色温度、色補正値
露出	アイリス（F値（またはT値）の調整）、ND、ISO感度/ゲイン（ISO感度またはゲイン値の調整、調整値のプリセット）、シャッタースピード（現在のシャッターモードでの値の調整）
🔧（アシスト設定）	フォーカスガイド（入／切）、ピーキング（種類）、WFM（種類）、ゼブラ（種類）、ベクトルスコープ（種類）、フォルスカラー（入／切）、マーカー（入／切）、LUT（入／切）
📼（記録設定）	センサーモード、メイン記録先、メイン記録形式、メイン解像度、ビットレート、フレームレート、記録モード、常時記録、フレーム記録、フレーム数、インターバル記録、時間間隔、2スロット記録機能、Slow&Fast フレームレート、Proxy記録色変換、📁 ファイル選択、サブ記録形式、サブビットレート、サブ記録フレームレート、LCDモニター輝度



ダイレクトタッチコントロールを開始／終了する

ダイレクトタッチコントロールのホーム画面を表示します。この画面を表示したまま、撮影やメニュー設定、カメラダイレクト設定、ステータス画面表示などを行うこともできます。

- 👆をタッチしてダイレクトタッチコントロールを開始する
- 設定後、✕をタッチしてダイレクトタッチコントロールを終了する

カメラダイレクト設定を使う

カメラモードで撮影するときに、画面を見ながら、シャッタースピードやISO感度／ゲイン、アイリス、ホワイトバランスを設定できます（カメラダイレクト設定）。ここでは基本的な操作を説明します。各機能の詳細については、シャッタースピード（[70](#)）、ISO感度／ゲイン（[73](#)）、アイリス（[78](#)）、ホワイトバランス（[81](#)）のページをご覧ください。

カメラダイレクト設定の基本操作

1 FUNCボタンを押す

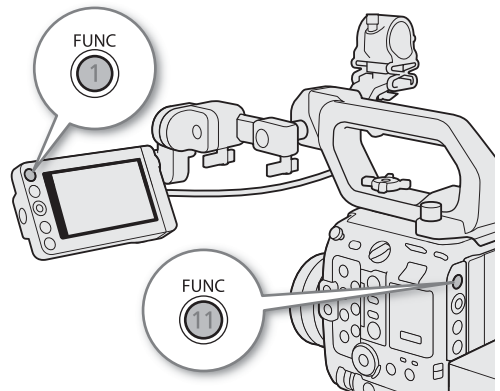
- いずれかの背景がオレンジ色になる。
- FUNCボタンを押すか、ジョイスティックを左右に押して、設定したい項目に切り換える。

2 ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、数値やホワイトバランスの調整方法を選ぶ

- 設定が決定され、カメラダイレクト設定を終了する。
- 画面のオレンジ色の表示は解除される。

MEMO

- カメラダイレクト設定が終了する場合：
 - 約6秒間操作しなかったとき。
 - メニューやステータス画面を開いたとき。



映像の信号形式を選ぶ

カメラモードで映像（メイン動画）を記録するときの信号形式を設定します。信号形式は、センサーモードとメイン記録先、メイン記録形式、解像度、ビットレート、フレームレートの組み合わせからなります。フレームレートはシステム周波数によって、解像度やビットレートはセンサーモードやメイン記録形式によって、それぞれ選択できる値が異なります。信号形式の組み合わせは63ページの表をご覧ください。

メイン動画の記録先を選ぶ

メイン動画を記録するメディアを選びます。

- 1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メイン記録先」を選ぶ
- 2 いずれかを選ぶ

センサーモードを選ぶ

撮影するときのCMOSセンサーの読み出し画角を変更できます。

- 1 MENU >  記録/メディア設定 > 「センサーモード」を選ぶ
- 2 いずれかを選ぶ

システム周波数を選ぶ

カードに記録したシステム周波数と再生するクリップのシステム周波数が異なっても、メディアモードで本機のシステム周波数を切り換えられます。

- 1 MENU >  記録/メディア設定 > 「システム周波数」を選ぶ
- 2 いずれかを選ぶ
 - 選んだシステム周波数に設定され、本機が再起動する。

メイン記録形式を選ぶ

メイン動画の動画形式とカラーサンプリング、ビット数の組み合わせを選択します。

- 1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メイン記録形式」を選ぶ
- 2 いずれかを選ぶ

メイン動画の解像度を選ぶ

- 1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メイン解像度」を選ぶ
- 2 いずれかを選ぶ

フレームレートを選ぶ

メイン動画のフレームレートを選択します。システム周波数を「24.00Hz」に設定したときは、この操作は不要です。

- 1 MENU >  記録/メディア設定 > 「フレームレート」を選ぶ
- 2 いずれかを選ぶ
 - 選んだフレームレートが画面の上側に表示される。

ビットレートを選ぶ

ビットレートの設定は、RAW形式以外で記録するときのみ行います。

1 MENU >  記録/メディア設定 > 「ビットレート」を選ぶ

2 いずれかを選ぶ

RAW形式で選択できる値

対象記録メディア：CFexpressカードのみ

センサー モード	メイン 記録形式	解像度	色深度	59.94 Hz			50.00 Hz		24.00 Hz
				59.94P	29.97P	23.98P	50.00P	25.00P	24.00P
フル サイズ	RAW HQ	6000×3164	12 bit	—	2160 Mbps	1730 Mbps	—	1800 Mbps	1730 Mbps
	RAW ST			2130 Mbps	1070 Mbps	850 Mbps	1780 Mbps	886 Mbps	850 Mbps
	RAW LT			1380 Mbps	690 Mbps	552 Mbps	1160 Mbps	576 Mbps	553 Mbps
Super 35mm (Crop)	RAW HQ	4368×2304		2290 Mbps	1150 Mbps	915 Mbps	1910 Mbps	954 Mbps	916 Mbps
	RAW ST			1130 Mbps	563 Mbps	451 Mbps	939 Mbps	470 Mbps	451 Mbps
	RAW LT			732 Mbps	366 Mbps	293 Mbps	611 Mbps	306 Mbps	293 Mbps
Super 16mm (Crop)	RAW HQ	2184×1152		574 Mbps	287 Mbps	230 Mbps	479 Mbps	240 Mbps	230 Mbps
	RAW ST			283 Mbps	142 Mbps	113 Mbps	236 Mbps	118 Mbps	114 Mbps
	RAW LT			184 Mbps	92 Mbps	74 Mbps	154 Mbps	77 Mbps	74 Mbps

XF-AVC形式で選択できる値

対象記録メディア

Cfexpressカードのみ：

- フレームレート：59.94P、メイン解像度：4096×2160／3840×2160、ビットレート：1200 Mbps／900 Mbps
- フレームレート：50.00P、メイン解像度：4096×2160／3840×2160、ビットレート：1000 Mbps／750 Mbps

Cfexpressカード、SDカード：上記以外すべて

メイン 記録形式	メイン解像度／ビットレート		システム周波数／フレームレート							
			59.94 Hz				50.00 Hz			24.00 Hz
			59.94P	59.94i	29.97P	23.98P	50.00P	50.00i	25.00P	24.00P
XF-AVC YCC422 10 bit	4096×2160 3840×2160	1200 Mbps Intra	●	—	—	—	—	—	—	—
		1000 Mbps Intra	—	—	—	—	●	—	—	—
		900 Mbps Intra	●	—	—	—	—	—	—	—
		750 Mbps Intra	—	—	—	—	●	—	—	—
		600 Mbps Intra	●	—	●	—	—	—	—	—
		500 Mbps Intra	—	—	—	—	●	—	●	—
		480 Mbps Intra	—	—	—	●	—	—	—	●
		450 Mbps Intra	—	—	●	—	—	—	—	—
		375 Mbps Intra	—	—	—	—	—	—	●	—
		360 Mbps Intra	—	—	—	●	—	—	—	●
		300 Mbps Intra	—	—	●	—	—	—	—	—
		250 Mbps Intra	—	—	—	—	—	—	●	—
		240 Mbps Intra	—	—	—	●	—	—	—	●
		250 Mbps L.GOP	●	—	—	—	●	—	—	—
		150 Mbps L.GOP	—	—	●	●	—	—	●	●
	2048×1080 1920×1080	300 Mbps Intra	●	—	—	—	—	—	—	—
		250 Mbps Intra	—	—	—	—	●	—	—	—
		150 Mbps Intra	—	●*	●	—	—	—	—	—
		125 Mbps Intra	—	—	—	—	—	●*	●	—
		120 Mbps Intra	—	—	—	●	—	—	—	●
		50 Mbps L.GOP	●	●*	●	●	●	●*	●	●
		25 Mbps L.GOP	—	●*	—	—	—	●*	—	—

* 1920×1080のみ

XF-AVC S形式で選択できる値

対象記録メディア

CFexpressカードのみ：

- フレームレート：59.94P、メイン解像度：4096×2160／3840×2160、ビットレート：1200 Mbps／900 Mbps
- フレームレート：50.00P、メイン解像度：4096×2160／3840×2160、ビットレート：1000 Mbps／750 Mbps

CFexpressカード、SDカード：上記以外すべて

メイン 記録形式	メイン解像度／ビットレート		システム周波数／フレームレート					
			59.94 Hz			50.00 Hz		24.00 Hz
			59.94P	29.97P	23.98P	50.00P	25.00P	24.00P
XF-AVC S YCC422 10 bit	4096×2160 3840×2160	1200 Mbps Intra	●	—	—	—	—	—
		1000 Mbps Intra	—	—	—	●	—	—
		900 Mbps Intra	●	—	—	—	—	—
		750 Mbps Intra	—	—	—	●	—	—
		600Mbps Intra	●	●	—	—	—	—
		500 Mbps Intra	—	—	—	●	●	—
		480 Mbps Intra	—	—	●	—	—	●
		450 Mbps Intra	—	●	—	—	—	—
		375 Mbps Intra	—	—	—	—	●	—
		360 Mbps Intra	—	—	●	—	—	●
		300 Mbps Intra	—	●	—	—	—	—
		250 Mbps Intra	—	—	—	—	●	—
		240 Mbps Intra	—	—	●	—	—	●
		250 Mbps L.GOP	●	—	—	●	—	—
		150 Mbps L.GOP	—	●	●	—	●	●
	2048×1080 1920×1080	300 Mbps Intra	●	—	—	—	—	—
		250 Mbps Intra	—	—	—	●	—	—
		150 Mbps Intra	—	●	—	—	—	—
		125 Mbps Intra	—	—	—	—	●	—
		120 Mbps Intra	—	—	●	—	—	●
		50 Mbps L.GOP	●	●	●	●	●	●
XF-AVC S YCC420 8 bit	4096×2160 3840×2160	150 Mbps L.GOP	●	—	—	●	—	—
		100 Mbps L.GOP	—	●	●	—	●	●
	2048×1080 1920×1080	35 Mbps L.GOP	●	●	●	●	●	●

XF-HEVC S形式で選択できる値

対象記録メディア：CFexpressカード、SDカード

メイン 記録形式	メイン解像度／ビットレート		システム周波数／フレームレート					
			59.94 Hz			50.00 Hz		24.00 Hz
			59.94P	29.97P	23.98P	50.00P	25.00P	24.00P
XF-HEVC S YCC422 10 bit	4096×2160	225 Mbps L.GOP	●	—	—	●	—	—
	3840×2160	135 Mbps L.GOP	—	●	●	—	●	●
	2048×1080 1920×1080	50 Mbps L.GOP	●	●	●	●	●	●
XF-HEVC S YCC420 10 bit	4096×2160	150 Mbps L.GOP	●	—	—	●	—	—
	3840×2160	100 Mbps L.GOP	—	●	●	—	●	●
	2048×1080 1920×1080	35 Mbps L.GOP	●	●	●	●	●	●

MEMO

- 各種出力端子からの信号については、「出力信号形式」（ 150）をご覧ください。

サブ動画を同時に記録する

メイン動画をCFexpressカードに記録し、同時に、異なる記録信号形式の動画（サブ動画）をSDカードに記録できます。組み合わせ可能な記録形式は次のとおりです（組み合わせの詳細は 211）。

			サブ（記録形式）					
			RAW	XF-AVC	XF-AVC S		XF-HEVC S	
				YCC422 10 bit	YCC422 10 bit	YCC420 8 bit	YCC422 10 bit	YCC420 10 bit
メイン （記録形式）	RAW	—	—	●	●	●	●	●
	XF-AVC	YCC422 10 bit		●	●	●	—	—
	XF-AVC S	YCC422 10 bit		—	●	●	—	—
		YCC420 8 bit		—	—	●	—	—
	XF-HEVC S	YCC422 10 bit		—	—	—	●	●
		YCC420 10 bit		—	—	—	—	●

- それぞれのスロットにCFexpressカードとSDカードを入れる
- MENU > 記録/メディア設定 > 「2スロット記録機能」> 「 メイン / サブ記録」を選ぶ
- MENU > 記録/メディア設定 > 「 記録形式」> いずれかを選ぶ
- MENU > 記録/メディア設定 > 「 解像度」> いずれかを選ぶ
- MENU > 記録/メディア設定 > 「 フレームレート」> いずれかを選ぶ
 - メイン動画が一部の記録形式のときのみ、選択できる。
- MENU > 記録/メディア設定 > 「 ビットレート」> いずれかを選ぶ
- RECボタンを押して、記録を開始する
 - メイン動画の記録開始と同時に、サブ動画の記録が始まる。

MEMO

- メイン動画用のカードがスロットに入っていないときは、サブ動画のみ記録します。

プロキシ動画を同時に記録する

カメラモードで撮影するとき、Cfexpressカードにメイン動画を記録しながら、SDカードにプロキシ動画を記録できます。
プロキシ動画はメイン動画よりもビットレートが低く、ファイル容量も比較的小さいため、オフライン編集に向いています。

選択可能な組み合わせ

			プロキシ動画									
			記録形式	XF-AVC			XF-AVC S			XF-HEVC S		
			解像度	2048×1080	1920×1080		2048×1080	1920×1080	1280×720	2048×1080	1920×1080	1280×720
			走査方式	P	P	i	P			P		
			カラー	YCC420			YCC420			YCC420		
			サンプリング	8 bit			8 bit			10 bit		8 bit
			ビットレート	35 Mbps			16 Mbps、9 Mbps			6 Mbps	16 Mbps、9 Mbps	
メイン動画												
記録形式	解像度	走査方式										
RAW	6000×3164	—										
	4368×2304											
	2184×1152											
XF-AVC	4096×2160	P										
	2048×1080											
	3840×2160	P										
	1920×1080											
	1920×1080	i										
XF-AVC S	4096×2160	P										
	2048×1080											
	3840×2160	P										
	1920×1080											
XF-HEVC S	4096×2160	P										
	2048×1080											
	3840×2160	P										
	1920×1080											

●	—	—	●	—	—	●	—	—
●	—	—	●	—	—	—	—	—
—	●	—	—	●	●	—	—	—
—	●*1	●*1	—	●	●	—	—	—
—	—	—	●	—	—	—	—	—
—	—	—	—	●	●	—	—	—
—	—	—	—	—	—	●	—	—
—	—	—	—	—	—	—	●	—
—	—	—	—	—	—	—	—	●

*1 プロキシ動画のビットレートがメイン動画より大きい場合、プロキシ動画のビットレートの選択不可。

- 1 メイン動画の記録形式を選ぶ（📖 62）
- 2 MENU > 📷 記録/メディア設定 > 「2スロット記録機能」> 「 メイン /  Proxy記録」を選ぶ
- 3 MENU > 📷 記録/メディア設定 > 「 記録形式」> いずれかを選ぶ
- 4 MENU > 📷 記録/メディア設定 > 「 解像度」> いずれかを選ぶ
- 5 MENU > 📷 記録/メディア設定 > 「 フレームレート」> いずれかを選ぶ
- 6 MENU > 📷 記録/メディア設定 > 「 ビットレート」> いずれかを選ぶ
- 7 MENU > 📷 記録/メディア設定 > 「Proxy記録色変換」> いずれかを選ぶ
- 「Custom Picture準拠」を選ぶと、Custom Pictureのガンマに準拠して、ガンマ／色域が決まる。また、「BT.709 (Canon 709)」／「BT.709 (CMT 709)」を選ぶと、以下のとおり変換される。

Custom Pictureのガンマ	変換後の階調（ガンマ）		変換後の色域
	BT.709 (Canon 709)	BT.709 (CMT 709)	
BT.709 Standard	BT.709 Standard	BT.709 Standard	BT.709
BT.709 Wide DR	BT.709 Wide DR	BT.709 Wide DR	
Canon 709	Canon 709	Canon 709	
Look File有効で、変換後の色空間が「SDR XXXXX」	SDR	SDR	
その他	Canon 709	CMT 709	

- Custom PictureのGamma / Color Spaceが「PQ : BT.2020」「HLG : BT.2020」の場合、もしくはLook File有効かつLook File適用後のGamma / Color Spaceが「HDR XXXXX」の場合、**MENU** >  モニタリング設定 > 「HDR→SDRゲイン」の設定もプロキシ動画に反映される（ 160）。

8 RECボタンを押して、記録を開始する

- メイン動画の記録開始と同時に、プロキシ動画の記録が始まる。

MEMO

- 同時記録中にメイン動画の記録が停止すると、プロキシ動画の記録も停止します。
- Cfexpressカードスロットにカードが入っていないときは、プロキシ動画のみ記録されます。

シャッタースピードを調整する

カメラモードで撮影するときに、被写体や撮影環境に合わせてシャッタースピードを調整すると、動きの速い被写体（スポーツや乗り物など）を鮮明に撮影したり、低照度のシーンを明るく撮影したりすることができます。シャッタースピードの調整には、次のモードがあります。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（ 187）を使って調整することもできます。

- スピード：秒数でシャッタースピードを設定する。設定時の刻み幅は、メニューで1/3段と1/4段から選べる。
- アングル：開角度でシャッタースピードを設定する。
- クリアスキャン：周波数でシャッタースピードを設定する。モニター画面に黒い帯が出ないようにするときなど。
- スロー：フレームレートより低速のシャッタースピードを秒数で設定する。低照度の場所で撮影するときなど。
- 切：各フレームレートの基準シャッタースピードを使用する。

設定可能なシャッタースピード

選択できるシャッタースピードはフレームレートによって異なります。

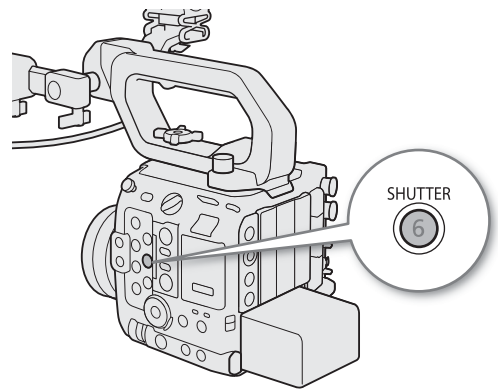
		システム周波数 / フレームレート					
		59.94 Hz			24.00 Hz	50.00 Hz	
		59.94P / 59.94i*1	29.97P	23.98P	24.00P	50.00P / 50.00j*1	25.00P
スピード*2	1/3段刻み	1/1～1/2000（全34設定）					
	1/4段刻み	1/1～1/2000（全47設定）				1/1～1/2000（全45設定）	
アングル*2		360°、240°、180°、120°、90°、60°、45°、30°、22.5°、15°、11.25° 1/120秒、1/100 秒、1/60 秒、1/50 秒、1/40 秒、3/100 秒、1/30 秒、 1/25秒相当のアングルも設定可能。					
クリアスキャン*2		23.97 Hz～1971 Hz 上記範囲の中で、センサーモードとフレームレートに応じて、 設定可能な最小分解能で周波数を設定できる。					
スロー *3		1/4、1/8、 1/15、1/30	1/4、1/8、 1/15	1/3、1/6、1/12		1/3、1/6、 1/12、1/25	1/3、1/6、 1/12
切*2		1/60	1/30	1/24		1/50	1/25

*1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メイン記録形式」で「XF-AVC」を選択時のみ。
*2 スロー & ファストモーション記録モードの場合、設定できる値は撮影フレームレートによって変わる。
*3 スロー & ファストモーション記録モードのときは使用できない。

シャッタースピードのモードを変更して値を調整する

- MENU >  カメラ設定 > 「シャッターモード」> いずれかを選ぶ
- 「スピード」を選んだときは、MENU >  カメラ設定 > 「シャッターステップ」> 「1/3段」または「1/4段」を選ぶ
- カメラダイレクト設定（ 61）を使って、シャッタースピードや開角度（アングル）、周波数（クリアスキャン）を調整する

- メニューを消したあと、SHUTTER（シャッター）ボタンを押すと、設定対象がシャッタースピードに切り換わる。
- 調整したシャッタースピードの値が画面の下側に表示される。



スローによる撮影について

スローを使うと、明るさが不足している場所で被写体を明るく撮影できます。また、動いている被写体をパンするときに背景を流す、ズームに残像効果を加えるなどの特殊効果として使用することもできます。

- 通常の撮影に比べて画質が多少劣化することがあります。

高周波の光源下で撮影する

速い周期で明滅する光源下で、撮影画像にフリッカーが発生する場合があります。「クリアスキャン自動設定」を実行すると、光源の周波数を50.0 Hz～2011.2 Hzの範囲内で検知して、明滅の周期に合わせたシャッタースピードで、フリッカーを抑えた撮影ができます。

1 MENU > カメラ設定 > 「シャッターモード」で「クリアスキャン」を選ぶ

2 MENU > カメラ設定 > 「クリアスキャン自動設定」 > 「OK」を選ぶ

3 表示されたシャッタースピードに変更する

- 「OK」を選ぶと、表示されたシャッタースピードに変更される。

「フリッカーを検知できませんでした」と表示されたときや、表示されたシャッタースピードに変更してもフリッカーが消えないとき

以下の操作を行なってください。

- 自動検出を再度行う
- カメラの向きを90°程度変えるなどして自動検出を行う
- 手動で調整する
 - ダイヤルやコントロールリングに「クリアスキャン（ステップ）」、「シャッター」を設定する（ 208）。
 - 「クリアスキャン（ステップ）」では、自動検出で設定した周波数の2倍、3倍、4倍...または、1/2倍、1/3倍、1/4倍のシャッタースピードに変更できる。
 - 「シャッター」で微調整する。

MEMO

- 以下の条件では、高周波フリッカーの検出精度が低下する場合があります。
 - 繰り返し模様がある場合（例：格子模様、ストライプ模様など）
 - 被写体が動いて、静止しない場合
 - 明るさや暗さが極端な場合
 - 画面内に複数の光源がある場合
 - 明滅する光源が小さい場合
 - 被写体の照度が低い

フリッカーを抑える

蛍光灯のフリッカーを自動的に検知して補正することができます。

MENU >  カメラ設定 > 「フリッカー低減」 > 「オート」 を選ぶ

MEMO

- 蛍光灯、水銀灯、ハロゲンライトなどの人工光源の照明下で撮影する場合、設定したシャッタースピードによっては、原理上フリッカーが出ることがあります。フリッカーが気になるときは、電源の周波数に応じたシャッタースピードを設定すると抑制できることがあります。電源周波数が50Hzのときは1/50秒*、または1/100秒を、60Hzのときは1/60秒、または1/120秒を選んでください。
*フレームレートによっては選択できません。
- 晴天下などの明るい場所で撮影するときに絞りを絞り込むと、小絞りによるボケが発生することがあります。この現象は、以下を行うことで防止できることがあります。
 - ND フィルターの濃度を濃くする (□ 77)。
 - シャッタースピードを高速にして絞りを開く。
 - 回折補正を有効にする (□ 34)。ただし、取り付けたレンズによって効果は異なる。
- シャッタースピードのモードを「スロー」にすると、画面に赤、緑、青の輝点が出ることがあります。このときはシャッタースピードを上げるか、ISO感度／ゲインを下げてください (□ 73)。
- リモートコントローラー RC-V100 (別売) のSHUTTER SELECTボタン、SHUTTER上／下ボタンで、シャッタースピードのモード／設定値をそれぞれ切り換えることもできます。

ISO感度／ゲインを調整する

映像アンプの増幅量をISO感度またはゲインで設定できます。設定にはオートとマニュアルの2種類があり、マニュアル設定時の刻み幅は、ISO感度／ゲインそれぞれ個別に設定できます。また、カメラの基準感度（Base ISO）を、4つのモードから選択できます。ネットワークに接続した機器からブラウザリモート（ 189）を使って調整することもできます。

設定可能な値

ISO

刻み幅	Base ISO	設定可能な値
1段刻み	Base ISO自動切り換え時	100 ^{*1} 、160 ^{*2} 、200、400、800、1600、3200、6400、12800、25600、51200 ^{*1} 、102400 ^{*1}
	Base ISO 160/400/800時	100 ^{*1} 、160 ^{*2} 、200、400、800、1600、3200、6400、12800 ^{*1}
	Base ISO 640/1600/ 3200時	400 ^{*1} 、640 ^{*2} 、800、1600、3200、6400、12800、25600、51200 ^{*1}
	Base ISO 2500/6400/12800時	1600 ^{*1} 、2500 ^{*2} 、3200、6400、12800、25600、51200 ^{*1} 、102400 ^{*1}
1/3段刻み	Base ISO自動切り換え時	100 ^{*1} 、125 ^{*1} 、160、200、250、320、400、500、640、800、1000、1250、1600、2000、2500、3200、4000、5000、6400、8000、10000、12800、16000、20000、25600、32000 ^{*1} 、40000 ^{*1} 、51200 ^{*1} 、64000 ^{*1} 、80000 ^{*1} 、102400 ^{*1}
	Base ISO 160/400/800時	100 ^{*1} 、125 ^{*1} 、160、200、250、320、400、500、640、800、1000、1250、1600、2000、2500、3200、4000、5000、6400、8000 ^{*1} 、10000 ^{*1} 、12800 ^{*1}
	Base ISO 640/1600/3200時	400 ^{*1} 、500 ^{*1} 、640、800、1000、1250、1600、2000、2500、3200、4000、5000、6400、8000、10000、12800、16000、20000、25600、32000 ^{*1} 、40000 ^{*1} 、51200 ^{*1}
	Base ISO 2500/6400/12800時	1600 ^{*1} 、2000 ^{*1} 、2500、3200、4000、5000、6400、8000、10000、12800、16000、20000、25600、32000 ^{*1} 、40000 ^{*1} 、51200 ^{*1} 、64000 ^{*1} 、80000 ^{*1} 、102400 ^{*1}

ゲイン

刻み幅	Base ISO	設定可能な値
ノーマル (3 dB刻み)	Base ISO自動切り換え時	−6 dB ^{*1} 、−3 dB ^{*1} 、−2 dB ^{*2} 〜42 dB、45 dB ^{*1} 、48 dB ^{*1} 、51 dB ^{*1} 、54 dB ^{*1}
	Base ISO 160/400/640/800/1600/ 3200時	−6 dB ^{*1} 、−3 dB ^{*1} 、−2 dB ^{*2} 〜30 dB、33 dB ^{*1} 、36 dB ^{*1}
	Base ISO 2500/6400/12800時	−6 dB ^{*1} 、−3 dB ^{*1} 、−2 dB ^{*2} 〜18 dB、21 dB ^{*1} 、24 dB ^{*1} 、27 dB ^{*1} 、30 dB ^{*1}
ファイン (0.5 dB刻み)	Base ISO自動切り換え時	−2 dB〜54 dB ^{*1} −2 dB〜42 dB ^{*2}
	Base ISO 160/400/640/800/1600/ 3200時	−2 dB〜36 dB ^{*1} −2 dB〜30 dB ^{*2}
	Base ISO 2500/6400/12800時	−2 dB〜30 dB ^{*1} −2 dB〜18 dB ^{*2}

*1 「ISO/ゲイン感度拡張」が「入」のとき

*2 「ISO/ゲイン感度拡張」が「切」のとき

基準感度（Base ISO）を選ぶ

推奨のダイナミックレンジを実現するために必要な感度です。本機では、3つの基準感度を選択できます。撮影シーンの明るさ（通常の照明、低照度、暗所）に合わせて基準感度を切り換えることで、高いISO／ゲイン値でも低ノイズを実現します。

「自動切り換え」選択時は、ISO／ゲインの値によって、最適なダイナミックレンジとS/Nになるよう3種類の基準感度を自動で切り換えます。

MENU > カメラ設定 > 「Base ISO」 > いずれかを選ぶ

- カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」と記録形式の設定によって選択できる値が異なる。

MEMO

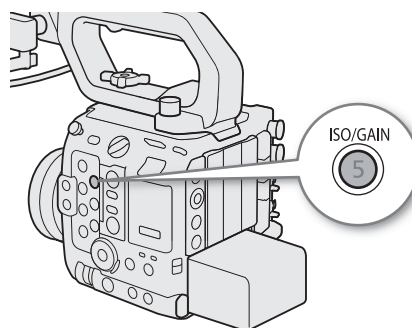
- 基準感度未満のISO／ゲインを選択すると、ハイライト側の白飛びが基準感度よりも起こりやすくなります。
- 各基準感度間では、ノイズ量に差があります。
(例) BaseISO 800 / ISO800, BaseISO 3200 / ISO3200, BaseISO 12800 / ISO12800時のノイズ量を比較すると、特に暗部に発生するノイズ量には差があります。

Base ISOの設定値

Gamma/Color Spaceのガンマ	「ISO」設定時	「ゲイン」設定時
Canon Log 2、Canon Log 3（メイ ン記録形式がRAWのときも該当）	自動切り換え、Base ISO 800、 Base ISO 3200、Base ISO 12800	自動切り換え、Base ISO 800 (12 dB)、 Base ISO 3200 (12 dB)、Base ISO 12800 (12 dB)
PQ、HLG、Canon 709、 BT.709 Wide DR	自動切り換え、Base ISO 400、 Base ISO 1600、Base ISO 6400	自動切り換え、Base ISO 400 (6 dB)、 Base ISO 1600 (6 dB)、Base ISO 6400 (6 dB)
BT.709 Standard	自動切り換え、Base ISO 160、 Base ISO 640、Base ISO 2500	自動切り換え、Base ISO 160 (−2 dB)、 Base ISO 640 (−2 dB)、Base ISO 2500 (−2 dB)

ISO感度／ゲインの値を調整する

- MENU >  カメラ設定 > 「ISO/ゲイン」 > 「ISO」または「ゲイン」を選ぶ
- MENU >  カメラ設定 > 「ISO/ゲインモード」 > 「マニュアル」を選ぶ
- 操作1で選んだ設定値に応じて、MENU >  カメラ設定 > 「ISOステップ」または「ゲインステップ」を選ぶ
- カメラダイレクト設定（ 61）を使って、ISO感度またはゲインの値を調整する
 - メニューを消したあと、ISO/GAIN（ISO感度／ゲイン）ボタンを押すと、設定対象がISO感度／ゲインに切り換わる。
 - 調整したISO感度またはゲインの値が画面の下側に表示される。



オートで調整する

感度を被写体にに応じて自動的に調整します。感度の上限を設定することもできます。スロー＆ファストモーション記録モードのときは、オートで調整できません。

オート時の設定値

感度の下限値は、カスタムピクチャーのガンマの設定によって自動的に決まります。

Gamma/Color Spaceのガンマ	Base ISO	感度の下限値
Canon Log 2 / Canon Log 3	自動切り換え	ISO 800 (ゲイン 12 dB)
	Base ISO 800	
	Base ISO 3200	ISO 3200 (ゲイン 12 dB)
	Base ISO 12800	ISO 12800 (ゲイン 12 dB)
BT.709 Wide DR / PQ / HLG / Canon 709	自動切り換え	ISO 400 (ゲイン 6 dB)
	Base ISO 400	
	Base ISO 1600	ISO 1600 (ゲイン 6 dB)
	Base ISO 6400	ISO 6400 (ゲイン 6 dB)
BT.709 Standard	自動切り換え	ISO 160 (ゲイン -2 dB)
	Base ISO 160	
	Base ISO 640	ISO 640 (ゲイン -2 dB)
	Base ISO 2500	ISO 2500 (ゲイン -2 dB)

* メイン記録形式がRAWのときの設定可能な基準感度は、Gamma/Color Spaceのガンマが「Canon Log 2 / Canon Log 3」のときと同じ。

MENU >  カメラ設定 > 「ISO／ゲインモード」 > 「オート」を選ぶ

MEMO

• 感度を自動で調整するときの応答性を、MENU >  カメラ設定 > 「AEレスポンス」で設定できます*。

* 非対応のレンズを除く (□ 253)。

オート調整時の感度の上限を設定する

感度を自動的に調整するときの感度の上限を設定して、ノイズの上昇を抑えたり、暗い雰囲気を残したまま撮影したりすることができます。

MENU >  カメラ設定 > 「オート時リミット」 > いずれかの値を選ぶ

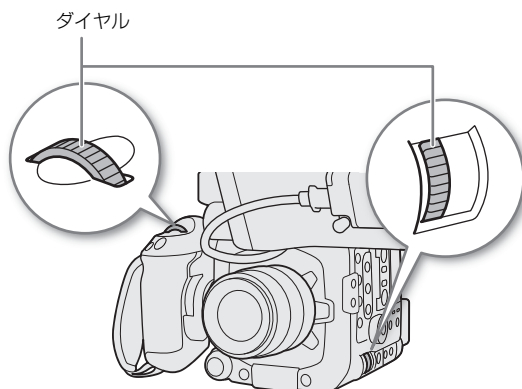
ダイヤルで調整する

カメラ本体やカメラグリップのダイヤルを使って、ISO感度／ゲインを調整できます。調整するために、ダイヤルに「ISO/ゲイン」を割り当てます。それぞれのダイヤルに割り当てて機能は、個別に設定できます。

1 MENU >  システム設定 > 「カメラダイヤル」
または「グリップダイヤル」> 「ISO/ゲイン」を
選ぶ

2 メニューを消したあと、「ISO/ゲイン」を割り
当てたダイヤルを回して、ISO感度またはゲインを
調整する

- 「ISO感度／ゲインの値を調整する」の操作1 ( 74)
でISO感度またはゲインのどちらを調整するか選ぶ。



MEMO

- ISO感度／ゲインを上げると画面が多少ざらつくことがあります。
- ISO感度／ゲインを上げると、画面に赤、緑、青の輝点が出る場合があります。このときはシャッタースピード ( 70) を上げるか、ISO感度／ゲインを下げてください。
- ISO感度／ゲインの切り換え時、画面にノイズが現れることがあります。撮影中は、ISO感度／ゲインを切り換えしないでください。
- ISO感度／ゲインの値を、リモートコントローラー RC-V100 (別売) のISO/GAIN上／下ボタンを押して調整することもできます。

NDフィルターを切り換える

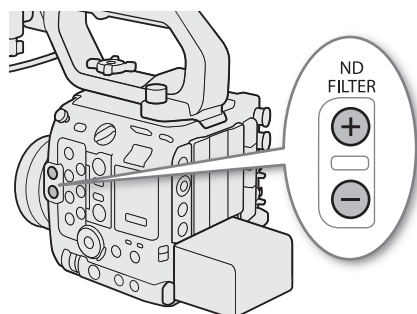
カメラモードで撮影するときにNDフィルターを使用すると、明るい屋外の撮影でもアイリスを開けて被写界深度の浅い映像表現が可能となります*。NDフィルターは標準では3段階（2 stops刻みで6 stopsまで）から選択でき、拡張設定をすると5段階（2 stops刻みで10 stopsまで）から選択できます。切り換えは、本機のほか、ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（[□ 187](#)）を使って操作することもできます。

* アイリスを絞り込んだときに発生する「小絞りによるボケ」の回避にも使用できます。

ND FILTER切り換え+/-ボタンを押して、希望のNDフィルターに切り換える

NDフィルターの濃度

表示単位		
Stop	透過率	光学濃度
0	1/1	0.0
2	1/4	0.6
4	1/16	1.2
6	1/64	1.8
8	1/256	2.4
10	1/1024	3.0



- ND FILTER切り換え+ ボタンを押すたびに、次の順にNDフィルターが切り換わる（-ボタンは逆順）。

OFF → 2 stops → 4 stops → 6 stops → 8 stops* → 10 stops* → OFF

* MENU > カメラ設定 > 「ND濃度拡張」が「入」のときのみ選択可能。

- 切り換えたNDフィルターが画面の下側に表示される。
- 表示単位を、 カメラ設定 > ND表示単位で、「Stop」、「透過率」、「光学濃度」から選択可能。

MEMO

- 「ND +」または「ND -」を割り当てたアサインボタンを押して操作することもできます（[□ 126](#)）。
- シーンによっては、NDフィルターを入／切すると、わずかに発色が変わることがあります。このときはホワイトバランスをセットして撮影すると効果的です（[□ 81](#)）。
- ND濃度拡張について**：8 stops／10 stopsと他の濃度を切り換えると、次のようになることがあります。
 - ピントがずれる。レンズの距離目盛りもずれる。
 - レンズによっては無限遠にピントが合わない。
- リモートコントローラー RC-V100（別売）を使ったNDフィルターの切り換えについて：
 - RC-V100のND切り換えボタンを押して、NDフィルターを切り換え可能（本機のND FILTER切り換え+ボタンと同じ動作）。
 - RC-V100のNDフィルターランプは、2 stops ～ 8 stops選択時はランプの1～4が点灯し、10 stops選択時はランプの1と4が同時に点灯する。

アイリスを調整する

カメラモードで撮影するとき、被写体の明るさに応じてアイリス（絞り）を調整します。絞り値は取り付けのレンズによって表示が異なり、F値またはT値で表示されます。設定可能な絞り値や使用できる調整方法は、取り付けのレンズによって異なります。設定時の刻み幅を設定したり、装着しているレンズの最小の刻み幅で調整したりすることができます。

マニュアルアイリス：	手動で調整する。
オートアイリス：	適正露出になるように常に自動調整する。
プッシュオートアイリス：	プッシュオートアイリスを割り当てたアサインボタンを押している間だけ一時的にオートアイリスの状態になる。

レンズのアイリス設定を選ぶ

カメラからのアイリス調整に対応するEFシネマレンズ／アイリスリングを備えるRFレンズを使うときは、レンズのアイリス設定をオートにします。レンズの操作部名称がレンズによって異なることがあります。詳しくはレンズの説明書をご覧ください。

レンズのアイリスオート／マニュアル切替えスイッチまたはアイリスリングをオートにする

- レンズのアイリス調整を、本機から行えるようになる。

マニュアルで調整する

1 MENU >  カメラ設定 > 「アイリスモード」> 「マニュアル」を選ぶ

- オートアイリス対応レンズ装着時のみ設定可能。非対応レンズ装着時は「マニュアル」固定となる。

2 MENU >  カメラ設定 > 「アイリスステップ」> 「1/2段」または「1/3段」を選ぶ

- MENU >  カメラ設定 > 「アイリスファイン」> 「入」を選ぶと、装着しているレンズの最小の刻み幅で調整することもできる。ただし、画面の下側に表示される絞り値は、レンズの最小の刻み幅では表示されない。

3 メニューを消したあと、カメラダイレクト設定（ 61）を使って絞り値を調整する

- 調整した絞り値が画面の下側に表示される。

ダイヤルで調整する

カメラ本体やカメラグリップのダイヤルを使って、アイリスを調整できます。それぞれのダイヤルに割り当てる機能は、個別に設定できます。

1 MENU >  システム設定 > 「カメラダイヤル」または「グリップダイヤル」> 「アイリス」を選ぶ

2 メニューを消したあと、「アイリス」を割り当てたダイヤルを回して、絞り値を調整する

MEMO

- 「アイリス +」または「アイリス -」を割り当てたアサインボタンを押して、絞りを開いたり、絞ったりすることもできます（ 126）。
- 接点のないレンズや非対応レンズ（ 253）を装着しているときは、本機でアイリスを調整できません。レンズ側で調整してください。
- ズーム操作によりF値が変化するレンズを使うときは、MENU >  カメラ設定 > 「ズーム連動F値補正」で、ズームに連動してF値を補正するかどうかを指定できます。
- リモートコントローラー RC-V100（別売）を使うとき、初期設定では、RC-V100のIRIS（アイリス）ダイヤルを右に回すと絞り値が小さくなり、左に回すと絞り値が大きくなります。

RF / EFシネマレンズを使用するとき

- 絞り値はT値で表示されます*。その際、画面に表示されるT値が、レンズの指標と異なることがあります。
* RFシネマレンズはファームウェアの更新が必要（□ 33）。
- アイリスがクローズに近づくとT値が灰色で表示されます。
- アイリスがオープンまたはクローズの状態からT値を変更するとき、アイリスが動作するまでに複数回の操作が必要になります。
- マウントアダプター EF-EOS R 0.71xを使用してEFレンズを取り付けると、絞り値がレンズの指標より約1段明るくなります。

一時的にオートで調整する（プッシュオートアイリス）

「プッシュオートアイリス」を割り当てたアサインボタンを押している間、絞りを自動的に調整して適正な露出にします。スロー & ファストモーション記録モードのときは、プッシュオートアイリスを使用できません。

- 1 アサインボタンに「プッシュオートアイリス」を割り当てる
- 2 MENU >  カメラ設定 > 「アイリスモード」> 「マニュアル」を選ぶ
- 3 アサインボタンを押し続ける

- 適正露出になるように絞りが自動的に調整される。ボタンを押し続けている間、画面の絞り値の左に  が表示され、調整にともなって画面の絞り値が更新される。
- ボタンを離すと、絞りの自動調整が終了し、ボタンを離したときの絞り値が固定される。絞り値の左の  は消える。調整した絞り値が画面の下側に表示される。

MEMO

- アイリスを自動で調整するときの応答性を、MENU >  カメラ設定 > 「AEレスポンス」で設定できます*。
*非対応のレンズを除く（□ 253）。

オートで調整する（オートアイリス）

対応レンズを装着しているときは、アイリスを常に自動調整できます。スロー & ファストモーション記録モードのときは、オートアイリスを使用できません。

- 1 MENU >  カメラ設定 > 「アイリスモード」> 「オート」を選ぶ

- 適正露出になるように絞りが自動的に調整される。画面の絞り値の左に  が表示され、調整にともなって画面の絞り値が更新される。

MEMO

- オートアイリス対応レンズ（□ 253）装着時、「アイリスモード」を割り当てたアサインボタンを押して、「オート」と「マニュアル」を切り換えることもできます（□ 126）。
- 次の場合、絞り値が変わることがあります。
 - EFシネマレンズの内蔵エクステンダーとアイリス補正機能を使用にしている、オートアイリスからマニュアルアイリスに切り換えたとき。
 - レンズのアイリス設定のオート／マニュアルを切り換えたとき。
- アイリスのゲインを調整できるEFシネマレンズの装着時、レンズのアイリスゲインが高いと撮影シーンによってはハンチング（絞りが不安定になること）が発生することがあります。このときは、レンズのアイリスゲインを初期設定に戻してください。

露出を補正する（AEシフト）

プッシュオートアイリスやオートアイリスで絞りを自動調整するとき、露出を意図的に補正して明るめや暗めに撮影することができます。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（[187](#)）を使って調整することもできます。

1 MENU > カメラ設定 > 「AEシフト」を選ぶ

2 いずれかの値を選ぶ

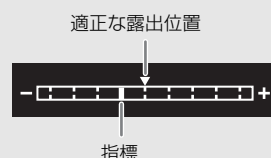
- 補正量は－2段～＋2段まで17段階で設定できます。
- 設定したAEシフトの補正量は露出バーの右側に表示され、設定した補正量に応じて露出を調整する。

MEMO

- 「AEシフト＋」と「AEシフト－」を割り当てたアサインボタンを押して露出の補正量を調整することもできます（[126](#)）。

露出バー

図の「適正な露出位置」（▼）は、補正量が±0（AE±0）時の明るさの目標値を示します。露出バーの刻み幅は1/2段です。露出バーの内側に現在の露出位置が表示されます。露出バーは±2段まで表示でき、この範囲を超えると指標が点滅します。測光方式を変更すると、適正露出は変化します。



測光方式を設定する

絞りをマニュアルで調整したり、プッシュオートアイリスやオートアイリスで絞りを自動調整したりする場合、撮影シーンに合わせて測光方式を設定すると、より適正な明るさで撮影することができます。

1 MENU > カメラ設定 > 「測光方式」を選ぶ

2 いずれかを選ぶ

- バックライト： 逆光のシーンを撮影するとき、画面中の暗部をより明るく制御する。
- スタンダード： 画面中央の被写体に重点を置きながら、画面全体を測光する。
- スポットライト： スポットライトが当たった被写体を撮影するとき、スポット的に明るくなった部分が最適な明るさになるように制御する。

- バックライトを選ぶとが、スポットライトを選ぶとが画面の左側に表示される。スタンダードを選んだときは、アイコンは表示されない。

MEMO

- 「CPファイル選択」で、「EOS Standard」または「EOS Neutral」が選択された場合、EOS Rシリーズと同様の測光を行うため、測光方式は選択できません。CPファイルを編集（Gamma調整、別のLUTをLookファイルとして登録）すると、選択可能になります。
- 「バックライト」または「スポットライト」を割り当てたアサインボタンを押して、それぞれの測光方式を入／切することもできます（[126](#)）。

ホワイトバランスを調整する

カメラモードで撮影するときに、照明や太陽光などの光源の色温度に応じて、ホワイトバランスを設定することができます。本機では次の方法でホワイトバランスを調整できます。蛍光灯下で撮影するときは、ホワイトバランスセットで調整してください。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（□ 187）を使って調整することもできます。

- | | |
|-------------------|---|
| ホワイトバランスセット： | 実際に撮影する環境下でグレーカードや白い無地の被写体を写して基準白色を取り込む。「  A」（セットA）と「  B」（セットB）の2種類の設定を登録できる。 |
| プリセット設定： | 「  」（太陽光）または「  」（電球）のいずれかを選ぶ。色温度（K）と色補正值（CC）*の微調整が可能。 |
| 色温度設定： | 2000K ～ 15000Kの範囲で色温度を設定する。色補正值（CC）*の微調整が可能。 |
| オートホワイトバランス（AWB）： | 常に適切なホワイトバランスになるように自動調整する。 |

* マゼンタ／グリーン方向の補正。Color Compensation。

MEMO

- カスタムピクチャー（□ 137）の「White Balance」を設定しているときは、それらの設定がホワイトバランス設定より優先されます。
- MENU** >  カメラ設定 > 「ショックレスWB」を「入」にすると、ホワイトバランスを切り換えたときに値がなめらかに変化します。
- MENU** >  カメラ設定 > 「色温度ステップ」で、色温度の単位を「ミレッド」（5ミレッド単位）または「ケルビン」（100ケルビン単位）から選ぶことができます。「ミレッド」に設定した場合でも、ケルビンに換算して画面に表示されます。なお、色温度ステップを変更すると、ホワイトバランスの設定が変わることがあります。
- リモートコントローラー RC-V100（別売）のA／Bボタン、PRESETボタン、 ボタン、AWBボタンを使って、調整することもできます。
- 本機で表示または設定する色温度は目安です。

ホワイトバランスセットで調整する

1 WB（ホワイトバランス）ボタンを押す

- カメラダイレクト設定（□ 61）に入り、ホワイトバランスのアイコンの背景がオレンジ色で表示される。

2 A（セットA）またはB（セットB）を選ぶ

- 登録済みのホワイトバランスセットを選んだときは、以降の操作は不要。新しいホワイトバランスセットを登録するときは、以下の操作を行う。

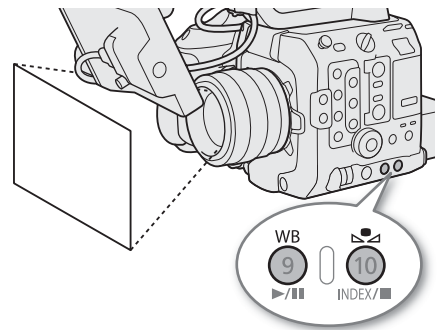
3 グレーカードや白い無地の被写体を画面いっぱいに写す

- 被写体は実撮影と同じ照明条件下に置く。

4 （ホワイトバランスセット）ボタンを押す

- カメラダイレクト設定から抜け、「A」または「B」が速く点滅する。
- 調整中は、グレーカードや白い無地の被写体を画面いっぱいに写し続ける。
- 点滅→点灯に変わったら調整完了。調整されたホワイトバランスは電源を切っても記憶されている。
- 調整された色温度や色補正值（CC）*は、「A」または「B」の隣に表示される。

* マゼンタ／グリーン方向の補正。Color Compensation。



MEMO

- 場所や明るさが変わったときや、NDフィルターを切り換えたときは、ホワイトバランスセットをセットし直してください。
- 光源によっては、ごくまれにが速い点滅→点灯に変わらない（速い点滅から遅い点滅に変わる）ことがあります。その場合でもオートホワイトバランスより適切に調整されていますので、そのまま撮影できます。

- 調整後に色温度値と色補正值が灰色で表示されることがあります。これは、表示可能な範囲を超えたためで、調整自体は適切に行われています。

プリセット設定／色温度設定で調整する

1 WB（ホワイトバランス）ボタンを押す

- カメラダイレクト設定（ 61）に入り、ホワイトバランスのアイコンの背景がオレンジ色で表示される。

2 （太陽光）、（電球）、（色温度）のいずれかを選ぶ

- SETを押すと、プリセット設定または色温度設定が適用される。以降の操作は不要。色温度や色補正值（CC）*を調整するときは、以下の操作を行う。

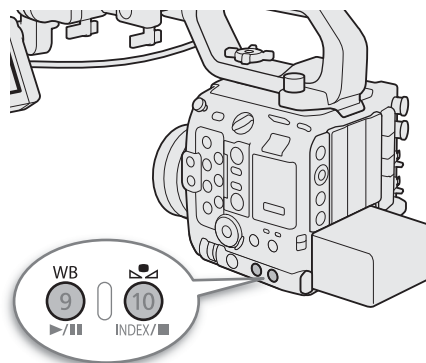
3 （ホワイトバランスセット）ボタンを押す

- カメラダイレクト設定に入り、色温度の背景がオレンジ色で表示される。ジョイスティックを右に押すと、カーソルが色補正值（CC）*の設定値に移動する。

4 調整値を選ぶ

- 選んだ色温度または色補正值（CC）*が設定され、、、またはの隣に表示される。

* マゼンタ／グリーン方向の補正。Color Compensation。



調整可能な範囲

ホワイトバランスの調整方法	調整可能範囲	
	色温度 (K)	色補正值 (CC)
 （太陽光）	4300K ~ 8000K	-5 CC ~ +5 CC
 （電球）	2700K ~ 3700K	
 （色温度）	2000K ~ 15000K	-20 CC ~ +20 CC

オートホワイトバランス（AWB）で調整する

常に適切なホワイトバランスになるように自動で調整します。光源の色温度が変化すると、ホワイトバランスも自動的に調整し直されます。

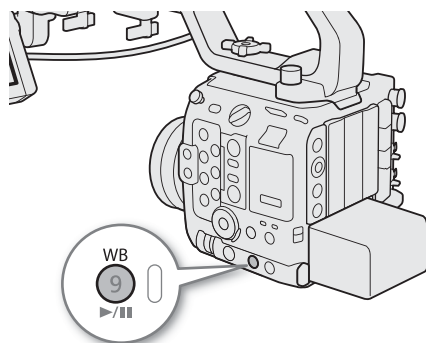
1 WB（ホワイトバランス）ボタンを押す

- カメラダイレクト設定（ 61）に入り、ホワイトバランスのアイコンの背景がオレンジ色で表示される。

2 （オートホワイトバランス）を選ぶ

- 調整された色温度や色補正值（CC）*は、のアイコンの隣に表示される。

* マゼンタ／グリーン方向の補正。Color Compensation。



MEMO

- 次のような条件で撮影する場合、画面の色が不自然なときは  (ホワイトバランスセット) で調整してください。
 - 照明条件が急に変わる場所での撮影。
 - クローズアップ撮影。
 - 空や海、森など単一色しか持たない被写体の撮影。
 - 水銀灯や一部の蛍光灯／LED照明下での撮影。
- オートホワイトバランスの応答性は、**MENU** >  カメラ設定 > 「AWBレスポンス」で設定できます。
- 「AWBホールド」を割り当てたアサインボタンを押して、オートホワイトバランスの動作を一時停止させることができます (126)。もう一度押すか、他の調整方法に切り換えると解除されます。

フォーカスを調整する

カメラモードで撮影するときに、取り付けたレンズによって、次の方法でフォーカスを調整できます。AF（オートフォーカス）の方式にはデュアルピクセルCMOS AFを使用します。使用できる調整方法は、取り付けたレンズによって異なります（[□ 253](#)）。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（[□ 187](#)）を使って調整することもできます。

マニュアルフォーカス機能（MF）：	レンズのフォーカスリングを回してフォーカスを手動で調整する。フォーカスアシスト機能（ □ 85 ）を使うと、ピントを合わせやすくなる。
オートフォーカス機能（AF）：	フォーカスを自動で調整する。
- ワンショットAF*：	One-Shot AFボタンを押してAF枠内の被写体に合わせてフォーカスを一時的に自動調整する。
- 連続AF*：	フォーカスを連続的に自動調整する。「AFロック」（ □ 88 ）でフォーカス位置を固定することも可能。

フォーカス調整の関連機能

- 被写体の検出：検出する被写体をあらかじめ設定することで、自動で人物や動物の顔や頭部、瞳、胴体を検出する。
- 被写体の追尾：選んだ被写体を認識し、被写体が動いても追尾する。

* マニュアルフォーカスレンズ装着時を除く。

レンズのフォーカスモードを選ぶ

レンズのスイッチを操作して、レンズのフォーカスモード（オート、マニュアル）を選択します。レンズの操作部名称がレンズによって異なることがあります。詳しくはレンズの説明書をご覧ください。

レンズのフォーカスモードをオートまたはマニュアルにする

- 画面に **[AF]**（オート）または **[MF]**（マニュアル）が表示される。
- フォーカスモードの選択スイッチがないレンズのときは、**MENU** > **カメラ設定** > 「フォーカスモード」で、「AF」または「MF」を選ぶ。

マニュアルで調整する

マニュアルでフォーカスを調整します。

フォーカスリングを回して、ピントを合わせる

MEMO

- レンズによっては、フォーカスモードをオートにしたまま、フォーカスリングで調整できるものがあります。
- ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。
- 電源を入れたままで放置するとピントがボケることがあります。これはレンズとカメラ内部の温度上昇によってピント面がわずかに移動するためです。撮影を開始する前に再度ピントを確認してください。
- フォーカス調整時にレンズの先端部分やフォーカスリングが動くときは、動いている部分に触れないでください。

RFレンズのフォーカスリング操作について

- **MENU** > **システム設定** > 「フォーカスリング方向」で、フォーカスリングの操作方向を変更できる。
- フォーカスリングの回転角度と回転速度のどちらに連動してフォーカス操作を行うかを、**MENU** > **システム設定** > 「フォーカスリングレスポンス」で選択できる。
- レンズのフォーカスモードがオートのときに、マニュアル調整の有効／無効を、**MENU** > **システム設定** > 「フォーカスリング操作」で選択できる。

フォーカスアシスト機能を使う

フォーカスを調整するとき、デュアルピクセルフォーカスガイド、ピーキング（輪郭強調）表示や拡大表示を使うと、ピントが合わせやすくなります。デュアルピクセルフォーカスガイドとピーキング、ピーキングと拡大表示を同時に使うこともできます。

デュアルピクセルフォーカスガイド

現在のフォーカス位置から合焦位置への調整方向と調整量を、ガイド枠で視覚的に表示します。被写体検出機能（□ 89）と併用すると、「人物」、「動物優先」を選んだときは、ガイド枠は主な被写体と判断した顔に、もしくは顔を判断できない場合は、胴体に表示されます。「瞳検出」を「入」にすると、人物または動物の目の付近にガイド枠が表示されます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチをMFにする

- MF が画面の左側に表示される。

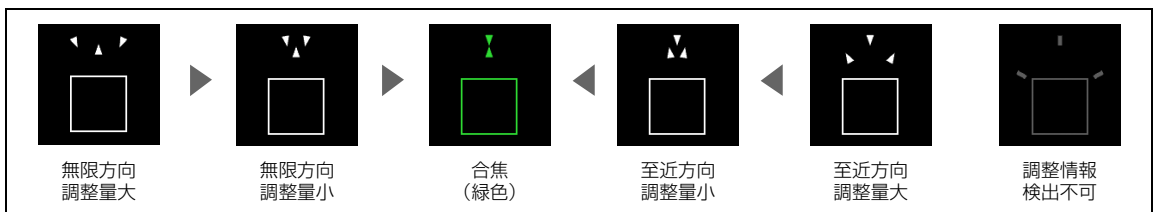
2 MENU > 設定アシスト > 「フォーカスガイド」> 「入」 選ぶ

3 LCDモニター画面中のフォーカスを合わせたい被写体にタッチして、フォーカスガイド枠を移動する

- ジョイスティックを上下左右に押してフォーカスガイド枠を移動することもできる。SETまたはCANCELを押すと、フォーカスガイド枠が画面の中央に戻る。

4 必要に応じて、手動でフォーカスを調整する

- ピントが合うと、ガイド枠が緑色になる。



MEMO

- オートフォーカスでピントが合いにくい撮影条件／設定（□ 88）では、ガイドが正しく表示されないことがあります。

デュアルピクセルフォーカスガイドが使えないとき

- ワンショットAF、または連続AFの調整中。
- 一部のRF / EFシネマレンズ（□ 253）を除く、マニュアルフォーカスレンズ装着時。

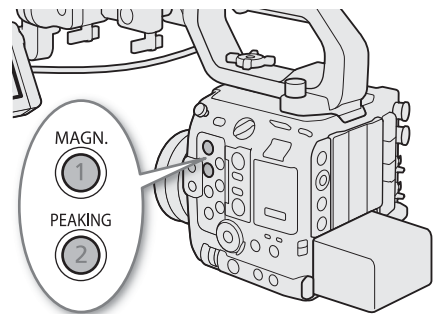
ピーキング

本機では2つのピーキングをメニューで切り換えて使用できます。

1 PEAKING（ピーキング）ボタンを押す

- 画面に **PEAK1** または **PEAK2** が表示され、画面の映像の輪郭が合焦状態に応じて強調される。
- もう一度、PEAKINGボタンを押すと、ピーキング表示が解除される。
- MENU > 設定アシスト > 「ピーキング: XXXXX」で、各端子／出力先ごとにピーキング表示を入／切することもできる。

2 ピーキングを切り換えるときは、MENU > 設定アシスト > 「ピーキング選択」> 「ピーキング1」または「ピーキング2」を選ぶ



拡大表示

1 MAGN. (拡大) ボタンを押す

- 画面に **MAGN** 表示され、画面の中心部*を中心に約2倍に拡大される。
* 各種AF枠や被写体検出枠、フォーカスガイド枠が表示されているときは、枠の中心部となる。
- 画面の右上に拡大領域の位置を示すオレンジ色の枠が表示される。
- SETを押すたびに、拡大倍率が2倍→5倍→10倍→2倍のように切り換わる。

2 必要に応じて拡大位置を移動して、拡大表示した部分を確認する

- ジョイスティックを上下左右に押すか、画面をドラッグして拡大位置を移動させる。
- CANCELを押すと、拡大位置が画面の中央に戻る。
- もう一度MAGN.ボタンを押すと拡大表示が解除される。

MEMO

• ピーキング／拡大表示について：

- ピーキングの色、ゲイン、周波数は、MENU >  アシスト設定 > 「ピーキング1」または「ピーキング2」でそれぞれ設定できます。
- 拡大表示は、MENU >  アシスト設定 > 「Magnification出力先」を設定すると、LCDモニター（VIDEO端子）、または外部モニターに出力できます。
- 記録される動画／静止画には影響しません。
- 拡大表示中に、「センサーモード」、「メイン記録形式」、「メイン解像度」、「ビットレート」、「フレームレート」や「電子IS」を設定したり、スロー & ファストモーション記録モードを有効または無効にしたりすると、拡大表示が解除されます。
- ピーキング／拡大表示は、カラーバーの表示中に使用できません。
- MENU >  アシスト設定 > 「Magnification有効時白黒」を「入」にすると、拡大表示使用時に、画面を白黒表示します。記録される映像や外部出力には影響しません。
- 拡大表示は以下の状況では表示できない。
 - 「センサーモード」が「フルサイズ」または「Super35 mm(Crop)」で、「Slow & Fastフレームレート」が60Pを超えるとき
 - 「センサーモード」が「フルサイズ」、「メイン記録形式」が「RAW」で、「SDI出力形式」が3840×2160以上のとき
- ピーキングは以下の状況では表示できない。
 - 「オンスクリーン表示：SDI」、「オンスクリーン表示：MON/HDMI」が「切（クリーン）」または「切」のときは表示しない。

フォーカスポジションガイド

対応するレンズ（ 253）を装着すると、現在のフォーカス位置とあらかじめ登録したフォーカス位置を表示できます。レンズによっては、12ピンケーブルを、本機のLENS端子に接続する必要があります。

1 MENU > アシスト設定 > 「フォーカスポジションガイド」> 「表示」> 「入」を選ぶ

フォーカスポジションガイド専用の画面が表示される。

- 「フォーカスポジションガイド」の「向き」や「感度」なども設定できる（ 203）。「感度」とは、現在のフォーカス位置と登録したフォーカスポジションの一致（強調表示）の度合いで、数値が大きいほど一致の許容範囲が広い。

2 フォーカスポジションマーカーを設定する

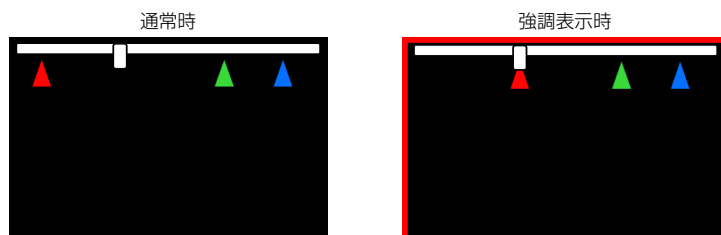
「マーカー 1色～マーカー 3色」のそれぞれを選択し、マーカーの色を設定する。

3 アサインボタンに「フォーカスポジションマーカー 1～3」を割り当てる（ 126）

4 フォーカスポジションを登録する

- レンズのフォーカスリングを回すと、現在のフォーカスの位置が表示される。登録したい位置で、割り当てたアサインボタンを押す。3つまで登録できる。
割り当てたアサインボタンを長押しすると、登録したフォーカス位置は解除される。
- 現在のフォーカス位置と登録したマーカーの位置が一致すると、画面周辺に枠が表示される（強調表示）。

□：現在のフォーカス位置
 ▲▲▲：登録したフォーカス位置



MEMO

- フォーカスポジションガイド表示中は、画面表示の項目は限定されます。DISPボタンを押すと、この画面からDISPレベルの切り替えもできます（□ 56）。

ワンショットAFで調整する

AF枠内の被写体に自動でピントを合わせます。操作を行ったときに1度だけ合焦動作を行います。AF枠の位置・サイズは変更できます。

- 1 アサインボタンに「One-Shot AF」を割り当てる
- 2 レンズのフォーカスモードスイッチをAFにする
- 3 必要に応じてAF枠の位置／タイプを変更する（□ 89）
- 4 アサインボタンを押し続ける

- アサインボタンを押し続けている間、自動的にフォーカスの調整を行う。
- ピントが合った場所に緑色の枠が表示される。
- 「連続AF」が「しない」で「検出する被写体」が「なし」のとき、アサインボタンを離して一定時間経過後にAF枠が消える。

連続AFで調整する

選択した「AF枠タイプ」（□ 89）のエリア内の被写体を対象にして、フォーカスを連続的に自動調整します。対応するレンズは（□ 253）をご覧ください。

- 1 レンズのフォーカスモードスイッチをAFにする
- 2 MENU > 設定 > 「連続AF」 > 「する」を選ぶ
 - AF枠タイプを「全域」以外に設定した場合、画面に白いAF枠が表示される。
 - 至近方向の調整ができないときは、画面のAF枠が赤色に変わる。
 - 「AF測距不能時のレンズ動作」を「停止する」にした場合、測距不能のときは、AF動作を停止してフォーカス位置を固定し、AF枠が黄色になる。
- 3 必要に応じてAF枠の位置／タイプを変更する（□ 89）

MEMO

オートフォーカス機能について：

- オートフォーカスで調整するときにピントが合う位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件によってわずかに変動します。撮影を開始する前に再度ピントを確認してください。

- 次の場合、ピント合わせに時間がかかることがあります。
 - 一部のレンズでは、ピントが合うまでの時間がかかったり、適切なピント合わせができなかったりすることがあります。詳細情報については、キヤノンのホームページでご確認ください。
- オートフォーカスの調整速度や応答性を変更できます。対応レンズの詳細については、キヤノンのホームページをご覧ください。
 - **MENU** > カメラ設定 > 「AFスピード」で、AFスピード（ピントが合うまでの速度）を10段階で選択できます。
 - **MENU** > カメラ設定 > 「AFレスポンス」で、AFの応答性を7段階で選択できます。
 - 連続AFで調整中にOne-Shot AFを割り当てたアサインボタンを押し続けると、一時的に最大のAFスピード／応答性で調整します。ピントが大きく外れた状態から素早く合焦させたいときに使用します。
- 次の場合、連続AF、ワンショットAFが動作しません。
 - スロー＆ファストモーション記録で、撮影フレームレートが、24P、25P、30P、48P、50P、60P、100P、120P以外のとき。

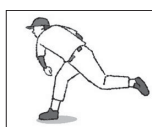
オートフォーカスでピントが合いにくい撮影条件



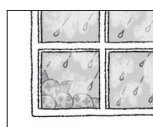
強い光が反射



明暗差がない



動きが速い



水滴が付いた
ガラス越しの撮影



夜景



繰り返し模様

- 絞りを小絞りに設定したとき
- 遠近の被写体が同時に含まれるとき
- ISO感度／ゲインの感度を拡張して、拡張領域のISO／ゲイン値を設定しているとき（ 73）
- カスタムピクチャーのガンマにBT.709 Standard以外を選んだとき。
- RAW形式で記録するとき。

フォーカス位置を固定する（AFロック）

連続AF中にフォーカス位置を固定することができます。

1 オートフォーカスの動作中にAFロックボタンを押す

- フォーカスが固定され、画面の白い枠（AF枠）と **[AF]** が灰色に変わる。
- もう一度AFロックボタンを押すと、AFロックが解除される。
- 「フォーカスガイド」が「入」のときは、画面の枠はフォーカスガイドのガイド枠に変わる。
- 「AFロック（押下時有効）」を割り当てたアサインボタンで操作すると、アサインボタンの押下げ中のみフォーカスがロックされる。

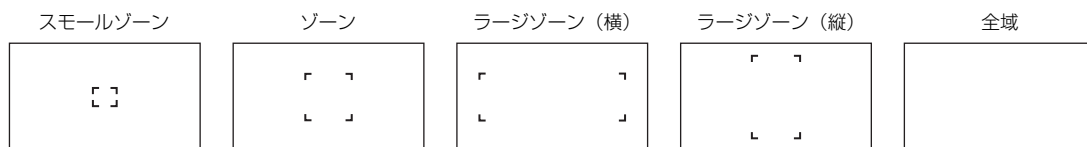
MEMO

- AFロックが自動的に解除されるとき：
 - 電源の切／入、システム周波数の変更を行ったとき。
 - レンズを着脱したとき。
 - **MENU** > カメラ設定 > 「連続AF」を「しない」に変更したとき。
 - スロー＆ファストモーション記録モードで、撮影フレームレートが24P / 25P / 30P / 48P / 50P / 60P / 100P / 120P以外のとき。

AF枠のタイプを変更する

オートフォーカスで調整するときに、画面に表示されるAF枠のタイプを変更することができます。

1 MENU > カメラ設定 > 「AF枠」> いずれかを選ぶ



MEMO

- 「デジタルテレコン」が有効のときは、「スモールゾーン」で表示される位置は中央固定になります。設定した倍率によって、AF枠の大きさは変化します。
- LCDモニター画面中のフォーカスを合わせたい被写体にタッチするとAF枠が移動する。ジョイスティックを上下左右に押すことでAF枠を移動でき、SETまたはCANCELを押すとAF枠が画面の中央に戻る。

設定した被写体を検出する（被写体検出機能）

メニューの設定に応じて、自動で人物や動物の顔や頭部、瞳、胴体*を検出します。オートフォーカス機能を併用すれば、自動的にメインの被写体にピントを合わせることができます。また、デュアルピクセルフォーカスガイド（ 85）を組み合わせると、メインの被写体に手でフォーカスを合わせやすくなります。

* 人物は、顔や頭部を一度追尾させたのちに隠れた場合に検出される。

1 MENU > カメラ設定 > 「検出する被写体」> 「人物」または「動物優先」を選ぶ

- 画面の左側に （人物）または （動物優先）が表示される。

2 MENU > カメラ設定 > 「被写体検出AF」> 「検出優先」または「検出限定」を選ぶ

検出優先： 被写体を検出していない場合は、カメラが主被写体を自動で判別してピントを合わせる。

検出限定： 被写体を検出していない場合は、ピントが固定される。

- 画面の左側に （検出優先）または （検出限定）が表示される。

3 MENU > カメラ設定 > 「瞳検出」> 「入」を選ぶ

4 カメラを被写体に向ける

- 「検出する被写体」を「人物」に設定した場合は検出したすべての人物に、「動物優先」に設定した場合は検出した動物または人物のうちメインの被写体のみに枠が表示される。メインの被写体は自動的に決定され、オートフォーカスのときは白色で、マニュアルフォーカスのときは灰色または黄色*で表示される。
 - * 「連続AF」が「する」、「AF測距不能時のレンズ動作」が「停止する」のときで、測距できないとき。
- 複数の被写体が検出されたときは、メインの被写体の枠には◀と▶が付く。「検出する被写体」を「人物」に設定時は、メイン以外の被写体は灰色の枠で表示される。◀と▶が付いているときに、ジョイスティックを左右に押すと、メインの被写体が別の被写体に切り換わり、追尾を開始する。
- 「検出する被写体」の設定に応じたAFの動作は次のとおり。
 - 連続AF：メインの被写体と判断した被写体に継続してピントを合わせる。
 - ワンショットAF：One-Shot AFを割り当てたアサインボタンを押すと、メインの被写体と判断した被写体にピントを合わせる。

AFモード	フォーカス操作	被写体検出AF			
		検出優先		検出限定	
		検出する被写体の検出あり	検出する被写体の検出なし	検出する被写体の検出あり	検出する被写体の検出なし
連続AF：しない	ボタン押さない (マニュアルフォーカス)	マニュアルフォーカス			
	ボタン押す (ワンショットAF動作中)				AF枠内の被写体に合焦
連続AF：する	自動調整	検出した被写体に合焦	AF枠内の被写体に合焦	検出した被写体に合焦	マニュアルフォーカス
	ボタン押す (ワンショットAF動作中)				AF枠内の被写体に合焦

- MEMO
- 被写体が検出されない主な例：
 - 被写体が画面全体に対して極端に小さい、大きい、暗い、または明るいとき。
 - 被写体の一部が隠れていたり上下逆さまのとき。
 - 天候や背景等の影響で被写体の形状や色が不鮮明なとき。
 - 被写体検出機能が使用できない場合：
 - スロー & ファストモーション記録モードではないときで、シャッタースピードが1/30秒未満（システム周波数が59.94 Hz時）、1/25秒未満（同50.00 Hz時）、1/24秒未満（同24.00 Hz時、または59.94Hz時でフレームレートが23.98P）のとき。
 - スロー & ファストモーション記録モードで、撮影フレームレートが、24P未満または120Pを超えるとき。
 - マニュアルフォーカスレンズ装着時。
 - 「デジタルテレコン」が有効のとき。
 - 検出する被写体以外の被写体を、誤って被写体として検出することがあります。そのときは「検出する被写体」を「なし」にしてください。
 - 「検出する被写体」や「被写体検出AF」を割り当てたアサインボタンを押して、それぞれの機能を設定することもできます（□ 126）。

選んだ被写体を追尾する

ねらった被写体を追尾し、AFモードの設定に応じて、追尾対象の被写体にピントを合わせることができます。追尾は、LCDモニター画面中の追尾対象の被写体をタッチするか、「追尾」を割り当てたアサインボタンを押して操作します。

1 アサインボタンに「追尾」を割り当てる（□ 126）

2 「追尾」を割り当てたアサインボタンを押す

- 追尾待機モードになり、画面に❖が表示される。
- もう一度アサインボタンを押すか、CANCELを押すと追尾待機モードを終了する。

3 追尾する被写体を選ぶ

- LCDモニター画面中の追尾したい被写体にタッチする。
- ジョイスティックを上下左右に押して追尾したい被写体まで移動させ、SETを押す、またはジョイスティックの中央を押し込むことで追尾を開始できる。

4 ❖が2重枠^①（追尾枠）に変わり、選んだ被写体の追尾が開始される

- 選んだ被写体の追尾を解除したい場合は、CANCELを押す。

- MEMO
- AF枠タイプを「全域」に設定した場合や、被写体を追尾中は、LCDモニター画面中の追尾対象の被写体をタッチすることで追尾できます。また、「検出する被写体」が「人物」または「動物優先」に設定した場合、ジョイスティックを左右に押してメインの被写体を切り換えると追尾を開始します。このとき、「人物」に設定していてもメイン以外の被写体に枠は表示されません。

- 特徴が似た別の被写体を誤って追尾することがあります。そのときは、被写体を選択しなおしてください。
- 「被写体検出機能が使用できない場合」と同じ条件で追尾も使用できません。

手ブレを補正する

カメラモードで撮影するときに、手ブレによる映像の揺れを電子的に軽減します。補正は、広角（ワイド）方向のときに最も効果が高くなり、望遠（テレ）方向になるほど、効果が低くなります。RAW 形式で撮影するときは、カメラ本体の手ブレ補正が無効になります。

1 MENU > カメラ設定 > 「電子IS」> 「入」を選ぶ

- カメラ本体とレンズの通信に対応していないレンズを装着したときは、操作4でレンズの焦点距離を設定する。
- カメラ本体の手ブレ補正が有効のときは、 が画面の左側に表示される。
- 「電子IS」を割り当てたアサインボタンで入／切することもできる。

2 MENU > カメラ設定 > 「電子ISモード」> いずれかを選ぶ

- 標準： 手ブレを補正する。画角がやや狭くなる。
強： 標準より大きな手ブレを補正する。画角がさらに狭くなる。
- 画面に  (標準) または  (強) が表示される。

3 MENU > カメラ設定 > 「電子ISへの動きベクトルの使用」> いずれかを選ぶ

- する： カメラのブレ情報と動きベクトルを使用して手ブレを補正する。手ブレ補正の効果が高い。
しない： カメラのブレ情報のみを使用して手ブレを補正する。
- メインの被写体として、動きの多い人物や動物などを撮影する場合、「する」を選ぶと被写体の動きに合わせて映像が揺れることがある。

4 通信により焦点距離を取得できないレンズのときは、MENU > カメラ設定 > 「レンズ焦点距離」> 数値を入力する

- 参考** ▶ 「文字入力のかた」 ( 46)
- 装着しているレンズの焦点距離を入力する。入力した焦点距離に応じて手ブレが補正される。

5 アナモフィックレンズを装着しているときは、MENU > カメラ設定 > 「アナモフィック補正」> 手ブレを補正するスクイーズ倍率を選ぶ

- 「レンズスクイーズ連動」を選んだときは、MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「レンズスクイーズ」で設定している倍率に応じて手ブレが補正される。

MEMO

- 次の条件がすべて当てはまったとき、「電子ISモード」は「標準」になります。
 - 「センサーモード」が「フルサイズ」かつ「メイン解像度」が「4096×2160」または「3840×2160」
 - 「記録モード」が「Slow & Fastモーション」で撮影フレームレートが60P以上、「Slow & Fastモーション／音声（WAV）」で撮影フレームレートが60P、またはそれ以外の記録モードで「フレームレート」が「59.94P」
 - 「SDI出力形式」が「4096×2160P/3840×2160P」
- レンズの手ブレ補正機能がOFFのときは、カメラ本体の手ブレ補正も無効になり、 が点滅して画面の左側に表示されます。RF-S レンズを装着しているときは、MENU >  カメラ設定 > 「レンズ光学IS」> 「入」を選んでレンズの手ブレ補正機能をONにしてください。
- 「電子IS一時停止」を割り当てたアサインボタンを押下げ中は、カメラの手ブレ補正を行いません（ または  が灰色で表示）。レンズの手ブレ補正には影響しません。
- 手ブレ補正の効果により、被写体や撮影条件によって、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- 次のときは、手ブレ補正を「切」にすることをおすすめします。
 - TS-Eレンズやフィッシュアイを装着したとき。
 - 三脚を用いた撮影など手ブレが発生しない状況。
- 手ブレが大きいたまは、補正しきれないことがあります。
- カメラ本体の手ブレ補正は、レンズの焦点距離が1000mmを超えるレンズを装着していると、機能しません。

ズームを操作する

ズーム調整に対応するEFシネマレンズ（☐ 253）、パワーズームアダプター PZ-E1を装着したEFレンズ、またはパワーズームアダプター PZ-E2を装着したRFレンズを取り付けると、本機からズームを操作することができます。また、ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（☐ 187）を使って操作することもできます。メニューでデジタルテレコンを選んで、焦点距離をテレ側に移動させることもできます（RAW記録時を除く）。

レンズのズームモードを選ぶ

レンズのスイッチを操作して、レンズのズームモード（オート、マニュアル）を選択します。レンズの操作部名称がレンズによって異なることがあります。詳しくはレンズ／レンズアクセサリーの説明書をご覧ください。

レンズのズームモードをオートにする

- レンズのズーム操作が、本機から行えるようになる。

調整する

1 レンズのズーム設定をSERVOまたはPZにする

2 MENU > 𠂇 カメラ設定 > 「カメラグリップズーム」> 「入」を選ぶ

3 MENU > 𠂇 カメラ設定 > 「カメラグリップズームスピード」> いずれかを選ぶ

- ズームスピードは固定速で、「1」が最も遅く、「16」が最も速い。

4 メニューを消したあと、カメラ本体のグリップのジョイスティックを上下に操作して、ズームを調整する

- 上に操作すると望遠（テレ）方向に、下に操作すると広角（ワイド）方向に調整できる。

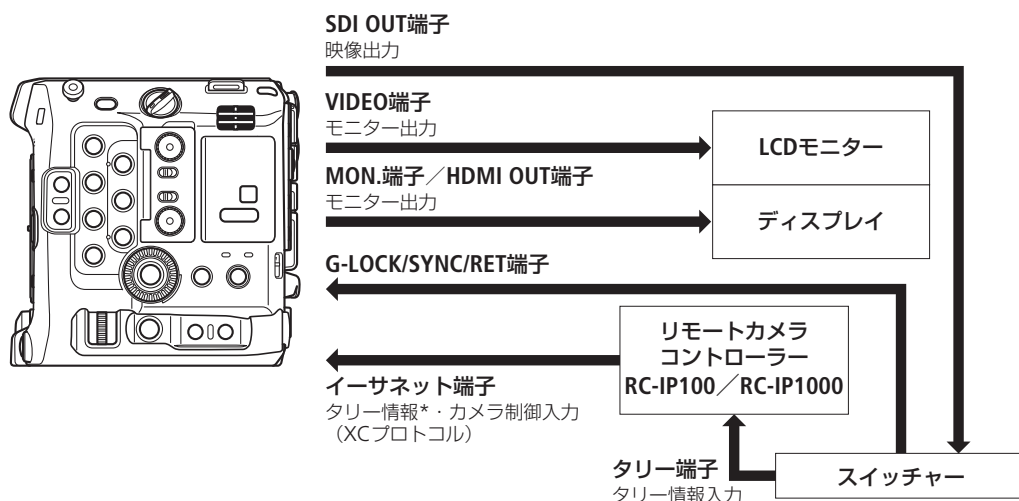
MEMO

- ズームスピードを低速に設定していると、レンズの動き出しまでに時間がかかることがあります。

デジタルテレコンを使う

MENU > 𠂇 カメラ設定 > 「デジタルテレコン」> いずれかの倍率を選ぶと、焦点距離が選んだ倍率分テレ側に移動します。

ライブ映像システム例



リターン信号の入出力

- 1 MENU >  システム設定 > 「G-LOCK/SYNC/RET端子」 > 「RET入力」を選ぶ
- 2 MENU >  システム設定 > 「RET出力：XXXXX」 > 「有効」で出力する端子を選ぶ
- 3 アサインボタンに「RET」を割り当てる ( 126)
- 4 割り当てたアサインボタンを押し、リターン映像の表示、非表示を切り換える
 - アサインボタンに「RET (押下時有効)」を割り当てると、押している間、リターン映像を表示させることができる。
 - レンズやレンズに装着したデマンドのRETボタンを押している間、リターン映像を表示させることができる。

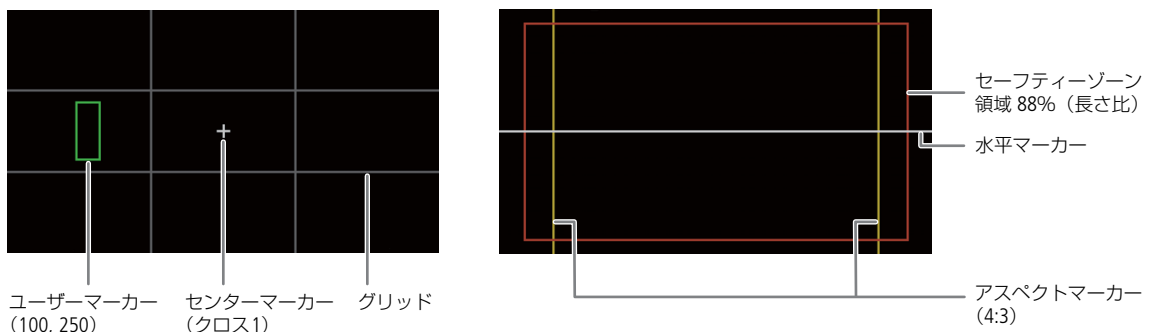
- RET ボタンの有効・無効は、お使いのレンズやデマンドの機能をご確認ください。
- 同期可能なリターン信号が入力されると約10秒後に同期が安定します。安定するまでは、ボタンやLCDモニターのタッチ操作は受け付けません。
- 入力されたリターン信号を検知すると、画面の右側に **RET** が点滅して表示されます。入力信号に本機がロックすると点灯が変わります。

マーカー／ゼブラパターン／フォルスカラーを表示する

カメラモードで撮影するとき、画面にマーカーを表示すると、構図を決めるガイドにしたり、適切なセーフティーゾーンを確認したりできます。ゼブラパターンを表示すると、露出オーバーになる領域を把握できます。フォルスカラーを表示すると、撮影している映像の露出が正しいか確認できます。これらの表示は、LCDモニター（VIDEO端子）や外部モニターに出力でき、個別に入／切できます。記録される映像には影響しません。

マーカーを表示する

構図を決める際のガイドとして、次の種類のマーカーを表示することができます。マーカーの色は、それぞれのマーカーで選べます。



センターマーカー：

水平マーカー／垂直マーカー：

グリッドマーカー：

アスペクトマーカー：

セーフティーゾーンマーカー：

ユーザーマーカー 1～ユーザーマーカー 3：

画面の中央を示すマーカー。中央のマーカー形状は選べる。

画面の水平／垂直を示すマーカー。

画面の垂直と水平を格子状で示すマーカー。

アスペクト比を示すマーカー。さまざまなアスペクト比で映像の表示範囲を確認したり、映像以外の部分にマスクをかけたりすることができる。標準的なアスペクト比（「4:3」、「16:9」など）や垂直アスペクト比（「9:16」）、ユーザーの任意のアスペクト比（「Custom」）を表示できる。

セーフティーゾーンを示すマーカー。領域は、基準となる領域と、それに対する長さで設定できる。

矩形を示すマーカー。矩形は3つまで表示でき、矩形のサイズや位置もそれぞれ設定できる。

1 マーカーを表示するために、MENU > アシスト設定 > 「マーカー：XXXXX」> 「入」を選ぶ

- 「切」に設定していると、マーカーの設定を個別に行っていてもマーカーは表示されない。

2 表示するマーカーの種類を決めて、マーカーの設定をする

- 異なるマーカーを同時に表示できる。

センターマーカー／水平マーカー／垂直マーカー／グリッドマーカーを設定する

1 MENU > アシスト設定 > いずれかのマーカーを選ぶ > いずれかの色を選ぶ

2 センターマーカーを選んだときは、MENU > アシスト設定 > 「センターマーカータイプ」> いずれかを選ぶ

アスペクトマーカーを設定する

1 MENU > アシスト設定 > 「アスペクトマーカー」> いずれかの色かマスクの透過度を選ぶ

2 MENU > アシスト設定 > 「マーカー アスペクト比」> いずれかを選ぶ

- あらかじめ用意されたプリセットのアスペクト比を選んだときは、以降の操作は不要。「カスタム」を選んだときは、操作3に進む。

3 「カスタム」を選んだときは、MENU > アシスト設定 > 「マーカー カスタムアスペクト比」> アスペクト比の数値を入力する

セーフティーゾーンマーカーを設定する

アスペクトマーカーを表示していないとき、セーフティーゾーンは映像全体を基準にした領域と比率（長さ、または面積）を設定します。アスペクトマーカーを表示しているときは、セーフティーゾーンの基準と領域、比率を設定します。

1 MENU > アシスト設定 > 「セーフティーゾーンマーカー」> いずれかの色を選ぶ

2 アスペクトマーカーを表示しているときは、MENU > アシスト設定 > 「セーフティーゾーン基準」> 「映像全体」または「アスペクトマーカー領域」を選ぶ

3 MENU > アシスト設定 > 「セーフティーゾーン領域」> いずれかの領域を選ぶ

- セーフティーゾーンにする領域は、長さ比から選ぶ。

ユーザーマーカーを設定する

1 MENU > アシスト設定 > 「ユーザーマーカー 1～ユーザーマーカー 3」> いずれかの色を選ぶ

2 MENU > アシスト設定 > 「ユーザーマーカー 1 設定～ユーザーマーカー 3 設定」 いずれかを選ぶ

サイズの設定

- 「サイズ」> 「指定方法」を選ぶ

選択した指定方法に従い、数値の入力や設定値を選択する。

「基準領域とアスペクト比」、「基準領域と倍率」は、映像全体または他のマーカーを基準として、それに対する比率や倍率を設定する。

位置の設定

- 「位置」> 「指定方法」を選ぶ

選択した指定方法に従い、数値の入力や設定値を選択する。

「中心座標」、「左上座標」は、マーカーの中心または左上を基点として、位置を設定する。

「中心合わせ」は、他のユーザーマーカーと中心を合わせるように配置する。

参考

「基準領域とアスペクト比」や「中心合わせ」のように、他のマーカーを基準にして設定する場合、選択できる基準のマーカーは次のとおりです。

- ユーザーマーカー 1を設定しているとき：選択できない
- ユーザーマーカー 2を設定しているとき：ユーザーマーカー 1
- ユーザーマーカー 3を設定しているとき：ユーザーマーカー 1、ユーザーマーカー 2のどちらかが選択可能

MEMO

- 「マーカー：XXXX」を「入」にして、MENU >  モニタリング設定 > 「DISPレベル2」> 「FUNC/MENU操作時表示」を選び、画面表示をDISPレベル2に切り換えると、マーカーのみ表示することもできます（ 56）。
- 「マーカー：すべて」、「マーカー：XXXX」を割り当てたアサインボタンを押して、マーカーを表示するすべての機器やLCDモニター、外部モニターのそれぞれのマーカー表示を入／切することもできます（ 126）。

ゼブラパターンを表示する

露出オーバーで白とびするおそれがある領域に、縞状のパターンを表示することができます。ゼブラパターンには「ゼブラ1」と「ゼブラ2」の2種類があり、2つを同時に表示することもできます。ゼブラ1は設定した輝度レベル $\pm 5\%$ の領域にゼブラパターン1を表示します（輝度レベルは $5\pm 5\% \sim 95\pm 5\%$ の範囲。5%刻みで設定可能）。ゼブラ2は設定した輝度レベル以上の領域にゼブラパターン2を表示します（輝度レベルは0%～100%の範囲。5%刻みで設定可能）。



ゼブラ1 ゼブラ2

1 「ゼブラ: XXXXX」をアサインボタンに割り当てる

2 MENU > アシスト設定 > 「ゼブラ選択」> 「ゼブラ1」、「ゼブラ2」、「ゼブラ1+2」（ゼブラ1とゼブラ2を同時表示）いずれかを選ぶ

3 MENU > アシスト設定 > 「ゼブラ1レベル」または「ゼブラ2レベル」> いずれかの輝度レベルを選ぶ

4 ZEBRA（ゼブラ）ボタンを押して、出力先に設定している端子や機器のゼブラパターンを表示する

- 「ゼブラ：SDI」は以下の状況では表示できない。
 - 「センサーモード」が「フルサイズ」のRAW記録で「SDI出力形式」が3840×2160以上、「ピーキング」が「入」のとき
 - 「センサーモード」が「フルサイズまたはSuper35mm (Crop)」で、フレームレートが60Pを超え、「SDI出力形式」が3840×2160以上、「ピーキング」が「入」のとき
 - 「オンスクリーン表示：SDI」が「切（クリーン）」のとき
- 「ゼブラ：MON./HDMI」は以下の状況では表示できない。
 - 「オンスクリーン表示：MON./HDMI」が「切」のとき

フォルスカラーを表示する

撮影時、設定した出力先の映像に輝度レベルで分けた6つの色を重畳して確認できます。

フォルスカラーを表示するために、MENU > アシスト設定 > 「フォルスカラー: XXXXX」> 「入」を選ぶ

- 「フォルスカラー：すべて」、「フォルスカラー：XXXXX」を割り当てたアサインボタンを押して、フォルスカラーを表示するすべての機器やLCDモニター、外部モニターのそれぞれのフォルスカラー表示を入／切することもできる（ 126）。

MEMO

- MENU > アシスト設定 > 「フォルスカラーインデックス」でフォルスカラーのインデックスを表示できます。

色	意味
赤	White clipping（白クリップ）
黄	Just below white clipping（白クリップの直ぐ下）
ピンク	One stop over 18% gray（18%グレイより1段高いグレイ）
緑	18% gray（18%グレイ）
青	Just above black clipping（黒クリップの直ぐ上）
紫	Black clipping（黒クリップ）
無彩色	上記以外の明るさ

- フォルスカラーは、カラーバーの表示中に重畳できません。
- カスタムピクチャーのLookファイルが有効のときは、正しい輝度レベルの色で表示されないことがあります。
- 「フォルスカラー：SDI」は以下の状況では表示できない。
 - 「センサーモード」が「フルサイズまたはSuper35mm (Crop)」で、スロー & ファストモーション記録のフレームレートが60Pを超え、「SDI出力形式」が3840×2160以上のとき
 - 「オンスクリーン表示：SDI」が「切（クリーン）」のとき

マーカー／ゼブラパターン／フォルスカラーを表示する

- 「フォルスカラー：MON./HDMI」は以下の状況では表示できない。
 - 「オンスクリーン表示：MON./HDMI」が「切」のとき

タイムコードを設定する

カメラモードで撮影するときに、タイムコードを内蔵のタイムコードジェネレーターで生成して、映像とともに記録メディアに記録できます。タイムコードは、SDI OUT端子、MON.端子、TC (TIME CODE) 端子 (□ 103)、またはHDMI OUT端子に出力できます。メディアモードで再生するときは、記録メディアから読み出したタイムコードをSDI OUT端子またはMON.端子に出力できます。また、設定しているフレームレートによって、ドロップフレームとノンドロップフレームを選択できます (□ 99)。

タイムコードのモードを選ぶ

カメラモードで撮影するときのタイムコードのモードを選びます。

MENU > ④ システム設定 > 「Time Codeモード」 > 「Preset」 または 「Regen.」 を選ぶ

Preset : タイムコードを任意の初期値から開始する。タイムコードの初期値は「00:00:00.00」(NDF時は「00:00:00.00」)。以降の操作でタイムコードの歩進方法と任意の初期値を設定する。

Regen. : タイムコードは記録時に歩進する。記録メディアに記録されている最後のタイムコードを読み出し、その続きから歩進する。同一の記録メディアに記録している間、タイムコードは記録したクリップの順で連続する。

タイムコードの歩進方法を選ぶ

タイムコードのモードに「Preset」を選んだときは、タイムコードの歩進方法を選びます。

MENU > ④ システム設定 > 「Time Code Run」 > 「Rec Run」 または 「Free Run」 を選ぶ

Rec Run : タイムコードは記録時に歩進する。タイムコードの初期値は任意に設定可能。同一の記録メディアに記録している間、タイムコードは記録したクリップの順で連続する。

Free Run : タイムコードは、記録状態に関係なく常に歩進する。初期値は任意に設定可能。

タイムコードの初期値を設定する

タイムコードのモードに「Preset」を選んだときは、タイムコードの初期値を設定します。

1 MENU > ④ システム設定 > 「Time Code設定」 > 「変更」 を選ぶ

- タイムコードの設定画面が表示され、「時」の桁が選択される。
- 「リセット」を選ぶと、タイムコードが「00:00:00.00」(NDF時は「00:00:00.00」) にリセットされる。「Free Run」を選んでいるときは、リセット後のタイムコードから歩進を続ける。

2 タイムコードの初期値の数値を入力する

参考 ▶▶ 「文字入力のしかた」 (□ 46)

- タイムコードの歩進方法に「Free Run」を選んでいるときは、この時点で設定値のタイムコードから歩進する。

ドロップフレーム／ノンドロップフレームを切り換える

フレームレートを59.94P、59.94i、または29.97Pに設定しているときは、ドロップフレーム (DF)、またはノンドロップフレーム (NDF) を切り換えることができます。なお、フレームレートが59.94P、59.94i、29.97P以外のときはNDFに固定されます。

MENU > ④ システム設定 > 「Time Code DF/NDF」 > 「DF」 または 「NDF」 を選ぶ

タイムコードを設定する

- DFとNDFで画面上のタイムコード表示が次のように異なる。

DFのとき 00 : 00 : 00 . 00
NDFのとき 00 : 00 : 00 : 00

タイムコードの表示について

タイムコードのモードや歩進方式によって、タイムコードの隣にアイコンが表示されます。

アイコン	意味
R	Regen. (リジェネ) 設定時
P	Rec Run (レックラン) 設定時
F	Free Run (フリーラン) 設定時
E	タイムコード外部入力時
表示なし	再生時

MEMO

- タイムコード／ユーザービットの出力について：

- SDI OUT端子とMON.端子の出力にはエンベデッドタイムコードが重畳される。HDMI OUT端子の出力には、**MENU** >  記録/メディア設定 > 「HDMI Time Code」を「入」にすると、タイムコードを重畳できる（ 157）。
- メディアモードで再生するときは、SDI OUT端子とMON.端子からタイムコードとユーザービットが出力される。

- タイムコードのフレームカウントは、フレームレートが23.98P / 24.00Pのときは0～23、25.00P / 50.00i / 50.00Pのときは0～24、それ以外は0～29となります。ただし、フレームレートが23.98P / 24.00Pで、

MENU >  システム設定 > 「MON.出力形式」：「1920×1080i(PsF)」または「1280×720P」

「HDMI出力形式」：「1920×1080i」または「1280×720P」

「SDI出力形式」：「1920×1080i(PsF)」または「1280×720P」

のときは、MON.端子、HDMI OUT端子、SDI OUT端子に出力するタイムコードのフレームカウントは0～29となります。

- スロー＆ファストモーション記録モード、フレーム記録モードおよびインターバル記録モードのときは、「Free Run」は使用できません。また、プレ記録のときは「Free Run」固定となります。
- スロー＆ファストモーション記録モード、フレーム記録モード、またはインターバル記録モードのときは、本機の各出力端子にタイムコードおよびユーザービットを出力できません。
- ドロップフレーム、ノンドロップフレームを混在させて録画すると、撮影開始時のタイムコードが不連続になることがあります。
- 内蔵のリチウム電池の残量があれば、バッテリーなどの電源がなくても、フリーランタイムコードは歩進します。
- 「Time Code」を割り当てたアサインボタンを押して、**MENU** >  システム設定のタイムコードを設定するメニューページを表示することもできます（ 126）。

ユーザービットを設定する

カメラモードで撮影するときに、8桁の16進数、撮影時刻、または撮影日（年月日）をユーザービットとして設定できます。16進数は、0～9とA～Fの英数字を使用できます。ユーザービットは映像と一緒に記録され、SDI OUT端子、MON.端子、TC（TIME CODE）端子またはHDMI OUT端子から出力できます。ユーザービットには、撮影情報や記録した映像の管理情報など、映像に付加したい情報を自由に設定できます。

16進数をユーザービットに設定する

1 MENU > システム設定 > 「User Bit タイプ」> 「設定」> 「変更」を選ぶ

- 「リセット」を選ぶと、ユーザービットが「00 00 00 00」にリセットされる。

2 ユーザービットに設定する数値と文字を入力する

参考 ▶ 「文字入力のしかた」（ 46）

- CANCELを押すと、設定を途中で中止して、設定画面が消える。

撮影時刻または撮影日をユーザービットに設定する

MENU > システム設定 > 「User Bit タイプ」> 「時刻」または「日付」を選ぶ

MEMO

- スロー & ファストモーション記録モード、フレーム記録モード、またはインターバル記録モードのときは、ユーザービットを出力しません。

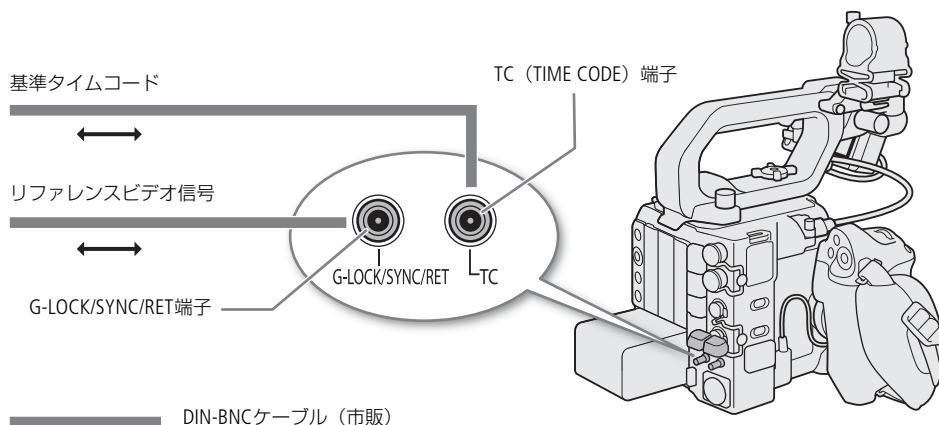
外部機器と同期をとる

カメラモードで撮影するときに、本機のTC (TIME CODE) 端子を使って、本機のタイムコードを外部入力タイムコードに同期させることができます。同じジェネレーターのタイムコードを複数のカメラに入力すれば、マルチカメラ撮影を行うことができます。本機のタイムコードを他のカメラに出力してマルチカメラ撮影を行うこともできます。さらに、撮影／再生時にSDI OUT端子、MON.端子の出力を編集機などに入力して、編集機で同一タイムコードの映像を記録することもできます。また、本機のG-LOCK/SYNC/RET端子を使って、外部の映像機器と本機のリファレンスビデオ信号*をゲンロック (GENLOCK) によって同期させたり、本機から同期信号としてリファレンスビデオ信号を出力したりすることもできます。

* リファレンスビデオ信号としてHD三値信号の他にアナログ・ブラックバースト信号も入力可能です。

外部機器と接続する

外部機器とタイムコードを同期させるときは、本機のTC (TIME CODE) 端子にタイムコード信号を入力します。映像信号と同期させるときは、本機のG-LOCK/SYNC/RET端子にリファレンスビデオ信号を入力します。それぞれの端子の入力／出力モードの設定は、あらかじめメニューで切り換えます。本機と外部機器は下図のように接続します。



外部のタイムコード信号に同期する (タイムコード入力)

カメラモードで撮影するときに、TC (TIME CODE) 端子に入力されるLTC規格の信号を、タイムコードとして記録メディアに記録します。同時に入力されるユーザービットも記録できます。TC (TIME CODE) 端子の設定は、外部機器を接続する前に入力モードに切り換えます。なお、本機のタイムコードの歩進方式 (□ 99) が「Free Run」のときのみ、タイムコードを入力できます。

1 MENU > システム設定 > 「TC In/Out」> 「In」を選ぶ

2 外部入力したタイムコードと一緒に入力されるユーザービットを記録するときは、MENU > システム設定 > 「User Bit 記録モード」> 「External」を選ぶ

MEMO

- フレームレートが23.98P / 24.00Pのときは24フレーム信号のタイムコード、25.00P / 50.00i / 50.00Pのときは25フレーム信号のタイムコード、その他のフレームレートのときは30フレーム信号のタイムコードを入力できます。
- タイムコードが入力されると本機のタイムコードが同期します。TC (TIME CODE) 端子からケーブルを外しても、外部ロック状態は保持されます。
- タイムコードが入力されない、または不正な値が入力されているときは、MENU > システム設定 > 「Time Code モード」と「Time Code Run」で設定した内部タイムコードが記録されます。

- DF/NDFは、外部入力されるタイムコードの設定に従います。
- プレ記録を設定した後、タイムコード入力を行うと、プレ記録したクリップのタイムコードが不連続になることがあります。
- ケーブルを外した状態で次の操作を行うと、タイムコードの同期が乱れます。ケーブルを再度接続すると、正しいタイムコードに復帰します。
 - 電源の入／切
 - メディアモードへの切り換え
 - 記録信号形式の変更

タイムコードを出力する

本機のタイムコードを、LTC規格の信号でTC (TIME CODE) 端子から出力します。ユーザービットも同時に出力します。

MENU > 設定 > システム設定 > 「TC In/Out」 > 「Out」を選ぶ

MEMO

- **ユーザービットの出力について：**
カメラモードで撮影するときは、設定されているユーザービット (□ 101) が出力され、メディアモードで再生するときは、TC (Time Code) 端子からユーザービットを出力しません。
- スロー & ファストモーション記録時は、タイムコードとユーザービットを出力しません。

外部のリファレンスビデオ信号に同期する (GENLOCK)

同期信号 (アナログ・ブラックバースト信号または三値信号) を本機のG-LOCK/SYNC/RET端子に入力すると、自動的に内部のV同期／H同期の位相を合わせます。本機とリファレンスビデオ信号を同期させたときの位相差の初期設定は0です。H位相は0を中心として、約 $\pm 0.4H$ の範囲で調整できます。

1 MENU > 設定 > システム設定 > 「G-LOCK/SYNC/RET端子」 > 「Genlock入力」を選ぶ

2 MENU > 設定 > システム設定 > 「Genlock調整」 > 「変更」を選ぶ

- 「リセット」を選ぶと、調整値が「000」にリセットされる。

3 調整するH位相の数値を入力する

MEMO

- 同期可能なGENLOCK信号が入力されると約10秒後に同期が安定します。安定するまでは、ボタンやLCDモニターのタッチ操作は受け付けません。
- 入力されたGENLOCK信号を検知すると、画面の右側に **Gen.** が点滅して表示されます。入力信号に本機がロックすると点灯に変わります。
- 不正なGENLOCK信号が入力されると、同期が安定しないことがあります。この場合、タイムコードの記録も乱れることがあります。

リファレンスビデオ信号を出力する

本機のG-LOCK/SYNC/RET端子の機能を「HD Sync出力」に設定すると、同期信号としてリファレンスビデオ信号（HD三値信号）を出力できます。出力されるリファレンスビデオ信号は、SDI OUT端子の出力信号形式とメニューの設定によって決まります。

1 MENU >  システム設定 > 「G-LOCK/SYNC/RET端子」 > 「HD Sync出力」を選ぶ

2 必要に応じて、MENU >  システム設定 > 「SYNCスキャンモード」 > 「P」または「PsF」を選ぶ

音声を記録する

本機では、以下に示す形式の音声を記録／再生できます。収録する音声は、外部マイク／外部ライン入力（INPUT端子）、外部マイク／外部ライン入力（MIC端子）、モノラルマイク*、マルチアクセサリシュー対応アクセサリから選びます。また、SDI OUT端子、MON.端子、HDMI OUT端子から出力される映像信号には音声信号が重畳されます。この音声信号を外部レコーダーで記録できます。

* ボイスメモの用途に使用します。ボイスメモを記録すると、編集時、映像と音声を同期しやすくなります。

音声記録形式

	動画の記録形式 または 音声記録の条件	音声記録形式				
		コーデック	サンプリング 周波数	量子化 ビット数	記録 チャンネル数	ビットレート
動画記録	RAW	リニアPCM	48 kHz	24 bit	4チャンネル	4.5 Mbps
	XF-AVC	リニアPCM	48 kHz	24 bit	4チャンネル	4.5 Mbps
	XF-AVC S* ¹	リニアPCM	48 kHz	24 bit	4チャンネル	4.5 Mbps
	XF-HEVC S* ¹	AAC		16 bit	2チャンネル* ²	256 kbps
音声記録	スロー & ファスト モーション記録の音声記録 時	リニアPCM	48 kHz	24 bit	4チャンネル	4.5 Mbps
	2スロット記録機能の音声 記録時	リニアPCM	8 kHz	16 bit	1チャンネル	128 kbps

*¹ プロキシ記録時の音声記録形式は、AAC記録方式になる。

*² CH1とCH2の音声記録される。

音声の設定と記録音声

CH1～CH4の各チャンネルに記録される入力音声は、メニュー設定とINPUT 1／INPUT 2端子入力切り換えスイッチの組み合わせによって決まります。

オーディオInput選択（メニュー）			INPUT1／INPUT2 端子入力切り換え スイッチ		記録音声			
CH1/CH2 Input選択	CH3/CH4 Input選択	CH2 Input	INPUT1	INPUT2	CH1	CH2	CH3	CH4
INPUT端子	INPUT端子	INPUT2	MIC/48V	MIC/48V	INPUT1 MIC	INPUT2 MIC	INPUT1 MIC	INPUT2 MIC
				LINE		INPUT2 LINE		INPUT2 LINE
			LINE	MIC/48V	INPUT1 LINE	INPUT2 MIC	INPUT1 LINE	INPUT2 MIC
				LINE		INPUT2 LINE		INPUT2 LINE
		INPUT1	MIC/48V	MIC/48V	INPUT1 MIC	INPUT1 MIC	INPUT1 MIC	INPUT2 MIC
				LINE		INPUT1 MIC		INPUT2 LINE
			LINE	MIC/48V	INPUT1 LINE	INPUT1 LINE	INPUT1 LINE	INPUT2 MIC
				LINE		INPUT1 LINE		INPUT2 LINE

オーディオInput選択（メニュー）			INPUT1 / INPUT2 端子入力切り換え スイッチ		記録音声						
CH1/CH2 Input選択	CH3/CH4 Input選択	CH2 Input	INPUT1	INPUT2	CH1	CH2	CH3	CH4			
INPUT端子	MIC端子	INPUT2	MIC/48V	MIC/48V	INPUT1 MIC	INPUT2 MIC	MIC（L）	MIC（R）			
				LINE		INPUT2 LINE					
			LINE	MIC/48V	INPUT1 LINE	INPUT2 MIC					
				LINE		INPUT2 LINE					
		INPUT1	MIC/48V	—	INPUT1 MIC	INPUT1 MIC					
			LINE		INPUT1 LINE	INPUT1 LINE					
		MIC端子	MIC/48V		INPUT1 MIC	MIC端子 （L + R）					
			LINE		INPUT1 LINE						
		モノラル マイク	INPUT2		MIC/48V	MIC/48V			INPUT1 MIC	INPUT2 MIC	モノラルマイク
						LINE				INPUT2 LINE	
					LINE	MIC/48V			INPUT1 LINE	INPUT2 MIC	
						LINE				INPUT2 LINE	
	INPUT1		MIC/48V	—	INPUT1 MIC	INPUT1 MIC					
			LINE		INPUT1 LINE	INPUT1 LINE					
	モノラル マイク		MIC/48V		INPUT1 MIC	モノラル マイク					
			LINE		INPUT1 LINE	モノラル マイク					
	マルチ アクセサリー シュー		INPUT2	MIC/48V	MIC/48V	INPUT1 MIC	INPUT2 MIC	マルチアクセサリー シュー			
					LINE		INPUT2 LINE				
				LINE	MIC/48V	INPUT1 LINE	INPUT2 MIC				
					LINE		INPUT2 LINE				
		INPUT1	MIC/48V	—	INPUT1 MIC	INPUT1 MIC					
			LINE		INPUT1 LINE	INPUT1 LINE					
		MIC端子	INPUT端子	—	MIC/48V	MIC/48V	MIC（L）		MIC（R）	INPUT1 MIC	INPUT2 MIC
						LINE				INPUT1 MIC	INPUT2 LINE
	LINE				MIC/48V	INPUT1 LINE		INPUT2 MIC			
					LINE	INPUT1 LINE		INPUT2 LINE			
	MIC端子		—		—	—		—		MIC（L）	MIC（R）
	モノラル マイク									モノラルマイク	
	マルチ アクセサリー シュー									マルチアクセサリー シュー	

オーディオInput選択（メニュー）			INPUT1／INPUT2 端子入力切り換え スイッチ		記録音声				
CH1/CH2 Input選択	CH3/CH4 Input選択	CH2 Input	INPUT1	INPUT2	CH1	CH2	CH3	CH4	
モノラル マイク	INPUT端子	－	MIC/48V	MIC/48V	モノラルマイク		INPUT1 MIC	INPUT2 MIC	
				LINE			INPUT1 MIC	INPUT2 LINE	
			LINE	MIC/48V			INPUT1 LINE	INPUT2 MIC	
				LINE			INPUT1 LINE	INPUT2 LINE	
	MIC端子		－	－			－	MIC（L）	MIC（R）
	モノラル マイク							モノラルマイク	
	マルチ アクセサリー シュー							マルチアクセサリー シュー	
マルチ アクセサリー シュー	INPUT端子		－	MIC/48V			MIC/48V	マルチアクセサリー シュー	
		LINE			INPUT1 MIC	INPUT2 LINE			
		LINE		MIC/48V	INPUT1 LINE	INPUT2 MIC			
				LINE	INPUT1 LINE	INPUT2 LINE			
	MIC端子	－		－	－	MIC（L）	MIC（R）		
	モノラル マイク					モノラルマイク			
	マルチ アクセサリー シュー					マルチアクセサリー シュー			

メイン動画とサブ動画の音声記録形式を選ぶ

メイン動画またはサブ動画がXF-HEVC S/XF-AVC S形式のときは、音声記録形式を選択します。

メイン動画：MENU >  記録/メディア設定 > 「XF-HEVC S/XF-AVC Sメインオーディオ」> いずれかを選ぶ

サブ動画：  記録/メディア設定 > 「 XF-HEVC S/XF-AVC Sオーディオ」> いずれかを選ぶ

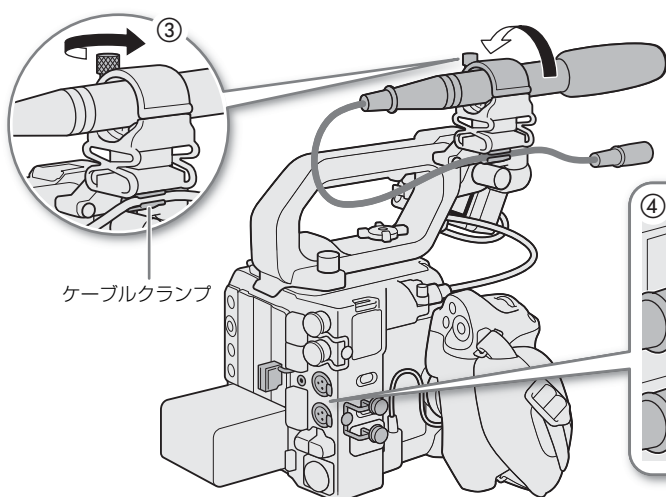
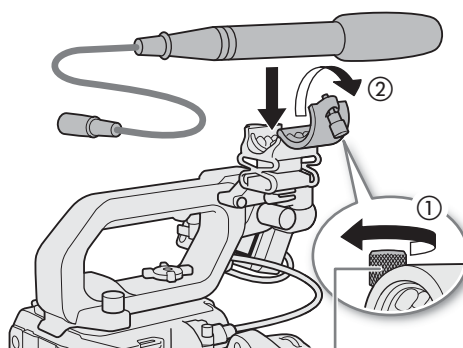
外部マイク／外部音声入力機器を本機に接続する

INPUT端子には、ミニXLRコネクタの外部マイク／外部ライン入力機器（アナログ）を、MIC（マイク）端子には、 $\phi 3.5\text{mm}$ ステレオミニプラグの外部マイク／外部ライン入力（アナログ）をそれぞれ接続できます。なお、マイクホルダーには、 $\phi 19 \sim 20\text{ mm}$ のマイクを固定できます。

- 1 外部マイク固定ネジをゆるめ (①)、外部マイクホルダーを開く (②)
- 2 外部マイクを取り付けて固定し、ケーブルをケーブルクランプにとめる (③)
- 3 外部マイクのケーブルを本機のINPUT端子 (④) またはMIC（マイク）端子 (⑤) に接続する

ご注意

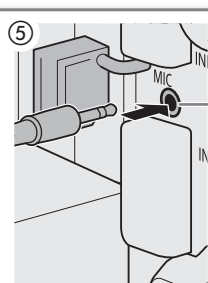
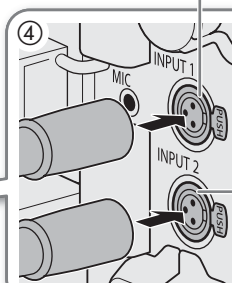
- 故障の原因となるため、入力切り換えスイッチをMIC + 48VにしているINPUT端子は、抜き差しをしないでください。



INPUT 1 端子

INPUT 2 端子

MIC（マイク）端子



INPUT 1 / INPUT 2端子の入力を切り換える

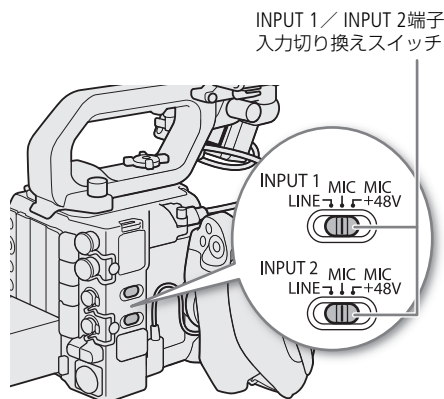
INPUT 1端子とINPUT 2端子に接続した外部マイク / 外部ライン入力機器（アナログ）は、それぞれ個別に音声を記録できます。

INPUT 1 / INPUT 2端子入力切り換えスイッチを、LINE、MIC、MIC + 48Vのいずれかにする

- INPUT端子を1チャンネルのみ使用するときは、INPUT 1端子を使用する。

で注意

- ファンタム電源が必要なマイクを使うとき：**
 - カメラの電源を切るか、各INPUT端子の入力切り換えスイッチをMICにして、+48V対応のマイクを接続した後、MIC + 48Vに切り換える。
- 各INPUT端子に+48V対応のマイク以外の機器を接続するときは、接続する機器に合わせて各INPUT端子の入力切り換えスイッチをLINEまたはMICにしてください。MIC + 48Vにすると、接続した機器が故障することがあります。



MIC端子の入力を切り換える

MIC端子に接続した機器に応じて設定します。

1 MENU > **オーディオ設定** > 「MIC入力」を選ぶ

2 「MIC（電源供給有り）」、「LINE」のいずれかを選ぶ

- 「MIC（電源供給有り）」を選ぶと、マイクに電源を供給する。

記録する入力音声を選ぶ

カメラモードで撮影するときに記録する音声は、CH1/CH2またはCH3/CH4の2チャンネルごとに選択します。「音声の設定と記録音声」（105）を参考にして設定してください。

1 MENU > **オーディオ設定** > 「オーディオInput選択」 > 「CH1/CH2」または「CH3/CH4」を選ぶ

2 「INPUT端子」、「MIC端子」、「モノラルマイク」または「マルチアクセサリシュー」のいずれかを選ぶ

CH2に記録する入力音声を選ぶ

初期設定ではINPUT 1端子の入力をCH1として、INPUT 2端子の入力をCH2として音声を記録します。必要に応じて、CH1にINPUT 1端子の音声を記録し、CH2にINPUT 1端子の音声のバックアップを記録することもできます。その場合、CH1とCH2の録音レベルを独立して設定することもできます。

MENU > **オーディオ設定 > 「CH2 Input」を選ぶ**

INPUT 2： INPUT 1端子の入力はCH1として、INPUT 2端子の入力はCH2として録音する。

INPUT 1： INPUT 1端子の入力をCH1 / CH2の両方に録音する。INPUT 2端子の音声は録音されない。

モノラルマイク / MIC端子： INPUT 1の入力をCH1として、内蔵マイク、マイク端子の入力をCH2の入力として録音する。

録音レベルを調整する

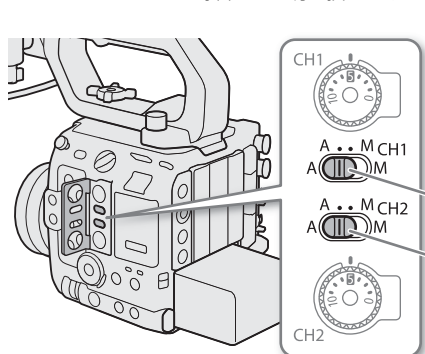
カメラモードで撮影するときに、INPUT端子、またはMIC端子の録音レベルを調整します。INPUT端子の録音レベルとMIC端子の録音レベルは、CH1～CH4のチャンネルごと、またはCH1/CH2*、CH3/CH4*にオート／マニュアルを設定できます。

*「CH1/CH2 ALCリンク」または「CH3/CH4 ALCリンク」を「連動」にする必要があります（[111](#)）。

CH1、CH2、またはCH1 / CH2をオートで調整する

録音レベル切り換えスイッチをA（オート）にすると、そのチャンネルの録音レベルがオートになり、自動調整されます。

録音レベル切り換えスイッチ



CH1、CH2、またはCH1 / CH2をマニュアルで調整する

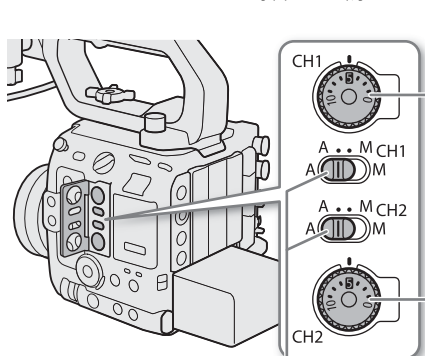
各チャンネルの録音レベルを $-∞$ ～+18 dBの範囲で手動調整できます。

1 録音レベル切り換えスイッチをM（マニュアル）にする

2 録音レベル調整つまみを回して調整する

- つまみの0（ $-∞$ ）～5（0 dB）～10（+18 dB）の範囲でレベルを調整できる。
- 画面に表示されるオーディオレベルメーターの-18 dB（-20 dBの1つ右隣）より右が時々点灯するように調整する。
- 調整後、オーディオ（録音レベル）カバーを閉じると、誤操作を防止できる。

録音レベル調整つまみ



録音レベル切り換えスイッチ

それぞれのチャンネルの録音レベルをメニューで調整する

1 MENU > オーディオ設定 > 「録音レベル」を選ぶ

◀▶で切り換える。

- **A**（Auto）：自動で調整する
- **M**（Manual）：◀▶で数値を設定する

INPUT端子、またはMIC（マイク）端子のCH1とCH2、CH3とCH4の録音レベル調整を連動させる

- INPUT 1 / INPUT 2端子、またはMIC（マイク）端子が同じ音声入力（外部ライン、または外部マイク）に設定されている場合、CH1とCH2、またはCH3とCH4のレベル調整を連動させることができます。設定は、**MENU > 1)** オーディオ設定 > 「CH1/CH2 ALCリンク」または「CH3/CH4 ALCリンク」で設定します。
- 「CH1/CH2 ALCリンク」を「連動」に設定すると、CH1の録音レベル切り換えスイッチと録音レベル調整つまみでCH1 / CH2の2チャンネルをまとめて調整できます。「CH3/CH4 ALCリンク」を「連動」に設定すると、「録音レベル」でCH3 / CH4の2チャンネルをまとめて調整できます。

INPUT端子（アナログ）の音声信号レベルを制限する

- 次の設定を行うと、録音レベルをマニュアルで調整するとき、入力信号が歪みはじめるレベルになると自動的に信号レベルを制限して、過大な音声入力による歪みを低減します。
MENU > 1) オーディオ設定 > 「INPUT リミッター」 > 「入」

MEMO

- 録音レベルを調整するときは、ヘッドホンでモニターしながら行うことをおすすめします。オーディオレベルメーター上で適切に表示されていても、入力レベルが過大な場合、音声がひずむことがあります。
- 「オーディオレベル」を割り当てたアサインボタンを押して、オーディオレベルメーターの表示を入／切することができます（□ 126）。
- 別売のマルチアクセスサリッシュ 指向性ステレオマイクロホン DM-E1D装着時も、録音レベル切り換えスイッチで調整できます。このとき、CH1の設定がCH2にも反映されます。

入力音声を調整する

カメラモードで撮影するとき、INPUT端子やMIC（マイク）端子を使用して記録する音声について、さまざまな調整が行えます。

INPUT端子の入力感度を調整する

各INPUT端子に接続している外部マイクの入力感度を調整できます。

MENU > 1) オーディオ設定 > 「INPUT×マイクトリミング」のいずれか > 入力感度を選ぶ

- 入力感度は、「+12 dB」、「+6 dB」、「0 dB」、「−6 dB」、「−12 dB」のいずれかを選ぶ。

INPUT端子／MIC（マイク）端子のアッテネーターを使う

各INPUT端子に接続した外部マイクのアッテネーター（20 dB）を有効にします。

INPUT端子：MENU > 1)

MIC（マイク）端子：1)

INPUT端子／MIC（マイク）端子のローカットを使う

収録する音に合わせてマイクの特性を選択できます。

INPUT端子：MENU >  オーディオ設定 > 「INPUTxマイクローカット」> 「入」を選ぶ

MIC（マイク）端子：MENU >  オーディオ設定 > 「MICローカット」> いずれかを選ぶ

- 切： 一般的な音を録音するとき。風の影響を受けない場所で撮影するときや、低音まで収録するとき。
- LC1： 人の声を中心に録音するとき。
- LC2： 海辺やビルの近くなど風の影響を受ける屋外で撮影するときに、風の「ボコボコ」という音の影響を低減する。収録する低い音の一部も風の音と一緒に低減される。

外部マイク（INPUT端子）の基準レベルを切り換える

各INPUT端子の基準レベルを－18 dB、または－20 dBから選べます。

MENU >  オーディオ設定 > 「INPUT基準レベル」> いずれかを選ぶ

マルチアクセサリースュー入力の設定をする

MENU >  オーディオ設定 > 「マルチアクセサリースュー入力」> いずれかを選ぶ

- シューマイク選択時：メニュー項目を選択して、それぞれの設定値を設定する
- ワイヤレスマイク選択時：メニュー項目を選択して、それぞれの設定値を設定する

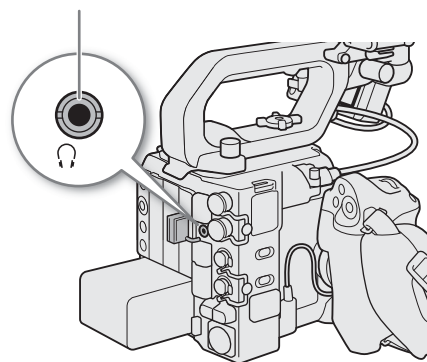
ヘッドホンでモニターする

Ø 3.5 mmステレオミニプラグのヘッドホンをΩ（ヘッドホン）端子に接続して、収録される音声をモニターできます。

MEMO

- MENU >  オーディオ設定 > 「ヘッドホン音量」で音量を調整できます。「ヘッドホン+」または「ヘッドホン-」を割り当てたアシインボタンで操作することもできます（ 126）。

Ω（ヘッドホン）端子



カラーバー／テストトーンを記録する

カメラモードで撮影するときに、カラーバーと1 kHzのテストトーンを次の端子から出力／記録できます。メイン動画をRAW形式で記録するときは、カラーバーを出力／記録できません。

	VIDEO端子	SDI OUT端子	MON.端子／ HDMI OUT端子	⌚（ヘッドホン）端子
カラーバー	●	●	●	—
テストトーン	—	●	●	●

カラーバーを記録する

出力／記録するカラーバーは、SMPTE準拠、EBU準拠、ARIB準拠のいずれかをメニューで選べます。

1 MENU > カメラ設定 > 「カラーバー」 > 「入」を選ぶ

2 MENU > カメラ設定 > 「カラーバータイプ」 > いずれかを選ぶ

- 画面にカラーバーが表示される。RECボタンを押して撮影を開始すると、カラーバーを記録できる。
- 電源を切るかメディアモードに切り換えると、自動的に「カラーバー」は「切」になる。

MEMO

- カラーバーの表示中は、拡大表示（ 86）ができません。
- カスタムピクチャーファイル（ 134）で「Gamma/Color Space」のガンマをBT.709 Wide DR、BT.709 StandardまたはCanon 709以外に設定しているときは、カラーバーを出力できません。
- 「カラーバー」を割り当てたアサインボタンを押して、カラーバーを入／切することもできます（ 126）。

テストトーンを記録する

本機からカラーバーの出力と同時に1 kHzのテストトーンを記録します。

MENU > オーディオ設定 > 「1 kHz トーン」 > いずれかを選ぶ

- テストトーンのレベルは、「-12 dB」、「-18 dB」、「-20 dB」、「切」から選ぶ。
- カラーバーが「入」のとき、RECボタンを押して撮影を開始すると、選択したレベルのテストトーンが記録される。

WFM機能を表示する

画面に波形モニター（Waveform Monitor）やベクトルスコープ（Vectorscope）を表示できます。出力端子（VIDEO端子、SDI OUT端子、MON.端子/HDMI OUT端子）に出力できます。

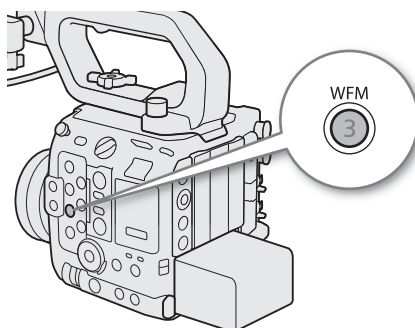
表示する

波形モニターまたはベクトルスコープを表示します。不透過度や表示位置、波形モニターの表示倍率を変更することができます。

1 MENU >  アシスト設定 > 「WFM機能」> 「波形モニター」または「ベクトルスコープ」を選ぶ

2 WFMボタンを押す

- MENU >  アシスト設定 > 「WFM: XXXXX」で出力先ごとに入/切することもできる。



波形モニターを設定する

1 MENU >  アシスト設定 > 「WFM機能」> 「波形モニター」を選ぶ

2 MENU >  アシスト設定 > 「波形モニター設定」> 「サイズ」> いずれかを選ぶ

3 MENU >  アシスト設定 > 「波形モニター設定」> 「位置」> いずれかを選ぶ

4 MENU >  アシスト設定 > 「波形モニター設定」> 「タイプ」> いずれかを選ぶ

- ライン： ライン表示する。
- ライン+スポット： ライン表示に重ねて、赤枠内の波形を赤色で表示する。
- ラインセレクト： 赤い横線における波形を表示する。
- RGB： R、G、B信号をパレード表示する。
- YPbPr： Y、Pb、Pr信号をパレード表示する。
- 「ラインセレクト」以外を選んだときは、操作7に進む。

5 MENU >  アシスト設定 > 「波形モニター設定」> 「ラインセレクト」を選ぶ

6 Y座標値の数値を入力する

- 設定できる範囲は、垂直解像度によって変わる。
 - 2160以上のとき： 0～最大値－2ライン（2ライン刻み）
例 2160のときは0～2158
 - 2160未満のとき： 0～最大値－1ライン（1ライン刻み）
例 1080のときは0～1079

7 MENU >  アシスト設定 > 「波形モニター設定」> 「HDR時スケール」> いずれかを選ぶ

- HDR（High Dynamic Range）規格*に準拠したHDR映像を波形モニターで表示するときの縦軸（輝度）の指標を選ぶ。
 - * ITU-R BT.2100（HLG）またはITU-R BT.2100（PQ）
 - IRE： IRE単位で指標を表示する。
 - PQ/HLG： ITU-R BT.2100（PQ）のHDR映像のときはnits指標（cd/m²）を表示する（Lookファイル適用後のガンマが「PQ」のときを含む）。ITU-R BT.2100（PQ）のHDR映像は、ナローレンジ（ビデオレンジ）の波形が表示される。
ITU-R BT.2100（HLG）のHDR映像のときは、0～1000 nitsの相対指標を表示する（Lookファイル適用後のガンマが「HLG」のときを含む）。

- 8 必要に応じて、画面の波形モニターをタッチして表示倍率を切り換える（VIDEO端子／LCDモニター（付属）のみ）

ベクトルスコープを設定する

1 MENU >  アシスト設定 > 「WFM機能」> 「ベクトルスコープ」を選ぶ

2 MENU >  アシスト設定 > 「ベクトルスコープ設定」> 「位置」> いずれかを選ぶ

3 MENU >  アシスト設定 > 「ベクトルスコープ設定」> 「タイプ」> いずれかを選ぶ

ノーマル： 映像全体の波形をベクトルスコープで表示する。

スポット： 画面上の赤い矩形で囲まれた領域の波形を、「ノーマル」のベクトルスコープの波形に重ねて赤色で表示する。

4 画面のベクトルスコープをタッチするたびに、拡大率（1x、2x）が切り換わる

- MENU >  アシスト設定 > 「ベクトルスコープ設定」> 「ゲイン」で設定することもできる。

MEMO

- LCDモニターや出力端子（SDI OUT端子、MON.端子／HDMI OUT端子）の映像にLUTやレンジ（Range）、アナモフィック表示を適用していても、WFM機能の波形には影響しません。
- 波形モニターを表示中、カスタムピクチャー（ 136）の「Knee」（ニー）を設定しているときは、ニーポイントに相当する輝度値*を横線で表示します。
*カスタムピクチャーのLookファイルが有効のときは、正しい輝度に表示されないことがあります。
- 波形モニターのIRE指標は、カスタムピクチャーの設定にかかわらず、コード値（10 bit）の64を0%として、940を100%として表示します。

撮影中／最後に撮影したクリップにマークを付加する

カメラモードで動画をXF-AVC形式で記録するとき、撮影中や最後に撮影したクリップにマークを付加できます。撮影中は、重要なフレームにショットマーク（**S**）を、最後に撮影したクリップにはOKマーク（**OK**）またはチェックマーク（**✓**）を付加できます。メディアモードでは、クリップにマークを付加したり、消去したりできます（[148](#)）。アサインボタンに機能を割り当てて操作します。なお、プロキシクリップにマークは付加できません。

撮影中にショットマークを付加する

1 アサインボタンに「Shot Mark追加」を割り当てる（[126](#)）

2 撮影中、ショットマークを付加したいフレームでアサインボタンを押す

- 「Shot Mark」が表示され、ショットマークが付加される。

MEMO

- 1つのクリップに付加できるショットマークは、100個までです。
- ボタンを押した時点のフレームとショットマークを付加するフレームは、最大0.5秒程度ずれることがあります。
- ショットマークを付加すると、メディアモードのインデックス画面で、クリップサムネイルの横に**S**が表示されます。
- プレ記録モードでREC（記録開始／停止）ボタンを押下前やインターバル記録モードまたはフレーム記録モードのときには、ショットマークを付加できません。

最後に撮影したクリップにOKマーク／チェックマークを付加する

最後に撮影したクリップに、OKマークやチェックマークを付加することができます。OKマークが付加されたクリップは、本機での消去が禁止されるため、重要なクリップを保護することができます。

1 アサインボタンに「**OK**Mark追加」または「**✓**Mark追加」を割り当てる（[126](#)）

2 撮影が終了したあとにアサインボタンを押す

- 「**OK**Mark」または「**✓**Mark」が表示され、選んだマークがクリップに付加される。

MEMO

- OKマークとチェックマークは、同じクリップに同時に付加することはできません。
- OKマークやチェックマークを付加すると、メディアモードのインデックス画面で、クリップサムネイルの横に**OK**または**✓**が表示されます。

メタデータを操作する

カメラモードでXF-AVC、XF-AVC S、XF-HEVC S形式で記録するとき、記録したクリップにはメタデータが付加されます。付加されたメタデータは、ソフトウェアCanon XF Utility（以下、XF Utility）で表示して確認したり、検索に使用したりすることができます。設定されるメタデータは、以下のとおりです。設定のしかたは項目によって異なります。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（ 187）を使って設定することもできます。

メタデータ	設定			参照		
	カメラ	XF Utility	Content Transfer Professional	カメラ	XF Utility	Content Transfer Professional
ユーザーメモ：クリップタイトル、撮影者、撮影場所、撮影内容	—	●*1	—	●	●	—
GPS情報	●*2	●*3	—	●	●	—
撮影情報：シーン、テイク	●	—	—	●*4	●	—
撮影情報：シャッター、ゲインなどの撮影時設定	—*5	—	—	●	●	—
UMD所有情報：国コード、組織コード、ユーザーコード	● ( 199)	—	—	●*4	—	—
News Metadata ( 118)	—	—	●	●	—	●

*1 ユーザーメモは、あらかじめソフトウェアで作成して、SDカードへの保存が必要。

*2 GPSレシーバー GP-E2接続時のみ、撮影時に自動的に記録される。

*3 記録されたクリップに対してのみ設定可能。

*4 カメラモードのみ。

*5 撮影時に自動的に記録される。

XF Utilityを使ってユーザーメモを設定する

ユーザーメモを設定する前に、XF Utilityをダウンロードしてインストールします（ 164）。次にXF Utilityでユーザーメモの情報を入力してSDカードに保存します。ユーザーメモの情報を入力したSDカードを本機に入れて、SDカード内のユーザーメモを選んで撮影すると、記録されるクリップにユーザーメモの情報が付加されます。

1 XF Utilityでユーザーメモを設定し、SDカードに保存する

- ユーザーメモは、SDカード内の格納フォルダー（/XMLCMF）に保存する。

参考 ▶ XF Utilityの使用説明書

2 ユーザーメモが保存されているSDカードを本機のSDカードスロットに入れる

3 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「XMLファイル付加」> 「入」を選ぶ

4 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「XMLファイル形式」> 「User Memo」を選ぶ

5 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「User Memo」> SDカードに保存されているユーザーメモのファイル名のいずれかを選ぶ

- 画面に **MEMO** が表示される*。
- * カメラモードでは、MENU >  モニタリング設定 > 「Custom Display2」> 「User Memo」が「入」のときのみ表示される。
- 「切」を選ぶと、ユーザーメモはクリップに記録されない。

MEMO

- ユーザーメモを設定して撮影するときは、SDカードを抜かないでください。SDカードを抜くとユーザーメモはクリップに付加されません。
- XF Utilityを使ってユーザーメモを設定するとき、設定は撮影前に行ってください。SDカードに記録されたクリップのユーザーメモを本機で変更することはできません*。
- *XF Utilityを使用して変更できます。

News Metadata（ニュースメタデータ）を操作する

動画を記録する場合、METADATA EXCHANGE FOR NEWS RECOMMENDATION DPP002 Ver1.1.1に準拠したNews Metadata（ニュースメタデータ。以降、News Metadataと記載）をクリップに付加することができます。News Metadataは、Content Transfer Professionalで編集したり、参照したりすることができます。付加するNews Metadataは、最後に設定したNews Metadataが優先されます。設定されるNews Metadataは、以下のとおりです。

News Metadata	設定		参照	
	カメラ	Content Transfer Professional	カメラ	Content Transfer Professional
Story Title、Description、KeyWords(Tags)、Category、Contributor、Source/Originator、Copyright Holder、Restrictions	—	●	●	●
Genre	—	●	—	●
Language	—	—	—	●

MEMO

- ファイル名が64文字（拡張子を含む）以上のNews Metadataは使用できません。

SDカードに保存したNews Metadataを設定する

News Metadataを設定する前に、あらかじめ作成したNews MetadataをSDカードに保存します。News Metadataの情報を入力したSDカードを本機に入れて、SDカード内のNews Metadataを選んで撮影すると、記録されるクリップにNews Metadataの情報が付加されます。

1 News MetadataをSDカードに保存する

- News Metadataは、SDカード内の格納フォルダー（/XMLTAG）に保存する。

2 News Metadataが保存されているSDカードを本機のスロット2に入れる

3 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「XMLファイル付加」 > 「入」を選ぶ

4 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「XMLファイル形式」 > 「News Metadata」を選ぶ

5 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「News Metadata」 > SDカードに保存されているNews Metadataのファイル名のいずれかを選ぶ

- 選んだNews Metadataは、本機に保存される。

MEMO

- SDカードに記録されたクリップのNews Metadataを本機で変更することはできません*。

* Content Transfer Professionalを使用して変更できます。

Content Transfer Professionalで編集したNews Metadataを設定する

News Metadataを設定する前に、あらかじめContent Transfer ProfessionalでNews Metadataを編集します。本機とスマートフォンを接続（☎ 166、194）して、スマートフォンから本機にNews Metadataを転送し、本機に保存します。撮影すると、記録されるクリップにNews Metadataの情報が付加されます。

- 1 スマートフォン：News MetadataをContent Transfer Professionalで編集する
- 2 本機とスマートフォンを接続する
- 3 スマートフォン：Content Transfer Professionalを操作して、News Metadataを本機に転送する
- 4 本機にNews Metadataを保存する
 - スマートフォンから本機にNews Metadataを転送すると、自動的に本機に保存される。
 - 自動的にMENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」の「XMLファイル付加」が「入」に、「XMLファイル形式」が「News Metadata」に設定される。
 - スマートフォンから最後に転送したNews Metadataのみ本機に保存できる。

News Metadataを初期化する

クリップに付加するNews Metadataを初期化します。

- 1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「News Metadata設定初期化」を選ぶ
- 2 「OK」を選ぶ

ご注意

- News Metadataの保存、または本機に保存されたNews Metadataの初期化は、正常に電源を切ったときに行われます。停電などで正常に電源が切られなかったときは、保存／初期化されませんのでご注意ください。
- MENU >  システム設定 > 「リセット」 > 「全設定」で本機の設定をリセットするか、本機のファームウェアの更新を行うと、本機に保存したNews Metadataは初期化されます。

撮影情報（シーン、テイク）を設定する

撮影情報（シーン、テイク）を設定しておくと、撮影後のシーンやテイクを識別するときに便利です。

- MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「シーン」または「テイク」 > 「変更」を選ぶ
- 任意の文字列を入力する。
 - 「リセット」を選ぶと、入力したシーンまたはテイクの情報が消去される。

特殊記録を行う

次の特殊記録を行うことができます。

- スロー & ファストモーション記録 (120)
- プレ記録 (121)
- 常時記録 (121)
- フレーム記録 (122)
- インターバル記録 (123)

スロー & ファストモーション記録を行う

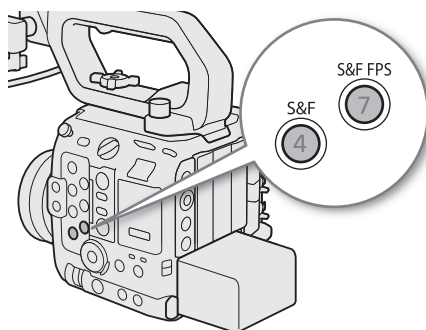
スロー & ファストモーション記録モードにすると、再生時のフレームレートと異なるフレームレート（撮影フレームレート）で、プログレッシブ方式で記録できます。再生時のフレームレートより高いフレームレートで撮影し、再生するとスローモーション効果が得られ、再生時のフレームレートより低いフレームレートで撮影し、再生するとファストモーション効果が得られます。音声は記録されません（ミュート）。1つのクリップに、再生時間で約6時間分以上の記録はできません（設定可能なフレームレートの詳細は 221）。

1 S&F（スロー & ファストモーション記録）ボタンを押す

- スロー & ファストモーション記録モードになる。画面の上側に「S&F STBY」が表示されて、撮影状態の隣に設定されているフレームレート（撮影フレームレート／再生フレームレート）が表示される。
- 音声を記録するときは、動画の記録先ではない方のスロットにカードを入れ、MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「Slow & Fastモーション／音声（WAV）」を選ぶ

2 S&F FPS（スロー & ファストモーション記録フレームレート）ボタンを押して、ジョイスティックの上下を押すか、SELECTダイヤルを回して撮影フレームレートを選ぶ

- MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「Slow & Fastモーション」を選んでスロー & ファストモーション記録モードを有効にして、MENU > 記録/メディア設定 > 「Slow & Fastフレームレート」を選んで撮影フレームレートを設定することもできる。



3 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- タリールンプ（前面）は赤色に、POWER LED／タリールンプ（背面）は緑色から赤色に点灯する。
- 撮影中は画面の「S&F STBY」が「S&F ● REC」に変わる。

4 もう一度RECボタンを押して、撮影を停止する

- 設定した撮影フレームレートで撮影される。
- タリールンプ（前面）は消灯して、POWER LED／タリールンプ（背面）は緑色に点灯する。画面の「S&F ● REC」は「S&F STBY」に変わる。

5 スロー & ファストモーション記録モードを終了するときは、S&F（スロー & ファストモーション記録）ボタンを押す

MEMO

- スロー & ファストモーション記録モードで撮影中は、撮影フレームレートを変更できません。
- スロー & ファストモーション記録モードのフレームレートが60Pを超えるとき、次の機能は使用できません。
 - 2スロット記録機能（プロキシ動画記録、サブ動画記録）
 - CVプロトコル
- 「Slow & Fastモーション／音声（WAV）」を選択すると、スロー & ファストモーション記録で60Pを超えるフレームレートは設定できません。
- タイムコードは、いずれの端子からも出力されません。

- システム周波数を変更すると、設定値は初期値のフレームレートにリセットされます。
- スロー & ファストモーション記録中のタイムコードについて：
 - 「Rec Run」（レックラン）または「Regen.」（リジェネ）で記録される。
 - 「Free Run」（フリーラン）に設定しているときにスロー & ファストモーション記録モードにすると、強制的に「Rec Run」に設定される。
 - スロー & ファストモーション記録モードを解除すると、元のタイムコードの設定に戻る。
- 「センサーモード」が「Super 35mm (Crop)」でフレームレートが120Pのときは、解像度が4096×2160になります。
- 「センサーモード」が「Super 35mm (Crop)」でフレームレートが120Pのときは、「メイン記録形式」と「メイン解像度」の設定によらず、画角がやや狭くなります。

プレ記録を行う

プレ記録では、REC（記録開始／停止）ボタンを押して撮影を開始する一定時間（3秒）前からの映像と音声を記録できます。なお、メイン記録形式がRAWのときはプレ記録を行えません。
設定操作はダイレクトタッチコントロール（□ 60）で行うこともできます。

1 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」> 「プレ記録」を選ぶ

- プレ記録モードになり、画面の上側に「PRE STBY」が表示される。

2 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- タリーランプ（前面）は赤色に、POWER LED／タリーランプ（背面）は緑色から赤色に点灯する。
- 撮影中は画面の「PRE STBY」が「PRE ● REC」に変わる。

3 もう一度RECボタンを押して、撮影を停止する

- 撮影開始から、プレ記録時間分さかのぼった時点からの映像が記録される。
- タリーランプ（前面）は消灯して、POWER LED／タリーランプ（背面）は緑色に点灯する。画面の「PRE ● REC」は「PRE STBY」に変わる。

4 プレ記録モードを終了するときは、MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」> 「通常記録」を選ぶ

MEMO

- プレ記録中のタイムコードについて：
 - タイムコードの記録は、撮影開始操作からプレ記録時間分さかのぼった時点から行われる。
 - 「Free Run」（フリーラン）で記録される。
 - 「Rec Run」（レックラン）または「Regen.」（リジェネ）に設定しているときにプレ記録モードにすると、強制的に「Free Run」に設定される。
 - プレ記録モードを解除すると、元のタイムコードの設定に戻る。

常時記録を行う

CFexpressカードには通常記録（RECボタンの操作（記録や停止）従って記録）を、SDカードには常時記録（RECボタンの操作にかかわらず記録し続ける）を行います。メイン記録形式がXF-AVC S／XF-HEVC Sのときに使用でき、音声はリニアPCMで記録されます。

操作4以外の設定操作はダイレクトタッチコントロール（□ 60）で行うこともできます。

1 CFexpressカードスロットに通常記録用のカードを、SDスロットに常時記録用のカードを入れる

2 MENU > 記録/メディア設定 > 「常時記録」> 「REC」を選ぶ

- 画面のカード2に「CONT」が表示され、常時記録モードになる。
- SDカードへの常時記録が始まり、タリーランプ（前面）は赤色に、POWER LED／タリーランプ（背面）は緑色から赤色に点灯する。
- 画面の表示は「●CONT」に変わる。

3 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- カード1への通常記録が始まる。
- 操作2の前にこの操作を行うと、常時記録と通常記録を同時に開始できる。

4 MENU > 記録/メディア設定 > 「常時記録」 > 「STBY」を選ぶ

- 常時記録が終了してタリーランプ（前面）は消灯して、POWER LED／タリーランプ（背面）は緑色に点灯する。画面の表示は「CONT」に変わる。
- 通常記録も同時に停止する。

5 記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「通常記録」を選ぶと常時記録モードが終了する

MEMO

- SDカードの状況によって常時記録を実行できない場合、通常記録も行いません。
- CFexpressカードの空き容量がなくなっても、常時記録は継続します。
- 「常時記録」が「STBY」のときに、メイン記録形式をXF-AVC S／XF-HEVC S以外に変更すると、常時記録モードが解除されます。

フレーム記録を行う

記録フレーム数をあらかじめ設定して撮影を行うと、設定したフレーム数分の映像を記録します。RECボタンを押すたびに設定されたフレーム数分記録され、フレーム記録モードを終了するまでに記録された映像が1つのクリップになります。記録中、音声は記録されません（ミュート）。撮影時は、本体を三脚などに固定してリモートで操作することをおすすめします。

設定操作はダイレクトタッチコントロール（□ 60）で行うこともできます。

1 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「フレーム記録」を選ぶ

- 画面に「FRM STBY」（FRMが点滅）が表示され、フレーム記録モードになる。

2 MENU > 記録/メディア設定 > 「フレーム記録 フレーム数」 > いずれかを選ぶ

3 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- タリーランプ（前面）は赤色に、POWER LED／タリーランプ（背面）は緑色から赤色に点灯する。
- 撮影中は画面の「FRM STBY」が「FRM ● REC」に変わる。
- 設定したフレーム数分のフレームが記録され、画面の表示が「FRM ● STBY」に変わる。

4 操作3を繰り返して、撮影する

5 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「通常記録」を選ぶと、フレーム記録モードを終了する

- フレーム記録モードが終了する。この間に撮影したフレームは、すべて結合して1つのクリップとして記録される。
- タリーランプ（前面）は消灯して、POWER LED／タリーランプ（背面）は緑色に点灯する。画面の表示は「STBY」に変わる。

MEMO

- スロー & ファストモーション記録やブレ記録、インターバル記録、常時記録と同時に使用できません。
- フレームレートを59.94iまたは50.00iに設定しているときは、使用できません。また、フレーム記録モードのときにフレームレートを59.94iまたは50.00iに設定すると、フレーム記録モードが解除されます。
- フレーム記録モードで撮影中に、記録フレーム数を変更することはできません。
- クリップの末尾に、フレーム記録モードを終了したときの最終フレームと同じ映像が記録されることがあります。
- **フレーム記録中のタイムコードについて**
 - Rec Run（レックラン）またはRegen.（リジェネ）で記録され、記録フレーム数ずつ歩進する。
 - Free Run（フリーラン）またはタイムコード入力している状態でフレーム記録モードにすると、強制的にRec Runに設定される。
 - フレーム記録モードを解除すると、元のタイムコードの設定に戻る。
 - タイムコードは、いずれの端子からも出力されない。

インターバル記録を行う

記録間隔と記録フレーム数をあらかじめ設定して撮影を行うと、間欠的に映像を自動記録できます。記録中、音声は記録されません（ミュート）。

設定操作はダイレクトタッチコントロール（ 60）で行うこともできます。

1 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」> 「インターバル記録」を選ぶ

- 画面に「INT STBY」（INTが点滅）が表示され、インターバル記録モードになる。

2 MENU > 記録/メディア設定 > 「インターバル記録 時間間隔」> いずれかを選ぶ

3 MENU > 記録/メディア設定 > 「インターバル記録 フレーム数」> いずれかを選ぶ

4 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- タリーランプが赤色に点灯する。
- 撮影中は画面の「INT STBY」が「INT ● REC」に変わる。
- 設定した記録間隔おきに、設定したフレーム数分のフレームが、自動的に記録される。

5 もう一度RECボタンを押して、撮影を停止する

- タリーランプ（前面）は消灯して、POWER LED／タリーランプ（背面）は緑色に点灯する。画面の表示は「INT STBY」（INTが点滅）に変わる。

6 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」> 「通常記録」を選ぶと、インターバル記録モードを終了する

MEMO

- スロー & ファストモーション記録やプレ記録、フレーム記録、常時記録と同時に使用できません。
- フレームレートを59.94iまたは50.00iに設定しているときは、使用できません。また、インターバル記録モードのときにフレームレートを59.94iまたは50.00iに設定すると、インターバル記録モードが解除されます。
- インターバル記録モードで撮影中に、記録間隔やフレーム数を変更することはできません。
- クリップの末尾に、インターバル記録モードを終了したときの最終フレームと同じ映像が記録されることがあります。
- **インターバル記録中のタイムコードについて**
 - Rec Run（レックラン）またはRegen.（リジェネ）で記録され、記録フレーム数ずつ歩進する。
 - Free Run（フリーラン）またはタイムコード入力している状態でインターバル記録モードにすると、強制的にRec Runに設定される。
 - インターバル記録モードを解除すると、元のタイムコードの設定に戻る。
 - タイムコードは、いずれの端子からも出力されない。

アナモフィックレンズで撮影する

本機にアナモフィックレンズを装着して撮影できます。撮影中および再生時、モニター画面では、メニューで設定した倍率で横方向に拡大した映像を確認できます。

1 アナモフィック表示の出力先を選び、有効にする

MENU >  モニタリング設定 > 「アナモフィック: XXXXX」いずれかを選ぶ > 「入」を選ぶ

2 MENU > モニタリング設定 > 「アナモフィックデスクイーズ」> いずれかを選ぶ

- 「x2.0」(2倍)、「x1.8」(1.8倍)、「x1.5」(1.5倍)または「x1.3」(1.3倍)を選ぶと、映像が横方向に拡大される。「レンズスクイーズ連動」を選ぶと、MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「レンズスクイーズ」の設定に連動する。

3 必要に応じて、MENU > モニタリング設定 > 「S&F時デスクイーズ」> 「縮小表示」または「切」を選ぶ

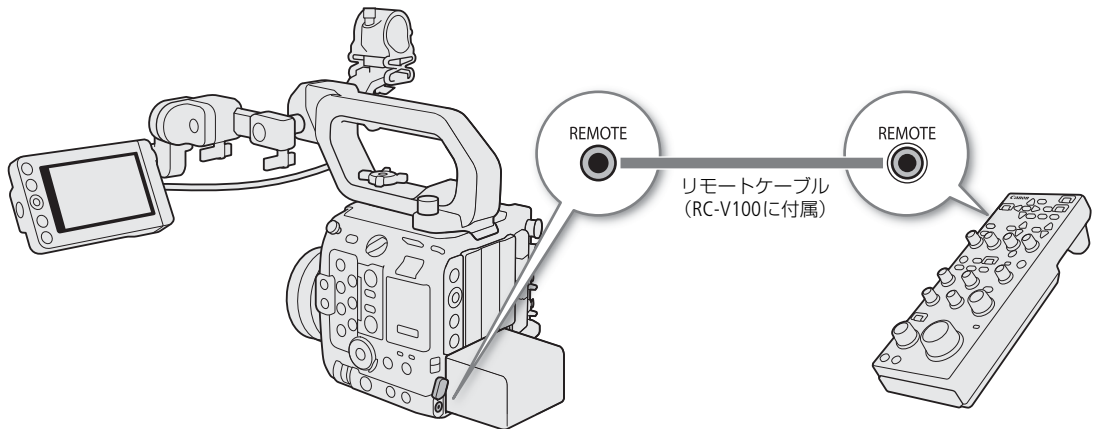
- スロー & ファストモーション記録モードが有効のとき、「縮小表示」を選ぶと、横方向に拡大した映像が縮小して表示される。「切」を選ぶと、横方向の拡大や縮小を行わずに映像を表示する。

MEMO

- MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「レンズスクイーズ」で、アナモフィックレンズの横方向のスクイーズ倍率をメタデータとして記録できます。
- 通常記録モードで撮影している場合、HDMI OUT端子またはSDI OUT端子（12G-SDI）から4096×2160または3840×2160の映像を59.94Pや50.00Pで出力しているときに次のとおり出力される。
「アナモフィック：MON./HDMI」が「入」のとき：1920×1080
「アナモフィック：SDI」が「入」のとき：2048×1080、1920×1080
- SDI OUT端子（12G-SDI）から4096×2160を出力している場合、次の条件がすべて揃ったときは2048×1080で出力される。
 - 「アナモフィック：SDI」が「入」
 - 「センサーモード」が「フルサイズ」
 - 「メイン記録形式」が「RAW」
 - 「フレームレート」が「29.97P / 23.98P / 25.00P / 24.00P」のいずれか
- 静止画やブラウザーリモートのライブビュー映像は、横方向に拡大できません。

リモートコントローラー RC-V100（別売）でリモート撮影する

本機のREMOTE端子にリモートコントローラー RC-V100（別売）を接続すると、リモートで操作できます。電源の入／切やメニュー操作に加えて、撮影時は、アイリス、シャッターなどのカメラ設定や、ニー、シャープネスなどの画質調整ができます。接続のしかたやRC-V100の詳細については、RC-V100の説明書をご覧ください。



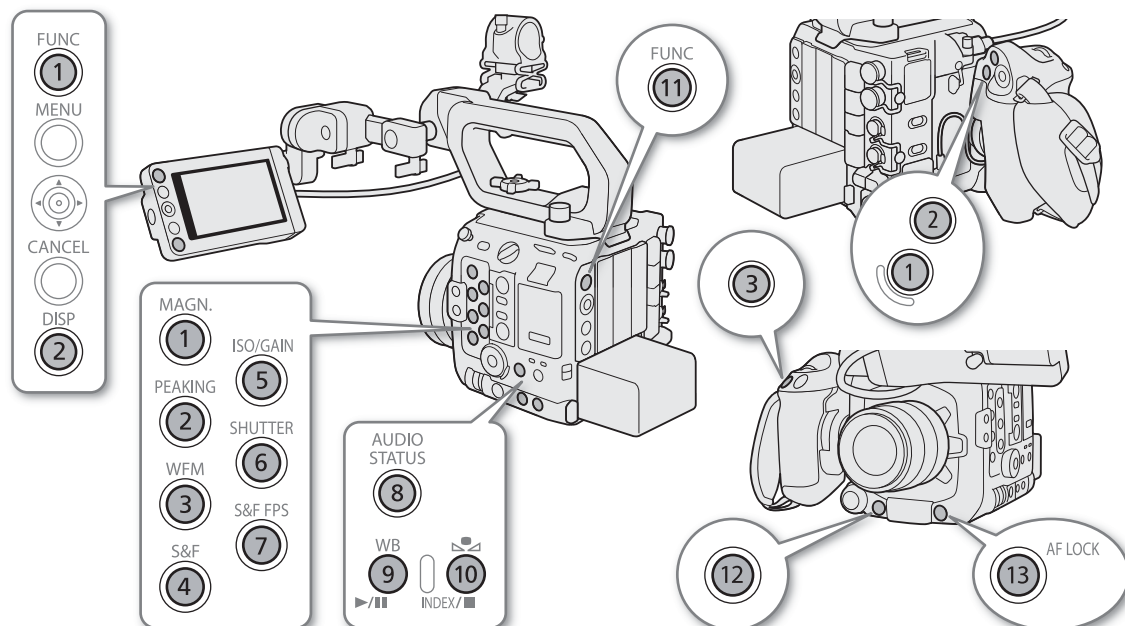
- 1 本機の電源を切って、RC-V100を本機につなぐ
 - 2 本機をカメラモードで起動する
 - 3 MENU >  システム設定 > 「REMOTE端子」> 「RC-V100 (REMOTE A)」を選ぶ
- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| RC-V100 (REMOTE A) : | RC-V100をリモートケーブルと接続して使用するときを選ぶ。 |
| スタンダード : | 市販のリモコンを使用するときを選ぶ。 |

MEMO

- AUTO KNEEボタン、AFボタンは本機で動作しません。
- AUTO IRISボタンは、オートアイリスに対応するレンズ（ 253）を装着しているときのみ使用可能です。
- ZOOMダイヤルは、ズーム調整に対応するレンズ（ 253）を装着しているときのみ使用可能です。

アサインボタン

使用頻度の高い機能をアサインボタンに割り当てて、カスタマイズすることができます。



アサインボタンの機能を変更する

1 MENUボタンを押しながら、機能を割り当てるアサインボタンを押す

- アサインボタンに割り当てる機能選択画面が表示される。
- アサインボタンメニューから機能を変更したいアサインボタンを選んで表示することもできる。

2 任意の機能を選ぶ

- 選んだ機能がアサインボタンに割り当てられる。
- 「ユーザー設定」を選んだときは次の操作に進む。

3 割り当てるメニュー項目を選ぶ画面になるので、任意のメニュー項目を選ぶ

- 「ユーザー設定」が選んだメニュー項目の名称（先頭に **MENU** が付く）に変わる。

MEMO

- アサインボタンに割り当てられた機能は、ステータス画面で確認できます（ 210）。
- **MENU** > システム設定 > 「リセット」 > 「アサインボタン」で、アサインボタンの割り当てを初期状態に戻すことができます。
- **MENU** > アサインボタン > 「カメラ本体に連動」に「する」を選ぶと、カメラのアサインボタン1～4に割り当てた機能をRC-V100やRC-IP100／RC-IP1000、リモートカメラコントロールアプリ、Multi-Camera Controlのアサインボタン1～4にも割り当てることができます。

アサインボタンを使う

必要なときに、機能を割り当てたアサインボタンを押して使用します。アサインボタンを押すと、画面に機能の詳細項目を選ぶメニューが表示されることがあります。そのときは、ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して項目を選んでください。

使用可能な機能

アサインボタンには次の機能を割り当てることができ、カメラモードとメディアモードでそれぞれ個別に設定できます。使用可能な機能は、下表のようにモードによって異なります。

機能名	内容	CAMERA	MEDIA
One-Shot AF ^{*1}	ワンショットAFを実行する。	●	
AFロック	AFロックの入／切を切り換える。	●	
AFロック（押下時有効）	「AFロック（押下時有効）」は、押している間だけAFロックが有効になる。	●	
AF枠	AF枠の大きさを切り換える。	●	
フォーカスモード	フォーカスモードのAF／MFを切り換える。	●	
顔検出AE	顔検出AEの入／切を切り換える。	●	
被写体検出AF	被写体検出AFの検出優先／検出限定を切り換える。	●	
検出する被写体	検出する被写体を切り換える	●	
瞳検出	瞳検出の入／切を切り換える。	●	
追尾	追尾の入／切を切り換える。	●	
フォーカスガイド	デュアルピクセルフォーカスガイドの入／切を切り換える。	●	
フォーカスポジションマーカー 1 ^{*1} フォーカスポジションマーカー 2 ^{*1} フォーカスポジションマーカー 3 ^{*1}	MENUで設定した「マーカー 1色～マーカー 3色」を、フォーカスポジションマーカーとして登録する。	●	
ピーキング: すべて ピーキング: VIDEO端子 ピーキング: MON./HDMI ピーキング: SDI	ピーキングの入／切を切り換える。	●	
Magnification Magnification: VIDEO端子 Magnification: MON./HDMI Magnification: SDI	拡大表示の入／切を切り換える。	●	
デジタルテレコン	デジタルテレコンの x 1.5／x 2.0／x 2.5／x 3.0／切を切り換える。	●	
プッシュオートアイリス ^{*1}	プッシュオートアイリスを実行する。	●	
アイリスモード	アイリスのモードを切り換える。	●	
アイリス+	絞り値を調整する。押すたびに、絞りを開く。	●	
アイリス-	絞り値を調整する。押すたびに、絞りを絞る。	●	
ND +	NDフィルターを正順（濃くなる方向）に切り換える。	●	
ND -	NDフィルターを逆順（薄くなる方向）に切り換える。	●	
クリアスキャン自動設定	クリアスキャン自動設定の画面に移動する	●	
BaseISO	Base ISOの設定を切り換える。	●	
ISO/ゲインモード	オート／マニュアルを切り換える。	●	
AEシフト +	露出を明るめに調整する。	●	
AEシフト -	露出を暗めに調整する。	●	
バックライト	測光方式のバックライトの入／切を切り換える。	●	
スポットライト	測光方式のスポットライトの入／切を切り換える。	●	

アサインボタン

機能名	内容	CAMERA	MEDIA
ゼブラ: すべて ゼブラ: VIDEO端子 ゼブラ: MON./HDMI ゼブラ: SDI	ゼブラパターン表示の入/切を切り換える。	●	
WFM: すべて WFM: VIDEO端子 WFM: MON./HDMI WFM: SDI	WFM機能の表示の入/切を切り換える。	●	●
LUT: すべて LUT: VIDEO端子 LUT: MON. LUT: HDMI LUT: SDI	LUTの入/切を切り換える。	●	●
フォルスカラー: すべて フォルスカラー: VIDEO端子 フォルスカラー: MON./HDMI フォルスカラー: SDI	フォルスカラーの入/切を切り換える。	●	
フォルスカラーインデックス	フォルスカラーインデックス表示の入/切を切り換える。	●	
ホワイトバランス	WBモードを選択する。	●	
ホワイトバランスセット	ホワイトバランスセットの白取り込みを実行する。	●	
AWBホールド* ¹	オートホワイトバランスのホールドの入/切を切り換える。	●	
 AWB	ホワイトバランスの調整方法をオートホワイトバランスに変更する。	●	
 セットA /  セットB	ホワイトバランスの調整方法をセットAまたはセットBに変更する。	●	
 太陽光	ホワイトバランスの調整方法を太陽光に変更する。	●	
 電球	ホワイトバランスの調整方法を電球に変更する。	●	
 Kelvin	ホワイトバランスの調整方法を色温度に変更する。	●	
レンズ光学IS	レンズ光学ISの入/切を切り換える。	●	
電子IS	電子手ブレ補正（電子IS）の入/切を切り換える。	●	
電子IS一時停止	「電子IS一時停止」は、押している間だけ、電子ISがOffになる。		
LCD設定	 モニタリング設定メニューのサブメニューを表示する。	●	●
オンスクリーン表示: MON./HDMI オンスクリーン表示: SDI	出力映像に画面表示を重畳する/しないを切り換える。	●	●
オンスクリーン透過: すべて オンスクリーン透過: VIDEO端子 オンスクリーン透過: MON./HDMI オンスクリーン透過: SDI	オンスクリーン透過の入/切を切り換える。	●	●
DISP	画面の表示レベルを切り換える。	●	●
オンスクリーン表示方向: VIDEO端子	オンスクリーン表示方向を、標準→90度回転→270度回転の順に切り換える。	●	
マーカー: すべて マーカー: VIDEO端子 マーカー: MON./HDMI マーカー: SDI	マーカーの入/切を切り換える。	●	●
カラーバー	カラーバーの入/切を切り換える。	●	
IPストリーミング	IPストリーミングの入/切を切り換える。	●	
Photo* ¹	静止画を記録する。	●	

機能名	内容	CAMERA	MEDIA
レックレビュー* ¹	カメラモードのままで、最後に撮影したクリップを再生する。	●	
Time Code	🔊 システム設定の「Time Code」サブメニューを表示する。	●	
Shot Mark追加* ¹	ショットマークを付加する。	●	●
OK Mark追加	OKマークを付加する。	●	●
☑ Mark追加	チェックマークを付加する。	●	●
ヘッドホン+	ヘッドホンの音量を大きくする。	●	●
ヘッドホン-	ヘッドホンの音量を小さくする。	●	●
モニターチャンネル	Ω (ヘッドホン) 端子から出力される音声のチャンネルを切り換える。押すたびに出力チャンネルが切り換わる。	●	●
オーディオレベル	オーディオレベルメーター表示の入/切を切り換える。	●	●
FUNC	FUNCボタンの機能を割り当てる。	●	
Slow & Fastモーション	スロー & ファストモーション記録モードに切り換える。	●	
Slow & Fastフレームレート	スロー & ファストモーション記録モードのときに、スロー & ファストモーション記録の撮影フレームレート設定に切り換える。	●	
出力: 60⇄60(24)fps* ¹ * ² 出力: 60⇄60(30)fps* ¹ * ²	フレームレートが59.94Pまたは59.94iのときに、出力端子/画面の映像を24 fps (または30 fps) 相当にする/しないを切り換える。	●	
RET* ¹	リターン映像を表示する/しないを切り換える。	●	
RET (押下時有効) * ¹	ボタンを押している間、リターン映像を表示させる。	●	
アイリス	カメラダイレクト設定のアイリス設定に切り換える。	●	
シャッター	カメラダイレクト設定のシャッタースピード設定に切り換える。	●	
ISO/ゲイン	カメラダイレクト設定のISO感度/ゲイン設定に切り換える。	●	
ステータス* ¹	ステータス画面を表示する。	●	●
オーディオステータス	オーディオ専用のステータス画面を表示する	●	●
MENU	メニューを表示する。	●	●
Custom Picture	CP Custom Picture設定メニューを表示する。	●	
マイメニュー	マイメニューを表示する。	●	
メディア初期化	メディア初期化メニューを表示する。	●	●
再生/一時停止	再生/再生一時停止を切り換える		●
INDEX/レジューム解除	インデックス画面を切り換える。再生中断時のフレーム位置を保持しているクリップを選んで「レジューム解除」を行うと、フレーム位置を解除する。		●
INDEX			●
スロット選択	カードスロットを切り換える。	●	●
ファイル選択	クリップファイルを選択する。		●
絞り込み	クリップファイルの絞り込みをする/しないを切り換える。		●
REC	RECボタンの機能を割り当てる。アサイン12ボタンにのみ割り当て可能。	●	
CAMERA⇄MEDIA* ³	カメラモードとメディアモードを切り換える。	●	●
ユーザー設定* ¹	任意のメニュー項目を表示する。	●	●

*¹ アサインボタンのみの機能。*² スロー & ファストモーション記録モード時は使用できない。*³ 「ブラウザーリモート/XCプロトコル」には設定できない。「カメラ本体に連動」を「する」に設定した場合でも、ブラウザーリモートまたはXCプロトコルからの操作では動作しない。

カスタムピクチャーを使用する

撮影条件に合わせる、意図的に効果をつけるなど画質を調整するためのさまざまな設定を行うことができます。調整した設定値はカスタムピクチャーファイルとして本機やSDカードに保存し、必要に応じて再利用できます。また、カスタムピクチャーを設定して撮影すると、カスタムピクチャーファイルをクリップと一緒に保存できます（□ 133）。カスタムピクチャーファイルは本機とSDカードに20セット保存でき、本機とSDカードとの間で相互にコピーできます。なお、カスタムピクチャーの設定は、記録されるRAW記録には影響しません。

カスタムピクチャーファイルを選ぶ

撮影に使用するカスタムピクチャーファイルを選択します。あらかじめ、画質設定をカスタムピクチャーファイルとして登録しておくと、リストから選ぶだけで希望の画質に調整することができます。カスタムピクチャーファイルの編集／登録、名称変更、プロテクト、コピーを行うときも、その対象となるカスタムピクチャーファイルを選びます。

1 MENU > Custom Picture > 「 ファイル選択」を選ぶ

- カスタムピクチャーの選択画面が表示される。
- 本機に保存されているカスタムピクチャーファイル（C1～C20）が選択可能になる。
- SDカードに入っているカスタムピクチャーファイルを使うときは、あらかじめ本機にコピーする（□ 133）。

2 いずれかのカスタムピクチャーファイルを選ぶ

- 選んだカスタムピクチャーファイルに登録されている設定に調整される。

プリセットされたカスタムピクチャーについて

初期状態では、C1～C20に次の組み合わせのプリセットが用意されています。C1からC9のカスタムピクチャーファイルは、プロテクトされているため、設定を変更するときはプロテクトの解除が必要です。

	Gamma/Color Space (ガンマ／色空間)	Color Matrix (カラーマトリクス)	Look ファイル	特長
C1:Canon 709	Canon 709 / BT.709	Neutral	—	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。広いダイナミックレンジを確保しつつ、コントラストのある、「撮って出し（ポスト処理無しでの使用）」にも適したルック。
C2:Canon Log 2	Canon Log 2 / C.Gamut	Neutral	—	ポストプロダクション処理を前提としたCanon Log 2ガンマを使用。暗部の階調性が高い。
C3:Canon Log 3	Canon Log 3 / C.Gamut	Neutral	—	ポストプロダクション処理を前提としたCanon Log 3ガンマを使用。Canon Logの特徴を残したままダイナミックレンジを拡大した。
C4:BT.709 Wide DR	BT.709 Wide DR / BT.709	Neutral	—	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。広いダイナミックレンジを実現。
C5:BT.709 Standard	BT.709 Standard / BT.709	Video	—	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。ITU-R BT.709規格に準拠したガンマを使用。
C6:PQ	PQ / BT.2020	Neutral	—	ITU-R BT.2100 (PQ)規格に準拠したガンマを使用。
C7:HLG	HLG / BT.2020	Neutral	—	ITU-R BT.2100 (HLG)規格に準拠したガンマを使用。
C8:EOS Standard	BT.709 Wide DR / BT.709	Neutral	入	レンズ交換式デジタル一眼カメラEOSでピクチャースタイル「スタンダード」を選択した場合の画質を再現する設定。

	Gamma/Color Space (ガンマ/色空間)	Color Matrix (カラーマトリクス)	Look ファイル	特長
C9:EOS Neutral	BT.709 Wide DR / BT.709	Neutral	入	レンズ交換式デジタル一眼カメラEOSでピクチャースタイル「ニュートラル」を選択した場合の画質を再現する設定。
C10:User10～ C20:User20	Canon 709 / BT.709	Neutral	－	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。広いダイナミックレンジを確保しつつ、コントラストのある、「撮って出し（ポスト処理無しでの使用）」にも適したルック。

MEMO

● Canon Log 2やCanon Log 3を使用する

- ポストプロダクション処理を前提とするガンマで、撮像素子の特性を最大限に引き出す広いダイナミックレンジを実現できます。
- 撮影中、LCDモニターや映像出力端子の出力にLUTを適用し、モニタリングに適したガンマ/色空間に変換できます。
- 撮影したクリップをポストプロダクション処理する際、LUT（ルックアップテーブル）*を適用できます。
* 最新のLUTデータについては、キャノンのホームページでご確認ください。

● リモートコントローラー RC-V100（別売）を使うとき：

- リモートコントローラー RC-V100（別売）のCUSTOM PICT.ボタンを押して、 Custom Pictureメニューを表示することもできます。
- プロテクトしたカスタムピクチャーファイルを選んでいると、カスタムピクチャーの設定をRC-V100から調整できません。
- RC-V100で画質の調整を行うと、選択中のカスタムピクチャーファイルの設定が変更/登録されます。大切なカスタムピクチャーファイルはSDカードにコピーし、変更しても良いカスタムピクチャーファイルを選んでから、RC-V100で調整してください。

カスタムピクチャーファイルを編集する

撮影時に使用する画質設定を行いカスタムピクチャーファイルに保存します。

1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ（ 130）

2 MENU > Custom Picture > 「 ファイル編集」を選ぶ

- プロテクトされていないカスタムピクチャーファイルを選ぶ。

3 画質調整の設定を行う

 参考 ▶ カスタムピクチャーの設定項目（ 134）

カスタムピクチャーファイルの名前を変更する

1 MENU > Custom Picture > 「 ファイル編集」> 「名称変更」> 「Input」を選ぶ

2 最大16文字の英数字・記号で名前を入力する（ 38）

- カスタムピクチャーファイルの名前が変更される。

カスタムピクチャーファイルをプロテクトする

必要に応じて、カスタムピクチャーファイルをプロテクトすることができます。

1 プロテクトするカスタムピクチャーファイルを選ぶ（ 130）

2 MENU > Custom Picture > 「 ファイル編集」> 「プロテクト」> 「プロテクト」を選ぶ

- カスタムピクチャーファイル名にが表示される。
- プロテクトを解除するときは「プロテクト解除」を選ぶ。

カスタムピクチャーファイルをリセットする

選択しているカスタムピクチャーファイルの設定を初期状態に戻します。

1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ (130)

2 MENU > **CP** Custom Picture > 「**CP** ファイル編集」> 「リセット」を選ぶ

3 プリセットのいずれかを選ぶ > 「OK」を選ぶ

- カスタムピクチャーファイルが、選択したプリセットの設定に初期化される。

Lookファイルで画質を調整して記録する

Blackmagic Design社のDaVinci Resolveで作成したLUTファイル（以下「Lookファイル」と呼ぶ）をカスタムピクチャーファイルに登録すると、記録する映像の画質をLookファイルで調整できます。調整は、プロキシ動画や静止画、画面／出力端子の映像にも適用されます。

1 SDカードのルートフォルダーにLookファイルを格納し、本機のSDカードスロットにカードを入れる

2 カスタムピクチャーファイルを選ぶ (130)

3 MENU > **CP** Custom Picture > 「**CP** ファイル編集」> 「Gamma/Color Space」> いずれかを選ぶ

4 MENU > **CP** Custom Picture > 「**CP** ファイル編集」> 「Look File設定」> 「登録」を選ぶ

- SDカード内のLookファイルが表示される。

5 いずれかのLookファイルを選ぶ

6 Lookファイルの適用後のガンマ／色空間を選ぶ

7 「OK」を選ぶ

- Lookファイルが読み込まれ、カスタムピクチャーファイルに登録される。
- 続いて、Lookファイルによる画質調整が有効になり、画面に**LOOK**が表示される。
- Lookファイルによる画質調整を無効にするときは、MENU > **CP** Custom Picture > 「**CP** ファイル編集」> 「Look File」> 「切」を選ぶ。

MEMO

Lookファイルについて

- Blackmagic Design社のDaVinci Resolveで作成した17グリッドまたは33グリッドのLUTファイル（3D LUT／.cube形式）を使用できる。
- ヘッダー部の「LUT_3D_INPUT_RANGE」に、0～1以外の入力レンジを定義しているLUTファイルは使用できない。
- データ部に、0～1以外の値が含まれるLUTファイルは使用できない。
- ファイルサイズが2MB以上、またはファイル名が65文字（拡張子を含む）以上のLUTファイルは使用できない。
- ファイル名に使用可能な文字： 0～9、a～z、A～Z、「_」（アンダーバー）、「-」（ハイフン）、「.」（ドット）、「」（半角スペース）
- Lookファイルは、SDカードの直下（ルートディレクトリ）に保存してください。
- 入力／出力のガンマ／色空間が正しく選択されていないと、正しく変換されません。
- Lookファイルに登録後、「Gamma/Color Space」、「HLG Color」、「White Level 100%」、「Over 100%」を変更すると、登録したLookファイルを使用できません。
- 「Gamma/Color Space」のガンマが「BT.709 Standard」または「BT.709 Wide DR」の場合、スーパーホワイト（出力100%を超える信号）とスーパーブラック（出力0%未満の信号）はクリップされます。スーパーホワイトの信号を使用するときは、MENU > **CP** Custom Picture > 「**CP** ファイル編集」> 「Other Functions」> 「Over 100%」で「Press」を選んだ上でLookファイルを有効にして、100%に圧縮した信号に対してLookファイルを適用します。
- RAWクリップの再生時、撮影時のLookファイルは適用されません（サムネイルには適用されます）。

Lookファイルを消去する

カスタムピクチャーファイルに登録したLookファイルを消去できます。

- 1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ (□ 130)
- 2 MENU > **CP** Custom Picture > 「**CP** ファイル編集」> 「Look File設定」> 「消去」> 「OK」を選ぶ
 - Lookファイルが消去され、Lookファイルによる画質調整が無効になる。

カスタムピクチャーファイルを保存する

カスタムピクチャーファイルをコピーする

本機とSDカードとの間で、カスタムピクチャーファイルを相互にコピーすることができます。

カスタムピクチャーファイルをコピーする

- | | |
|--------------|---|
| SDカードへ保存： | 選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードに保存する。新規に追加するか、既存のカスタムピクチャーファイルを上書きするかを選ぶことができる。 |
| SDカードから読み出し： | 選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードのカスタムピクチャーファイルで上書きする。 |

選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードに保存する

- 1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ (□ 130)
- 2 MENU > **CP** Custom Picture > 「**CP** ファイル保存」> 「SDカードへ保存」を選ぶ
- 3 SDカード内のコピー先となるカスタムピクチャーファイルまたは「新規ファイル」*を選ぶ
 - * SDカード内のカスタムピクチャーファイルが20セット未満のときは、「新規ファイル」が表示される。
- 4 「OK」を選ぶ
 - 選択中のカスタムピクチャーファイルがSDカードにコピーされる。
 - 「新規ファイル」を選んだときは、自動的に最後に追加される。

選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードのカスタムピクチャーファイルで置き換える

- 1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ (□ 130)
- 2 MENU > **CP** Custom Picture > 「**CP** ファイル保存」> 「SDカードから読み出し」を選ぶ
- 3 SDカード内のコピー元となるカスタムピクチャーファイルを選ぶ
- 4 「OK」を選ぶ
 - 選択中のカスタムピクチャーファイルが置き換わる。

カスタムピクチャーファイルをクリップと一緒に保存する

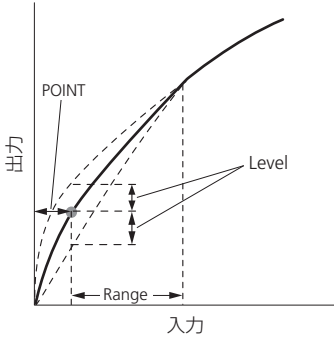
画質調整の設定を行ったあと撮影すると、カスタムピクチャーファイルがクリップと一緒に保存されます。

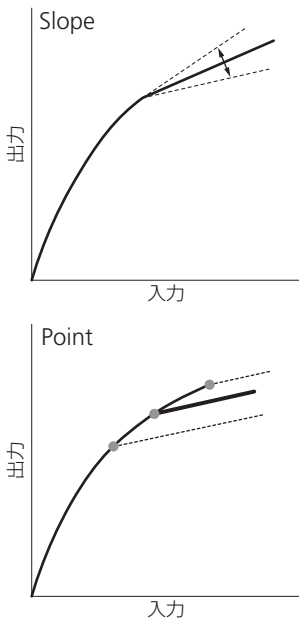
- 1 MENU > **📷** 記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「**CP** ファイル付加」を選ぶ > 「入」を選ぶ

カスタムピクチャーの設定項目

カスタムピクチャーで設定できる項目について説明します。初期設定は太字で記載しています。

設定項目	設定値／内容
Gamma/Color Space	Canon Log 2 / C.Gamut、Canon Log 3 / C.Gamut、Canon Log 3 / BT.2020、Canon Log 3 / BT.709、Canon 709 / BT.709、BT.709 Wide DR / BT.709、BT.709 Standard / BT.709、PQ / BT.2020、HLG / BT.2020 ガンマと色空間の組み合わせを選択する。 ガンマ Canon Log 2 : Canon Log に対して、暗部の階調表現をより豊かにしたガンマ。ポストプロダクション処理が前提。 Canon Log 3 : Canon Log の特徴を残したまま、ダイナミックレンジを広くしたガンマ。ポストプロダクション処理が前提。 PQ : ITU-R BT.2100(PQ)規格に準拠したガンマ。 HLG : ITU-R BT.2100(HLG)規格に準拠したガンマ。 BT.709 Wide DR : 広いダイナミックレンジを確保。BT.709準拠モニターに出力するとき。従来の「Wide DR」と同等。 BT.709 Standard : ITU-R BT.709規格に準拠したガンマ。BT.709準拠モニターで見るとき。従来の「Normal 3」と同等。 Canon 709 : 広いダイナミックレンジを確保しつつ、コントラストのある「撮って出し（ポスト処理無しでの使用）」にも適したガンマ。BT.709準拠モニターに出力するとき。 色空間 Cinema Gamut : センサーの特性に基づいてキャノンが開発した色空間でBT.2020より広い色域をカバーする。ACES2065-1色空間に変換して使用する場合にも推奨。 BT.2020 Gamut : UHDTV (4K/8K) 用に規定されたITU-R BT.2020規格に準拠した色空間。ITU-R BT.2100規格もこの色空間を採用している。 BT.709 Gamut : sRGB規格に準拠した標準的な色空間。
Color Matrix	Neutral、Production Camera、Video Neutral : 忠実な色再現。 Production Camera : 映画制作作用の色再現。 Video : TV放送に適したコントラストのある色再現。
Look File	入、切 Lookファイルによる画質調整を有効にする。
Look File設定	
登録	Lookファイルをカスタムピクチャーに登録する。
消去	カスタムピクチャーに登録したLookファイルを消去する。
HLG Color	BT.2100、Vivid HLGの色味を設定する。「Gamma/Color Space」で「HLG / BT.2020」を選択時、有効。 BT.2100 : ITU-R BT.2100 相当。 Vivid : ITU-R BT.2390 記載のTraditional Colour 相当。

設定項目	設定値／内容
Black	
Master Pedestal	- 50～+50 (±0) 黒のレベルを調整する。値を高くするほど暗部が明るくなり、コントラストが弱くなる。マイナスの値にすると、黒が沈む。「Gamma/Color Space」のGammaにCanon Log 2またはCanon Log 3を選択時は、無効。
Master Black Red、Master Black Green、Master Black Blue	- 50～+50 (±0) 黒の色かぶりをRGB個別に補正する。「Gamma/Color Space」のGammaにCanon Log 2またはCanon Log 3を選択時は、無効。
Black Gamma	
Level	- 50～+50 (±0)
Range、Point	- 20～+50 (±0)  出力 POINT Level Range 入力 低輝度部のガンマを補正する。各値を変えることで、図の範囲内で黒側のガンマカーブを調整する。「Gamma/Color Space」のGammaにBT.709 Standardを選択時のみ有効。 Level：基準ガンマからの高さ Range：Pointからの幅 Point：頂点の位置
Low Key Saturation	
Activate	On、Off
Level	- 50～+50 (±0) 低輝度領域の色の濃い／薄いを調整する。 Activate：Onにすると、ローキーサチュレーションによる調整を有効にする。 Level：低輝度領域の色の濃さ、薄さを設定する。

設定項目		設定値／内容
Knee		
Activate		On、Off
White Level 100%		On、Off
Slope		-35～+50 (---)
Point		50%～100% (85%)
Saturation		-10～+10 (±0)
 高輝度部分に圧縮をかけて、とびの発生を抑える。「Gamma/Color Space」のGammaにBT.709 Standardを選択時のみ有効。 Activate：Onにすると、二ーの調整を有効にする。 White Level 100%：Pointを変更しても、出力を100%で抑えるように自動で調整する。 Slope：二ーの傾き。 Point：二ーポイント。「White Level 100%」が「Off」のときは、50%～109%の範囲で調整できる。 Saturation：高輝度部における色の濃さ・薄さ。		
Sharpness		
Level		-10～+50 (±0) 輪郭強調のレベルを調整する。
Detail Frequency		-8～+8 (±0) 輪郭強調の中心周波数を設定する。値を大きくするほど周波数が高くなり、輪郭強調は細くなる。
Coring Level		-30～+50 (±0) コアリングのレベル。大きくすると、微小な輪郭が強調されなくなり、ノイズを低減できる。
Limit		-50～+50 (±0) 輪郭強調の大きさを制限するレベルを調整する。
Noise Reduction		
Automatic		On、Off ノイズ低減効果を適応的に変更する。
Spatial Filter		Off、1～12 画像全体がソフトフォーカスをかけたようになりノイズを除去。Off以外に設定すると、残像は発生しないが、画面全体がソフトに表現される。
Frame Correlation		Off、1～3 前の画像（フィールド）と現在の画像を比較してノイズ成分を除去。Off以外に設定すると、解像感は落ちないが、動いている被写体では残像が出ることもある。

設定項目	設定値／内容
Skin Detail	
Effect Level	Off , Low, Middle, High
Hue	−16〜+16 (0)
Chroma, Area, Y Level	0〜31 (16)
	肌色部分のノイズを低減して肌を美しく撮影するための設定を行う。調整中、設定した肌色部分を検出すると、出力端子（VIDEO端子、MON.端子、SDI OUT端子、HDMI OUT端子）の出力映像上にゼブラパターンで表示する Effect Level：肌色を検出して、きれいな肌を演出するためのフィルターを調整する。調整は3段階のレベルで設定でき、Highがもっとも強く調整される。 Hue：検出する肌色の色相。 Chroma：検出する肌色の彩度。 Area：検出する肌色の色相の幅。 Y Level：検出する肌色の輝度レベル。
Color Matrix Tuning	
Gain	−50〜+50 (±0)
Phase	−18〜+18 (±0)
R-G、R-B、G-R、G-B、B-R、B-G	−50〜+50 (±0)
	映像の色調を微調整する。 Gain：色の濃さを調整する。 Phase：色相を調整する。 R-G：シアンからグリーン、レッドからマゼンタの色調を調整する。 R-B：シアンからブルー、レッドからイエローの色調を調整する。 G-R：マゼンタからレッド、グリーンからシアンの色調を調整する。 G-B：マゼンタからブルー、グリーンからイエローの色調を調整する。 B-R：イエローからレッド、ブルーからシアンの色調を調整する。 B-G：イエローからグリーン、ブルーからマゼンタの色調を調整する。
White Balance	
R Gain、G Gain、B Gain	−50〜+50 (±0)
	ホワイトバランスのシフト量を赤色の濃淡（R Gain）、緑色の濃淡（G Gain）、青色の濃淡（B Gain）で調整する。

設定項目	設定値／内容
Color Correction	
Select Area	Off 、Area A、Area B、Area A&B
Area A Setting Phase	0～31 (0)
Area B Setting Phase	
Area A Setting Chroma	0～31 (16)
Area A Setting Area	
Area A Setting Y Level	
Area B Setting Chroma	
Area B Setting Area	
Area B Setting Y Level	
Area A Revision Level	－50～+50 (±0)
Area B Revision Level	
Area A Revision Phase	－18～+18 (±0)
Area B Revision Phase	
特定の範囲の色調を補正する。調整中、設定した範囲の色調部分を検出すると、出力端子（VIDEO端子、SDI OUT端子、MON.端子、HDMI OUT端子）の出力映像上に設定した範囲以外を無彩色で表示する（Area A(B) Revision LevelまたはArea A(B) Revision Phaseの調整中を除く）。 Select Area：補正する色の範囲をAエリアとBエリアの2種類設定でき、補正はいずれかまたは両方を選択できる。 Area A (B) Setting Phase：AエリアまたはBエリアの色相を設定する。 Area A (B) Setting Chroma：AエリアまたはBエリアの彩度を設定する。 Area A (B) Setting Area：AエリアまたはBエリアの色相の幅を設定する。 Area A (B) Setting Y Level：AエリアまたはBエリアの輝度レベルを設定する。 Area A (B) Revision Level：AエリアまたはBエリアにおける、色の濃さの補正量を設定する。 Area A (B) Revision Phase：AエリアまたはBエリアにおける、色相の補正量を設定する。	
Other Functions	
Over 100%	Through、Press、Clip 100%を超える信号の出力のしかたを設定する。「Gamma/Color Space」のGammaにCanon Log 2、Canon Log 3、PQ、HLGまたはCanon 709を選択時は、無効。 Through：信号をそのまま出力する。 Press：108%までの信号全体を100%に圧縮する。 Clip：白レベルを100%でクリップする。

MEMO

- 設定値を変えたとき、メニューの設定によっては、画質調整の効果が得られないことがあります。
- リモートコントローラー RC-V100（別売）を接続すると、次の項目をRC-V100から調整できます。
 - BlackのMaster Pedestal、Master Black Red / Blue
 - Black GammaのLevel
 - KneeのSlope*、Point*
 - SharpnessのLevel
 - White BalanceのR Gain / B Gain
 - * KneeのActivateがOnのときのみ。

設定データの保存と読み出し

本機の各種の設定情報（設定データ）をカメラ本体またはSDカードに保存できます。設定データは、必要に応じて読み出して再利用できます。複数の同一の機種を同じ設定にするときに便利です。

設定データを保存する

1 MENU >  システム設定 > 「メニュー /  設定保存」> 「保存」を選ぶ

2 「カメラ本体へ」または「SDカードへ」> 「OK」を選ぶ

- 現在のメニュー設定やカスタムピクチャーが、選んだ保存先に保存される。保存されている設定データは、現在の設定で上書きされる。

設定データを読み込む

1 MENU >  システム設定 > 「メニュー /  設定保存」> 「読み出し」を選ぶ

2 「カメラ本体から」または「SDカードから」> 「OK」を選ぶ

- 設定データが本機に読み込まれる。読み込まれたあと、画面が一度消え、本機が再起動する。

MEMO

- 保存されない設定

- MENU >  カメラ設定 > 「ABB」、「カラーバー」
 - MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「News Metadata」、「User Memo」
 - MENU >  アシスト設定 > 「Magnification」、「Magnification出力先」、「フォルスカラーインデックス」
 - MENU >  アシスト設定 > 「波形モニター設定」> 「サイズ: VIDEO端子」
 - MENU >  ネットワーク設定 > 「詳細設定」の「FTP転送の設定」
 - MENU >  システム設定 > 「水準器基準設定」
- 設定データを読み込むとき、本機にプロテクトされたカスタムピクチャーファイルがあっても、上書きされます。

撮影データを再生する

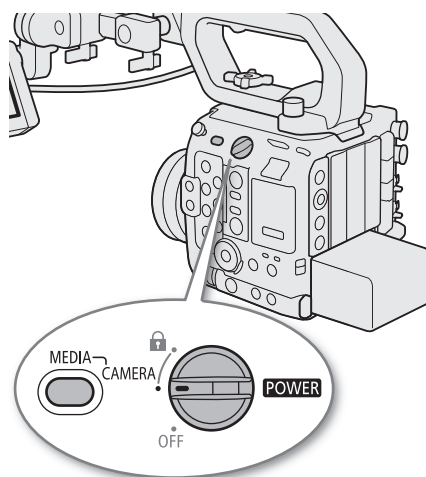
ここでは、撮影した映像（クリップ、静止画、WAV形式の音声）の再生について説明します。外部モニターに接続して再生するときは、「接続」（□ 150）をご覧ください。

インデックス画面

1 POWER（電源）スイッチを「CAMERA」にする

2 MEDIAボタンを押す

- 本機がメディアモードになり、クリップのサムネイル（縮小画像）がインデックス画面に表示される。



5～6、10～14には、選択しているクリップの情報が表示されます。

1 キーロック ▶▶ □ 11

- POWERスイッチを $\mathbf{\overline{\text{L}}}$ （キーロック）にしているときに表示される。

2 ショットマーク ▶▶ □ 116

- XF-AVC形式の動画にショットマークが追加されているときに表示される。

3 OKマーク／チェックマーク ▶▶ □ 116

- XF-AVC形式の動画にOKマークまたはチェックマークが追加されているときに表示される。

4 カーソル（オレンジ色の枠）

- カメラインデックス、リール番号、クリップ番号 ▶▶ □ 45

- | | |
|--|--|
| <p>6 収録日（年月日）と記録開始時間</p> <p>7 FTP転送</p> <p>8 記録メディア
CFexpressカード、SDカード（現在選択しているカードをハイライト表示する）</p> <p>9 動画形式</p> <p>10 クリップのサムネイル</p> <p>11 クリップ番号／クリップ総数</p> <p>12 収録日（月日）と記録開始時間</p> <p>13 記録開始フレームのタイムコード</p> <p>14 記録時間</p> | <p>15 カスタムピクチャー ▶▶ 133</p> <ul style="list-style-type: none"> • カスタムピクチャーと一緒に記録されているクリップに表示される。 <p>16 特殊記録 ▶▶ 120</p> <p>17 カラーサンプリングと解像度 ▶▶ 62</p> <ul style="list-style-type: none"> • RAW形式のときはRAWモード（HQ / ST / LT）と解像度を表示する。 <p>18 フレームレート ▶▶ 62</p> |
|--|--|

インデックス画面を切り換える

インデックス画面に表示する内容を選んで、インデックス画面を切り換えることができます。次のインデックス画面に切り換えることができます。

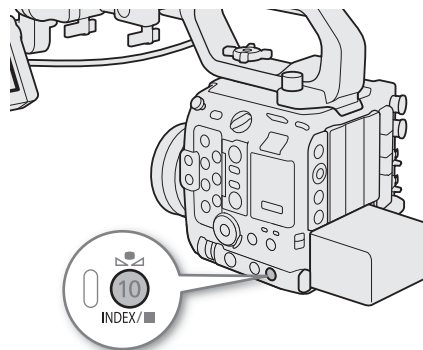
- RAW Index
- XF-AVC Index
- XF HEVC S / XF-AVC S Index
- Photo Index（静止画）
- WAV Index（WAV形式の音声）

1 INDEX（インデックス）ボタンを押す

- インデックス画面を表示中にINDEXボタンを押すと、インデックスメニューが表示される。

2 いずれかのインデックス画面を選ぶ

- 選んだインデックス画面に切り換わる。
- 切り換えを中止するときは「キャンセル」を選ぶ。



再生する

インデックス画面で選んだクリップや静止画を再生します。再生にはカメラ本体の各種再生操作ボタンを使用します。カメラ本体のボタン操作では再生／一時停止、停止が行えるほか、ジョイスティックで操作することもできます。

1 カーソル(オレンジ色の枠)を、再生したいクリップまたは静止画に合わせる

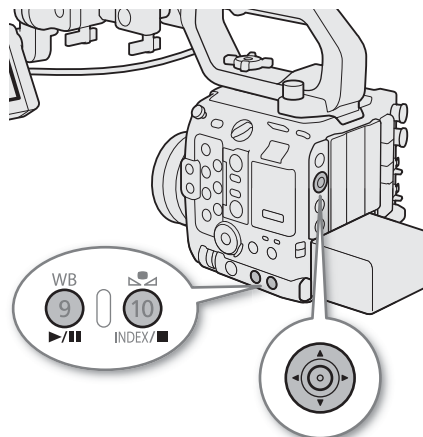
2 ►/■ (再生／一時停止) ボタンを押す

動画のとき

- 選んだクリップの再生が始まる。
- 再度、►/■ ボタンを押すと再生一時停止となる。
- ■ (停止) ボタンを押すと再生が終わる。

静止画のとき

- 静止画が再生される (1枚表示される)。
- ジョイスティックを左または右に押すと、前の静止画または次の静止画に移動する。
- ■ ボタンを押すと、再生を終えてインデックス画面に戻る。



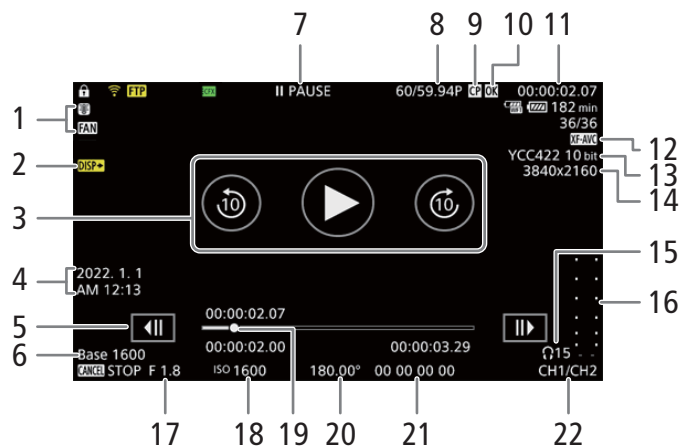
RAWクリップの再生時の画質／カスタムピクチャー設定について

- 撮影時の「Gamma/Color Space」の設定で再生され、カラーマトリクスは Neutral となる。
- シャープネスは「-10」のときと同様となり輪郭強調されない。
- その他の設定は Off となる。

MEMO

- 次の静止画は正しく再生されないことがあります。
 - 本機以外の製品で記録したとき。
 - パソコンで作成や加工、ファイル名の変更をしたとき。

再生時の画面表示



1 内部温度、ファン ▶▶ 47

2 画面表示出力

3 再生ボタン ▶

10秒送りボタン ⏭

10秒戻しボタン ⏮

4 収録日と記録時刻*1

5 コマ戻しボタン ◀◀

コマ送りボタン ▶▶

6 Base ISO

7 再生状況

▶ PLAY 再生中

⏸ PAUSE 再生一時停止中

10 sec ▶▶ 10秒送り

◀◀ 10 sec 10秒戻し

◀◀/▶▶ コマ戻し/コマ送り

F FWD x5 早送り (5倍速)

F FWD x15 早送り (15倍速)

F FWD x60 早送り (60倍速)

F REV x5 早戻し (5倍速)

F REV x15 早戻し (15倍速)

F REV x60 早戻し (60倍速)

8 撮影フレームレート*2/フレームレート ▶▶ 62

9 カスタムピクチャー ▶▶ 130

10 OKマーク*3/チェックマーク*3/プロキシ動画
▶▶ 68、146

11 タイムコード ▶▶ 99

12 動画形式

13 カラーサンプリングと色深度

14 解像度

15 ヘッドホン音量

16 オーディオレベルメーター*4

17 絞り値*5 ▶▶ 78

18 ISO感度/ゲイン*5 ▶▶ 73

19 シークバー

20 シャッタースピード*5 ▶▶ 70

21 ユーザービット ▶▶ 101

22 音声出力チャンネル ▶▶ 105

*1 モニタリング設定 > 「Custom Display」 > 「日付/時刻」が「入」のときのみ。

*2 スロー & ファストモーション記録で記録されたクリップのみ。

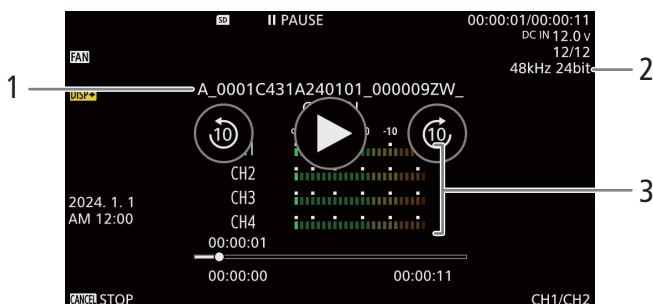
*3 XF-AVCクリップのみ。

*4 モニタリング設定 > 「Custom Display」 > 「オーディオレベル」が「入」のときのみ。

*5 モニタリング設定 > 「Custom Display」 > 「カメラデータ」が「入」のときのみ。

WAVの再生画面

再生画面で共通の表示項目は、「再生時の画面表示」(143)で説明しています。



- 1 音声ファイル名
2 サンプリング周波数／量子化ビット数
3 オーディオレベルメーター

さまざまな再生

早送りや早戻し、コマ送り、スキップ再生などの再生方法があります。操作は、画面をタッチするか、ジョイスティックで行います。また、シークバーで再生位置を変更することもできます。

機能	操作	操作		説明
		画面をタッチ	ジョイスティック	
早送り * ¹	再生中に	—	上	押すたびに再生速度が約5倍→約15倍→約60倍に切り換わる。* ²
早戻し * ¹	再生中に	—	下	
10秒送り	再生中に	右側を2度タッチ	—	2度タッチするたびに10秒ごと進む。
	一時停止中に	右側の⏮	—	タッチするたびに10秒ごと進む。
10秒戻し	再生中に	左側を2度タッチ	—	2度タッチするたびに10秒ごと戻る。
	一時停止中に	左側の⏭	—	タッチするたびに10秒ごと進む。
コマ送り	一時停止中に	⏮▶	上	押すたびに1コマ進む。押し続けると連続してコマごとに進む。
コマ戻し	一時停止中に	◀⏭	下	押すたびに1コマ戻る。押し続けると連続してコマごとに戻る。
スキップ再生	再生中に	左フリック	右	次のクリップの先頭から再生。
	再生中に	—	左	現在のクリップの先頭から再生。
	再生中に2回押す	右フリック	左	前のクリップの先頭から再生。
再生位置変更	再生中／一時停止中に	シークバー上のタッチ／ドラッグ	—	再生位置／再生停止位置を移動する。

*¹ 操作中、画面が乱れることがあります。

*² 画面に出る倍速表示は目安です。

MEMO

- 特殊再生中は音声が聞こえません。
- 早送りや早戻し中に▶/⏮ボタンを押すと、通常の再生に戻ります。

音声を聞く

通常の再生中は、音声をヘッドホンやスピーカーで聞くことができます。音声はSDI OUT端子、MON.端子とHDMI OUT端子にも出力されます（[156](#)）。

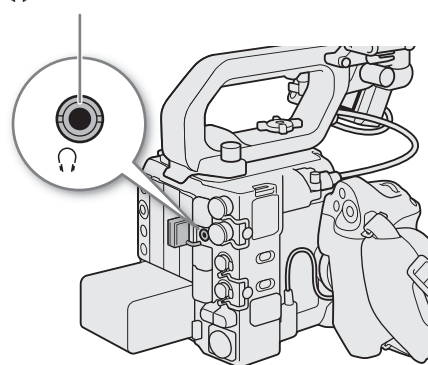
1 MENU >  オーディオ設定 > 「ヘッドホン音量」または「スピーカー音量」を選ぶ

2 音量を調整する

MEMO

- モニターするチャンネルの選択については、「音声出力を選択する」（[163](#)）をご覧ください。
- 「ヘッドホン+」または「ヘッドホン-」を割り当てたアサインボタンで操作することもできます（[127](#)）。

 （ヘッドホン）端子



撮影データを操作する

インデックス画面で選んでいるクリップに対する操作や情報表示を行うことができます。

クリップメニューで操作する

1 操作対象のクリップを選ぶ

2 SETを押す

- クリップメニューが表示される。選択できる機能は撮影データによって異なる。

3 メニュー項目を選ぶ

クリップメニュー一覧

機能	内容	インデックス画面				
		RAW クリップ	XF-AVC クリップ	XF-AVC S/ XF HEVC S クリップ	静止画	WAV音声
キャンセル	クリップメニューを消す。	●	●	●	●	●
再生	再生を開始する。	●	●	●	●	●
情報表示	情報表示画面を表示する。	●	●	●	—	—
 Mark追加/  Mark消去* ¹	OKマークを付加／消去する。	—	●* ²	—	—	—
 Mark追加/  Mark消去* ¹	チェックマークを付加／消去する。	—	●* ²	—	—	—
Shot Mark全消去	ショットマークをすべて消去する。	—	●* ²	—	—	—
修復	撮影データを修復する。	●	●	●	—	●
消去	撮影データを消去する。	●	●	●	●	●
User Memo消去	クリップに付加されているユーザーメモ／GPS情報を消去する。	—	●	●	—	—
FTP転送	クリップをFTP転送する。	—	●	●	—	—
Frame.io転送	クリップをFrame.ioの転送予約に追加する。	—	●* ³	●* ³	—	●* ³
停止	静止画の再生を終了する。	—	—	—	●	—
選択	インデックス画面でファイル選択画面を表示する。または、ファイル選択画面でファイルを選択する。	●	●	●	—	—
選択解除	ファイルの選択を解除する。	●	●	●	—	—
全選択解除	ファイルの選択をすべて解除し、インデックス画面に戻る。	●	●	●	—	—
絞り込み	絞り込み画面を表示する。	●	●	●	—	—
再選択	絞り込み状態から、クリップを選択する状態に変更する。	●	●	●	—	—
絞り込み終了	絞り込み画面からインデックス画面に戻る。	●	●	●	—	—

*¹：プロキシクリップの場合は表示されない。

*2: クリップの状態によって、「追加」／「消去」が切り換わって表示される。

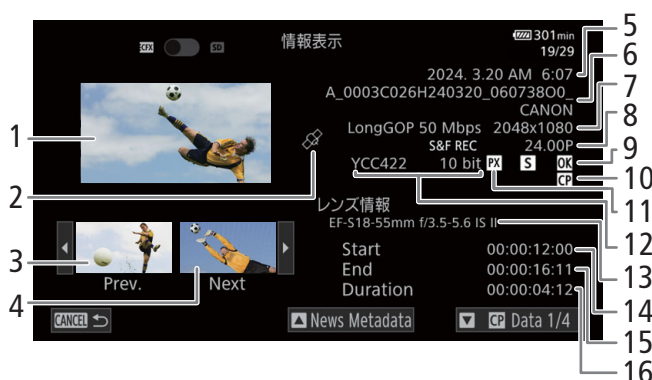
*3: スロットBのプロキシクリップ、音声記録（2スロット記録機能時）のみ

MEMO

- SDカードに記録したクリップの操作を行うときは、SDカードの誤消去防止ツマミのLOCKまたは  を解除してください。

クリップ情報を表示する

クリップメニューで「クリップ情報表示」を選択すると、選択しているクリップの情報を確認できます。クリップ情報画面でジョイスティックを左右に押すと、前／次のクリップに移動します。CANCELを押すと元の画面に戻ります。



- | | |
|---|---|
| 1 選択しているクリップのサムネイル（縮小画） | 9 OKマーク／チェックマーク／ショットマーク
▶▶  148 |
| 2 GPS情報マーク | 10 カスタムピクチャー ▶▶  130 |
| 3 前のクリップのサムネイル | 11 プロキシ動画 ▶▶  68 |
| 4 次のクリップのサムネイル | 12 カラーサンプリング ▶▶  62 |
| 5 撮影開始日時 | • RAW形式のときはRAWモード（HQ / ST / LT）と色深度を表示する。 |
| 6 クリップファイル名 ▶▶  45 | 13 レンズ型名情報 |
| 7 ビットレート／解像度 | 14 記録開始フレームのタイムコード |
| 8 特殊記録情報／フレームレート ▶▶  120 | 15 記録終了フレームのタイムコード |
| • スロー＆ファストモーション記録で記録したクリップのときは、「S&F REC」が表示され、フレームレートの表示が「撮影フレームレート／再生フレームレート」になる。 | 16 収録時間 |

ユーザーメモ／News Metadataを表示する

情報表示画面でジョイスティックを上または下に押すか、画面上の  /  の部分をタッチすると、クリップに付加されているユーザーメモまたはNews Metadataを表示できます。画面下の「情報表示」の左に表示される  /  と同じ方向にジョイスティックを押すか、画面上の「情報表示」をタッチすると、情報表示画面に戻ります。

カスタムピクチャーの設定を表示する

カスタムピクチャーファイルと一緒に記録されているクリップのときは、クリップ情報画面でジョイスティックを下に押すかSELECTダイヤルを右に回すと、カスタムピクチャーの設定内容を表示することができます。設定内容は3つの画面に分かれており、操作するたびに「**CP**Data 1/3」→「**CP**Data 2/3」→「**CP**Data 3/3」→「Lens & **MEMO**」→「クリップ情報画面」のように切り換わります。

OKマーク／チェックマークを付加する

XF-AVC形式で記録したメイン動画のクリップにOKマーク／チェックマークを付加することができます。OKマークが付加されたクリップは、本機での消去が禁止されるため、重要なクリップを保護することができます。

再生中にOKマーク／チェックマークを付加する

再生中または再生一時停止中にOKマークまたはチェックマークを付加することができます。

- 1 アサインボタンに「**OK** Mark追加」または「**■** Mark追加」を割り当てる（ 126）
- 2 インデックス画面のXF-AVC Indexでクリップを選ぶ
- 3 再生または再生一時停止中にアサインボタンを押す
 - 「**OK** Mark」または「**■** Mark」が表示され、選んだマークがクリップに付加される。
 - 再生中にOKマーク／チェックマークを付加すると、再生一時停止になる。

インデックス画面でOKマーク／チェックマークを付加する

- 1 インデックス画面のXF-AVC Indexでクリップを選ぶ
- 2 クリップメニュー > 「**OK** Mark追加」または「**■** Mark追加」 > 「OK」を選ぶ
 - クリップにマークが付加され、**OK** または **■** がサムネイルの左に表示される。

MEMO

- 1つのクリップにOKマークとチェックマークを同時に付加することはできません。一方のマークが付加されたクリップに他方のマークを付加すると、はじめに付加されていたマークは消去されます。

OKマーク／チェックマークを消去する

1つのクリップのOKマーク／チェックマークを消去する

- 1 インデックス画面のXF-AVC Indexでマークを消去するクリップを選ぶ
- 2 クリップメニュー > 「**OK** Mark消去」または「**■** Mark消去」 > 「OK」を選ぶ
 - 選択したクリップのOKマークまたはチェックマークが消去される。

ショットマークを付加する

XF-AVC形式で記録したメイン動画のクリップの重要なフレームにショットマークを付加することができます。

再生中にショットマークを付加する

- 1 アサインボタンに「Shot Mark追加」を割り当てる（ 126）
- 2 インデックス画面のXF-AVC Indexで、再生または再生一時停止中にアサインボタンを押す
 - 「Shot Mark」が表示され、ショットマークが付加される。
 - 再生中にショットマークを付加すると、再生一時停止になる。

インデックス画面でショットマークをすべて消去する

- 1 インデックス画面のXF-AVC Indexで、クリップ（サムネイル）を選ぶ。

2 クリップメニュー > 「Shot Mark全消去」 > 「OK」を選ぶ

- 選んだクリップに付加されているショットマークがすべて消去される。

撮影データを消去する

記録した撮影データ（クリップ、静止画、WAV形式の音声）を消去することができます。OKマークが付加されたクリップを消去するときは、先にOKマークを消去する必要があります。

1 インデックス画面で撮影データを選ぶ

- 静止画は再生画面で操作することもできる。

2 クリップメニュー > 「消去」 > 「OK」を選ぶ

- 選択した撮影データが消去される。
- 撮影データの消去は中止できない。

ユーザーメモ／GPS情報を消去する

1 インデックス画面でクリップを選ぶ

2 クリップメニュー > 「User Memo消去」 > 「OK」を選ぶ

- 選択したクリップに付加されているユーザーメモ／GPS情報が消去される。

出力信号形式

SDI OUT端子、MON.端子、HDMI™ OUT端子からの出力は、記録・再生の映像信号形式とメニューの設定によって切り換わります。MON.端子とHDMI OUT端子は、どちらか一方のみ出力されます（MON.端子とHDMI OUT端子から同時出力したい場合□ 157）。出力の切り換えは自動で行います。

撮影／再生時の出力信号形式（MON.端子、HDMI OUT端子）

主記録形式	記録信号形式		MON.出力形式	HDMI出力形式	MON.端子		HDMI OUT端子	
	フレームレート	解像度			出力解像度*1	出力フレームレート*2	出力解像度*1	出力フレームレート*2
RAW	59.94P 29.97P 23.98P 50.00P 25.00P 24.00P	6000×3164 4368×2304*3	—	4096×2160P/ 3840×2160P	—	—	4096×2160	撮影フレームレートと同一
			2048×1080P/ 1920×1080P	1920×1080P	2048×1080	撮影フレームレートと同一	1920×1080	
			1920×1080P		1920×1080			
			1920×1080i(PsF)	1920×1080i	1920×1080	59.94i	1920×1080	59.94i
						29.97PsF		59.94i
						59.94i		59.94i
						50.00i		50.00i
						25.00PsF		50.00i
						60.00i		60.00i
			1280×720P	1280×720P	1280×720	59.94P	1280×720	59.94P
						59.94P		59.94P
						59.94P		59.94P
						50.00P		50.00P
						50.00P		50.00P
						60.00P		60.00P

主記録形式	記録信号形式		MON.出力形式	HDMI出力形式	MON.端子		HDMI OUT端子	
	フレームレート	解像度			出力解像度*1	出力フレームレート*2	出力解像度*1	出力フレームレート*2
RAW	59.94P 29.97P 23.98P 50.00P 25.00P 24.00P	2184×1152	2048×1080P/ 1920×1080P	1920×1080P*4	2048×1080	撮影フレームレートと同一	1920×1080	撮影フレームレートと同一
			1920×1080P		1920×1080			
			1920×1080i(PsF)	1920×1080i	1920×1080	59.94i	1920×1080	59.94i
						29.97PsF		59.94i
						59.94i		59.94i
						50.00i		50.00i
						25.00PsF		50.00i
						60.00i		60.00i
			1280×720P	1280×720P	1280×720	59.94P	1280×720	59.94P
						59.94P		59.94P
						59.94P		59.94P
						50.00P		50.00P
						50.00P		50.00P
						60.00P		60.00P
XF-AVC XF-AVC S XF-HEVC S	59.94P 29.97P 23.98P 50.00P 25.00P 24.00P	4096×2160 3840×2160	—	4096×2160P/ 3840×2160P	—	—	4096×2160	撮影フレームレートと同一
			—		—	—	3840×2160	
			2048×1080P/ 1920×1080P	1920×1080P	2048×1080	撮影フレームレートと同一	1920×1080	撮影フレームレートと同一
			1920×1080P		1920×1080			
			1920×1080i(PsF)	1920×1080i	1920×1080	59.94i	1920×1080	59.94i
						29.97PsF		59.94i
						59.94i		59.94i
						50.00i		50.00i
						25.00PsF		50.00i
						60.00i		60.00i
			1280×720P	1280×720P	1280×720	59.94P	1280×720	59.94P
						59.94P		59.94P
						59.94P		59.94P
						50.00P		50.00P
						50.00P		50.00P
						60.00P		60.00P

主記録形式	記録信号形式		MON.出力形式	HDMI出力形式	MON.端子		HDMI OUT端子		
	フレームレート	解像度			出力解像度*1	出力フレームレート*2	出力解像度*1	出力フレームレート*2	
XF-AVC XF-AVC S XF-HEVC S	59.94P 29.97P 23.98P 50.00P 25.00P 24.00P	2048×1080 1920×1080	2048×1080P/ 1920×1080P	1920×1080P*4	2048×1080	撮影フレーム レートと同一	1920×1080	撮影フレーム レートと同一	
			1920×1080P		1920×1080				
					1920×1080				
			1920×1080i(PsF)	1920×1080i	1920×1080	59.94i	1920×1080	59.94i	
						29.97PsF		59.94i	
						59.94i		59.94i	
						50.00i		50.00i	
						25.00PsF		50.00i	
						60.00i		60.00i	
			1280×720P	1280×720P	1280×720	59.94P	1280×720	59.94P	
						59.94P		59.94P	
						59.94P		59.94P	
						50.00P		50.00P	
						50.00P		50.00P	
						60.00P		60.00P	
	59.94P	1280×720	1280×720P*4	1280×720P*4	1280×720	59.94P	1280×720	撮影フレーム レートと同一	
	50.00P					50.00P			
	29.97P	1280×720	1280×720P*4	1280×720P*4	1280×720	59.94P	1280×720	59.94P	
	23.98P					50.00P		50.00P	
	25.00P								
	24.00P					60.00P		60.00P	
	59.94i	1920×1080	1920×1080i (PsF)*4	1920×1080i*4	1920×1080	59.94i	1920×1080	撮影フレーム レートと同一	
	50.00i		1280×720P	1280×720P		50.00i			
	59.94i			1280×720	59.94P	1280×720	59.94P		
	50.00i				50.00P		50.00P		

*1 カラーサンプリングはYCC422 10 bit。ビット数は、映像信号の有効ビット数。

*2 スロー & ファストモーション記録時は、端子の出力形式によって出力フレームレートが異なる。

「1920×1080i」：記録信号形式のフレームレートが59.94P／29.97P／23.98P時は59.94iに、50.00P／25.00P時は50.00iに、24.00P時は60.00iになる。

上記以外：記録信号形式のフレームレートが59.94P／29.97P／23.98P時は59.94Pに、50.00P／25.00P時は50.00Pに、24.00P時は60.00Pになる。

*3 スロー & ファストモーション記録時で、フレームレートが120Pのときの解像度は4096×2160になる

*4 再生時（メディアモード）は「4096×2160P/3840×2160P」、「2048×1080P/1920×1080P」、「1920×1080P」、「1920×1080i」も選択可能。

選択できる項目は各出力端子によって異なる。

撮影／再生時の出力信号形式（SDI OUT端子）

主記録形式	記録信号形式		SDI出力形式	SDI OUT端子	
	フレームレート	解像度		出力解像度*1	出力フレームレート*2
RAW	59.94P 29.97P 23.98P 50.00P 25.00P 24.00P	6000×3164 4368×2304*3	4096×2160P/3840×2160P	4096×2160	撮影フレームレートと同一
			2048×1080P/1920×1080P	2048×1080	
			1920×1080P	1920×1080	
			1920×1080i(PsF)	1920×1080	59.94i
					29.97PsF
					59.94i
					50.00i
					25.00PsF
					60.00i
			1280×720P	1280×720	59.94P
					59.94P
					59.94P
					50.00P
					50.00P
					60.00P
		2184×1152	2048×1080P/1920×1080P*4	2048×1080	撮影フレームレートと同一
			1920×1080P	1920×1080	
			1920×1080i(PsF)	1920×1080	59.94i
					29.97PsF
					59.94i
					50.00i
					25.00PsF
					60.00i
			1280×720P	1280×720	59.94P
					59.94P
					59.94P
					50.00P
					50.00P
					60.00P

主記録形式	記録信号形式		SDI出力形式	SDI OUT端子	
	フレームレート	解像度		出力解像度*1	出力フレームレート*2
XF-AVC XF-AVC S XF-HEVC S	59.94P 29.97P 23.98P 50.00P 25.00P 24.00P	4096×2160 3840×2160	4096×2160P/3840×2160P	4096×2160 3840×2160	撮影フレームレートと同一
			2048×1080P/1920×1080P	2048×1080 1920×1080	
			1920×1080P	1920×1080	
			1920×1080i(PsF)	1920×1080	59.94i
					29.97PsF
					59.94i
					50.00i
					25.00PsF
					60.00i
		2048×1080	1280×720P	1280×720	59.94P
					59.94P
					59.94P
					50.00P
					50.00P
					60.00P
			2048×1080P/1920×1080P*4	2048×1080 1920×1080	撮影フレームレートと同一
			1920×1080i(PsF)	1920×1080	59.94i
					29.97PsF
					59.94i
					50.00i
					25.00PsF
					60.00i
			1280×720P	1280×720	59.94P
					59.94P
					59.94P
					50.00P
					50.00P
					60.00P

主記録形式	記録信号形式		SDI出力形式	SDI OUT端子	
	フレームレート	解像度		出力解像度* ¹	出力フレームレート* ²
XF-AVC XF-AVC S XF-HEVC S	59.94P 29.97P 23.98P 50.00P 25.00P 24.00P	1920×1080	2048×1080P/1920×1080P* ⁴	1920×1080	撮影フレームレートと同一
			1920×1080P	1920×1080	
			1920×1080i(PsF)	1920×1080	59.94i
					29.97PsF
					59.94i
					50.00i
					25.00PsF
					60.00i
			1280×720P	1280×720	59.94P
					59.94P
					59.94P
					50.00P
					50.00P
					60.00P
	59.94P 50.00P	1280×720	1280×720P* ⁴	1280×720	撮影フレームレートと同一
	29.97P	1280×720	1280×720P* ⁴	1280×720	59.94P
	23.98P				50.00P 60.00P
	25.00P				
	24.00P				
	59.94i 50.00i	1920×1080	1920×1080i(PsF)* ⁴	1920×1080	撮影フレームレートと同一
			1280×720P	1280×720	59.94P 50.00P

*¹ カラーサンプリングはYCC422 10 bit。ビット数は、映像信号の有効ビット数。

*² スロー & ファストモーション記録時は、端子の出力形式によって出力フレームレートが異なる。
「1920×1080i」：記録信号形式のフレームレートが59.94P/29.97P/23.98P時は59.94iに、50.00P/25.00P時は50.00iに、24.00P時は60.00iになる。

上記以外：記録信号形式のフレームレートが59.94P/29.97P/23.98P時は59.94Pに、50.00P/25.00P時は50.00Pに、24.00P時は60.00Pになる。

*³ スロー & ファストモーション記録時で、フレームレートが120Pのときの解像度は4096×2160になる

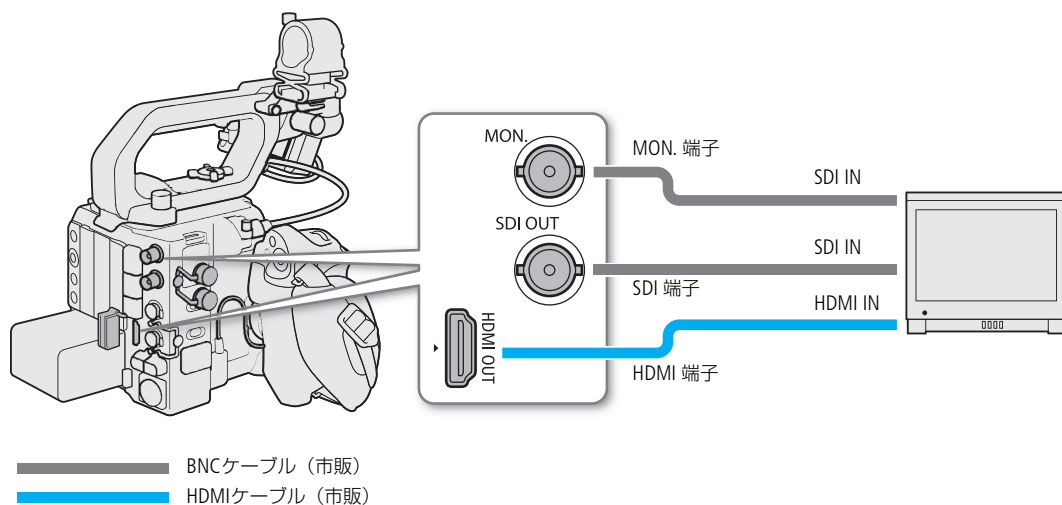
*⁴ 再生時（メディアモード）は「4096×2160P/3840×2160P」、「2048×1080P/1920×1080P」、「1920×1080P」、「1920×1080i」も選択可能。
選択できる項目は各出力端子によって異なる。

外部モニター／レコーダーを接続する

撮影・再生映像を外部モニターに表示するときは、外部モニターに応じて使用する端子を決めて本機と外部モニターを接続したあと、使用する端子の出力信号形式をメニューで設定します（□ 150）。

接続のしかた

MON.端子とHDMI OUT端子は、どちらか一方のみ出力されます（MON.端子とHDMI OUT端子から同時出力したい場合 □ 157）。



MEMO

- ACアダプターを使って、コンセントにつないで使うことをおすすめします。
- MENU** > 記録/メディア設定 > 「記録コマンド(EXT REC)」を「入」にして、本機と他機をSDI OUT端子、MON.端子、HDMI OUT端子でつなぐと、本機の撮影／撮影一時停止操作（RECボタンの操作）と連動して、他機の記録／記録一時停止を行うことができます。ただし、スロー＆ファストモーション記録モード、フレーム記録モード、インターバル記録モードおよび常時記録モードのときは、この機能は使用できません。
HDMI OUT端子に接続時は、「HDMI Time Code」> 「入」にしてください。

SDI OUT端子を使用する

SDI OUT端子から出力される映像信号には、オーディオ信号とタイムコード信号、記録コマンド、メタデータ、クリップファイル名情報が重畳されます。SDI OUT端子に外部レコーダーを接続すると、4K／2K映像を記録できます。レコーダーの機能・操作については、レコーダーの説明書などをご覧ください。

- MENU** > システム設定 > 「SDI出力」> 「入」を選ぶ
- MENU** > システム設定 > 「SDI出力形式」> いずれかを選ぶ
- マッピング方式を変更するときは、**MENU** > システム設定 > 「3G-SDIマッピング」> 「Level A」または「Level B」を選ぶ
 - SMPTE ST 425-1規格のLevel AまたはLevel Bに準拠した信号が出力される。

MEMO

- 接続するレコーダーによっては、設定した記録信号形式で記録できないことがあります。

- 本機と外部レコーダーを接続後、必ずためし撮りをして正常に録画・録音されていることを確認してください。

MON.端子を使用する

MON.端子から出力される映像信号には、オーディオ信号とタイムコード信号、記録コマンド、メタデータ、クリップファイル名情報が重畳されます。また、画面表示やマーカーなどを重畳できます。

- 1 MENU >  システム設定 > 「MON.出力形式」> いずれかを選ぶ
- 2 マッピング方式を変更するときは、MENU >  システム設定 > 「3G-SDIマッピング」> 「Level A」または「Level B」を選ぶ
 - SMPTE ST 425-1規格のLevel AまたはLevel Bに準拠した信号が出力される。

HDMI OUT端子を使用する

HDMI OUT端子を使用すると、映像と音声をデジタル信号で出力することができます。出力にタイムコード、記録コマンド、画面表示、マーカーなどを重畳できます。

- 1 HDMI OUT端子にHDMIケーブルを接続する
- 2 MENU >  システム設定 > 「HDMI出力形式」> いずれかを選ぶ
- 3 タイムコードの重畳を有効にするとき（カメラモード時のみ）は、MENU >  記録/メディア設定 > 「HDMI Time Code」> 「入」を選ぶ

MEMO

- MENU > 「 システム設定」> 「HDMIモニター連動」を「入」にすると、接続されたモニターの能力に応じて自動で出力解像度を設定します。「切」にすると、出力解像度はメニューで選んだ解像度に設定され、接続したモニターが選んだ出力解像度に非対応のときは出力が停止します。
- HDMI OUT端子は出力専用です。他の出力端子と接続しないでください。故障の原因となります。
- DVI対応モニターとの接続は保証していません。
- 接続する外部モニター／レコーダーや使用するHDMIケーブルによっては正しく表示されないことがあります。そのときは、他の端子を使って接続してください。
- 次の場合、HDMI OUT端子にタイムコードは重畳されません。
 - メディアモードのとき
 - 出力が720×480 59.94Pまたは720×576 50.00Pのとき。

MON.端子とHDMI OUT端子から同時出力する

MON.端子とHDMI OUT端子から、同時に同じ映像信号を出力できます。

- MENU >  システム設定 > 「MON.&HDMI同時出力」を選ぶ
- 出力解像度は、「1920×1080P」のときは1920×1080P、「1920×1080i(PsF)」のときは1920×1080iになる。

出力映像に画面表示を重畳する

SDI OUT端子、MON.端子またはHDMI OUT端子から出力される映像に画面表示を重畳することができます。なお、この設定は、カードに記録される映像には影響しません。

MENU >  モニタリング設定 > 「オンスクリーン表示: MON./HDMI」または「オンスクリーン表示: SDI」> 「入」を選ぶ

- 画面に **DISP** が表示される*。
* カメラモードでは、**MENU >  モニタリング設定 > 「Custom Display2」> 「オンスクリーン表示」**が「入」のときのみ表示される。

MEMO

- HDMI OUT端子の出力解像度が720×480または720×576の場合、HDMI OUT出力映像に画面表示を重畳しません。
- 「オンスクリーン表示: XXXXX」を「切（クリーン）」または「切」にすると、アシスト機能は重畳しません（以下を除く）。
 - 拡大表示
 - カスタムピクチャー > Skin Detail または Color Correction設定時の範囲表示
- ピーキング／ゼブラ／フォルスカラーのみ重畳するときは、「オンスクリーン表示: XXXXX」を「入」にして、DISPレベル3にしてください。
- 「オンスクリーン表示: MON./HDMI」または「オンスクリーン表示: SDI」を割り当てたアサインボタンで操作することもできます（ 126）。

画面表示の透過度を設定する

重畳する画面表示の透過度を設定することができます。

1 MENU >  モニタリング設定 > 「オンスクリーン透過: XXXXX」> 「入」を選ぶ

2 MENU >  モニタリング設定 > 「オンスクリーン透過 不透過度」> いずれかを選ぶ

- 数値が小さくなるほど、画面が透明になる。

適用する画面を設定する

MENU >  モニタリング設定 > 「オンスクリーン透過 適用画面」> いずれかを選ぶ

すべて： すべての画面にオンスクリーン透過を適用する。
撮影/再生画面のみ： 撮影/再生画面のみオンスクリーン透過を適用する。

MEMO

- 「オンスクリーン透過: XXXXX」を割り当てたアサインボタンを押して、各出力先のオンスクリーン透過を入／切することもできます（ 126）。

出力映像にLUTを適用する

カスタムピクチャーで特定のガンマ／色空間を選択している場合、SDI OUT端子、MON.端子、HDMI OUT端子、VIDEO端子の出力映像にLUTを適用して、標準的なガンマ／色空間に変換できます。映像出力端子に接続した外部モニターなどで映像を確認する際に使用します。端子からの出力映像の確認には、各色空間に準拠した表示装置が必要です。Blackmagic Design DaVinci Resolveで作成したLUTファイルを本機に読み込んで適用することもできます（[161](#)）。

LUT一覧

LUT	ガンマ	色空間	内容
CMT 709	CMT 709	BT.709	BT.709規格に準拠した外部モニターや付属のLCDモニターの画面で確認するためのLUT。Log撮影時の広いダイナミックレンジをクリップせずに残した、シネマ制作に適したルック。
Canon 709	Canon 709	BT.709	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。広いダイナミックレンジを確保しつつ、コントラストのある、「撮って出し（ポスト処理無しでの使用）」にも適したルック。
CMT DCI	CMT DCI	DCI-P3	DCI（Digital Cinema Initiatives）で規格化されている色空間とガンマに対応する外部モニターで確認するためのLUT。Log撮影時の広いダイナミックレンジをクリップせずに残した、シネマ制作に適したルック。
CMT PQ	CMT PQ	BT.2020	HDR（High Dynamic Range）映像をITU-R BT.2100で定義されたPQ規格に準拠した外部モニターで確認するためのLUT。Log撮影時の広いダイナミックレンジをクリップせずに残した、シネマ制作に適したルック。
CMT HLG	CMT HLG	BT.2020	HDR（High Dynamic Range）映像をITU-R BT.2100で定義されたHLG規格に準拠した外部モニターで確認するためのLUT。Log撮影時の広いダイナミックレンジをクリップせずに残した、シネマ制作に適したルック。
ACESproxy	ACESproxy	ACESproxy	ACESproxyに準拠する外部モニターで確認するためのLUT。ナローレンジ（ビデオレンジ）で出力する。
HDRアシスト 1600%	独自ガンマ	BT.709	ITU-R BT.2100のHDR映像を付属のLCDモニターで確認するためのLUT。1600%、400%のいずれかの輝度領域をリニアに変換する。
HDRアシスト 400%		BT.709	

選択できるLUT

使用可能なLUTは、カスタムピクチャー（[134](#)）の「Gamma/Color Space」と「Look File」の設定によって決まります（これらの設定を変更するとLUTは「切」になります）。

表中の「SDR」は、スタンダードダイナミックレンジのこと。

カスタムピクチャー		選択できるLUT							
Look file	Look File適用後のGamma/Color Space	CMT 709	Canon 709	CMT DCI*1	CMT PQ*1	CMT HLG*1	ACESproxy*1	HDRアシスト 1600%*2	HDRアシスト 400%*2
切	—	A（下表参照）							
	Custom Picture準拠								
	SDR BT.709	—	—	—	—	—	—	—	—
	SDR BT.2020	—	—	—	—	—	—	—	—
	HDR PQ(BT.2100)	●	●	—	—	—	—	●	●
	HDR HLG(BT.2100)	●	●	—	—	—	—	—	●

*1 VIDEO端子（LCDモニター）は選択不可。

*2 VIDEO端子（LCDモニター）のみ。

選択できるLUT（Aの場合）

カスタムピクチャー	選択できるLUT							
Gamma / Color Space	CMT 709	Canon 709	CMT DCI* ¹	CMT PQ* ¹	CMT HLG* ¹	ACESproxy* ¹	HDRアシスト 1600%* ²	HDRアシスト 400%* ²
Canon Log 2 : C.Gamut	●	●	●	●	●	●	●	●
Canon Log 3 : C.Gamut	●	●	●	●	●	●	●	●
Canon Log 3 : BT.2020	●	●	—	●	●	—	●	●
Canon Log 3 : BT.709	●	●	—	—	—	—	—	—
Canon 709 : BT.709	—	—	—	—	—	—	—	—
BT.709 Wide DR / BT.709	—	—	—	—	—	—	—	—
BT.709 Standard / BT.709	—	—	—	—	—	—	—	—
PQ : BT.2020	●	●	—	—	—	—	●	●
HLG : BT.2020	●	●	—	—	—	—	—	●

*¹ VIDEO端子（LCDモニター）は選択不可。

*² VIDEO端子（LCDモニター）のみ。

LUTを適用する端子／出力先を設定する

1 MENU > モニタリング設定 > 「LUT: XXXXX」のいずれかを選ぶ

2 「入」を選ぶ

適用するLUTを設定する

MENU > モニタリング設定 > 「LUT選択: XXXXX」のいずれかを選ぶ

- 出力映像のガンマと色空間が変更される。

MEMO

ACESproxyの映像を出力する（オンセット・グレーディング）

SDI OUT端子、MON.端子またはHDMI OUT端子に「ACESproxy」のLUTを適用すると、ACESproxy準拠の映像に変換して出力できます。対応する表示装置でモニタリングすることにより、撮影現場でカラーグレーディング時の映像を確認しながら撮影できます（ 22）。

- 「LUT: XXXXX」を割り当てたアサインボタンを押して、LUTを適用するすべての機器やLCDモニターや外部モニターのそれぞれのLUTを入／切することもできます（ 126）。

HDRに対するSDRのゲインの差を調整する

次の場合にHDRに対するSDRのゲインの差を±7.5 dB（0.5 dB刻み）の範囲で調整できます。

- メイン動画がHDR*で、出力にLUTを適用して「CMT 709」または「Canon 709」にするととき。
- メイン動画がHDR*で、プロキシ動画の「Proxy記録色変換」が「BT.709 (Canon 709)」／「BT.709 (CMT 709)」のとき。

* カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」が「PQ / BT.2020」／「HLG / BT.2020」のとき、またはLookファイルが有効でLookファイル適用後のGamma/Color Spaceが「HDR PQ (BT.2100)」／「HDR HLG (BT.2100)」で、「LUT」が「CMT709」／「Canon 709」のとき

MENU > モニタリング設定 > 「HDR→SDRゲイン」> いずれかを選ぶ

ユーザー LUTを使用する

Blackmagic Design DaVinci Resolveで作成したLUTファイルを本機に登録して、出力端子の映像に適用することができます（ユーザー LUT）。カスタムピクチャーのガンマがLogガンマのときに適用でき、適用可能な出力端子/出力先はSDI OUT端子、MON.端子、HDMI OUT端子、VIDEO端子です。出力の色域やレンジを設定することもできます。ユーザー LUTはSDカードを使用して本機に読み込み、4種類まで登録できます。

ユーザー LUTを登録する

- 1 LUTファイル（.cube形式）が保存されているSDカードを本機のSDカードスロットに入れる
- 2 MENU >  モニタリング設定 > UserLUT1～4のいずれか > 「登録」を選ぶ
- 3 SDカード内のLUTファイルを選ぶ
- 4 出力色空間（Color Space (Output)）を、「BT.709 Gamut」または「BT.2020Gamut」から選ぶ
 - 変換しないときは「変換しない」を選ぶ。
- 5 出力レンジ（Range (Output)）を、「Narrow Range」または「Full Range」から選ぶ
- 6 「OK」を選ぶ。
 - 選択したLUTファイルが本機に登録される。

ユーザー LUTを適用する

- 1 MENU >  モニタリング設定 > 「LUT: XXXXX」のいずれかを選ぶ
- 2 「入」を選ぶ
- 3 MENU >  モニタリング設定 > 「LUT選択: XXXXX」のいずれかを選ぶ
 - UserLUT1～4は、ユーザー LUTを登録しているときのみ表示される。
 - ユーザー LUTの名称には、最後に★が付く。

ユーザー LUTを消去する

- 1 MENU >  モニタリング設定 > UserLUT 1～4から消去するユーザー LUTを選ぶ
- 2 「消去」→「OK」を選ぶ
 - 選んだユーザー LUTが、消去される。

ユーザー LUTをすべて消去する

- MENU >  モニタリング設定 > 「User LUT 設定初期化」> 「OK」を選ぶ
- 登録したすべてのユーザー LUTが消去される。

ユーザー LUTの名前を変更する

- 1 MENU >  モニタリング設定 > UserLUT 1～4から名前を変更するユーザー LUTを選ぶ
- 2 「名称変更」を選ぶ
- 3 8文字以内の英数字・記号で名前を入力する > 「OK」を選ぶ

ユーザー LUTの情報を表示する

- MENU >  モニタリング設定 > 「User LUT 情報表示」> 情報するユーザー LUTを選ぶ

MEMO

LUTファイルについて

- Blackmagic Design社のDaVinci Resolveで作成した17グリッドまたは33グリッドのLUTファイル（3D LUT／.cube形式）を使用できる。

- ヘッダー部の「LUT_3D_INPUT_RANGE」に、0～1以外の入力レンジを定義しているLUTファイルは使用できない。
- データ部に、0～1以外の値が含まれるLUTファイルは使用できない。
- ファイルサイズが2MB以上、またはファイル名が65文字（拡張子を含む）以上のLUTファイルは使用できない。
- ファイル名に使用可能な文字： 0～9、a～z、A～Z、「_」（アンダーバー）、「-」（ハイフン）、「.」（ドット）、「」（半角スペース）
- LUTファイルは、SDカードの直下（ルートディレクトリ）に保存してください。
- 出力色空間（Color Space (Output)）が正しく選択されていないと、正しく出力されません。
- ユーザー LUTは、登録済みのものの上に書きして登録することはできません。一度消去してから登録してください。

出力レンジを選択する

端子から出力する映像の出力レンジを選択することができます。

適用される出力レンジ設定

カスタムピクチャー			適用されるレンジ設定
Gamma	Look File	Look File（適用後）	
Canon Log 2 Canon Log 3	切	—	Canon Log出力時
	入	Custom Picture 準拠	
PQ HLG	切	—	HDR出力時
	入	Custom Picture 準拠	
Canon 709 BT.709 Wide DR BT.709 Standard	切	—	Narrow Range 固定
	入	Custom Picture 準拠	
—	入	SDR BT.709	Narrow Range 固定
		SDR BT.2020	
		HDR_PQ(BT.2100)	HDR出力時
		HDR_HLG(BT.2100)	

SDI OUT端子、MON.端子のとき

1 MENU >  モニタリング設定 > 「Range: SDI」または「Range: MON.」を選ぶ

2 「Canon Log 出力時」または「HDR出力時」>いずれかを選ぶ

Full Range : フルレンジで出力する。
Narrow Range : ナローレンジで出力する。

HDMI OUT端子のとき

1 MENU >  モニタリング設定 > 「Range: HDMI」を選ぶ

2 「Canon Log 出力時」または「HDR出力時」>いずれかを選ぶ

Full Range 優先 : フルレンジで出力することを優先する。接続したモニターの能力によっては、レンジが自動で変更されて出力される。
Narrow Range : ナローレンジで出力する。

- カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」で設定しているガンマによって設定が変わります。モニタリング設定でLUTが適用されているときは、出力のガンマによって設定が変わります。適用されているLUTがユーザー LUTのときはユーザー LUTの「Range (Output)」の設定と同じになります。

音声出力を選択する

SDI OUT端子やMON.端子、HDMI OUT端子、（ヘッドホン）端子、スピーカーから音声を出力できます。記録メディアに記録した4チャンネルの音声のうち、（ヘッドホン）端子やスピーカー、HDMI OUT端子から出力される2チャンネルの音声はメニューで選択します。

音声の出力信号形式

記録信号形式		撮影／再生時	
記録方式	量子化ビット数	SDI OUT端子／MON.端子	HDMI OUT端子*
4ch リニアPCM 2ch AAC	24 bit 16 bit	4ch リニアPCM 24 bit	2ch リニアPCM 16 bit

* 4chの記録音声から出力するチャンネルを選択可能。

音声出力チャンネルを選ぶ

（ヘッドホン）端子やスピーカーの出力チャンネルを選ぶ

MENU >  オーディオ設定 > 「モニターチャンネル」> 出力音声（L/R）の組み合わせを選ぶ

- 「CH1+2」はCH1とCH2のミックスした信号であることを示す。「CH1+3」、「CH3+4」なども同様。

HDMI OUT端子の出力チャンネルを選ぶ

カメラモードでHDMI OUT端子は、2チャンネルの音声を出力できます。4チャンネルで記録／再生する音声のうち、HDMI OUT端子から出力するチャンネルをメニューで選択できます。

MENU >  オーディオ設定 > 「HDMIチャンネル」> 「CH1/CH2」または「CH3/CH4」のいずれかを選ぶ

撮影データをパソコン／スマートフォンに取り込む

撮影データをパソコンやスマートフォンに保存したり、RAWクリップをパソコンで現像したりすることができます。

撮影データをパソコンに保存する

XF-AVCクリップなどの撮影データをパソコンに保存するときはCanon XF Utilityを、XF-AVCクリップをノンリニア編集ソフトウェアに読み込むときはCanon XF Pluginを使用します。これらのソフトウェアは、キャノンのホームページからダウンロードしてインストールします。ソフトウェアの動作環境および最新の情報については、キャノンのホームページをご覧ください。ソフトウェアのインストールについては、ダウンロードしたソフトウェアの圧縮ファイルに含まれるPDFファイルをご覧ください。ソフトウェアの使いかたの詳細については、ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）*をご覧ください。

* ソフトウェアと一緒にインストールされます。

Canon XF Utility（Windows用／macOS用）

パソコンへの保存、クリップの確認・再生・管理、静止画の切り出しを行うソフトウェア

Canon XF Plugin for Avid Media Access（Windows用／macOS用）

Avid Media Accessに対応したノンリニア編集ソフトウェアAvid Media Composer（Windows / macOS）から、カード内またはパソコンに保存したクリップを直接読み込むことができる。

XF-AVC S／XF-HEVC Sクリップをパソコンに保存する

本機でカードに記録したXF-AVC S／XF-HEVC Sクリップは、パソコンまたはパソコンに接続したカードリーダー／ライターのスロットを使って、パソコンに取り込みます。カード内のファイルの取り込み方については、パソコンまたはOSの説明書をご覧ください。

また、本機で分割して記録されたXF-AVC S／XF-HEVC Sクリップは、ソフトウェアMP4 Join Toolを使って結合することができます。

クリップをパソコンに取り込む

1 XF-AVC S／XF-HEVC Sクリップが記録されたカードを、パソコンまたはパソコンに接続したカードリーダー／ライターに入れる

2 パソコンのOSの案内に従って操作する

3 カード内の撮影データをパソコンにコピーする

- XF-AVC S／XF-HEVC Sクリップは「XFVC¥REEL_XXXX」、静止画は「DCIM¥XXX_mmdd」フォルダーに保存されている。
Xは番号、mmddは撮影した日付

分割されたMP4クリップを結合する

クリップ内の映像ファイル（ストリーム）が約4GBに達したり、リレー記録が発生したりすると、クリップが分割して記録されます。分割して記録されたXF-AVC S／XF-HEVC Sクリップは、ソフトウェアMP4 Join Tool（Windows / macOS）を使って結合することができます。MP4 Join Toolは、キャノンのホームページからダウンロードしてインストールします。ソフトウェアの動作環境および最新の情報については、キャノンのホームページをご覧ください。ソフトウェアのインストールについては、ダウンロードしたソフトウェアの圧縮ファイルに含まれるPDFファイルをご覧ください。ソフトウェアの使いかたの詳細については、ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）*をご覧ください。

* ソフトウェアと一緒にインストールされます。

WAVファイルをパソコンに保存する

音声ファイルは、XF-AVC S／XF-HEVC Sクリップと同じ要領でパソコンに保存できます。カード内の音声ファイルの格納フォルダー（/PRIVATE/AUDIO）からパソコンにコピーしてください。

RAWクリップを現像する

本機で撮影／記録したRAW形式のクリップは、現像ソフトウェアCinema RAW Developmentで現像して、DPX形式などの標準的なファイル形式の素材データに変換することによって、カラーグレーディングが可能となります。また、Canon RAW Pluginでノンリニア編集ソフトウェアに直接読み込むこともできます。Cinema RAW DevelopmentとCanon RAW Pluginは、キヤノンのホームページからダウンロードできます。システム構成や最新の情報についてはキヤノンのホームページをご覧ください。ソフトウェアのインストールについては、ダウンロードしたソフトウェアの圧縮ファイルに含まれるPDFファイルをご覧ください。詳細な使いかたについては、ソフトウェアに付属の使用説明書（PDF）*をご覧ください。

* ソフトウェアと一緒にインストールされます。

Cinema RAW Development（Windows 用／macOS用）

RAW クリップを現像して再生、およびRAW クリップを現像してエクスポートすることができる。

Canon RAW Plugin for Avid Media Access（Windows用／macOS用）

Avid Media Accessに対応したノンリニア編集ソフトウェアAvid Media Composer（Windows /macOS）から、RAWクリップを直接読み込むことができる。

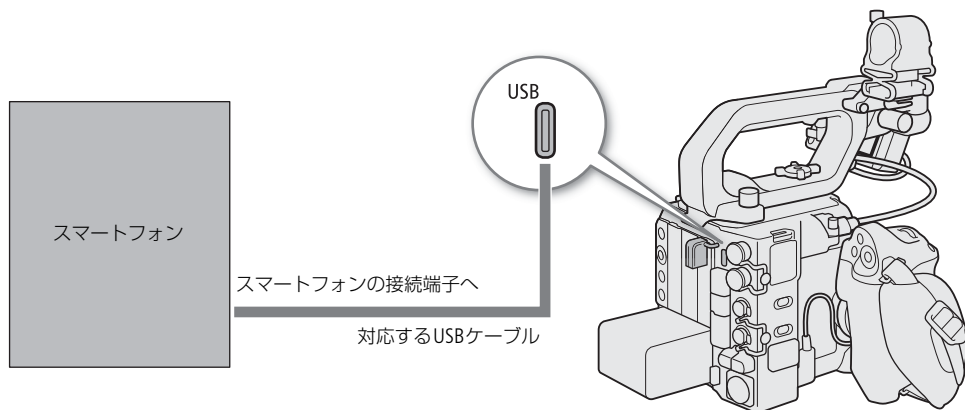
Canon RAW Plugin for Final Cut Pro（macOS用）

ノンリニア編集ソフトウェアApple Final Cut Proから、RAWクリップを直接読み込むことができる。

撮影データをスマートフォンに保存する

本機で撮影したXF-AVC S、XF-HEVC Sのクリップ、WAV形式の音声や静止画、News Metadataをスマートフォンに保存できます。保存には、Content Transfer Professionalが必要です。本機とスマートフォンは、対応するUSBケーブル*で接続するか、ネットワーク機能を使用して接続します。ネットワーク機能を使用して接続するときは、「撮影データをスマートフォンに転送する」（□ 194）をご覧ください。

* 対応するUSBケーブルについては、キヤノンのホームページをご覧ください。



1 MENU > 設定 > 「USB (Type-C)モード」>いずれかを選ぶ

iOS端末接続時：「iPhone Canonアプリ」を選ぶ。

Android端末接続時：「Canon アプリ/GP-E2」を選ぶ。

2 本機とスマートフォンを対応するUSBケーブルで接続する

- 3 スマートフォン：Content Transfer Professionalを起動する
- 4 スマートフォン：Content Transfer Professionalを操作して撮影データを保存する
- 5 接続を終了するときは、本機からUSBケーブルを抜く

撮影データをFTPサーバーに自動で転送する

Content Transfer Professionalを使うと、動画（XF-AVC S、XF-HEVC S）、音声（WAV）、静止画（JPEG）、メタデータをFTPサーバーに自動転送できます。事前に、スマートフォンにContent Transfer Professionalをインストールします（[194](#)）。

1 本機とスマートフォンを接続する

USBケーブルで接続時： 「撮影データをスマートフォンに保存する」（[165](#)）の操作1～3を行う
ネットワーク機能で接続時：「撮影データをスマートフォンに転送する」（[194](#)）の操作2～6を行う

2 スマートフォン：Content Transfer Professionalで転送先のFTPサーバーを指定し、撮影自動転送機能を開始する

3 RECボタンを押して記録を開始する

- クリップが記録されるたびに自動で転送される。

4 接続を終了する

ネットワークに接続する

本機のWi-Fiまたは品（イーサネット）端子を使ってネットワークに接続すると、以下のネットワーク機能を使用することができます。

ネットワーク機能と接続方式

機能名	概要	イーサネット	Wi-Fi		📖
			インフラストラクチャー ^{*1}	カメラアクセスポイント ^{*2}	
FTP転送	撮影したクリップをネットワーク機器にFTP ^{*3} で転送する。	●	●	●	185
IPストリーミング	映像と音声をネットワーク経由で、映像伝送装置（デコーダー）にストリーミング送信する。	●	●	—	186
ブラウザーリモート	ネットワーク機器から本機をリモート操作して撮影する。	●	●	●	187
Canonアプリ（Content Transfer Professional）	撮影したクリップや音声ファイルをスマートフォンに転送したり、Content Transfer Professionalで作成／編集したNews Metadataを本機に反映したりする。	—	●	—	194
XCプロトコル	IP接続により、XCプロトコル対応コントローラー／アプリで本機をリモート操作して撮影する。	●	●	●	191
CVプロトコル	PCアプリケーション上でリアルタイムにバーチャルプロダクションに必要なメタデータ情報をイーサネット端子から出力する。	● ^{*4}	—	—	174
Frame.io ^{*5}	カメラからAdobe社のFrame.io Camera to Cloud機能を使用して、撮影データを転送する。	●	●	—	195

^{*1} アクセスポイントを介してWi-Fiに接続する通信方式。

^{*2} 本機がアクセスポイントの働きをして、Wi-Fi機器と直接接続する方式。

^{*3} ネットワークに接続した機器間でファイルを転送するための通信規約。File Transfer Protocolの略。

^{*4} IPv4のみ。

^{*5} Frame.ioのサービス提供地域外では使用できない。

ネットワーク機能を使用する前に

本書は、ネットワーク機器およびWi-Fiのアクセスポイントの設定が完了し、正しく動作していることを前提に説明しています。アクセスポイントの設定方法については、お使いの機器のメーカーにお問い合わせください。

- ネットワークの接続の設定を行うには、ネットワーク（EthernetおよびWi-Fi）の設定方法に関する十分な知識が必要です。ネットワークの設定方法については、弊社ではサポートできませんので、あらかじめご了承ください。

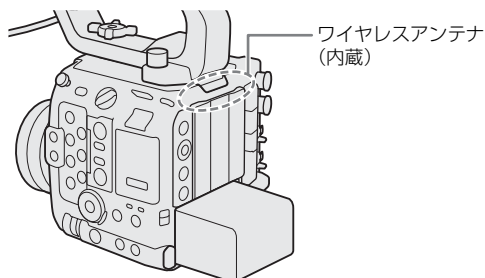
ご注意

- ネットワーク機能を使用するためにネットワークに対して誤った設定を行った結果生じた損害、および本ネットワーク機能を使用した結果生じた損害については、弊社ではその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- セキュリティで保護されていないWi-Fiやネットワーク環境に接続することは避けてください。お客様の個人情報などのデータが第三者に漏洩する危険性があります。

- ネットワークの接続や機能設定にパスワードの設定が必要な場合、セキュリティの観点から、推測されにくく、また、文字や記号を組み合わせて十分な長さのある設定にし、厳重に保管してください。

MEMO

- ネットワーク機能を使用中は、メモリーカードカバーを開けないでください。
- SDI OUT端子やMON.端子、HDMI OUT端子、INPUT端子、MIC端子、USB端子に接続したケーブルを、内蔵ワイヤレスアンテナの近くに配置しないでください。通信や記録する音声に影響することがあります。



Wi-Fiで接続

Wi-Fi接続について

Wi-Fiに接続するには、「カメラアクセスポイント」と「インフラストラクチャー」の2つの方式があり、インフラストラクチャー方式のときは、さらに4つの設定方法を選択できます。

Wi-Fiへの接続方法については、お使いのWi-Fiネットワーク環境によって仕様や制限事項が異なります。

カメラアクセスポイント

屋外などアクセスポイントのない環境で、カメラとWi-Fi対応機器を直接接続します。カメラがアクセスポイントの働き^{*1}をするので、Wi-Fi対応機器側はアクセスポイントに接続するのと同じ操作で接続できます。

インフラストラクチャー

WPS(プッシュボタン方式)^{*2}：

パスワードなどの入力が必要な最も簡単な設定方法です。この方法で接続するときは、お使いのアクセスポイントがWPS用のボタンを備えていることを、あらかじめご確認ください。

WPS(PIN方式)^{*2}：

WPS用のボタンを備えていないアクセスポイントでも、PINコードを使って設定できるものがあります。接続は自動的に行われますが、アクセスポイントの設定画面を操作して、WPS機能を動作させるための一定の知識が必要です。詳しくはアクセスポイントの説明書をご覧ください。



アクセスポイント検索：

WPSに対応していないアクセスポイントに接続するときなどに、周囲のアクセスポイントを検索して設定できます。

SSIDと認証方式を入力：

アクセスポイントのSSIDなどを手動で入力してネットワーク設定を行います。

^{*1} カメラとWi-Fi対応機器間の通信を行うのみで、市販のアクセスポイントの機能とは異なります。

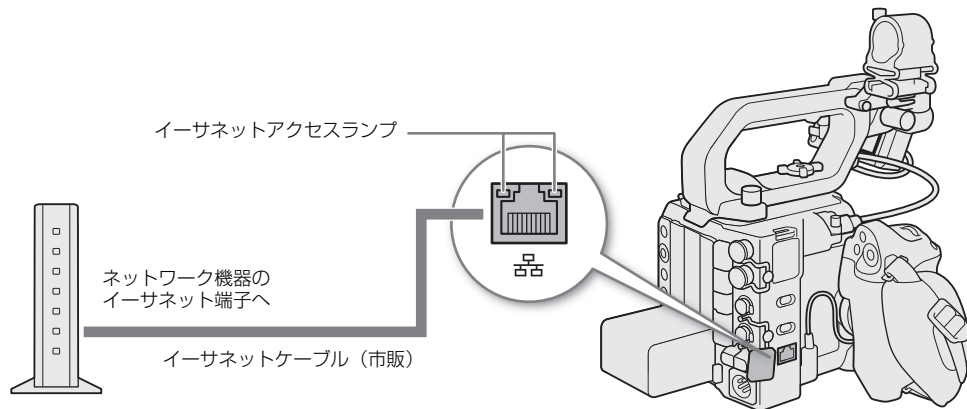
^{*2} WPSは、Wi-Fi Protected Setupの略で、アクセスポイントへの接続とセキュリティの設定を簡単に行うための規格です。

ご注意

- IEEE 802.11b/g/a/n/acの電波を使用する場合、地域によっては屋外やカメラアクセスポイントでの使用に法律上の制限が定められていることがあります。使用可能地域をご確認ください。

イーサネットで接続

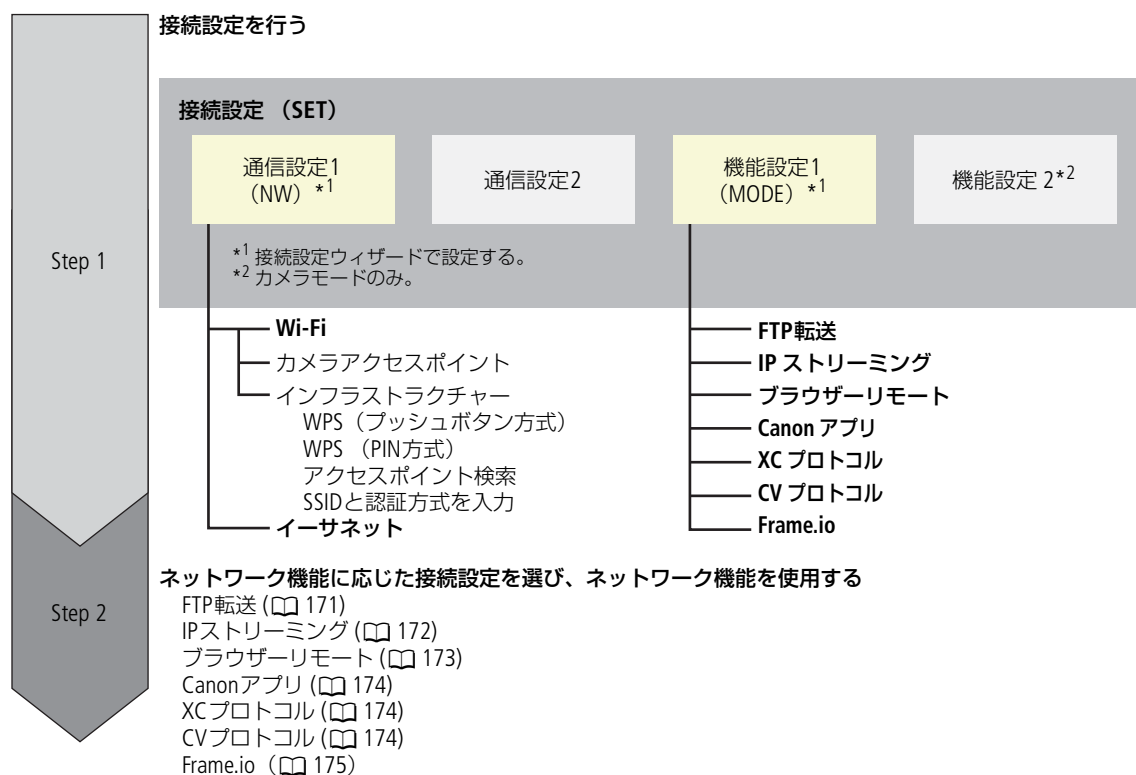
本機の品（イーサネット）端子とネットワーク機器をイーサネットケーブル（市販）で接続し、本機をネットワークに接続する方法です。イーサネットケーブルには、ギガビット対応でシールド性能の高い、カテゴリ 5e以上のSTP（Shielded Twisted Pair）ケーブルを使用してください。



ネットワーク機能を使用する前に

ネットワーク機能を使用する前に、使用するネットワーク機能ごとに、事前に「接続設定」を作成します。

ネットワーク機能を使用するにはまずSSIDやIPアドレスなどの情報を含む「通信設定」(NW)と接続相手の機器情報を含む「機能設定」(MODE)の組み合わせからなる「接続設定」(SET)を設定します。本機には通信設定と機能設定をそれぞれ25セット保存でき、それらを組み合わせることで20セットの「接続設定」(SET1～SET20)を保存できます。初めて接続設定を作成するときは、ウィザードの流れに沿って接続設定を設定します。はじめは1つの接続設定に対し、1つの通信設定と1つの機能設定が保存されます。複数の接続設定を作成したあと、それらを組み合わせることで新しい接続設定を作成することができます。



ネットワークを有効にする

ネットワーク機能を使用するときや、オンラインで接続設定を行うときは、ネットワークへの接続を有効にします。

1 MENU > 📶 ネットワーク設定 > 「ネットワーク」 > 「有効」を選ぶ

2 既存の接続設定を使うときは、MENU > 📶 ネットワーク設定 > 「接続」 > 「SET1」～「SET20」のいずれか > 「OK」を選ぶ

- ネットワーク接続を終了するときは、「接続」の代わりに「通信切」を選ぶ。

ウィザードで新規に接続設定を行う

接続設定ウィザードを使用して、新規に接続設定を行うことができます。ここでは、WPSプッシュボタン方式でWi-Fiに接続する場合を例に説明します。アクセスポイントのWPS用ボタンの位置と操作方法などアクセスポイントの操作／設定については、アクセスポイントの説明書をご覧ください。

- 1 ネットワークを有効にする（□ 170）
- 2 MENU >  ネットワーク設定 > 「新規接続設定（ウィザード）」 > 使用するネットワーク機能のいずれか > 「OK」を選ぶ
- 3 「通信設定を新規作成」を選ぶ
 - 既に通信設定が登録されている場合、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの通信設定を使用できる。
- 4 「Wi-Fi 」を選ぶ
イーサネットに接続するとき（□ 175）
- 5 「WPS機能で接続」 > 「WPS(プッシュボタン方式)」を選ぶ
 - 他の方法で接続するときは、いずれかの設定を行う。
 - カメラアクセスポイントで接続する（□ 176）
 - WPS（PIN方式）で接続する（□ 176）
 - 検出したアクセスポイントに接続する（□ 177）
 - SSIDと認証方式を入力して接続する（□ 177）
 - オフラインで設定する（□ 177）
- 6 アクセスポイントのWPS用ボタンを長押ししてWPSを起動する > 本機の「OK」を選ぶ
- 7 IPアドレス（IPv4）を自動的に設定するときは、「自動設定」 > 「使わない」を選ぶ
手動で設定するとき（□ 177）
TCP/IPv6を使用するときは「使う」を選び、ウィザード終了後に設定を行う（□ 181）。
- 8 「OK」を選ぶ
 - 通信設定が「NW」に保存される。
 - 以降は、操作2で選んだネットワーク機能に応じて機能設定を行う。（□ 171）

MEMO

- 周囲の環境や使用している機器によっては、WPS（プッシュボタン方式）でうまく接続できないことがあります。このときは、WPS（PIN方式）など他の接続方法で接続してください。

機能設定を行う

新規接続設定ウィザードの通信設定に続き、この節では機能設定を行います。機能設定は、各ネットワーク機能特有の項目について設定します。設定画面で文字を入力するときは、「文字入力のしかた」（□ 38、46）をご覧ください。

FTP転送の設定をする

FTPサーバーの設定や転送先フォルダーに関する設定を行います。FTPサーバーについては、必要に応じてネットワーク管理者にお問い合わせください。

- 1 「機能設定を新規作成」を選ぶ
 - 以前行ったFTP転送に関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。
- 2 FTPモードを選ぶ
FTP：通信データが暗号化されない方式。
FTPS：ルート証明書（□ 178）を使用してFTP転送のセキュリティーを行うとき。
SFTP：SSHを使用してFTP転送のセキュリティーを行うとき。
- 3 転送先FTPサーバーの設定として、「サーバー」と「ポート番号」を入力 > 「OK」を選ぶ

- FTPサーバーのIPアドレスまたはホスト名と、ポート番号を入力する。
- ポート番号は、通常、21（FTP／FTPS）または22（SFTP）を使う。
- 以降は、操作2のFTPモードの選択に応じて、操作4または操作4～5を行ったあと、操作6に進む。

SFTP

4 SSHプロトコル認証のための「ユーザー名」と「パスワード」を入力＞「OK」を選ぶ

FTP／FTPS

4 パッシブモードを使う（「使う」）か、アクティブモードを使う（「使わない」）かを選ぶ

- 通常は、アクティブモードを使う。

5 FTPサーバーの「ユーザー名」と「パスワード」を入力＞「OK」を選ぶ

全FTPモード

6 転送先フォルダーを設定する

ルート： FTPサーバーで設定したルートフォルダーに保存される。

フォルダー指定： ルートフォルダーにある保存先フォルダーを指定できる。フォルダーがないときは、自動作成される。

7 「OK」を選ぶ

- 機能設定が「MODE」に保存される。

8 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ

9 「OK」を選ぶ

- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「クリップをFTPで転送する」（□ 185）

IPストリーミングの設定をする

送信する映像のビットレートや解像度、プロトコルなど、ストリーミング送信に必要な設定を行います。デコーダーまたはパソコンの受信用ソフトウェアの詳細については、それぞれの説明書などをご覧ください。

1 「機能設定を新規作成」を選ぶ

- 以前行ったIPストリーミングに関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。

2 プロトコルを選ぶ

UDP： 高速な伝送を重視し、信頼性／順序性を保証しない。喪失／遅延パケットは無視する。

RTP： 動画／音声のインターネット配信の標準的な方式。喪失／遅延パケットは無視する。

RTP+FEC： RTPによる伝送に、エラー訂正（FEC）*の制御を行うことにより、受信側で喪失／破損パケットをリカバリーする。

* FECによるエラー訂正制御に対応するデコーダーまたはパソコン用ソフトウェアが必要。

RTSP+RTP： RTSP（リアルタイム・ストリーミング・プロトコル）によるリアルタイムデータの配信制御を行って、RTPによる伝送を行う。受信側からストリーミングの開始／停止が制御可能。

SRT： 喪失／遅延パケットの発生を抑えて高速な伝送を行う方式。送信するデータの暗号化が可能。

- 以降は、選んだプロトコルに応じて操作3～6を行ったあと、操作7に進む。

RTP+FEC

3 送信先の設定として、「送信先サーバー」と「送信先ポート番号」を入力＞「OK」を選ぶ

- ポート番号は、通常は初期設定を使用する。

4 FECパケットの送信に使用する設定として、「FECポート番号」と「FECインターバル」を入力＞「OK」を選ぶ

- 通常は初期設定を使用する。
- 操作7に進む。

RTSP+RTP

- 3 送信先の設定として、「送信先サーバー」と「送信先ポート番号」を入力＞「OK」を選ぶ
 - ポート番号は、通常は初期設定を使用する。
- 4 RTSPクライアント設定として、「RTSP：ユーザー名」と「RTSP：パスワード」を入力＞「OK」を選ぶ
 - 操作7に進む。

SRT

- 3 接続モードを選ぶ
 - Caller：カメラからデコーダーまたはパソコンに接続する。
 - Listener：デコーダーまたはパソコンからの接続を待ち受ける。
- 4 「Caller」を選んだときは、「送信先サーバー」、「送信先ポート番号」と「ストリームID」を入力＞「OK」を選ぶ
 - ポート番号は、通常は初期設定を使用する。
- 5 「Listener」を選んだときは、「待ち受けポート番号」を入力＞「OK」を選ぶ
 - デコーダーまたはパソコンのポート番号を入力する。
- 6 「暗号化の設定」を選び、「パスフレーズ」と「レイテンシー」を入力＞「OK」を選ぶ

全プロトコル

- 7 出力信号形式を選ぶ
- 8 オーディオ出力チャンネルを選ぶ
- 9 解像度やフレームによっては、設定を変更する画面が表示されるので設定を変更する
- 10 「OK」を選ぶ
 - 機能設定が「MODE」に保存される。
- 11 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ
- 12 「OK」を選ぶ
- 13 受信側のデコーダーまたはパソコンの設定をする
 - 受信側のデコーダーまたはパソコンをネットワークに接続し、必要な設定を行う。
 - 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「映像をストリーミングで送信する」（ 186）

ブラウザーリモートの設定をする

ネットワークに接続した機器に接続するためのユーザー名とパスワードを設定します。

- 1 「機能設定を新規作成」を選ぶ
 - 以前行ったブラウザーリモートに関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。
- 2 ユーザー名とパスワードを設定する
- 3 「OK」を2回選ぶ
 - 機能設定が「MODE」に保存される。
- 4 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ
- 5 「OK」を選ぶ
 - 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「ネットワーク機器でリモート撮影をする（ブラウザーリモート）」（ 187）

Canonアプリの設定をする（スマートフォンとの接続）

本機とネットワークに接続したスマートフォンとの接続に必要な設定を行います。スマートフォンは、あらかじめ本機と同じネットワークに接続してください。

本機とスマートフォンの接続には、Content Transfer Professionalが必要です。Content Transfer Professionalのダウンロードについては、「撮影データをスマートフォンに転送する」（□ 194）をご覧ください。スマートフォンの詳細については、スマートフォンの説明書をご覧ください。

1 「機能設定を新規作成」を選ぶ

- 以前行ったCanonアプリに関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。

2 「OK」を選ぶ

3 画面の指示に従って、Content Transfer Professionalを起動する

4 スマートフォン：画面の指示に従って、本機を選ぶ

- 本機とスマートフォンが同じネットワークに接続していると、自動的に本機が検出される。

5 「OK」を選ぶ

- 本機とスマートフォンの接続が完了する。
- 機能設定が「MODE」に保存される。

6 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ

7 「OK」を選ぶ

- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「撮影データをスマートフォンに転送する」（□ 194）

XCプロトコルの設定をする

ネットワークに接続したXCプロトコル対応機器に接続するためのユーザー名とパスワードを設定します。

1 「機能設定を新規作成」を選ぶ

2 XCプロトコル（HTTP）サーバーで使用する認証方式を設定する

- 「Basic認証」または「Digest認証」を選んだときは、ユーザー名とパスワードを設定する。

ユーザー名： 5～15文字以内の半角英数字・記号で設定する。

パスワード： 8～32文字以内の半角英数字・記号で設定する。英数字・記号から2種以上を使用する。

3 「OK」を選ぶ

- 機能設定が「MODE」に保存される。

4 「SET1」～「SET20」から接続設定の保存先を選ぶ > 「OK」を選ぶ

- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「XCプロトコル対応コントローラー／アプリでリモート撮影する」（□ 191）

CVプロトコルの設定をする

PCアプリケーション上でリアルタイムにバーチャルプロダクションに必要なメタデータ情報を、本機から出力する設定をします。イーサネットのIPv4のみです。

1 「機能設定を新規作成」を選ぶ

2 送信先の設定として、「送信先サーバー」と「送信先ポート番号」を入力 > 「OK」を選ぶ

- ポート番号は通常は初期設定を使用する。

3 「SET1」～「SET20」から接続設定の保存先を選ぶ > 「OK」を選ぶ

- キヤノン「Live Link Plugin for Unreal Engine」プラグインを使用して、バーチャルプロダクション用のアプリケーションにメタデータ情報を送信します。「Live Link Plugin for Unreal Engine」の使いかたやダウンロードについては、キヤノンホームページをご確認ください。

MEMO

- スロー & ファストモーション記録モードで60Pを超えるフレームレートを設定しているときは、CVプロトコルは選択できません。

Frame.ioの設定をする

本機とFrame.ioを接続する設定をします。

1 「機能設定を新規作成」を選ぶ

- 以前行ったFrame.ioに関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。

2 ペアリング先を選ぶ

現在のペアリングを維持：本機とのペアリング状態を維持する。

新規ペアリング実行：新しくFrame.ioとペアリングする。すでに本機とペアリング済みで、別のFrame.ioとペアリングし直すときは「OK」を選ぶ。

3 「OK」を選ぶ

- ペアリングコードが表示される。
- 「現在のペアリングを維持」を選んだときは、操作6に進む。

4 Frame.io：Frame.ioにアクセスしてペアリングコードを入力する

- 本機とFrame.ioのペアリングが完了する。

5 「OK」を選ぶ

6 「自動転送対象ファイル形式」を選択する

XF-AVC Proxy：XF-AVC形式のプロキシクリップ

XF-HEVC S / XF-AVC S Proxy：XF-HEVC S 形式 / XF-AVC S 形式のプロキシクリップ

音声Proxy：2スロット記録機能の音声記録時の音声ファイル

7 「OK」を選ぶ

- 機能設定が「MODE」に保存される。

8 「SET1」～「SET20」から接続設定の保存先を選ぶ > 「OK」を選ぶ

- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「撮影データをFrame.ioに転送する」(□ 195)

その他の接続方法で通信設定を行う

ここでは、WPS（プッシュボタン方式）以外の接続方法による、通信設定について説明します。設定画面で文字を入力するときは、「文字入力のしかた」(□ 38、46)をご覧ください。

イーサネットで接続する

1 「ネットワークの種類」画面で「イーサネット品」を選ぶ

2 イーサネットケーブルが正しく接続されていることを確認して、「ネットワークに接続して設定」を選ぶ

- ネットワークに接続しないで設定を行うときは、「ネットワークに接続せずに設定」を選ぶ。

3 IPアドレスを設定する (□ 177)

4 「OK」を選ぶ

- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降の操作は各機能設定へ進む(□ 171)。

カメラアクセスポイントで接続する

カメラアクセスポイントで接続します。ネットワーク設定は自動（「簡単接続」）と手動で選べます。

1 「ネットワークを選択」画面で「カメラアクセスポイントモード」を選ぶ

- ネットワーク設定を自動で行うときは「簡単接続」を、手動で行うときは「手動接続」を選ぶ。
- 以降は、操作2のカメラアクセスポイントモードの選択に応じて、操作2または操作2～5を行ったあと、操作6に進む。

「簡単接続」

2 画面に表示されるSSIDとパスワードを確認して、「OK」を選ぶ

- 表示される情報は、ネットワーク機器からカメラに接続するとき必要となる。
画面に表示された「QR」をタッチして、QRコードを表示することもできる。
- 画面の「QR」をタッチして表示されるQRコードをネットワーク機器で読み取り、カメラと接続することもできる。

「手動接続」

2 SSIDを入力する > 「OK」を選ぶ

3 チャンネル設定を選ぶ

- 手動で設定するときは「手動設定」を選んでチャンネルを選ぶ。

4 暗号化の設定を選ぶ

- 暗号化するときは「AES」を選ぶ。「AES」を選んだときは、パスワード画面が表示されるので、パスワードを入力して「OK」を選ぶ。

5 IPアドレスを設定する（ 177）

全カメラアクセスポイントモード

6 「OK」を選ぶ

- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降の操作は各機能設定の操作2に進む( 171)。

7 接続する機器を操作してカメラに接続する

- 接続する機器のWi-FiをONにして、カメラに表示されているSSID（ネットワーク名）を選ぶ。
- パスワード入力欄に操作5で設定したパスワードを入力する。

WPS（PIN方式）で接続する

WPS（PIN方式）でアクセスポイントに接続します。アクセスポイントの設定操作については、アクセスポイントの説明書をご覧ください。

1 「ネットワークを選択」画面で「WPS機能で接続」> 「WPS(PIN方式)」を選ぶ

- 画面にPINコード（8桁の数字）が表示される。

2 アクセスポイントのWPS（PINコード方式）の設定画面で、PINコードを入力してWPSを起動する

3 「OK」を選ぶ

4 IPアドレスを設定する（ 177）

5 「OK」を選ぶ

- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降の操作は各機能設定に進む( 171)。

検出したアクセスポイントに接続する

カメラが周囲のアクセスポイントを自動的に検出します。検出されたアクセスポイントの一覧から接続するアクセスポイントを選んで接続します。スマートフォンをアクセスポイントとして検出したいときは、あらかじめテザリング（インターネット共有）を有効にしてください。アクセスポイントのSSIDとパスワードについては、アクセスポイントの説明書またはネットワーク管理者にお問い合わせください。

1 「ネットワークを選択」画面でアクセスポイントを選ぶ

- 暗号化されているアクセスポイントを選んだときは、パスワードを入力して「OK」を選ぶ。

2 IPアドレスを設定する（□ 177）

3 「OK」を選ぶ

- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降の操作は各機能設定に進む（□ 171）。

SSIDと認証方式を入力する

アクセスポイントのSSIDなどを手動で入力してネットワーク設定を行います。アクセスポイントのSSIDとパスワードについては、アクセスポイントの説明書またはネットワーク管理者にお問い合わせください。

1 「ネットワークを選択」画面で「SSIDと認証方式を入力」を選ぶ

2 SSIDを入力する > 「OK」を選ぶ

3 いずれかの認証方式を選ぶ

- 「オープン」を選ぶと「暗号化の設定」画面が表示されるので「しない」または「WEP」を選ぶ。
- 「共有キー」または「オープン」> 「WEP」を選んだときは、キーインデックスを選ぶ。

4 パスワードを入力 > 「OK」を選ぶ

5 IPアドレスを設定する（□ 177）

6 「OK」を選ぶ

- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降の操作は各機能設定に進む（□ 171）。

オフラインで設定する

ネットワークに接続せずにオフラインで設定します。

1 「ネットワークを選択」画面で「オフラインで設定」を選ぶ

2 「インフラストラクチャー」または「カメラアクセスポイントモード」を選ぶ

インフラストラクチャーを選んだとき：「SSIDと認証方式を入力する」（□ 177）

カメラアクセスポイントモードを選んだとき：「カメラアクセスポイントで接続する」（□ 176）

IPアドレスを設定する

IPアドレスを設定します。表示される項目は選んだ機能によって異なります。

1 IPアドレスの設定方法を、「自動設定」または「手動設定」から選ぶ

- 新規接続設定（ウィザード）で設定しているときは、「IPアドレス（IPv4）」画面で選ぶ。
- 以下、選んだ設定方法に応じて操作する。

「自動設定」

- 操作4に進む。

「手動設定」

2 IPアドレスやサブネットマスクなどの数値を入力する

- ゲートウェイを使う場合は「ゲートウェイの使用」> 「使う」を選んでから数値を入力する。

- DNSアドレスを使う場合は「DNSアドレスの使用」>「手動設定」を選んでから数値を入力する。

3 「OK」を選ぶ

共通の操作

4 TCP/IPv6を使うかどうかを選ぶ

- IPv4を使うときは「使わない」を選ぶ。

「TCP/IPv6を使用するとき」(□ 181)

その他のネットワーク設定を行う

FTP転送用のルート証明書の読み出し／消去を行う

FTPモードに「FTPS」を使用するときは、接続するFTPSサーバーに対応したルート証明書をカメラに読み込む必要があります。読み込んだルート証明書は、内容を確認したり、消去したりすることもできます。

1 MEDIAモードにする

2 ルート証明書をカードのルートフォルダーに保存し、カードをスロットBに入れる

3 MENU > ネットワーク設定 > 「詳細設定」> 「FTP転送の設定」を選ぶ

4 「ルート証明書を読み出し」> 「OK」を選ぶ

- ルート証明書がカードから読み込まれる。
- 「ルート証明書の情報確認」を選ぶと、発行者や発行先、有効期限を確認でき、「ルート証明書の消去」を選ぶと、カメラに読み込んだルート証明書を消去できる。

MEMO

- カメラに読み込むことができるルート証明書は1つで、ファイル名が「ROOT.CER」、「ROOT.CRT」、「ROOT.PEM」のもののみです。
- 自己署名証明書を使用したFTPS接続を行う場合に、接続先サーバーを信頼できないことがあります。

802.1X認証の設定

802.1認証情報を設定します。

本機の対応プロトコルは以下のとおりです。

EAP-TLS： X.509をサポート。

EAP-TTLS： MS-CHAP v2をサポート

PEAP： MS-CHAP v2をサポート

MENU > ネットワーク設定 > 「詳細設定」> 「802.1X認証の設定」を選ぶ

設定ウィザード： ウィザードに従って、認証設定を行う。

認証プロトコルで「EAP-TLS」を選んだときは、「ルート証明書（ファイル名：8021X_R.CER）」、「クライアント証明書（ファイル名：8021X_C.CER）」、「秘密鍵（ファイル名：8021X_C.KEY）」をカードから読み出す。「EAP-TTLS」または「PEAP」を選んだときは、「ユーザー名」と「パスワード」を入力して「ルート証明書」をカードから読み出す。それぞれ、カードの直下（ルートディレクトリ）に保存する必要がある。

設定内容確認： 認証設定の内容を確認するときに選ぶ。

設定消去： 認証設定を消去するときに選ぶ。表示画面で「OK」を選ぶと、設定が削除される。

Frame.io転送用のルート証明書の読み出し／消去を行う

Frame.ioを使用するときに、ルート証明書をカメラに読み込む操作を説明します。

- 1 ルート証明書をカードのルートフォルダーに保存し、カードをスロットBに入れる
- 2 MENU >  ネットワーク設定 > 「Frame.io」 > 「ルート証明書」を選ぶ
- 3 「ルート証明書を読み出し」 > 「OK」を選ぶ
 - ルート証明書がカードから読み込まれる。
 - 「ルート証明書の情報確認」を選ぶと、発行者や発行先、有効期限を確認でき、「ルート証明書の消去」を選ぶと、カメラに読み込んだルート証明書を消去できる。

MEMO

- カメラに読み込むことができるルート証明書は1つで、ファイル名が「FRAMEIO.CER」「FRAMEIO.CRT」「FRAMEIO.PEM」のもののみです。

ニックネームを変更する

接続する機器で表示される、カメラのニックネームを変更することができます。

- 1 MENU >  ネットワーク設定 > 「ニックネーム」を選ぶ
- 2 ニックネームを入力する

接続設定（SET）を確認／編集する

カメラに保存されている接続設定（SET）の確認、変更、消去、名称変更を行うことができます。また、接続設定に2つ目の通信設定（NW）／機能設定（MODE）を追加することもできます。

接続設定の内容を確認する

- 1 MENU >  ネットワーク設定 > 「接続設定」 > SET1～SET20のいずれかを選ぶ
 - 設定内容を確認する接続設定を選ぶ。
- 2 「設定内容確認」を選ぶ
 - 設定内容が表示される。
 - ジョイスティックを左右に押すと、すべての設定を表示できる。また、CANCELを押すとメニューに戻る。

ウィザードで変更する

- 1 MENU >  ネットワーク設定 > 「接続設定」 > SET1～SET20のいずれかを選ぶ
 - 変更や確認を行う接続設定を選ぶ
- 2 「ウィザードで変更」を選ぶ
- 3 ネットワーク機能を選ぶ > 必要に応じてウィザードで設定する（□ 171の操作3以降）

既存の設定を使用して変更する

カメラにすでに登録されている通信設定（NW）や機能設定（MODE）を使用して、接続設定の内容を簡単に置き換えたり、2番目の通信設定／機能設定を追加したりすることができます。

1 MENU > ネットワーク設定 > 「接続設定」> SET1～SET20のいずれかを選ぶ

- 変更や確認を行う接続設定を選ぶ

2 「既存の設定から選択」を選ぶ

通信設定／機能設定を追加または置き換える

3 変更する設定を選ぶ > 「既存の設定から選択」> いずれかの通信設定（NW）または機能設定（MODE）を選ぶ

- 登録されている通信設定／機能設定のうち、使用できないものは灰色で表示される。

4 「決定」を選ぶ

- 必要に応じて「通信設定確認」または「機能設定確認」を選んで設定内容を確認する。

通信設定／機能設定の選択を解除する

3 選択解除する設定を選ぶ > 「選択解除」> 「OK」を選ぶ

MEMO

- IPストーリーミングまたはブラウザーリモートのときは、1つの接続設定に、通信設定と機能設定を2つずつ登録することができます。
- 通信設定を2つとも選択解除すると、接続設定自体がリセットされ、「未設定」に変わります。

接続設定名を変更する

一覧から見つけやすくするために接続設定（SET）の名前を変更できます。

1 MENU > ネットワーク設定 > 「接続設定」> SET1～SET20のいずれか > 「セット名」を選ぶ

2 セット名を12文字以内で入力する（ 38）

接続設定を消去する

1 MENU > ネットワーク設定 > 「接続設定」> SET1～SET20のいずれか > 「設定消去」を選ぶ

- 消去する接続設定を選ぶ。

2 「OK」を選ぶ

- 接続設定が消去される。

MEMO

接続設定を消去しても登録した通信設定と機能設定は消去されません。ほかの接続設定を作成するときに再利用できます。

通信設定（NW）や機能設定（MODE）を確認／変更する

カメラに保存されている通信設定（NW）や機能設定（MODE）を確認し、必要に応じて変更／消去することができます。

通信設定／機能設定の内容を確認する

- 1 MENU >  ネットワーク設定 > 「詳細設定」 > 「通信設定」 または 「機能設定」 を選ぶ
- 2 設定内容を確認する通信設定（「NW1」～「NW25」）または機能設定（「MODE1」～「MODE25」）を選ぶ
- 3 「設定内容確認」を選ぶ
 - 設定内容が表示される。
 - ジョイスティックを左右に押すと、すべての設定を表示できる。また、CANCELを押すとメニューに戻る。

通信設定／機能設定を変更／消去する

- 1 MENU >  ネットワーク設定 > 「詳細設定」 > 「通信設定」 または 「機能設定」 を選ぶ
- 2 編集する通信設定（「NW1」～「NW25」）または機能設定（「MODE1」～「MODE25」）のいずれかを選ぶ
- 3 「設定変更」を選んで設定の変更を行う
 - 操作2で「未設定」を選んだときは、「ウィザードで新規作成」（ 171）のみ選択できる。
 - 「設定消去」>「OK」を選ぶと、設定が消去される。

TCP/IPv6設定を行う

接続設定ウィザードでTCP/IPv6の「使う」を選んだときは、ウィザードを終了後にTCP/IPv6設定が必要です。

- 1 「TCP/IPv6」>「TCP/IPv6設定」>「使う」を選ぶ
 - 新規接続設定（ウィザード）で「使う」を選んだときは、この操作は不要。
 - 以降、TCP/IPv6の設定を行う。
- 2 TCP/IPv6設定を手動で行うときは、「手動設定」>「使う」を選ぶ
 - 「DNSサーバー」が「手動設定」に変わる。
 - DNSサーバーを使用しないときは「使わない」を選ぶ。
- 3 「DNSサーバー」> いずれかを選ぶ
 - 操作2で「使わない」を選んだときは、DNSサーバーに「自動取得」が選べる。
- 4 DNSサーバーが「手動設定」のときは、「DNSアドレス」を設定する

「手動設定」が「使う」のとき

- 5 「手動アドレス」、「プレフィックス長」、「ゲートウェイ」を設定する
 - 項目を選んで入力する。

ネットワークに接続する

設定変更できる項目（通信設定）

設定項目	設定値／内容
Wi-Fi	
SSID	
詳細設定	認証方式、パスワード
TCP/IPv4	
IPアドレス設定	自動設定、手動設定
DNSサーバー	使わない、自動取得、手動設定
DNSアドレス、 IPアドレス	
サブネットマスク、ゲートウェイ	
TCP/IPv6	
TCP/IPv6設定	使わない、使う
手動設定	使わない、使う
DNSサーバー	使わない、自動取得、手動設定
DNSアドレス、手動アドレス	
プレフィックス長、ゲートウェイ	

設定変更できる項目（機能設定）

設定項目	設定値／内容
FTP転送	
転送先サーバー	
サーバー、ポート番号	
ユーザー名・パスワード	
ユーザー名、パスワード	
転送先フォルダー	
転送先フォルダーの階層	初期設定、カメラ
同名ファイルの上書き	スキップ、別名で保存、上書き
	スキップ：転送先に同じ名前のファイルがあるとき、そのファイルを転送しない。 別名で保存：転送先に同じ名前のファイルがあるとき、ファイル名の末尾に「_1」 が付加される。 上書き：転送先に同じ名前のファイルがあっても、上書きする。
パッシブモード	使わない、使う
日付フォルダー生成	する、しない
IPストリーミング	
プロトコル	UDP、RTP、RTP+FEC、RTSP+RTP、SRT
送信先サーバー	
送信先ポート	
FECポート番号	
FECインターバル	
RTSP: ユーザー名	
RTSP: パスワード	
SRT: 接続モード	Caller、Listener
SRT: ストリームID	
SRT: 待ち受けポート番号	

設定項目	設定値／内容
SRT: 暗号化の設定	しない、AES-128、AES-192、AES-256
SRT: パスフレーズ	
SRT: レイテンシー	
出力信号形式	9Mbps/1920×1080 59.94P、4Mbps/1920×1080 59.94P、9Mbps/1920×1080 50.00P、4Mbps/1920×1080 50.00P、9Mbps/1920×1080 59.94i、4Mbps/1920×1080 59.94i、9Mbps/1920×1080 50.00i、4Mbps/1920×1080 50.00i
オーディオ出力チャンネル	CH1/CH2、CH3/CH4
CVプロトコル	
送信先サーバー	
送信先ポート番号	

ブラウザーリモートの設定を変更する

1 MENU >  ネットワーク設定 > 「詳細設定」 > 「ブラウザーリモート設定」を選ぶ

2 項目を選択して変更する

- ポート番号(HTTP)/ポート番号(HTTPS)を選ぶと、HTTP/HTTPS通信用のポート番号を変更することができる。通常は、初期設定（HTTP：80、HTTPS：443）を使用する。
- 「HTTPS」 > 「使う」を選ぶと、ブラウザーリモートにHTTPS通信でアクセスできるようになる。HTTPS通信を使う場合、はじめに、カメラアクセスポイントを使ってHTTP接続でネットワーク機器と接続します（ 187）。次に、ブラウザーリモートの設定メニュー（ 190）でルート証明書をダウンロードします。最後に、ダウンロードしたルート証明書をWebブラウザーにインポートすると、HTTPS通信を使うことができます。

XCプロトコルの設定を変更する

1 MENU >  ネットワーク設定 > 「詳細設定」 > 「XCプロトコル設定」を選ぶ

2 項目を選択して変更する

- ポート番号(HTTP)を選ぶと、HTTP通信用のポート番号を変更することができる。通常は、初期設定（80）を使用する。

ネットワークの接続状態を確認する

接続設定をオフラインで行う場合を除き、接続設定を行うとすぐに、本機は自動的にネットワーク接続を行い、選択されているネットワーク設定を有効化します。ネットワークの接続状態は、接続方式とネットワーク機能を表わすアイコンで確認できます。ネットワーク機能を無効にすると、ネットワーク接続アイコンは消えます。



接続方式のアイコン

 Wi-Fi（インフラストラクチャー）

ネットワークへの接続処理中は、画面に黄色で表示され、接続が完了すると白色に変わる。

 Wi-Fi（カメラアクセスポイント）

接続準備中は黄色で表示され、Wi-Fi対応機器から接続可能な状態になると白色に変わる。

ネットワークに接続する



イーサネット

ネットワークへの接続処理中は黄色で表示され、接続が完了すると白色に変わる。

ネットワーク機能のアイコン



FTP：FTP転送（ 185）



IPストリーミング（ 186）



CV Protocol：CVプロトコル（ 174）



frame.io：Frame.io

Frame.ioの転送状態のアイコン



00  00 ：転送中、転送一時停止、転送予約がフル（ 195）

クリップをFTPで転送する

メディアモードのときに、本機に記録したクリップをFTPサーバーに転送できます。以下では、FTPサーバーがあらかじめ起動され、正しく動作していることを前提に説明しています。

1つのクリップを転送する

1 ネットワークを有効にする（ 170）

- FTP転送の機能設定を含む接続設定を選ぶ。

2 「XF-AVC」、「XF-HEVC S / XF-AVC S」のインデックス画面で、転送するクリップを選ぶ

3 クリップメニュー>「FTP転送」>「OK」を選ぶ

- 本機がFTPサーバーと接続し、選択したクリップのファイルが転送される。
- 転送を中止するときは「CANCEL」を選ぶ。

クリップをまとめて転送する

1 ネットワークを有効にする（ 170）

- FTP転送の機能設定を含む接続設定を選ぶ。

2 「XF-AVC」、「XF-HEVC S / XF-AVC S」のインデックス画面を表示する

3 MENU > ネットワーク設定 > 「FTP全クリップ転送」を選ぶ

- 本機がFTPサーバーと接続し、インデックス画面内のクリップのファイルが転送される。
- 転送を中止するときは「CANCEL」を選ぶ。

ご注意

- ファイル転送中は、次のことを守ってください。通信が中断され、転送先に不要なファイルが残ることがあります。
 - メモリーカードカバーを開けない。
 - 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
- 転送先に不要なファイルが残っているときは、内容を十分に確認してから、削除してください。

MEMO

- アクセスポイントの性能や設定、通信状態によっては、ファイルの転送に時間がかかることがあります。

映像をストリーミングで送信する

本機をネットワークに接続して、ネットワーク経由で映像伝送装置のデコーダー（以下「デコーダー」と記載）^{*1}またはパソコン^{*2}に、本機のライブ映像と音声をストリーミング送信します。ライブ中継に利用できるほか、ネットワーク環境が低速な取材現場からでも速報映像を送信することができます。

^{*1} 対応するデコーダーについてはキャノンのホームページなどでご確認ください。

^{*2} ストリーミング映像の受信に対応したパソコン用ソフトウェアが必要です。

送信できる映像と音声の信号形式

メイン動画			ストリーミングの信号形式				
記録形式	解像度	フレームレート	映像			音声 [*]	
			ビットレート	解像度	フレームレート	形式	ビットレート
XF-AVC XF-AVC S	3840×2160 1920×1080	59.94P	9 Mbps 4 Mbps	1920×1080	59.94P、59.94i	MPEG-2 AAC 2ch	256 Kbps
		59.94i			59.94i		
		50.00P			50.00P、50.00i		
		50.00i			50.00i		

^{*} メイン動画の音声は4チャンネルの場合、送信するチャンネルはメニューで選択可能。

1 受信側のデコーダーまたはパソコン：ストリーミング受信の待機状態にする

- デコーダーまたはパソコンの受信用ソフトウェアの詳細については、それぞれの説明書をご覧ください。

2 ネットワークを有効にする（ 170）

- IPストリーミングの機能設定を含む接続設定を選ぶ。

3 MENU > ネットワーク設定 > 「IPストリーミング実行」 > 「する」を選ぶ

- 本機がストリーミング送信を開始する。
- RECボタンを押して、ストリーミング送信と同時に本機に記録することもできる。

4 受信側のデコーダーまたはパソコン：本機と接続する

RTSP+RTPプロトコルのとき：

URL (rtsp://<カメラのIPアドレス>/stream)、RTSPのユーザー名とパスワードを入力する

SRTプロトコルで接続モードが「Listener」のとき：

URL (srt://<カメラのIPアドレス>:<待ち受けポート番号>)を入力する

- 送信するデータを暗号化しているときは、SRTのパスフレーズも入力する。

5 MENU > ネットワーク設定 > 「IPストリーミング実行」 > 「しない」を選んで、送信を終了する

ご注意

- 送信するデータは暗号化されません（SRTプロトコルで暗号化している場合を除く）。

MEMO

- RTSPまたはSRTを使用しない場合、IPストリーミングは、受信側の状態にかかわらず、映像・音声データを送信します。IPアドレスを正しく設定し、受信側のデコーダーが正しく受信できることをあらかじめ確認してください。
- ネットワーク環境や通信状態によっては、パケットの喪失や遅延が発生することがあります。
- IPストリーミング送信を連続して24時間行くと、一旦停止したあと自動的に再開します。
- IPストリーミングを使用中にブラウザーリモートの接続を行うと、ストリーミングの映像や音声途切れることがあります。IPストリーミングとブラウザーリモートを同時に使用するとき、ブラウザーリモートの接続を切断／再接続しないことをおすすめします。
- IPストリーミング実行中にメモリーカードカバーを開けて、カードの取り出しを行うと、ストリーミングの映像や音声途切れることがあります。
- 次のときはIPストリーミングを使用できません。
 - 記録モードが通常記録以外のとき。
 - 「2スロット記録機能」が「切」以外のとき。

ネットワーク機器でリモート撮影する（ブラウザーリモート）

カメラモードにおいて、ネットワークに接続した機器のWebブラウザーから本機をリモートで操作して、動画を撮影することができます。撮影時は、ライブビューによる画角の確認、さまざまな撮影設定*、各種マークの付加が可能なほか、記録メディアやバッテリーの残量、タイムコードの確認を行うことができます。

* ホワイトバランス、Base ISO、ISO感度／ゲイン、シャッタースピード、NDフィルター、アイリス、フォーカス、ズームなどが調整可能。

ブラウザーリモートを起動する

携帯端末などネットワークに接続した機器*¹のWebブラウザー*²からブラウザーリモートを起動します。

*¹ OS、Webブラウザーなどの情報については、キヤノンのホームページなどでご確認ください。

*² JavaScript（ジャバスクリプト）に対応し、Cookie（クッキー）が有効になっている必要があります。

1 ネットワークを有効にする（☑ 170）

- ブラウザーリモートの機能設定を含む接続設定を選ぶ。

2 MENU > ネットワーク設定 > 「接続設定」> 操作1で選んだ接続設定 > 「設定内容確認」を選ぶ

- IPアドレスやURLをメモする。

3 携帯端末など：カメラまたはカメラと同じネットワークに接続する

4 携帯端末など：Webブラウザーを起動する

5 携帯端末など：操作2で確認したURLを入力して、ブラウザーリモートを起動する

- URLを次のように入力する。

`http://xxx.xxx.xxx.xxx:nnn`

カメラのIPアドレス

ポート番号（初期値を使うときは省略可）

- HTTPS通信を使うときは、「http」を「https」に変更する。
- TCP/IPv6を使うときは、IPv6用に設定したIPアドレスとポート番号を使う。

6 携帯端末など：機能設定で設定したユーザー名とパスワードを入力（☑ 173）してログインする

- ブラウザーリモートの画面が表示される。
- ユーザー名とパスワードが不明のときは、カメラの管理者にお問い合わせください。

7 携帯端末など：撮影後はログアウトする

- 撮影後、ブラウザーリモート画面の「ログアウト」を選んで、ブラウザーリモートを終了する。

MEMO

- ネットワーク環境や通信状態によっては、ライブビューの表示や各種設定などに遅延が発生することがあります。遅延が大きい場合は、ライブビュー解像度（☑ 190）を下げることをおすすめします。

`http://192.168.0.3`

192.168.0.3にログイン

パスワードは暗号化されずに送信されます。

ユーザー名

パスワード

キャンセル

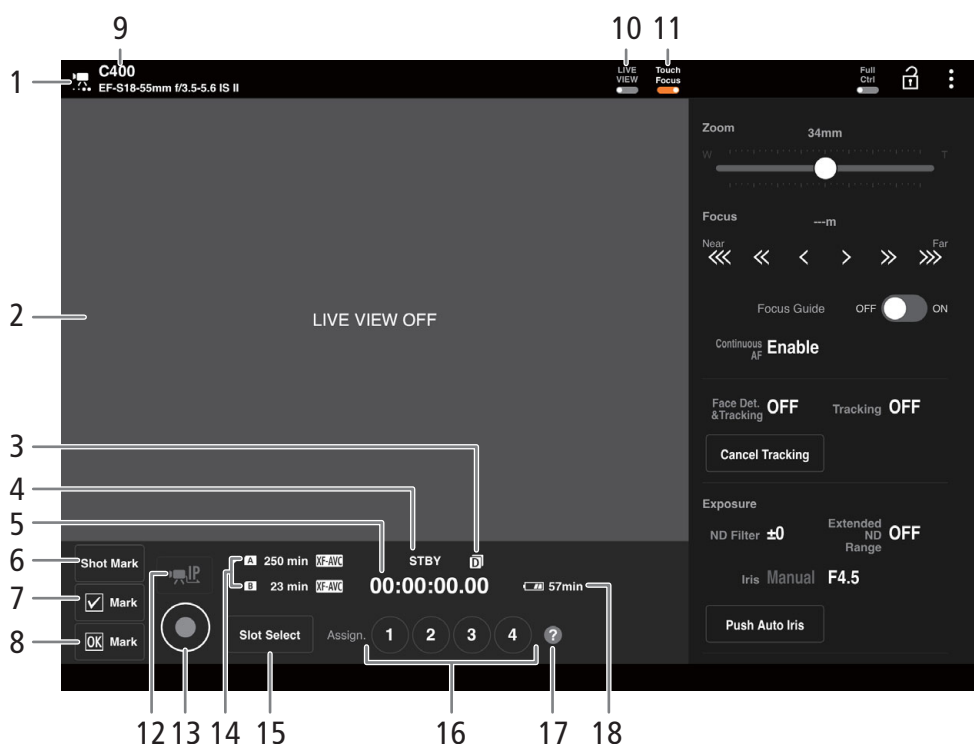
ログイン

リモート撮影する

MEMO

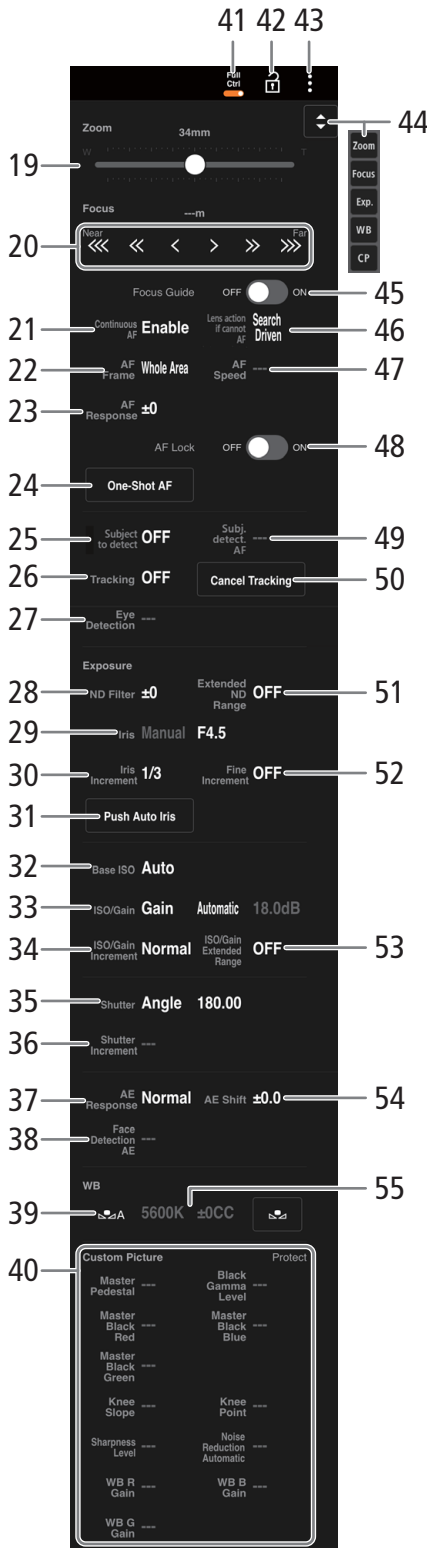
- ブラウザーリモートは、マルチタッチ操作には対応していません。

カメラ操作画面



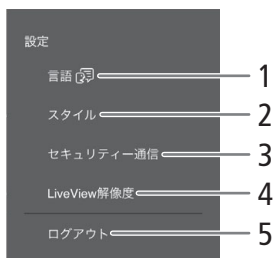
- 1 接続状態表示
 - ブラウザーリモートに接続中は、画面上の●●●●●が、順に点灯→消灯を繰り返す。
- 2 ライブビュー表示エリア
 - カメラのライブビュー映像を表示する。
- 3 ダブルスロット記録
- 4 撮影状態／記録コマンド状態
- 5 タイムコード
- 6 Shotマークボタン
- 7 ☒ Mark（チェックマーク）ボタン
- 8 ☒ Mark（OKマーク）ボタン
- 9 ニックネーム、レンズ名
- 10 LIVE VIEW（ライブビュー）ボタン
 - ライブビュー表示を入／切る。
- 11 Touch Focus（タッチフォーカス）ボタン
- 12 IPストリーミングボタン
 - ブラウザーリモートとIPストリーミングを同時に実行しているとき使用できる。
- 13 REC（記録開始／停止）ボタン
 - 撮影が開始され、撮影状態表示が「●REC」に変わる。RECボタンが●（赤色）に変わる。
 - 撮影中は、タイムコードが歩進する。
 - 再度、RECボタンを押すと撮影を終了し、撮影状態表示が「STBY」に変わる。
- 14 記録メディアの状態／撮影可能時間
- 15 SLOT SELECT（スロット選択）ボタン
- 16 アサインボタン
- 17 アサインボタン設定確認
- 18 バッテリー残量とバッテリー残時間

詳細設定（Full Controls）を選択しているときのメニューは次のとおりです。
必要に応じて「Full Ctrl」ボタンで切り換えてください。



- 19 ズーム操作スライダー
 - ズームを調整する。
- 20 フォーカス操作ボタン
 - <<<, <<, <, >, >>, >>> を選ぶと至近方向に調整し、>, >>, >>> を選ぶと無限方向に調整する。
 - 調整量は選ぶボタンによって異なり、< / > は小、<< / >> は中、<<< / >>> は大。
 - ボタンを長押しすると、フォーカスの動作が連続する。
- 21 連続AF
- 22 AF枠
- 23 AFレスポンス
- 24 ワンショットAF
- 25 検出する被写体
- 26 追尾
- 27 瞳検出
- 28 NDフィルター
- 29 アイリス
- 30 アイリス刻み幅
- 31 プッシュオートアイリス
- 32 Base ISO
- 33 ISO感度／ゲイン
- 34 ISO感度／ゲイン刻み幅
- 35 シャッターモード
- 36 シャッタースピード刻み幅
- 37 AEレスポンス
- 38 顔検出AE
- 39 ホワイトバランス設定方法
 - 設定方法がAWBのときに「AWB Lock」を押すと、一時的にAWB動作を停止する。もう一度押すと再開する。
 - 設定方法がAまたはBのときは、Aを押して基準白色を取り込んで、登録する
- 40 カスタムピクチャー
- 41 Full Ctrl（詳細設定）スイッチ
- 42 (キーロック)ボタン
 - ブラウザーリモートの操作ボタンをロックする。カメラ本体の操作はロックされない。
- 43 設定メニューボタン (190)
- 44 調整項目ボタン
 - 調整項目ボタンを表示する。
 - 調整する項目にタッチすると、それぞれの調整項目が表示される。
- 45 デュアルピクセルフォーカスガイドスイッチ
 - 画面にフォーカスガイド枠が表示される。
- 46 AF 測距不能時のレンズ動作
- 47 AFスピード
- 48 AF ロック
- 49 被写体検出AF
- 50 追尾キャンセル
- 51 ND 濃度拡張
- 52 アイリス刻み幅（ファイン）
- 53 ISO/ゲイン感度拡張
- 54 AEシフト
- 55 ケルビン、色補正值

設定メニュー



- 1 言語選択
 - 一部の画面やメッセージの表示言語を選ぶ。
- 2 スタイル選択
 - ブラウザーリモートの背景色を設定できる。
- 3 セキュリティー通信
 - HTTPS通信で使用するルート証明書をダウンロードする。
- 4 ライブビュー解像度
 - ライブビューの解像度を選択する。
- 5 ログアウト
 - ブラウザーリモートを終了するときに選ぶ。

XCプロトコル対応コントローラー／アプリでリモート撮影する

XCプロトコル対応のリモートカメラコントローラー RC-IP100（別売）／RC-IP1000（別売）やリモートカメラコントロールアプリ*¹に本機のIPアドレスを設定すると、本機をリモートで操作できます。また、本機と同じネットワークに接続しているスマートフォンのMulti-Camera Control*²から本機をリモートで操作できます。

*¹ キヤノンのホームページからダウンロード可能。

*² App Storeからダウンロード可能。

1 本機をカメラモードにする

2 ネットワークを有効にする（ 170）

- 「XCプロトコル」で設定した接続設定を選ぶ。

RC-IP100／RC-IP1000でリモート撮影する

撮影時にアイリス、シャッターなどのカメラ設定や、二ー、シャープネスなどの画質調整ができます。接続／設定のしかたやRC-IP100／RC-IP1000の詳細については、RC-IP100／RC-IP1000の説明書をご覧ください。

MEMO

- 本機を接続時に使用できないRC-IP100の機能は、次のとおりです。
 - **F1／F2ノブ**：PT Speed、R Gain、B Gain、Noise Reduction
 - **USER1／USER2ボタン**：Shooting Mode、Preset Color Settings、Noise Reduction、Knee-Automatic
 - **コントロールレバー**：パン／チルト操作
 - **[TRACE] タブ**
 - **[FUNC] タブ**：Soft Zoom Control、PT Acceleration、Image Stabilizer、Focus limit、Auto Slow Shutter、Gain Boost、Flicker Reduction、ND Filter Mode、Infrared、Wiper、Washer、AUX1～4、Enhanced ND Filter
- 本機を接続時に使用できないRC-IP1000のボタン／レバー／ダイヤルは、次のとおりです。
 - カメラ設定部：FULL AUTO ボタン
 - パン／チルト操作部：PAN / TILTレバー、パン／チルトSPEEDダイヤル
 本機が対応していない機能は使用できません。また、メニュー操作部、ユーザーボタン部、F1／F2／F3／F4／F5ダイヤル、SYSTEMメニューのUSER 1～USER 10ボタンに本機が対応していない機能を割り当てた場合は、RC-IP1000のLCDパネルに灰色で表示されます。
- ズーム操作は、ズーム調整に対応するレンズ（ 253）を装着しているときのみ使用可能です。
- プリセットのフォーカスとズームは、対応するシネマレンズを装着しているときのみ使用可能です。
CN-E70-200mm T4.4 L IS KAS S、CN-E18-80mm T4.4 L IS KAS S、RF24-105mm F2.8 L IS USM Z
- キーロックで本機の操作を無効にしているときでも、RC-IP100／RC-IP1000からは操作できます。（ 11）

MEMO

カスタムピクチャーの設定項目を調整するとき

- プロテクトしたカスタムピクチャーファイルを選んでいると、カスタムピクチャーの設定をRC-IP100／RC-IP1000／リモートカメラコントロールアプリから調整できません。
- RC-IP100／RC-IP1000／リモートカメラコントロールアプリで画質の調整を行うと、選択中のカスタムピクチャーファイルの設定が変更／登録されます。大切なカスタムピクチャーファイルはバックアップし、変更しても良いカスタムピクチャーファイルを選んでから、RC-IP100／RC-IP1000／リモートカメラコントロールアプリで調整してください。

リモートカメラコントロールアプリでリモート撮影する

撮影時は、ライブビューによる画角の確認やさまざまな撮影設定、画質調整ができます。接続／設定のしかたやリモートカメラコントロールアプリの詳細については、リモートカメラコントロールアプリの説明書をご覧ください。

MEMO

- リモートカメラコントロールアプリから本機を操作するときには使用できない機能は、次のとおりです。
 - メニュー 
 - [カメラ電源]
 - [操作設定]：
 - [キーボードショートカット] > [パン 左]、[パン 右]、[チルト 上]、[チルト 下]、[パン/チルト 左上]、[パン/チルト 右上]、[パン/チルト 左下]、[パン/チルト 右下]、[パン/チルトスピード +]、[パン/チルトスピード -]、[トレース準備]、[トレース実行]
 - [PTZ操作方向設定]
 - [プリセット/トレース設定]：
 - [プリセット] > [プリセット一覧] > [プリセット名]、[カメラ設定]
 - [トレース]
 - [設定ページ]
 - カメラ操作部
 - [基本]タブ：
 - [PTZ/フォーカス] > [パン/チルトスピード]、[パン/チルト]
 - [プリセット] > [移動速度]
 - [露出] > すべての撮影モード
 - [露出] > [NDフィルター] > [オート]
 - [ホワイトバランス] > [Rゲイン]、[Bゲイン]
 - [トレース]
 - [詳細]タブ：
 - [画質] > [Knee: Automatic]
 - [露出] > [赤外撮影] > [拡張NDフィルター]
 - [その他機能] > [ワイパー]
 - キーロックで本機の操作を無効にしているときでも、リモートカメラコントロールアプリからは操作できます (11)。
 - カスタムピクチャーの設定を調整するときは、「カスタムピクチャーの設定項目を調整するとき」(191) を参照してください。

Multi-Camera Controlでリモート撮影する

本機と同じネットワークに接続しているスマートフォンから本機をリモートで操作して、動画を撮影することができます。撮影時は、ライブビューによる画角の確認やさまざまな撮影設定、画質調整ができます。

1 スマートフォン：Multi-Camera Controlをインストールする

- App StoreからMulti-Camera Controlをダウンロードして、インストールする。
- 2回目から、この操作は不要。

2 スマートフォン：本機と同じネットワーク（アクセスポイント）に接続する

- スマートフォンの詳細については、スマートフォンの説明書をご覧ください。

3 ネットワークを有効にする (170)

- 「XCプロトコル」で設定した接続設定を選ぶ。

4 スマートフォン：Multi-Camera Controlを起動する

5 スマートフォン：本機と接続する

6 スマートフォン：Multi-Camera Controlを操作してリモート撮影する

7 終了するときは、MENU > ネットワーク設定 > 「ネットワーク」> 「無効」を選ぶ

- MENU >  ネットワーク設定 > 「接続」> 「通信切」を選んでも終了できる。

MEMO

- キーロックで本機の操作を無効にしているときでも、Multi-Camera Controlからは操作できます（ 11）。

撮影データをスマートフォンに転送する

本機と同じネットワークに接続しているスマートフォンに、本機で撮影した動画（XF-AVC S、XF-HEVC S）、音声（WAV）、静止画（JPEG）、News Metadataを転送できます。転送した撮影データはスマートフォンに保存できます（[165](#)）。

1 スマートフォン：Content Transfer Professionalをインストールする

- App StoreまたはGoogle PlayからContent Transfer Professionalをダウンロードして、インストールする。
- 2回目から、この操作は不要。

2 スマートフォン：本機と同じネットワーク（アクセスポイント）に接続する

- スマートフォンをアクセスポイントにして接続するときは、あらかじめテザリング（インターネット共有）を有効にする。
- スマートフォンの詳細については、スマートフォンの説明書をご覧ください。

3 ネットワークを有効にする（[170](#)）

- 「Canonアプリ」の機能設定を含む接続設定を選ぶ。

4 画面の指示に従って、Content Transfer Professionalを起動する

5 スマートフォン：本機と接続する

6 「OK」を選ぶ

7 スマートフォン：Content Transfer Professionalを操作して撮影データを本機から転送する

8 終了するときは、MENU > ネットワーク設定 > 「ネットワーク」> 「無効」を選ぶ

- MENU >  ネットワーク設定 > 「接続」> 「通信切」を選んでも終了できる。
- Content Transfer Professionalから本機との接続を終了したときは、MENU >  ネットワーク設定 > 「接続」が「通信切」になる。

MEMO

- 本機とスマートフォンは、対応するUSBケーブルで接続するか、ネットワーク機能を使用して接続します。USBケーブルを使用して接続するときは、「撮影データをスマートフォンに保存する」（[165](#)）をご覧ください。

撮影データをFrame.ioに転送する

本機とペアリングしているFrame.io Camera to Cloud機能を使用して、スロットBに記録されたプロキシ動画（XF-AVC、XF-HEVC S、XF-AVC-S）、2スロット記録機能時の音声（WAV）を転送できます。

撮影データを自動で転送する

1 ネットワークを有効にする（ 170）

- Frame.ioの機能設定を含む接続設定を選ぶ。

2 MENU > ネットワーク設定 > 「Frame.io」 > 「記録完了時の自動転送」 > 「入」を選んで、撮影する

- 転送予約に追加され、順次Frame.ioに転送される。

撮影データを手動で転送する

1 MEDIAモードにする

2 ネットワークを有効にする（ 170）

- Frame.ioの機能設定を含む接続設定を選ぶ。

3 スロットBの「XF-AVC」、 「XF-HEVC S / XF-AVC S」または「WAV」のインデックス画面で、転送する撮影データを選ぶ

4 クリップメニュー > 「Frame.io転送」 > 「OK」を選ぶ

- 転送予約に追加され、順次Frame.ioに転送される。

MEMO

- MENU >  ネットワーク設定 > 「Frame.io」 > 「転送状況/予約消去」で転送状況が確認できます。予約を消去したい場合、クリップを選択してSET > 「OK」を選んでください。
- MENU >  (アイコン) ネットワーク設定 > 「Frame.io」 > 「予約全消去」 > 「OK」を選ぶと、転送予約をすべて消去できます。
- MENU >  (アイコン) ネットワーク設定 > 「Frame.io」 > 「転送一時停止」 > 「する」を選ぶと、転送を一時停止します。
- 撮影中はFrame.ioへの転送が一時停止します。

メニュー一覧

各メニューで設定できる項目と設定値について説明します。初期設定は太字で記載しています。
メニュー設定の基本操作については「メニューで設定を変える」(P.36)をご覧ください。メニューの項目は、他の機能との設定状態によっては表示されなかったり、使用できなかったりすることがあります。

カメラ設定メニュー

設定項目	設定値／内容	
アイリスモード	オート、 マニュアル	78
アイリスステップ	1/2段、 1/3段	78
アイリスファイン	入、 切	78
ズーム連動F値補正	入、 切 ズーム操作により絞り値（F値）が変化するレンズを使用時、入にすると、設定した絞り値（F値）を保つように絞りを補正する。ただし、絞りが動作するのにともない、若干の輝度のちらつきと動作音が発生する。切にすると、望遠側にズームするに従って、徐々に絞り値（F値）が大きくなる（暗くなる）。輝度のちらつきはなく、絞りの動作音は発生しない。	—
ND表示単位	Stop 、透過率、光学濃度	77
ND濃度拡張	入、 切	77
シャッターモード	スピード、 アングル 、クリアスキャン、スロー、切	70
シャッターステップ	1/3段、 1/4段	70
クリアスキャン自動設定	—	71
フリッカー低減	オート、 切	72
BaseISO	カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」と記録形式の設定によって選択できる値が異なる。	74
ISO/ゲイン	ISO 、ゲイン	73
ISO/ゲインモード	オート、 マニュアル	74
ISO/ゲイン感度拡張	入、 切	73
ISO/ゲインステップ	1段、 1/3段 ／ノーマル、ファイン	73
オート時リミット	[ISO]：切／ISO 25600、ISO400～ISO20000 [ゲイン]：切／42 dB、6 dB～39 dB 「Gamma/Color Space」のガンマが「Canon 709」、「Base ISO」が「自動切り換え」のとき。 「Gamma/Color Space」のガンマ、または「ISO」／「ゲイン」の設定により選択できる値が異なる。	75
測光方式	バックライト、 スタンダード 、スポットライト	80
AEシフト	+2.0～-2.0 (±0)、0.25段刻み	80
AEレスポンス	ハイ、 ノーマル 、ロー	79
ショックレスWB	入、 切	81
AWBレスポンス	ハイ、 ノーマル 、ロー	83
色温度ステップ	ミレッド 、ケルビン	81
連続AF	しない、 する	84
AF測距不能時のレンズ動作	サーチ駆動する 、停止する	87

設定項目	設定値／内容	📖
AF枠	スモールゾーン、ゾーン、ラージゾーン（縦）、ラージゾーン（横）、 全域	89
AFスピード	+1～+10 (7)	88
AFレスポンス	+3～-3 (0)	88
フォーカスモード	AF 、MF	—
フォーカスコントロール	カメラ 、レンズ フォーカスの制御のしかたを選ぶ。「レンズ」にすると、レンズのアクセサリを使ってフォーカスを調整できる。このとき、本機のオートフォーカス機能や、リモートコントローラー RC-V100またはリモートカメラコントローラー RC-IP100／RC-IP1000（いずれも別売）のフォーカス調整は使用できない。	—
検出する被写体	人物 、動物優先、なし	89
被写体検出AF	検出優先 、検出限定	89
瞳検出	入 、切	89
顔検出AE	入 、切	127
カメラグリップズーム	入 、切	93
カメラグリップズームスピード	1～16 (8)	93
デジタルテレコン	x3.0、x2.5、x2.0、x1.5、切	93
ABB	キャンセル 、OK	49
カラーバー	入 、切	113
カラーバータ입	SMPTE 、EBU、ARIB	113
周辺光量補正	入 、切	34
色収差補正	入 、切	34
回折補正	入 、切	34
歪曲収差補正	入 、切	34
レンズ光学IS	入 、切 RF-Sレンズ装着時、「入」にすると手振れによる映像の揺れを光学的に軽減する。	92
電子IS	入 、切	92
電子ISモード	強 、標準	92
電子ISへの動きベクトルの使用	する 、しない	92
レンズ焦点距離	1～1000 (50)	92
アナモフィック補正	レンズスクイーズ連動、x2.0、x1.8、x1.5、x1.3、切	124

📷 Custom Pictureメニュー

設定項目	設定値／内容	📖
📷 ファイル選択	C1:Canon 709 、C2:Canon Log 2、C3:Canon Log 3、C4:BT.709 Wide DR、C5:BT.709 Standard、C6:PQ、C7: HLG、C8:EOS Standard、C9:EOS Neutral、C10:User10～C20:User20	130

設定項目	設定値／内容	📖
CP ファイル編集		131
名称変更	—	
プロテクト	プロテクト解除、 プロテクト	
リセット	Canon 709 、Canon Log 2、Canon Log 3、BT.709 Wide DR、BT.709 Standard、PQ、HLG、EOS Standard、EOS Neutral、User(Canon 709)	
Gamma/Color Space	「カスタムピクチャーの設定項目」を参照 (📖 134)。	
Color Matrix		
Look File		
Look File設定		
HLG Color		
Black		
Black Gamma		
Low Key Saturation		
Knee		
Sharpness		
Noise Reduction		
Skin Detail		
Color Matrix Tuning		
White Balance		
Color Correction		
Other Functions		
CP ファイル保存	SDカードへ保存、SDカードから読み出し	133

🔧 記録/メディア設定メニュー

設定項目	設定値／内容	📖
メディア初期化	CFexpress、SDカード	41
センサーモード	フルサイズ 、Super 35mm (Crop)、Super 16mm (Crop)	62
システム周波数	59.94 Hz 、50.00 Hz、24.00 Hz	62
メイン記録形式	RAW HQ、RAW ST、RAW LT、 XF-AVC YCC422 10 bit 、XF-HEVC S YCC422 10 bit、XF-HEVC S YCC420 10 bit、XF-AVC S YCC422 10 bit、XF-AVC S YCC420 8 bit	62
メイン記録先	CFexpress 、SDカード	62
メイン解像度	「センサーモード」、「メイン記録形式」、「メイン記録先」の設定によって選択できる値が異なる。	62
フレームレート	「システム周波数」の設定によって選択できる値が異なる。 59.94 Hz：59.94P、59.94i、29.97P、23.98P 50.00 Hz：50.00P、50.00i、25.00P 24.00 Hz モード：24.00P	62
ビットレート	「メイン記録形式」、「メイン解像度」の設定によって選択できる値が異なる。	63
XF-HEVC S/XF-AVC Sメインオーディオ	AAC 16 bit 2ch 、LPCM 24 bit 4ch	107
記録モード	通常記録 、Slow & Fast モーション、Slow & Fastモーション／音声 (WAV)、 プレ記録、  メイン／  常時記録、フレーム記録、インターバル記録	43
Slow&Fastフレームレート	「主記録形式」、「解像度/カラーサンプリング」や「フレームレート」の設定によって選択できる値が異なる。	120
常時記録	REC、 STBY	121

設定項目	設定値／内容	📖
フレーム記録 フレーム数	1、3、6、9	122
インターバル記録 時間間隔	1 sec、2 sec、3 sec、5 sec、10 sec、15 sec、30 sec、1 min、2 min、3 min、5 min、10 min	123
インターバル記録 フレーム数	1、3、6、9	123
2スロット記録機能	切、 [CFX] メイン／ [SD] Proxy記録、 [CFX] メイン／ [SD] サブ記録、 [CFX] メイン／ [SD] 音声記録、リレー記録、ダブルスロット記録	43
[SD] 記録形式	「メイン動画」の設定によって選択できる値が異なる	—
[SD] 解像度	「メイン動画」の設定によって選択できる値が異なる。	—
[SD] フレームレート	メイン記録と同じ、59.94i、50.00i	—
[SD] ビットレート	「メイン動画」の設定によって選択できる値が異なる。	—
[SD] XF-HEVC S/XF-AVC Sオーディオ	AAC 16 bit 2CH、LPCM 24 bit 4CH	—
Proxy記録色変換	Custom Picture準拠、BT.709 (Canon 709)、BT.709 (CMT 709)	68
メタデータ		45
カメラインデックス	A_～ZZ	
リール番号	0001～9999	
クリップ番号	001～999	
ユーザー定義	5文字の文字列 (CANON)	
シーン	16文字以内の文字列 (未設定)	
テイク	8文字以内の文字列 (未設定)	
レンズスクイーズ	x2.0、x1.8、x1.5、x1.3、切	
XMLファイル付加	入、切	117
XMLファイル形式	News Metadata、User Memo	118
News Metadata	切、ファイル選択	
News Metadata設定初期化	—	119
User Memo	切、ファイル選択	45
国コード	4文字の文字列 UMID所有権情報の国コード。ISO-3166-1で定義している短縮文字を左詰めで入力する。	
組織	4文字の文字列 UMID所有権情報の組織コード。各組織で運用する組織コード*を入力する。 * 組織コードは、SMPTE登録局に申請後、取得して初めて使用できる。取得していないときは「0000」を入力する。	
ユーザーコード	4文字の文字列 UMID所有権情報のユーザーコード。ユーザーの識別用のコードを入力する*。 * 運用の方法は、ユーザーに任されているが、組織コードに「0000」を入力したときは、入力しない。	
[CP] ファイル付加	入、切	
クリップ番号方式	オートリセット、通し番号	
記録コマンド(EXT REC)	入、切	156
HDMI Time Code	入、切	157

設定項目	設定値／内容	
静止画番号方式	オートリセット、通し番号 静止画に付けられるファイル番号の付けかたを選ぶ。撮影した静止画には連続した番号が自動的に付けられ、カード内のフォルダーに保存される。 オートリセット：初期化されたカードに記録する場合、常に100-0001から始まる。カード内にすでに静止画が記録されているときは、その続きの番号になる。 通し番号：最後に記録した静止画の続き番号から始まる。ただし、カード内に記録されているファイル番号のほうが大きいときは、その続き番号になる。パソコンで管理するときなどに便利。通常はこの設定をおすすめします。 フォルダー名 - フォルダー名の上3桁は100～999の番号、「」以下の下4桁はフォルダーが作成された月日を表す。100番のフォルダーが12月10日に作成されたときは、フォルダー名が「100_1210」になる。 1つのフォルダーには500ファイルまで保存でき、それを超えると自動的にフォルダーが作成される。 ファイル名 - ファイル名の先頭4文字は"IMG_"固定、以降の4文字は静止画固有の番号0001～9999となる。	—
ボリュームラベル	Canon、 Canon+メタデータ	45

オーディオ設定メニュー

設定項目	設定値／内容	
オーディオInput選択		105
(CH1/CH2)	INPUT 端子、MIC 端子、モノラルマイク、マルチアクセサリースュー	
(CH3/CH4)	INPUT 端子、MIC 端子、モノラルマイク、マルチアクセサリースュー	
CH2 Input	INPUT 2 、INPUT 1、モノラルマイク、MIC端子	109
CH1/CH2 ALCリンク	連動、 独立	111
CH3/CH4 ALCリンク	連動、 独立	111
録音レベル	A (Auto) 、M (Manual) 0～100 (50)	110
INPUT 1 マイクトリミング INPUT 2 マイクトリミング	+12 dB、+6 dB、 0 dB 、−6 dB、−12 dB	111
INPUT 1 マイクアッテネーター INPUT 2 マイクアッテネーター	入、 切	111
INPUT 1マイクローカット INPUT 2マイクローカット	切 、LC1、LC2	112
INPUT基準レベル	−18 dB 、−20 dB	112
INPUTリミッター	入、 切	111
MIC アッテネーター	入、 切	111
MICローカット	切 、LC1、LC2	112
MIC入力	MIC (電源供給あり)、LINE	109
マルチアクセサリースュー入力		112
シューマイク		
シューマイクアッテネーター	入、 切	
シューマイクローカット	入、 切	
シューマイク指向性	ショットガン(モノラル)、 90°(ステレオ) 、120°(ステレオ)	

設定項目	設定値／内容	📖
ワイヤレスマイク		
録音レベル	A (Auto) 、M (Manual) 0～100 (50)	
  ウインドカット	入、切	
  アッテネーター	入、切	
ワイヤレスマイクミックス	する、しない	
MUTE ボタン	有効、無効	
動画撮影ボタン	有効、無効	
タリーランプ	入、切	
ワイヤレスマイク状態表示	－	
1 kHz トーン	－ 12 dB、－ 18 dB、－ 20 dB、切	113
ヘッドホン音量	切、1 ～ 15 (8)	145
スピーカー音量	切、1 ～ 15 (8)	145
モニターチャンネル	CH1/CH2 、CH1/CH1、CH2/CH2、CH1+2/CH1+2、CH3/CH4、CH3/CH3、CH4/CH4、CH3+4/CH3+4、CH1/CH3、CH2/CH4、CH1+3/CH2+4	163
HDMIチャンネル	CH1/CH2 、CH3/CH4	163
レベルメーター表示色	カラー、ホワイト	－

📺 モニタリング設定メニュー

設定項目	設定値／内容	📖
LCD明るさ	－ 50～50 (±0)	30
LCDコントラスト	－ 50～50 (±0)	30
LCDカラー	－ 20～20 (±0)	30
LCDシャープネス	1～4 (2)	30
LCD輝度	ノーマル 、－ 2～+ 6	30
アナモフィック: VIDEO端子、MON./HDMI、SDI	入、切	124
アナモフィックデスクイーズ	レンズスクイーズ連動 、x2.0、x1.8、x1.5、x1.3	124
S&F時デスクイーズ	縮小表示、切	124
白黒: VIDEO端子、MON./HDMI、SDI	入、切	30
オンスクリーン表示: MON./HDMI	入、切	158
オンスクリーン表示: SDI	入、切 (クリーン)	158
タリー OSD: VIDEO端子、MON./HDMI、SDI	入、切	57
タリー OSD設定	REC/タリー入力 (PGM/PVW)、REC、 タリー入力 (PGM/PVW)	57
タリー OSD位置	フレーム 、上部、下部	57
DISPレベル1	全表示 、全表示 (フレーム)	52
DISPレベル2	撮影情報表示 、FUNC/MENU操作時表示	52
DISPレベル3	REC/STBY表示のみ 、表示なし	56
フレーム表示対象	DISP レベル1/2/3、DISP レベル1/2、DISP レベル1、 DISP レベル2 、DISP レベル3、切	56

設定項目	設定値／内容	📖
Custom Display 1		52
測光方式、Custom Picture、 焦点距離、ND Filter、 フォーカスモード、キーロック、 ホワイトバランス、AEシフト、 アイリス、ISO／ゲイン、 シャッター、Base ISO、 ピーキング、デジタルテレコン、 電子IS、Magnification、LUT、 レンズ	入、切	
被写体距離（数値）、 被写体距離（バー）	常時入、MF時、切	
水準器（数値）	入、切	
水準器（バー）	Tilt+Roll、Roll、Tilt、切	
露出バー	入、AE時無効、切	
Custom Display 2		52
バッテリー残量	警告、ノーマル、切	
記録可能時間		
記録モード	入、切	
インターバルカウンター		
Genlock/RET		
Time Code		
リール番号／クリップ番号		
Photo	警告、ノーマル、切	
温度/ファン	入、切	
センサーモード		
解像度/カラーサンプリング		
フレームレート		
映像出力		
オンスクリーン表示	入、切	
記録コマンド(EXT REC)	入、切	
User Memo	入、切	
User Bit		
モニターチャンネル		
オーディオレベル	入、切	
マルチアクセスリシーブ		
ワイヤレスマイク	警告、ノーマル、切	
ネットワーク機能	入、切	
GPS		
日付／時刻	日付/時刻、時刻、日付、切	
Custom Display	メディアモードで表示される。	52
オーディオレベル	入、切	
日付/時刻 カメラデータ	入、切 日付/時刻：クリップ/静止画の再生画面に日時を表示する。 カメラデータ：クリップの再生画面にカメラデータ（シャッタースピード、絞り値、ISO感度／ゲイン）を表示する。	

設定項目	設定値／内容	📖
表示単位系	Meters、Feet GPSの高度の表示単位を選ぶ。	—
オンスクリーン透過: VIDEO端子、MON./HDMI、SDI	入、切	158
オンスクリーン透過 不透過度	75% 、62.5%、50%、37.5%、25%	158
オンスクリーン透過 適用画面	すべて 、撮影/再生画面のみ	158
OSD表示方向: VIDEO端子	標準 、左90度回転、右90度回転	58
OSD表示方向: MON./HDMI、SDI	VIDEO端子連動 、左90度回転、右90度回転	58
LUT: VIDEO端子、MON.、HDMI、SDI	入、切	160
LUT選択: VIDEO端子	CMT 709 、Canon 709、HDRアシスト (1600%)、HDRアシスト (400%)、USERLUT1~4* * ユーザー LUTを登録しているときのみ表示される。	160
LUT選択: MON.、HDMI、SDI	CMT 709 、Canon 709、CMT DCI、CMT PQ、CMT HLG、ACESproxy、USERLUT1~4* * ユーザー LUTを登録しているときのみ表示される。	
HDR→SDRゲイン	-7.5 dB~7.5 dB (-3.0 dB)	160
User LUT1~4設定		161
登録		
Color Space (Output)	BT.709 Gamut、BT.2020 Gamut、変換しない	
Range (Output)	Full Range、Narrow Range	
消去		
名称変更		
User LUT設定初期化		161
User LUT情報表示		161
Range: SDI		162
Range: MON.		
Canon Log 出力時	Full Range 、Narrow Range	
HDR出力時	Full Range、 Narrow Range	
Range: HDMI		
Canon Log 出力時	Full Range優先 、Narrow Range	
HDR出力時	Full Range優先、 Narrow Range	

📖 アシスト設定メニュー

設定項目	設定値／内容	📖
フォーカスガイド	入、切	85
フォーカスポジションガイド		86
表示	入、切	
向き	水平 、垂直	
感度	1~5 (3)	
全マーカー削除	キャンセル 、OK	
マーカー 1色	イエロー、 ブルー 、グリーン、レッド、パープル、ホワイト	
マーカー 2色	イエロー、ブルー、 グリーン 、レッド、パープル、ホワイト	
マーカー 3色	イエロー、ブルー、グリーン、 レッド 、パープル、ホワイト	

設定項目	設定値／内容	📖
ピーキング: VIDEO端子、MON./HDMI、SDI	入、切	85
ピーキング選択	ピーキング1、ピーキング2	85
ピーキング1		85
カラー	ホワイト、レッド、イエロー、ブルー	
ゲイン	切、1～15 (8)	
周波数	1～4 (2)	
ピーキング2		85
カラー	ホワイト、レッド、イエロー、ブルー	
ゲイン	切、1～15 (15)	
周波数	1～4 (1)	
Magnification	入、切	86
Magnification出力先	VIDEO端子、MON./HDMI、SDI	86
Magnification有効時白黒	入、切	86
フォルスカラー: VIDEO端子、MON./HDMI、SDI	入、切	97
フォルスカラーインデックス	－	97
ゼブラ: VIDEO端子、MON./HDMI、SDI	入、切	97
ゼブラ選択	ゼブラ 1、ゼブラ 2、ゼブラ 1+2	97
ゼブラ1レベル	5 ±5% ～ 95 ±5% (70 ±5%) ゼブラパターン1の輝度レベルを5%刻みで選ぶ。	97
ゼブラ2レベル	0% ～ 100% ゼブラパターン2の輝度レベルを5%刻みで選ぶ。	97
WFM: VIDEO端子、MON./HDMI、SDI	入、切	114
WFM不透過度	オンスクリーン透過連動、100%、80%、60%、40%、20% WFMの不透過度を選ぶ。「オンスクリーン透過連動」を選ぶと、「オンスクリーン透過 不透過度」の設定に連動する。	
WFM機能	波形モニター、ベクトルスコープ	
波形モニター設定		114
サイズ: VIDEO端子	ノーマル、2倍 画面上の表示倍率を切り換える。	
位置	右、左	
タイプ	ライン、ライン+スポット、ラインセレクト、RGB、YPbPr	
HDR時スケール	IRE、PQ/HLG	
ラインセレクト	2160以上のとき: 0～最大値－2ライン (2ライン刻み) 例 2160のときは0～2158 2160未満のとき: 0～最大値－1ライン (1ライン刻み) 例 1080のときは0～1079 波形を表示するライン (赤い横線) の位置を選ぶ。記録解像度、撮影／再生によって、設定範囲と初期値が異なる。	
ベクトルスコープ設定		115
位置	右、左	
タイプ	ノーマル、スポット	
ゲイン	1x、2x	

設定項目	設定値／内容	📖
マーカー：VIDEO端子、MON./HDMI、SDI	入、切	95
再生時マーカー表示	有効、無効	95
センターマーカー、水平マーカー、垂直マーカー、グリッドマーカー	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、切	95
センターマーカータイプ	クロス1、クロス2、ドット1、ドット2	95
アスペクトマーカー	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、マスク100%、マスク75%、マスク50%、マスク25%、切	95
マーカーアスペクト比	4:3、13:9、14:9、16:9、1.375:1、1.66:1、1.75:1、1.85:1、1.90:1、2.35:1、2.39:1、9:16、4:5、2:1、1:1、カスタム	95
マーカー カスタムアスペクト比	0.01:0.01 ～ 9.99:9.99 (1.00:1.00)	95
セーフティーゾーンマーカー	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、マスク100%、マスク75%、マスク50%、マスク25%、切	96
セーフティーゾーン基準	映像全体、アスペクトマーカー領域	96
セーフティーゾーン領域	80% (長さ比)、88% (長さ比)、90% (長さ比)、93% (長さ比)、95% (長さ比)	96
ユーザーマーカー 1～3	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、切	96
ユーザーマーカー 1設定～ ユーザーマーカー 3設定		96
サイズ		
指定方法	ピクセル、基準領域とアスペクト比、基準領域と倍率	
ピクセル	幅：2 ～ 2048(偶数のみ) (1000) 高さ：2 ～ 1080(偶数のみ) (1000)	
基準領域	映像全体、ユーザーマーカー 1、ユーザーマーカー 2 「ユーザーマーカー 1設定～3設定」の設定によって、選択できる設定値が異なる。	
マーカーアスペクト比	4:3、13:9、14:9、16:9、1.375:1、1.66:1、1.75:1、1.85:1、1.90:1、2.35:1、2.39:1、9:16、4:5、2:1、1:1、カスタム	
マーカーカスタムアスペクト比	設定範囲：0.01:0.01 ～ 9.99:9.99 (1.00:1.00)	
倍率	設定範囲：50～150% (95%)	
位置		
指定方法	中心座標、左上座標、中心合わせ（ユーザーマーカー 2）、中心合わせ（ユーザーマーカー 3） 「ユーザーマーカー 1設定～3設定」の設定によって、選択できる設定値が異なる。	
中心座標	水平方向：-1024 ～ 1024 (0) 垂直方向：-540 ～ 540 (0)	
左上座標	水平方向：0 ～ 2048 (0) 垂直方向：0 ～ 1080 (0)	

🔌 ネットワーク設定メニュー

設定項目	設定値／内容	📖
ネットワーク	有効、無効	170
接続	通信切、SET1～SET20	170

設定項目	設定値／内容	📖
接続設定	SET1～SET20	179
ウィザードで新規作成	—	
既存の設定で作成	—	
設定内容確認	—	
ウィザードで変更	—	
既存の設定から選択	—	
セット名	12文字以内の文字列	
設定消去	—	
新規接続設定（ウィザード）	FTP転送、IPストリーミング、ブラウザーリモート、XCプロトコル、CVプロトコル、Frame.io	171
詳細設定		179
通信設定	NW1～NW25	
機能設定	MODE1～MODE25	
ブラウザーリモート設定	ユーザー設定、ユーザー名・パスワード、ポート番号(HTTP)、ポート番号(HTTPS)、HTTPS	
XCプロトコル設定	認証方式、ユーザー名・パスワード、ポート番号(HTTP)	
802.1X認証の設定		
ニックネーム	16文字以内の文字列（C400）	—
IPストリーミング実行	する、しない	186
Frame.io		195
ペアリング実行	—	
ペアリング解除	—	
ペアリング情報	—	
転送状況／予約消去	—	
予約全消去	—	
転送一時停止	しない、する	
記録完了時の自動転送	入、切	
自動転送対象ファイル形式	XF-AVC Proxy、XF-HEVC S / XF-AVC S Proxy、音声Proxy	
ルート証明書	ルート証明書を読み出し、ルート証明書の情報確認、ルート証明書の消去	
IPv4アドレス確認		171
エラー内容表示		—
FTP全クリップ転送	メディアモードで表示される。	185

🔍アサインボタンメニュー

設定項目	設定値／内容	📖
カメラ	1：Magnification、2：ピーキング：すべて、3：WFM：すべて、4：Slow & Fastモーション、5：ISO/ゲイン、6：シャッター、7：Slow & Fastフレームレート、8：オーディオステータス、9：ホワイトバランス、10：ホワイトバランスセット、11：FUNC、12：（未設定）、13：AFロック	126
グリップ	1、2、3：（未設定）	126
LCDモニター	1：FUNC、2：DISP	126

設定項目	設定値／内容	📖
ブラウザーリモート/XC プロトコル		187
カメラ本体に連動	する、しない 1 : Magnification、2 : 2 : ピーキング : すべて、3 : ゼブラ : すべて、 4 : WFM : すべて	
REMOTE A		126
カメラ本体に連動	する、しない 1 : Magnification、2 : ピーキング : すべて、3 : ゼブラ : すべて、 4 : WFM : すべて	

🔧 システム設定メニュー

設定項目	設定値／内容	📖
リセット		—
全設定	キャンセル、OK	
アサインボタン、水準器	全設定 : アワーメーターを除く本機の設定を初期状態に戻す。 アサインボタン : アサインボタンの機能割り当て設定を初期状態に戻す。 水準器 : 水準器の基準角度を初期状態に戻す (カメラモードのみ)。	
メニュー /  設定保存		139
保存	カメラ本体へ、SDカードへ	
読み出し	カメラ本体から、SDカードから	
タイムゾーン	UTC - 12:00 ~ + 14:00 (UTC+09:00 東京/ソウル)	35
日付/時刻	日付・時刻	35
日時スタイル	YMD 、YMD/24H、MDY、MDY/24H、DMY、DMY/24H	35
言語 	日本語、English 表示されるメニューやメッセージなどの言語を選ぶ。	—
REMOTE端子	RC-V100 (REMOTE A)、スタンダード	125
MON.&HDMI同時出力	1920×1080P、1920×1080i(PsF)、切	157
MON.出力形式	2048×1080P/1920×1080P 、1920×1080P、1920×1080i(PsF)、1280×720P	157
HDMI出力形式	4096×2160P/3840×2160P 、1920×1080P、1920×1080i、1280×720P	157
HDMIモニター連動	入、切	157
SDI出力	入、切	156
SDI出力形式	4096×2160P/3840×2160P、 2048×1080P/1920×1080P 、1920×1080P、 1920×1080i(PsF)、1280×720P	156
3G-SDIマッピング	Level A 、Level B	157
G-LOCK/SYNC/RET端子	HD Sync出力、 Genlock 入力、RET入力	104
Genlock調整	— 1023 ~ 1023 (0)	103
SYNCスキャンモード	P 、PsF	104
RET出力 : VIDEO端子	有効、無効	94
RET出力 : MON.	有効、無効	94
RET出力 : HDMI	有効、無効	94
Time Codeモード	Preset 、Regen.	99
Time Code Run	Rec Run 、Free Run	99
Time Code DF/NDF	DF 、NDF	99

設定項目	設定値／内容	📖
Time Code設定	00:00:00.00 ～ 23:59:59.29 (59.94 Hz時)、23:59:59.24 (50.00 Hz時) または 23:59:59.23 (24.00 Hz時)	99
TC In/Out	In 、Out	102
User Bit記録モード	Internal 、External	102
User Bitタイプ	設定 、時刻、日付	101
カメラダイヤル、グリップダイヤル、コントロールリング	アイリス* 、ISO/ゲイン、ホワイトバランスモード、ホワイトバランス(K)、ホワイトバランス(CC)、被写体切り換え、クリアスキャン (ステップ)、シャッター、切 * コントロールリングの初期値は「切」	76、78
カメラダイヤル方向、グリップダイヤル方向、コントロールリング方向、SELECTダイヤル (カメラ) 方向	リバース、 ノーマル ダイヤルやコントロールリングの操作方向を選ぶ。	—
グリップダイヤル FUNC/MENU 操作	無効、 有効 メニュー設定、ダイレクトタッチコントロール、カメラダイレクト設定、ステータス画面における、グリップダイヤルによる操作の有効/無効を切り換える。	36
フォーカスリング操作	AF時有効 、AF時無効	—
フォーカスリング方向	リバース、 ノーマル RFレンズのフォーカスリングの操作方向を選ぶ。	—
フォーカスリングレスポンス	回転速度に応じて変動、 回転量に連動	—
フォーカス/コントロールリング	フォーカスリング 、コントロールリング RF-レンズのフォーカス/コントロールリングに割り当てる機能を選ぶ。「コントロールリング」にすると、フォーカスはAFになる。	—
キーロック	すべてのボタン、 RECボタン以外	11
RECボタン (カメラ)、RECボタン (グリップ)	無効、 有効 RECボタンの有効/無効を切り換える。	50
アサインボタン12へのREC割り当て	入、 切 カメラアサイン12ボタンに「REC」を割り当てる。	126
REC/STBYタッチボタン	入、 切 撮影画面上の「 ●REC 」/「 STBY 」のタッチによる、記録開始/停止操作を可能にする。	50
タッチ操作レスポンス	ノーマル 、ロー	30
レックレビュー	クリップ先頭から 、最終4 sec	59
タリーランプ (前面)、(背面)	入、 切 「入」にすると、撮影中にタリーランプが点灯する。	—
タリーランプ設定	電源/メディア/タリー入力(PGM) 、REC/タリー入力(PGM)、REC、タリー入力(PGM) 「電源/メディア/タリー入力(PGM)」にすると、バッテリーの警告やSDカードの記録状態/警告に応じて点灯/点滅する。	50
カードアクセス LED	入、 切 「入」にすると、CFexpressカード/SDカードにアクセスしたときに、それぞれのアクセスランプが点灯する。	—
品 (イーサネット) LED	入、 切 「入」にすると、イーサネットによるネットワーク処理中にイーサネットアクセスランプが点灯/点滅する。	—
ボタン照明	入、 切	12

設定項目	設定値／内容	📖
USBモード	iPhone Canonアプリ、 Canon アプリ/GP-E2 別売のインターフェースケーブルを使って、本機にGPSレシーバー GP-E2を接続するときは、「Canon アプリ/GP-E2」を選ぶ。	165
GPS自動時刻設定	入、切 GPSから得られる時刻情報を使って、本機の「日付/時刻」を自動的に設定する。 - GPS自動時刻設定が有効のときは、MENU > ㊄ システム設定 > 「日付/時刻」を変更できない。 - 動画撮影中は、時刻設定を行わない。	—
ファンモード	オート、 常時	47
ファン速度 (STBY)	強制冷却、ハイ、ミドル、 ロー	47
ファン速度 (REC)、(常時)	ハイ、ミドル、 ロー	47
水準器感度	x16、x8、x4、x2、 標準	47
水準器基準設定	キャンセル 、OK	47
DC IN警告(V)	11.5V ~ 15.0V (12.0V)	25
電源オフ時のレンズ収納	入、切 次のレンズを使用時、レンズのフォーカスモードスイッチをAFにして電源を切ると、自動的にレンズの全長を最短に収納できる。対応レンズ使用時 (📖 254)	—
アワーマーターリセット	キャンセル 、OK カメラ本体の使用時間として、購入時からの使用時間と、最後にこの設定でリセットしたときからの使用時間とがある。アワーマーターリセットでは、最後にリセットしたときからの使用時間をリセットする。	—
Firmware		—
カメラ	ファームウェアのバージョン確認や本機のファームウェアの更新を行う。	
レンズ、マウントアダプター、 パワーズームアダプター、 アクセサリ	本機に装着したレンズやアクセサリ等のファームウェアの更新を行う。	

★マイメニュー

設定項目	設定値／内容	📖
CAMERA-1～CAMERA-5		37
編集	登録、並べ換え、消去、設定初期化、メニュー名変更	

ステータス画面を表示する

撮影や再生に関する様々な設定内容や状態をステータス画面に表示して確認することができます。ステータス画面は、外部モニター（ 156）に出力することもできます。次にあげるステータス画面を表示できます。なお、一部のステータス画面は英語で表示されます。

- 1 アサインボタンに「ステータス」を割り当てる（ 126）
- 2 アサインボタンを押して、ステータス画面を表示する
 - 最後に表示したステータス画面が表示される
 - AUDIO STATUS ボタンを押すと、オーディオ専用のステータス画面が表示される。
- 3 ジョイスティックを左右に押してステータス画面を切り換える
- 4 アサインボタンを再度押すか、**×**を選ぶ
 - ステータス画面が消える
 - MENU ボタンを押しても、ステータス画面が消え、メニューが表示される。

記録／出力信号と設定（詳細）

サブ動画記録（ 67）

メイン動画がRAWの場合

サブ動画：XF-AVC、XF-AVC S（XF-AVC S YCC422 10 bit）

メイン動画				サブ動画
フレームレート	記録形式	解像度	ビットレート	解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	ST		2130 Mbps / 1780 Mbps	4096×2160 600 Mbps / 500 Mbps Intra 250 Mbps L.GOP 2048×1080 300 Mbps / 250 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
	LT		1380 Mbps / 1160 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	6000×3164	2160 Mbps / 1800 Mbps / 1730 Mbps / 1730 Mbps	4096×2160 600 Mbps / 500 Mbps / 480 Mbps / 480 Mbps Intra 450 Mbps / 375 Mbps / 360 Mbps / 360 Mbps Intra 300 Mbps / 250 Mbps / 240 Mbps / 240 Mbps Intra 150 Mbps L.GOP 2048×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
	ST		1070 Mbps / 886 Mbps / 850 Mbps / 850 Mbps	
	LT		690 Mbps / 576 Mbps / 553 Mbps / 552 Mbps	
59.94P / 50.00P	HQ		2290 Mbps / 1910 Mbps	4096×2160 600 Mbps / 500 Mbps Intra 250 Mbps L.GOP 2048×1080 300 Mbps / 250 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
	ST		1130 Mbps / 939 Mbps	
	LT		732 Mbps / 611 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	4368×2304	1150 Mbps / 954 Mbps / 916 Mbps / 915 Mbps	4096×2160 600 Mbps / 500 Mbps / 480 Mbps / 480 Mbps Intra 450 Mbps / 375 Mbps / 360 Mbps / 360 Mbps Intra 300 Mbps / 250 Mbps / 240 Mbps / 240 Mbps Intra 150 Mbps L.GOP 2048×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
	ST		563 Mbps / 470 Mbps / 451 Mbps / 451 Mbps	
	LT		366 Mbps / 306 Mbps / 293 Mbps / 293 Mbps	
59.94P / 50.00P	HQ		574 Mbps / 479 Mbps	2048×1080 300 Mbps / 250 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
	ST		283 Mbps / 236 Mbps	
	LT		184 Mbps / 154 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	2184×1152	287 Mbps / 240 Mbps / 230 Mbps / 230 Mbps	2048×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
	ST		142 Mbps / 118 Mbps / 114 Mbps / 113 Mbps	
	LT		92 Mbps / 77 Mbps / 74 Mbps / 74 Mbps	

サブ動画：XF-AVC S（XF-AVC S YCC420 8 bit）

メイン動画				サブ動画
フレームレート	記録形式	解像度	ビットレート	解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	ST		2130 Mbps / 1780 Mbps	4096×2160 150 Mbps L.GOP 2048×1080 35 Mbps L.GOP
	LT		1380 Mbps / 1160 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	6000×3164	2160 Mbps / 1800 Mbps / 1730 Mbps / 1730 Mbps	4096×2160 100 Mbps L.GOP 2048×1080 35 Mbps L.GOP
	ST		1070 Mbps / 886 Mbps / 850 Mbps / 850 Mbps	
	LT		690 Mbps / 576 Mbps / 553 Mbps / 552 Mbps	
59.94P / 50.00P	HQ		2290 Mbps / 1910 Mbps	4096×2160 150 Mbps L.GOP 2048×1080 35 Mbps L.GOP
	ST		1130 Mbps / 939 Mbps	
	LT		732 Mbps / 611 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	4368×2304	1150 Mbps / 954 Mbps / 916 Mbps / 915 Mbps	4096×2160 100 Mbps L.GOP 2048×1080 35 Mbps L.GOP
	ST		563 Mbps / 470 Mbps / 451 Mbps / 451 Mbps	
	LT		366 Mbps / 306 Mbps / 293 Mbps / 293 Mbps	
59.94P / 50.00P	HQ		574 Mbps / 479 Mbps	2048×1080 35 Mbps L.GOP
	ST		283 Mbps / 236 Mbps	
	LT		184 Mbps / 154 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	2184×1152	287 Mbps / 240 Mbps / 230 Mbps / 230 Mbps	2048×1080 35 Mbps L.GOP
	ST		142 Mbps / 118 Mbps / 114 Mbps / 113 Mbps	
	LT		92 Mbps / 77 Mbps / 74 Mbps / 74 Mbps	

サブ動画：XF-HEVC S（XF-HEVC S YCC422 10 bit）

メイン動画				サブ動画
フレームレート	記録形式	解像度	ビットレート	解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	ST		2130 Mbps / 1780 Mbps	4096×2160 225 Mbps L.GOP 2048×1080 50 Mbps L.GOP
	LT		1380 Mbps / 1160 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	6000×3164	2160 Mbps / 1800 Mbps / 1730 Mbps / 1730 Mbps	4096×2160 135 Mbps L.GOP 2048×1080 50 Mbps L.GOP
	ST		1070 Mbps / 886 Mbps / 850 Mbps / 850 Mbps	
	LT		690 Mbps / 576 Mbps / 553 Mbps / 552 Mbps	

メイン動画				サブ動画
フレームレート	記録形式	解像度	ビットレート	解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	HQ	4368×2304	2290 Mbps / 1910 Mbps	4096×2160 225 Mbps L.GOP 2048×1080 50 Mbps L.GOP
	ST		1130 Mbps / 939 Mbps	
	LT		732 Mbps / 611 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	4368×2304	1150 Mbps / 954 Mbps / 916 Mbps / 915 Mbps	4096×2160 135 L.GOP 2048×1080 50 Mbps L.GOP
	ST		563 Mbps / 470 Mbps / 451 Mbps / 451 Mbps	
	LT		366 Mbps / 306 Mbps / 293 Mbps / 293 Mbps	
59.94P / 50.00P	HQ	2184×1152	574 Mbps / 479 Mbps	2048×1080 50 Mbps L.GOP
	ST		283 Mbps / 236 Mbps	
	LT		184 Mbps / 154 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	2184×1152	287 Mbps / 240 Mbps / 230 Mbps / 230 Mbps	2048×1080 50 Mbps L.GOP
	ST		142 Mbps / 118 Mbps / 114 Mbps / 113 Mbps	
	LT		92 Mbps / 77 Mbps / 74 Mbps / 74 Mbps	

サブ動画：XF-HEVC S（XF-HEVC S YCC420 10 bit）

メイン動画				サブ動画
フレームレート	記録形式	解像度	ビットレート	解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	ST	6000×3164	2130 Mbps / 1780 Mbps	4096×2160 150 Mbps L.GOP 2048×1080 35 Mbps L.GOP
	LT		1380 Mbps / 1160 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	6000×3164	2160 Mbps / 1800 Mbps / 1730 Mbps / 1730 Mbps	4096×2160 100 Mbps L.GOP 2048×1080 35 Mbps L.GOP
	ST		1070 Mbps / 886 Mbps / 850 Mbps / 850 Mbps	
	LT		690 Mbps / 576 Mbps / 553 Mbps / 552 Mbps	
59.94P / 50.00P	HQ	4368×2304	2290 Mbps / 1910 Mbps	4096×2160 150Mbps L.GOP 2048×1080 35 Mbps L.GOP
	ST		1130 Mbps / 939 Mbps	
	LT		732 Mbps / 611 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	4368×2304	1150 Mbps / 954 Mbps / 916 Mbps / 915 Mbps	4096×2160 100 Mbps L.GOP 2048×1080 35 Mbps L.GOP
	ST		563 Mbps / 470 Mbps / 451 Mbps / 451 Mbps	
	LT		366 Mbps / 306 Mbps / 293 Mbps / 293 Mbps	

メイン動画				サブ動画
フレームレート	記録形式	解像度	ビットレート	解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	HQ	2184×1152	574 Mbps / 479 Mbps	2048×1080 35 Mbps / 35 Mbps L.GOP
	ST		283 Mbps / 236 Mbps	
	LT		184 Mbps / 154 Mbps	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	HQ	2184×1152	287 Mbps / 240 Mbps / 230 Mbps / 230 Mbps	2048×1080 35 Mbps L.GOP
	ST		142 Mbps / 118 Mbps / 114 Mbps / 113 Mbps	
	LT		92 Mbps / 77 Mbps / 74 Mbps / 74 Mbps	

メイン動画がXF-AVCの場合

サブ動画：XF-AVC

メイン動画				サブ動画
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	4096×2160	1200 / 1000	Intra	● 2048×1080 300 Mbps / 250 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		900 / 750		
		600 / 500		
		250 / 250	L.GOP	50 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		600 / 500 / 480 / 480	Intra	● 4096×2160 150 Mbps L.GOP ● 2048×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		450 / 375 / 360 / 360		
		300 / 250 / 240 / 240		
		150 / 150 / 150 / 150	L.GOP	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	3840×2160	1200 / 1000	Intra	● 1920×1080 300 Mbps / 250 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP 以下は59.94i / 50.00i 150 / 125 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP 25 Mbps L.GOP
		900 / 750		
		600 / 500		
		250 / 250	L.GOP	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP 以下は59.94i / 50.00i 50 Mbps L.GOP 25 Mbps L.GOP
		29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	600 / 500 / 480 / 480	Intra
450 / 375 / 360 / 360				
300 / 250 / 240 / 240				
150 / 150 / 150 / 150			L.GOP	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP

メイン動画				サブ動画
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	2048×1080	300 / 250	Intra	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP
		50 / 50	L.GOP	—
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		150 / 125 / 120 / 120	Intra	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP
		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	—
59.94P / 50.00P	1920×1080	300 / 250	Intra	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP
		50 / 50	L.GOP	—
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		150 / 125 / 120 / 120	Intra	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP
		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	—
59.94i / 50.00i		150 / 125	Intra	● 1920×1080 50 Mbps / 25 Mbps L.GOP
		50 / 50	L.GOP	—
		25 / 25	L.GOP	—

サブ動画：XF-AVC S（XF-AVC S YCC422 10 bit）

メイン動画				サブ動画
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	4096×2160	1200 / 1000	Intra	● 2048×1080 300 Mbps / 250 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		900 / 750		
		600 / 500		
250 / 250		L.GOP	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		600 / 500 / 480 / 480	Intra	● 4096×2160 600 Mbps / 500 Mbps / 480 Mbps / 480 Mbps Intra 450 Mbps / 375 Mbps / 360 Mbps / 360 Mbps Intra 300 Mbps / 250 Mbps / 240 Mbps / 240 Mbps Intra 150 Mbps L.GOP ● 2048×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		450 / 375 / 360 / 360		● 4096×2160 450 Mbps / 375 Mbps / 360 Mbps / 360 Mbps Intra 300 Mbps / 250 Mbps / 240 Mbps / 240 Mbps Intra 150 Mbps L.GOP ● 2048×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		300 / 250 / 240 / 240		● 4096×2160 300 Mbps / 250 Mbps / 240 Mbps / 240 Mbps Intra 150 Mbps L.GOP ● 2048×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		150 / 150 / 150 / 150	L.GOP	● 4096×2160 150 Mbps L.GOP ● 2048×1080 50 Mbps L.GOP

メイン動画				サブ動画
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P		1200 / 1000	Intra	● 1920×1080 350 Mbps / 250 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		900 / 750		
		600 / 500		
		250 / 250	L.GOP	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P	3840×2160	600 / 500 / 480 / 480	Intra	● 3840×2160 600 Mbps / 500 Mbps / 480 Mbps / 480 Mbps Intra 450 Mbps / 375 Mbps / 360 Mbps / 360 Mbps Intra 300 Mbps / 250 Mbps / 240 Mbps / 240 Mbps Intara 150 Mbps L.GOP ● 1920×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		450 / 375 / 360 / 360		● 3840×2160 450 Mbps / 375 Mbps / 360 Mbps / 360 Mbps Intra 300 Mbps / 250 Mbps / 240 Mbps / 240 Mbps Intara 150 Mbps L.GOP ● 1920×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		300 / 250 / 240 / 240		● 3840×2160 300 Mbps / 250 Mbps / 240 Mbps / 240 Mbps Intara 150 Mbps L.GOP ● 1920×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		150 / 150 / 150 / 150	L.GOP	● 3840×2160 150 Mbps L.GOP ● 1920×1080 50 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	2048×1080	300 / 250	Intra	● 2048×1080 300 Mbps / 250 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		50 / 50	L.GOP	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		150 / 125 / 120 / 120	Intra	● 2048×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	1920×1080	300 / 250	Intra	● 1920×1080 300 Mbps / 250Mbp Intra 50 Mbps L.GOP
		50 / 50	L.GOP	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		150 / 125 / 120 / 120	Intra	● 1920×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP

サブ動画：XF-AVC S（XF-AVC S YCC420 8 bit）

メイン動画				サブ動画
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	4096×2160	1200 / 1000	Intra	● 2048×1080 35 Mbps L.GOP
		900 / 750		
		600 / 500		
		250 / 250	L.GOP	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		600 / 500 / 480 / 480	Intra	● 4096×2160 100 Mbps L.GOP ● 2048×1080 35 Mbps L.GOP
		450 / 375 / 360 / 360		
		300 / 250 / 240 / 240		
		150 / 150 / 150 / 150	L.GOP	
59.94P / 50.00P	3840×2160	1200 / 1000	Intra	● 1920×1080 35 Mbps L.GOP
		900 / 750		
		600 / 500		
		250 / 250	L.GOP	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		600 / 500 / 480 / 480	Intra	● 3840×2160 100 Mbps L.GOP ● 1920×1080 35 Mbps L.GOP
		450 / 375 / 360 / 360		
		300 / 250 / 240 / 240		
		150 / 150 / 150 / 150	L.GOP	
59.94P / 50.00P	2048×1080	300 / 250	Intra	● 2048×1080 35 Mbps L.GOP
		50 / 50	L.GOP	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		150 / 125 / 120 / 120	Intra	● 2048×1080 35 Mbps L.GOP
		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	
59.94P / 50.00P	1920×1080	300 / 250	Intra	● 1920×1080 35 Mbps L.GOP
		50 / 50	L.GOP	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		150 / 125 / 120 / 120	Intra	● 1920×1080 35 Mbps L.GOP
		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	

メイン動画がXF-AVC S（YCC422 10 bit）の場合

サブ動画：XF-AVC S（XF-AVC YCC422 10 bit）

メイン動画				サブ動画
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	4096×2160	1200 / 1000	Intra	● 2048×1080 300 Mbps / 250 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		900 / 750		
		600 / 500		
250 / 250		L.GOP	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		600 / 500 / 480 / 480	Intra	● 4096×2160 150 Mbps L.GOP ● 2048×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		450 / 375 / 360 / 360		
		300 / 250 / 240 / 240		
	150 / 150 / 150 / 150	L.GOP	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP	

メイン動画				サブ動画
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	3840×2160	1200 / 1000	Intra	● 1920×1080 300 Mbps / 250 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		900 / 750		
		600 / 500		
250 / 250		L.GOP	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		600 / 500 / 480 / 480	Intra	● 3840×2160 150 Mbps L.GOP ● 1920×1080 150 Mbps / 125 Mbps / 120 Mbps / 120 Mbps Intra 50 Mbps L.GOP
		450 / 375 / 360 / 360	Intra	
		300 / 250 / 240 / 240	Intra	
150 / 150 / 150 / 150		L.GOP	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP	
59.94P / 50.00P	2048×1080	300 / 250	Intra	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP
		50 / 50	L.GOP	—
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		150 / 125 / 120 / 120	Intra	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP
		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	—
59.94P / 50.00P	1920×1080	300 / 250	Intra	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP
		50 / 50	L.GOP	—
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		150 / 125 / 120 / 120	Intra	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP
		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	—

サブ動画：XF-AVC S（XF-AVC YCC420 8 bit）

メイン動画				サブ動画
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	4096×2160	1200 / 1000	Intra	● 2048×1080 35 Mbps L.GOP
		900 / 750		
		600 / 500		
		250 / 250	L.GOP	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		600 / 500 / 480 / 480	Intra	● 4096×2160 100 Mbps L.GOP ● 2048×1080 35 Mbps L.GOP
		450 / 375 / 360 / 360		
		300 / 250 / 240 / 240		
		150 / 150 / 150 / 150	L.GOP	
59.94P / 50.00P	3840×2160	1200 / 1000	Intra	● 1920×1080 35 Mbps L.GOP
		900 / 750		
		600 / 500		
		250 / 250	L.GOP	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		600 / 500 / 480 / 480	Intra	● 3840×2160 100 Mbps L.GOP ● 1920×1080 35 Mbps L.GOP
		450 / 375 / 360 / 360		
		300 / 250 / 240 / 240		
		150 / 150 / 150 / 150	L.GOP	

メイン動画				サブ動画
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	2048×1080	300 / 250	Intra	● 2048×1080 35 Mbps L.GOP
		50 / 50	L.GOP	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		150 / 125 / 120 / 120	Intra	● 2048×1080 35 Mbps L.GOP
		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	
59.94P / 50.00P	1920×1080	300 / 250	Intra	● 1920×1080 35 Mbps L.GOP
		50 / 50	L.GOP	
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		150 / 125 / 120 / 120	Intra	● 1920×1080 35 Mbps L.GOP
		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	

メイン動画がXF-AVC S（YCC420 8 bit）の場合

サブ動画：XF-AVC S（YCC420 8 bit）

メイン動画				サブ動画
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	4096×2160	150 / 150	L.GOP	● 2048×1080 35 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		100 / 100 / 100 / 100	L.GOP	● 2048×1080 35 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	3840×2160	150 / 150	L.GOP	● 1920×1080 35 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		100 / 100 / 100 / 100	L.GOP	● 1920×1080 35 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	2048×1080	35 / 35	L.GOP	—
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		35 / 35 / 35 / 35	L.GOP	—
59.94P / 50.00P	1920×1080	35 / 35	L.GOP	—
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		35 / 35 / 35 / 35	L.GOP	—

メイン動画がXF-HEVC S（YCC422 10 bit）の場合

サブ動画：XF-HEVC S（YCC422 10 bit）

メイン動画				サブ動画（YCC422 10 bit）
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	4096×2160	225 / 225	L.GOP	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		135 / 135 / 135 / 135	L.GOP	● 2048×1080 50 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	3840×2160	225 / 225	L.GOP	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		135 / 135 / 135 / 135	L.GOP	● 1920×1080 50 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	2048×1080	50 / 50	L.GOP	—
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	—

メイン動画				サブ動画 (YCC422 10 bit)
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	1920×1080	50 / 50	L.GOP	—
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	—

サブ動画：XF-HEVC S (YCC420 10 bit)

メイン動画				サブ動画 (YCC422 10 bit)
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	4096×2160	225 / 225	L.GOP	2048×1080 35 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		135 / 135 / 135 / 135	L.GOP	4096×2160 100 Mbps L.GOP 2048×1080 35 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	3840×2160	225 / 225	L.GOP	1920×1080 35 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		135 / 135 / 135 / 135	L.GOP	3840×2160 100 Mbps L.GOP 1920×1080 35 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	2048×1080	50 / 50	L.GOP	2048×1080 35 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	2048×1080 35 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	1920×1080	50 / 50	L.GOP	1920×1080 35 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		50 / 50 / 50 / 50	L.GOP	1920×1080 35 Mbps L.GOP

メイン動画がXF-HEVC S (YCC420 10 bit) の場合

サブ動画：XF-HEVC S (YCC420 10 bit)

メイン動画				サブ動画
フレームレート	解像度	ビットレート		解像度、ビットレート
59.94P / 50.00P	4096×2160	150 / 150	L.GOP	2048×1080 35 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		100 / 100 / 100 / 100	L.GOP	2048×1080 35 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	3840×2160	150 / 150	L.GOP	1920×1080 35 Mbps L.GOP
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		100 / 100 / 100 / 100	L.GOP	1920×1080 35 Mbps L.GOP
59.94P / 50.00P	2048×1080	35 / 35	L.GOP	—
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		35 / 35 / 35 / 35	L.GOP	—
59.94P / 50.00P	1920×1080	35 / 35	L.GOP	—
29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P		35 / 35 / 35 / 35	L.GOP	—

スロー & ファストモーション記録(📖 120)

選択できるフレームレート

フレームレート	スロー & ファストモーション記録時の選択できる撮影フレームレート
59.94P	1、2、3、6、15、30、44、48、52、56、60、90、120、150、180
29.97P	1、2、3、6、15、22、24、26、28、30、32、36、40、44、48、52、56、60、90、120、150、180
50.00P	1、5、15、25、34、38、42、46、50、54、58、60、75、100、120、125、150、175、180
25.00P	1、5、15、17、19、21、23、25、26、28、30、34、38、42、46、50、54、58、60、75、100、120、125、150、175、180
23.98P、24.00P	1、2、3、6、12、16、18、20、22、24、26、28、30、32、36、40、44、48、52、56、60、72、96、120、144、168、180

設定可能な撮影フレームレート（RAW形式）

記録形式	メイン解像度	ビットレート	フレームレート	スロー & ファストモーション記録時の撮影フレームレート
RAW ST	6000×3164	2130	59.94	1～60
RAW LT		1380		
RAW HQ		2160	29.97	1～30
RAW ST		1070		
RAW LT		690	50.00	1～60
RAW ST		1780		
RAW LT		1160	25.00	1～30
RAW HQ		1800		
RAW ST		886	24.00 23.98	1～60
RAW LT		576		
RAW HQ		1730		1～30
RAW ST		850		
RAW LT		553* ¹		
RAW LT		552* ²		

記録形式	メイン解像度	ビットレート	フレームレート	スロー & ファストモーション記録時の 撮影フレームレート
RAW HQ	4368×2304	2290	59.94	1～60
RAW ST		1130		1～100
RAW LT		732		
RAW HQ		1150	29.97	1～60
RAW ST		563		1～100
RAW LT		366		
RAW HQ		1910	50.00	1～60
RAW ST		939		1～100
RAW LT		611		
RAW HQ		954	25.00	1～60
RAW ST		470		1～100
RAW LT		306		
RAW HQ		916* ¹	24.00 23.98	1～60
RAW HQ		915* ²		1～100
RAW ST		451		
RAW LT		293		
RAW ST	4096×2160	993	59.94	120
RAW LT		645		
RAW ST		497	29.97	
RAW LT		323		
RAW ST		828	50.00	
RAW LT		538		
RAW ST		414	25.00	
RAW LT		269		
RAW ST		398	24.00	
RAW LT		259		
RAW ST		397	23.98	
RAW LT		258		

記録形式	メイン解像度	ビットレート	フレームレート	スロー & ファストモーション記録時の 撮影フレームレート
RAW HQ	2184×1152	574	59.94	1～180
RAW ST		283		
RAW LT		184		
RAW HQ		287	29.97	
RAW ST		142		
RAW LT		92		
RAW HQ		479	50.00	
RAW ST		236		
RAW LT		154		
RAW HQ		240	25.00	
RAW ST		118		
RAW LT		77		
RAW HQ		230	24.00 23.98	
RAW ST		114* ¹		
RAW ST		113* ²		
RAW LT		74		

*1 フレームレートが24.00のとき

*2 フレームレートが23.98のとき

設定可能な撮影フレームレート（XF-AVC形式）

メイン 記録形式	メイン解像度	圧縮方式	記録対象 メディア	フレーム レート	ビットレート	スロー & ファスト モーション記録時の 撮影フレームレート
YCC422 10 bit	4096×2160 3840×2160	Intra-frame	CFexpress	59.94	1200	1～60
			CFexpress		900	1～120
			CFexpress		600	1～120
			SD		600	1～60
			CFexpress	29.97	600	1～60
			CFexpress		450	1～120
			CFexpress		300	1～120
			SD		600	1～30
			SD		450	1～30
			SD		300	1～60
			CFexpress	50.00	1000	1～60
			CFexpress		750	1～120
			CFexpress		500	1～120
			SD		500	1～60
			CFexpress	25.00	500	1～60
			CFexpress		375	1～120
			CFexpress		250	1～120
			SD		500	1～30
			SD		375	1～30
			SD		250	1～60
			CFexpress	24.00/23.98	480	1～60
			CFexpress		360	1～120
			CFexpress		240	1～120
			SD		480	1～30
			SD		360	1～30
			SD		240	1～60
		Long GOP	CFexpress、SD	59.94	250	1～120
			CFexpress	29.97	150	1～120
			SD		150	120
			SD		150	1～100
			CFexpress、SD	50.00	250	1～120
			CFexpress	25.00	150	1～120
			SD		150	1～100
			SD		135	120
			CFexpress	24.00/23.98	150	1～120
			SD		150	1～100
			SD		130	120

メイン 記録形式	メイン解像度	圧縮方式	記録対象 メディア	フレーム レート	ビットレート	スロー & ファスト モーション記録時の 撮影フレームレート
YCC422 10 bit	2048×1080 1920×1080	Intra-frame	CFexpress	59.94	300	1～180
			SD			1～120
			CFexpress	29.97	150	1～180
			SD			1～120
			CFexpress	50.00	250	1～180
			SD			1～120
			CFexpress	25.00	125	1～180
			SD			1～120
			CFexpress	24.00/23.98	120	1～180
			SD			1～120
		Long GOP	CFexpress、SD	59.94 50.00 29.97 25.00 24.00 23.98	50	1～180

プロキシ動画撮影時

記録形式	メイン解像度	圧縮方式	記録対象 メディア	フレーム レート	ビットレート	スロー & ファスト モーション記録時の 撮影フレームレート
YCC420 8 bit	2048×1080	Long GOP	SD	59.94 50.00 29.97 25.00 24.00 23.98	35	1～60

設定可能な撮影フレームレート（XF-AVC S形式）

メイン 記録形式	メイン解像度	圧縮方式	記録対象 メディア	フレーム レート	ビットレート	スロー & ファスト モーション記録時の撮影 フレームレート		
YCC422 10 bit	4096×2160 3840×2160	Intra-frame	CFexpress	59.94	1200	1～60		
					900	1～120		
					600	1～120		
			SD	29.97	600	1～60		
					600	1～60		
					450	1～120		
			CFexpress	50.00	300	1～120		
					600	1～30		
					450	1～30		
			SD	25.00	300	1～60		
					1000	1～60		
					750	1～120		
			CFexpress	24.00/23.98	500	1～120		
					500	1～60		
					500	1～60		
			SD	24.00/23.98	500	1～60		
					375	1～120		
					250	1～120		
			CFexpress	24.00/23.98	500	1～30		
					375	1～30		
					250	1～60		
			SD	24.00/23.98	480	1～60		
					360	1～120		
					240	1～120		
			CFexpress	24.00/23.98	480	1～30		
					360	1～30		
					240	1～60		
			Long GOP	Long GOP	CFexpress、SD	59.94	250	1～120
					CFexpress	29.97	150	1～120
					SD		150	120
		SD			150		1～100	
		CFexpress、SD			50.00	250	1～120	
		CFexpress			25.00	150	1～120	
		SD				135	120	
		SD				150	1～100	
		CFexpress			24.00/23.98	150	1～120	
SD	130	120						
SD	150	1～100						

メイン 記録形式	メイン解像度	圧縮方式	記録対象 メディア	フレーム レート	ビットレート	スロー & ファスト モーション記録時の撮影 フレームレート
YCC422 10 bit	2048×1080 1920×1080	Intra-frame	CFexpress	59.94	300	1～180
			SD			1～120
			CFexpress	29.97	150	1～180
			SD			1～120
			CFexpress	50.00	250	1～180
			SD			1～120
			CFexpress	25.00	125	1～180
			SD			1～120
			CFexpress	24.00/23.98	120	1～180
			SD			1～120
YCC420 8 bit	4096×2160 3840×216	Long GOP	CFexpress、SD	59.94 50.00 29.97 25.00 24.00 23.98	50	1～180
				59.94、50.00	150	1～120
	2048×1080 1920×1080		CFexpress、SD	29.97、24.00、 23.98	100	
				59.94 29.97 50.00 25.00 24.00 23.98	35	1～180

プロキシ動画撮影時

記録形式	メイン解像度	圧縮方式	記録対象 メディア	フレーム レート	ビットレート	スロー & ファスト モーション記録時の 撮影フレームレート
YCC420 8 bit	2048×1080	Long GOP	SD	59.94 50.00 29.97 25.00 24.00 23.98	16、9	1～60

設定可能な撮影フレームレート（XF-HEVC S形式）

メイン 記録形式	メイン解像度	圧縮方式	記録対象 メディア	フレーム レート	ビットレート	スロー & ファスト モーション記録時の 撮影フレームレート
YCC422 10 bit	4096×2160 3840×2160	Long GOP	CFexpress、SD	59.94	225	1～120
			CFexpress、SD	29.97	135	1～120
			CFexpress、SD	50.00	225	1～120
			CFexpress、SD	25.00	135	1～120
			CFexpress、SD	24.00 23.98	135	1～120
			SD		135	1～100
			SD		130	120
	2048×1080 1920×1080		CFexpress、SD	59.94 50.00 29.97 25.00 24.00 23.98	50	1～180
YCC420 10 bit	4096×2160 3840×2160	CFexpress、SD	59.94 50.00	150	1～120	
			29.97 25.00 24.00 23.98	100	1～120	
	2048×1080 1920×1080	CFexpress、SD	59.94 50.00 29.97 25.00 24.00 23.98	35	1～180	

プロキシ動画撮影時

記録形式	メイン解像度	圧縮方式	記録対象 メディア	フレーム レート	ビットレート	スロー & ファスト モーション記録時の 撮影フレームレート
YCC420 10 bit	2048×1080	Long GOP	SD	59.94 50.00 29.97 25.00 24.00 23.98	16、9	1～60

トラブルシューティング

修理に出す前にこの「トラブルシューティング」で説明する内容をもう一度確認してください。それでも直らないときは、お客様相談センターにご相談ください。

電源

電源が入らない。または途中で電源が切れる。

- バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する（☞ 23）。
- バッテリーを正しく取り付け直す（☞ 24）。

起動直後に電源が自動的に切れる。

- 本機で使用できないバッテリーを取り付けた。本機に対応するバッテリーに交換する（☞ 246）。

バッテリーが充電できない。

- バッテリーの温度が0℃未満になったか、または40℃を超えている。0℃未満のときはバッテリーを温めてから、40℃を超えたときは放置して40℃以下になってから、充電を開始する。
- 周囲の温度が0℃～40℃のときに充電する。
- バッテリーが故障しているので、別のバッテリーを使用する。

常温でバッテリーの消耗が極端に早い。

- バッテリーの寿命の可能性ある。☛システム設定ステータス画面（☞ 210）でバッテリーの寿命を確認し、寿命がないときは、新しいバッテリーを購入する。

撮影中

カメラ本体の操作が利かない。

- POWER（電源）スイッチを🔒（キーロック）にしていると、すべての操作、またはRECボタン以外の操作が無効になる*。POWER（電源）スイッチをCAMERAにする。
- *MENU > ☛システム設定 > 「キーロック」で変更可能（☞ 208）。

カメラグリップの操作が利かない。

- カメラグリップの接続プラグがしっかりと接続されていない。接続プラグを抜き差しする（☞ 31）。カメラグリップの角度を変えるときは、接続プラグがしっかりと接続されていることを確認する。

RECボタンを押しても録画しない。

- CFexpressカードやSDカードに空き容量がない。または999クリップ記録されている。別のCFexpressカードやSDカードと入れ換える。または不要なクリップを消すか（☞ 149）、記録されているクリップをバックアップして初期化する（☞ 41）。
- MENU > ☛システム設定 > 「RECボタン(カメラ)」、「RECボタン(本体グリップ)」で、カメラ本体、カメラグリップ、またはモニターユニットのRECボタンが無効になっている。有効にする。
- カメラ本体へ供給している電源の電圧が低下している（☞ 209）。
- カスタムピクチャーの「Color Correction」で調整中は録画できない（☞ 138）
（Area A(B) Revision LevelまたはArea A(B) Revision Phaseの調整中を除く）

RECボタンを押した時点と、記録されたクリップの始めと終わりの時点が異なる。

- RECボタンを押してから、録画の開始／終了までに、多少時間がかかることがある。故障ではない。

ピントが合わない。

- オートフォーカスでフォーカスを調整するとき、被写体によってはピントが自動で合いにくいことがある。手動でピントを調整する（☞ 84）。
- 「連続AF」が「する」、かつ「AF測距不能時のレンズ動作」が「停止する」のときは、合焦付近（AF枠が黄色から白色に変わる）まで手動で調整する。
- レンズが汚れているのでお手入れする。

被写体が横切るとき、被写体がゆがんで見える。

- 撮像素子にCMOSセンサーを使用しているため、本機の前を被写体が素早く横切ると、少しゆがんで見えることがある。故障ではない。

画面に赤、緑、青の輝点が出る。

- ブラックバランス調整を行うと改善することがある（[□ 49](#)）。高度な精密技術で作られている撮像素子（CMOSセンサー）が、宇宙線などの影響を受けると、まれに画面上に小さな輝点（赤、緑、青）ができることがある。これは、撮像素子の原理によるもので、故障ではない。なお、次の場合は画面上に生じる輝点が見えやすくなる。
 - 高温の場所で使用するとき。
 - ISO感度／ゲインが高いとき。
 - シャッタースピードのモードがスローのとき。

画面に通常出ない映像が出て、動画を正しく記録できない。

- 消耗したバッテリーを装着し、ACアダプターをつないで動画記録中に、ACアダプターが抜かれた。または、停電した。ACアダプターを再度つないで本機の電源を入れ直すか、十分に充電したバッテリーと交換する。

動画の「● REC」／「STBY」の切り換えに時間がかかる。

- クリップ数が多いとこのようになることがある。別のカードと入れ換えるか、クリップをバックアップしてカードを初期化する（[□ 41](#)）。

動画を正しく記録できない。

- 記録や消去を繰り返すと、このようになることがある。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する（[□ 41](#)）。

長時間使うと熱くなる。

- 長時間使い続けると熱くなることがあるが、そのまま使用しても問題ない。
本機の温度が急激に上昇したり、持てないほど熱くなったときは故障の可能性がある。お客様相談センターにご相談ください。

再生中

クリップの消去ができない。

- OKマークが付加されたXF-AVCクリップは、本機では消去できない。OKマークを消去してからクリップを消去する（[□ 148](#)）。
- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または  側になっているので、ロックを解除する。

クリップの消去に時間がかかる。

- クリップ数が多いとこのようになることがある。クリップをバックアップしてカードを初期化する（[□ 41](#)）。

静止画を消せない。

- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または  側になっているので、ロックを解除する。
- 他機でプロテクトされた静止画は、本機では消去できない。

表示やランプ

画面に  (赤色) が出る。

- バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する。

画面に  が出る。

- 本機と通信できないバッテリーが取り付けられているため、使用可能時間を表示できない。

タリーランプが点灯しない。

- MENU >  システム設定 > 「タリーランプ(前面)」または「タリーランプ(背面)」を「入」にする。

タリーランプが速く点滅する。

 (1秒に4回の点滅)

- バッテリーが消耗している。十分に充電されたバッテリーと交換する。
- CFexpressカード、SDカードに空き容量がない。別のカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す (149)。
- システムエラーが発生している。電源を入れなおしても解決しないときは、故障の可能性がある。お客様相談センターにご相談ください。

タリーランプがゆっくり点滅する。

 (1秒に1回の点滅)

- CFexpressカード、SDカードの空き容量が少なくなっている。記録中ではないスロットのカードを別のカードと入れ換える。

画面に  (赤色) が出る。

- SDカードエラー。電源を切り、SDカードを出し入れする。それでも赤く点灯しているときは、クリップ/静止画をバックアップしてSDカードを初期化する (41)。

画面に  (赤色) が出て、記録可能時間に「END」が表示される。

- CFexpressカード、SDカードに空き容量がない。別のCFexpressカードやSDカードと入れ換えるか、クリップと静止画 (SDカードのみ) を消す (149)。

撮影を中断してもアクセスランプが赤く点灯している。

- 撮影したクリップを記録メディアに書き込んでいる。故障ではない。

画面に  (黄色) が出る。

- 本機内部の温度が高くなり一定の温度に達した。そのまま使用しても問題ない。

画面に  (赤色) が出る。

- 画面に  (黄色) が出ている状態で、さらに内部温度が高くなった。
- 次のときは、本機の電源を切り、温度が下がるまで使用を中止する。
 - カメラモードでMENU >  システム設定 > 「ファンモード」が「常時」かつ「ファン速度(常時)」が「ハイ」のとき。
 - メディアモードでMENU >  システム設定 > 「ファン速度」が「ハイ」のとき。
- カメラモードでMENU >  システム設定 > 「ファンモード」が「オート」の場合、撮影中に冷却ファンが停止しているときは自動的に冷却ファンが起動する (画面に  FAN が出る)。

画面に  FAN (赤色) が出る。

- 冷却ファンが故障した可能性がある。数分後に電源が強制的に切れる。お客様相談センターにご相談ください。

画面に  LENS が出る。

- レンズと正常に通信できない

画面のF値 (T値) が灰色で出る。

- アイリス調整に対応するEFシネマレンズや放送用レンズ使用時、絞りがクローズする可能性があるときに灰色に変わる。さらに絞って絞りがクローズすると、表示が「closed」に変わる。

画面のNDフィルターの表示が、赤色または「ー」になる。

リモートコントローラー RC-V100のNDフィルターランプが点滅する。

- NDフィルターのユニットが故障した可能性がある。お客様相談センターにご相談ください。

画面や音

VIDEO端子に接続した機器の画面がつかない。

- カメラ本体とVIDEO端子をユニットケーブルで正しく接続する。

外部モニターに映像が出ない。

- 本機と外部モニターとの接続が正しく行われていない。ケーブルの接続を確認する。
- 外部モニターの設定を、接続した端子に切り換える。

MON.端子に映像と音が出ない。

- HDMI OUT端子にHDMIケーブルが接続されている。HDMIケーブルを抜く。
- 本機の出力信号に合わせて、外部機器の設定を行う (□ 150)。
- 「MON.&HDMI同時出力」が「切」になっている。

HDMIケーブルで接続しているときに、外部モニター／レコーダーに映像や音が出ない。

- HDMIケーブルを抜き差しするか、本機の電源を入れ直す。
- 出力信号に対応する外部モニター／レコーダーを接続する。

画面に、ピーキング／ゼブラ／WFM／マーカー／フォルスカラー／の表示、拡大表示、白黒表示が行われない。アナモフィック、LUTが適用されない。

- 各設定項目の出力設定を行う。
- 画面表示が出力映像に重畳されていない。画面表示の重畳を「入」にする (□ 158)。

画面がついたり消えたりを繰り返す。

- バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する。
- バッテリーを正しく取り付け直す。

画面に通常出ない文字が出たり、正常に動作しない。

- 電源を取り外し、メモリーカードを取り出す。しばらくしてから電源を取り付けて、メモリーカードを入れる。それでも解決しないときは、**MENU > システム設定 > 「リセット」 > 「全設定」**を行う。アワーメーター（リセット後の使用時間）を除く本機の設定が初期状態に戻る。

画面にノイズが出る。

- 磁石、モーターの近くや電波塔の近くなど、強い磁気や電波が発生する場所から離れて本機を使用する。

画面に横帯が出る。

- 撮像素子にCMOSセンサーを使用しているため、撮影時の照明によっては横帯が見えることがある。故障ではない。電源の周波数に応じたシャッタースピードを設定すると軽減することがある。電源周波数が50 Hzのときは1/50秒*、または1/100秒を、60 Hzのときは1/60秒、または1/120秒を設定する。
*フレームレートによっては選択できない。

音声記録されない。

- INPUT 1端子やINPUT 2端子入力を使用するときはミニXLRコネクターで、MIC（マイク）端子を使用するときはφ3.5mmステレオミニプラグで正しく接続する (□ 108)。
- INPUT端子にファンタム電源が必要な外部マイクを取り付けたときに、INPUT1 / INPUT 2端子切り換えスイッチを「MIC+48V」に切り換えていない。
- MIC端子に接続している外部マイクの電源が入っていないか、または電源が切れている。または、プラグインパワー対応マイクを取り付けていて**MENU > オーディオ設定 > 「MIC入力」**が「LINE」になっている (□ 109)。

音声極端に小さい。

- INPUT 1端子やINPUT 2端子、MIC（マイク）端子を使用時、録音レベル切り換えスイッチを「M（マニュアル）」にしていて、録音レベルをしぼっている。画面のオーディオレベルメーターで確認しながら適正なレベルに調整する (□ 110)。
- マイクのアッテネーターを「入」にしている。アッテネーターを「切」にする (□ 111)。

音がひずんだり、実際より小さく記録される。

- 大きな音の近く（打上げ花火やコンサートなど）で撮影すると、このようになることがある。マイクアッテネーターを使うか (□ 111)、録音レベルをマニュアルで調整する。

アクセサリ

メモリーカードが入らない。

- CFexpressカードはCFexpressカードスロットに、SDカードはSDカードスロットにそれぞれ正しい向きで入れる。

CFexpressカードに動画を記録できない

- 対応しているCFexpressカードを確認する（☞ 39）。
- はじめて使用するとき、CFexpressカードを本機で初期化する（☞ 41）。
- CFexpressカードに空き容量がないか、または記録可能なクリップ数（999個）を超えた。CFexpressカードの不要なクリップを消すか（☞ 149）、別のCFexpressカードと入れ換える。
- クリップ番号が最大になった。CFexpressカードに記録されているクリップをバックアップしたあとCFexpressカード初期化（☞ 41）するか、クリップをすべて消す（☞ 149）。

SDカードに動画、静止画を記録できない。

- 対応しているSDカードを確認する（☞ 39）。
- はじめて使用するとき、SDカードを本機で初期化する（☞ 41）。
- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または🔒側になっているので、ロックを解除する。
- SDカードに空き容量がない。別のカードと入れ換えるか、不要な動画と静止画を消す（☞ 149）。
- 静止画に付けられるファイル番号が最大になったため、カードに記録できない。新しいSDカードを入れて、MENU > 📁 記録/メディア設定 > 「静止画番号方式」を「オートリセット」にする（☞ 200）。

CFexpressカードへの書き込み／読み出しが遅くなった。

- 記録や消去を繰り返すとこのようになることがある。CFexpressカードに記録されているクリップをバックアップしたあと、CFexpressカードを初期化する（☞ 41）。

SDカードへの書き込み／読み出しが遅くなった。

- 記録や消去を繰り返すとこのようになることがある。SDカードに記録されているクリップと静止画をバックアップしたあと、SDカードを初期化する（☞ 41）。

リモートコントローラー RC-V100（別売）または市販のリモコンが動作しない。

- MENU > 🏠 システム設定 > 「REMOTE端子」を、RC-V100のときは「RC-V100 (REMOTE A)」に、市販のリモコンのときは「スタンダード」に、市販のリモコンとRC-V100を同時に使用するとき「スタンダード + RC-V100」*に設定する（☞ 125）。
- 本機の電源を切ってリモコンを再接続したあと、本機の電源を入れる。
- 選択しているカスタムピクチャーファイルがプロテクトされていると、RC-V100からカスタムピクチャーの設定を調整できない。プロテクトを解除する。

リモートカメラコントローラー RC-IP100／RC-IP1000（別売）から画質を調整できない。

- 選択しているカスタムピクチャーファイルがプロテクトされていると、RC-IP100／RC-IP1000からカスタムピクチャーの設定を調整できない。プロテクトを解除する。

他機

テレビの放送画面にノイズが出る。

- テレビの近くで使用するとき、テレビやアンテナケーブルからACアダプターを離す。

ネットワーク接続

ネットワーク接続に関するトラブルについては、ここで説明する内容をご確認ください。お使いのネットワーク機器の説明書も併せてご覧ください。

はじめに確認してください

- アクセスポイントやパソコンなどのネットワーク機器と本機の電源は入っていますか？
- ネットワークの設定が完了し、正しく動作していますか？
- パソコンなどのネットワーク機器は、本機と同じネットワークに正しく接続していますか？
- Wi-Fi接続の場合、本機をアクセスポイントまたはパソコンなどWi-Fi対応機器から見通しの良い場所に置いてありますか？

アクセスポイントに接続できない。

- 本機が接続しようとしているネットワーク機器の設定が正しいか確認する。
- 電波状況が悪い、周囲の電子機器と電波が干渉している可能性がある。「Wi-Fi接続の注意点とトラブル対処方法」を参考に対応する（□ 235）。

カメラアクセスポイントで、本機に接続できない。

- 本機的全設定をリセットすると、ネットワーク設定が解除される。初期設定で接続するか、再度設定を行う。
- 電波状況が悪い、周囲の電子機器と電波が干渉している可能性がある。「Wi-Fi接続の注意点とトラブル対処方法」を参考に対応する（□ 235）。
- 携帯端末から本機に接続できない場合、「ネットワーク」を「無効」にしてから「有効」にし直す。

クリップの転送ができない

- 転送を中止する、またはメモリーカードカバーを開けると、接続先との不整合により、予期しないエラーが発生することがある。ACアダプターを再度つなぐ、またはバッテリーを取り付けなおして本体の電源を入れ直す。
- 修復されていないクリップは転送できない。クリップを修復する（□ 42）。

イーサネットに接続できない。

- イーサネットケーブルには、カテゴリ 5e以上のSTPケーブルを使用する。
- 別のイーサネットケーブルで接続する。
- 本機的全設定をリセットすると、ネットワーク設定が解除される。
- 本機と接続しているネットワーク機器が正しく動作しているか確認する。1000BASE-Tで通信するときはギガビットに対応したネットワーク機器を使用する

イーサネットアクセスランプが赤色に点灯した後、消灯する。

- イーサネットケーブルが抜けたか、接続先のネットワーク機器と通信できない。イーサネットケーブルの接続とネットワーク機器を確認する。

ブラウザーリモートが起動できない。

- ブラウザーリモートで設定した接続設定を選んで接続する。
- ネットワーク機器のWebブラウザーに入力したURLが間違っている。MENU >  ネットワーク設定 > 「接続設定」 > 使用する接続設定 > 「設定内容確認」を選んで、表示されているIPアドレスを入力する（□ 187）。

ネットワーク機器のWebブラウザーで、ブラウザーリモートの画面が正しく表示されない。

- ブラウザーリモートが対応していないOSやWebブラウザーを使用した。キヤノンのホームページで動作環境を確認する。
- Webブラウザーの設定で、CookieとJavaScriptが無効になっているときは、有効にする。

IPストリーミングが実行できない。

- IPストリーミング実行 > 「する」を選ぶ（□ 186）。
- IPストリーミングのプロトコルが「RTSP+RTP」以外のときは、「送信先IPアドレス」を設定する。次のときはIPストリーミングを使用できない。設定を確認する。
 - 主記録形式が「RAW」のとき。
 - スロー & ファストモーション記録、プレ記録、リレー記録、ダブルスロット記録を設定しているとき。
 - システム周波数が24.00 Hzのとき。

XCプロトコル対応のリモートカメラコントローラーに接続できない。

- XCプロトコルで設定した接続設定を選んで接続する。
- リモートカメラコントローラーの設定を確認する。

Wi-Fi接続の注意点とトラブル対処方法

ここでは、Wi-Fi接続に関する注意点と、トラブル発生時の一般的な対応方法を説明します。Wi-Fiを使用しているときに「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときには、以下の例を参考に対応してください。

ネットワーク機器（アクセスポイント／携帯端末）の設置のしかたについて

- Wi-Fiを室内で使用するときは、本機とネットワーク機器を同じ部屋に設置してください。
- 本機とネットワーク機器の間に人や遮蔽物が入らない、見通しの良い場所に設置してください。
- 本機とネットワーク機器をできるだけ近付けて設置してください。必要に応じて、設置する高さや向きを変えてください。

2.4 GHz帯の電波を使用するときの本機の設置・設定について

次の操作をすると、通信状態が改善される場合があります。

- 電波を遮蔽しないように、ハンドルユニットを取り付けない。
- ブラウザーリモート使用時は、ブラウザーリモートの「ライブビュー解像度」を「スモール」にする（ 190）。

周囲の電子機器について

- 周囲にある電子機器の影響（電波の干渉）で通信速度が遅くなるときは、5 GHz帯の電波を使用するか、チャンネルを変更すると、問題を解消できることがあります。
- IEEE 802.11b / g / nのWi-Fiでは、電子レンジやコードレス電話機、ワイヤレスマイク、Bluetooth機器などと同じ2.4 GHz帯の電波を使用します。このため、周囲にこれらの機器があると通信速度が遅くなります。

Wi-Fi対応別売アクセサリやアクセスポイントを複数台使用するとき

- 同一ネットワーク内の機器のIPアドレスが重複しないようにしてください。
- 同じアクセスポイントに本機を2台以上接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b / gまたはIEEE 802.11n（2.4 GHz帯）のアクセスポイントを複数台使用するときは、電波干渉を少なくするため、Wi-Fiのチャンネルの間隔を、「1、6、11」、「2、7、12」、「3、8、13」のように4チャンネル分空けてください。5 GHz帯の電波を使用するIEEE 802.11a / n / acが使用可能なときは、IEEE 802.11a / n / acに切り換え、異なるチャンネルを設定してください。その際、Wi-Fiのチャンネルの間隔は、使用する電波や帯域幅に応じて、必要なチャンネル分空けてください。

例：IEEE 802.11acの場合、VHT80のときは8チャンネル分空ける。

エラーメッセージ

本機の画面にメッセージが出たときは、次のような対処をしてください。なお、メッセージの冒頭に、「CFexpress」、「SDカード」などが表示されることがあります。これは、エラーが発生した記録メディアを表わします。

空き容量がありません

- メモリーカードに空き容量がない。別のカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す（ 149）。
- メモリーカードに空き容量がないため記録を開始できない。もう一方のスロットに切り換えてから撮影する。

空き容量がわずかです

- リレー記録時、CFexpressカードとSDカードを合わせた空き容量が少なくなっている。
- ダブルスロット記録時、CFexpressカードとSDカードのうち、記録容量の少ないカードの空き容量が少なくなっている。
- 通常記録時、CFexpressカードとSDカードのうち、記録中のカードの空き容量が少なくなっている。
- メモリーカードの空き容量が少なくなっている。別のカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す（ 149）。

アクセサリが使用できない状態です

- 本機とマルチアクセサリシューに装着しているアクセサリの通信エラーが発生した。本機の電源を入れ直す。

アクセサリが使用できない状態です

アクセサリの電池の状態を確認してください

- マルチアクセサリシューに装着しているアクセサリの電池残量が少ない。電池を入れ換える。

以下の設定が更新されました

-  記録/メディア設定メニューの変更に伴い、画面に表示されたメニュー設定が自動的に変更された。設定を確認する。

カードの誤消去防止ツマミを確認してください

- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または  側になっているため、カードに書き込めない。誤消去防止ツマミを反対側にする。

画像がありません

- SDカードに静止画が記録されていない。静止画を記録してから再生する。

カバーがあいています

- カメラモードに切り換えたときに、メモリーカードカバーが開いていた。メモリーカードを入れたらメモリーカードカバーを閉じる。

カメラとレンズの通信不良です

レンズの接点を清掃してください

- レンズ接点が汚れているので、本機とレンズが通信できない。画面に **LENS** アイコンが表示される。レンズの接点を柔らかい布などでふく。

管理ファイルエラー

- クリップの管理情報に書き込みできないため、記録できない。他の機器でカード内のファイル进行操作すると、このようになることがある。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する（ 41）。

管理ファイルのバージョンが異なります

全データのバックアップと初期化をお勧めします

- すべてのデータをバックアップし、カードを初期化する。

記録を中止しました

- クリップの管理情報が壊れたか、またはエンコーダーにエラーが発生したため、記録できない。電源を入れなおしてカードを出し入れするか、別のカードと入れ換える。それでも解決しないときは、お客様相談センターにご相談ください。

クリップがありません

- メモリーカードにクリップが記録されていない。クリップを記録してから再生する。

クリップ数がいっぱいです

- 記録中のメモリーカードがクリップ数の上限（999個）に達した。もう一方のスロットに切り換えるか、別のカードと入れ換える。
- ダブルスロット記録時に、両カードのクリップ数がいっぱいでは記録できない。

現在の動画記録設定に対応していないカードです

- スロー & ファストモーション記録設定でスロー記録になるフレームレートを選んだときに、ビデオスピードクラス V90以外のSDカードをカードスロットに入れた。
- 「メイン記録方式」が「XF-AVC YCC422 10 bit」または「XF-AVC S YCC422 10 bit」で、「メイン解像度」が「4096×2160 Intra-frame」または「3840×2160 Intra-frame」のときに、ビデオスピードクラス V90以外のSDカードをカードスロットに入れた。
- 「メイン記録方式」が「XF-AVC YCC422 10 bit」または「XF-AVC S YCC422 10 bit」で、「メイン解像度」が「XXXXX Intra-frame」のときに、ビデオスピードクラス V60/V90以外のSDカードをカードスロットに入れた。
- 「メイン記録方式」が「XF-AVC YCC422 10 bit」、「XF-HEVC S YCC422 10 bit」、「XF-AVC S YCC422 10 bit」で、「メイン解像度」が「4096×2160 XXXXX」または「3840×2160 XXXXX」のときに、ビデオスピードクラス V60/V90以外のSDカードをカードスロットに入れた。

現在のビットレートでは記録できません

- メイン記録形式、メイン解像度、記録モードを確認する

このカードでは動画記録できないことがあります

- SDスピードクラスに対応していないカードまたはスピードクラス2 / 4のSDカードを入れた。SDスピードクラス6または10、UHSスピードクラス1または3のカードを使用する（□ 39）。

この設定を変更すると、現在のLook Fileを使用できません

- カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」、「HLG Color」、「White Level 100%」、「Over 100%」が、Lookファイルを登録したときの設定から変更されたため、Lookファイルによる画質調整を有効にできない。前記の設定をLookファイル登録時の設定に戻すか、Lookファイルを登録し直す。

このバッテリーパックが装着されているときは下記の機能を使用できません**「LENS端子による通信」****「カメラからマルチアクセサリシューへの給電」**

- BP-A60N（付属）またはBP-A30N（別売）を装着する

再生できない画像です

- 他機で記録したり、パソコンで作成や加工をしたりした静止画は再生できないことがある。

再生できません

- クリップの管理情報が壊れたか、またはデコーダーにエラーが発生したため、再生できない。電源を入れなおしてカードを出し入れする。それでも解決しないときは、お客様相談センターにご相談ください。

修復が必要なクリップがあります

- 記録中に停電したり、記録中にカードを取り外したりしたことにより、クリップに異常が発生した。クリップを修復する（□ 42）。

使用中のレンズにこの機能が対応していません

- 選択中の機能がレンズに対応していないため、この機能を使用できない。

「スロー & ファストモーション記録」時、フレームレートが60Pを超えて「SDI出力形式」が3840×2160以上のときはXXXXXできません。

- フォルスカラー、またはピーキング使用中ゼブラを同時に使用できません。設定をご確認ください。

信号形式の設定が変わりました 設定を確認してください

- 記録/メディア設定メニューの変更に伴い、信号形式のいずれかが自動的に変更された。設定を確認する。

「センサーモード」がフルサイズのRAW記録で「SDI出力形式」が3840×2160以上のときはXXXXXできません。

- Magnification、フォルスカラー、またはピーキング使用中ゼブラを同時に使用できません。設定をご確認ください。

操作は無効です

- 次にあげる無効な操作を行った。
 - メディアモードで再生中、同じフレームにショットマークを付加しようとした。
 - OKマーク、チェックマークを同じクリップに付加しようとした。
 - 記録メディアが入っていないときに、RECボタンを押した。

装着されているレンズアクセサリはカメラが対応していないため正しく動作しないことがあります

- 非対応のレンズアクセサリを取り付けた。一部の機能が正しく動作しない可能性がある。

装着されているレンズが本機で正しく動作するためにはレンズのファームウェアのアップデートが必要です

- レンズの最新のファームウェアについては、キヤノンのホームページで確認してください。

装着しているレンズとマウントアダプターの組み合わせで使用する場合、一部の機能が正確に動作しないことがあります

キヤノンのWebサイトをご確認ください

- 装着しているレンズとマウントアダプターの組み合わせで本機を使用する場合、焦点距離やF値の表示は目安として使用する。また、一部の機能が正確に動作しないことがある。

装着されているレンズはカメラが対応していないため正しく動作しないことがあります

- 非対応のレンズを取り付けた。一部の機能が正しく動作しない可能性がある。

レンズを撮影準備位置にセットしてください

- 装着した沈胴式レンズが撮影準備位置（胴が伸びてロックされた状態）にセットされていない。レンズを撮影準備位置にセットする。

装着されているレンズは以下の設定にすることをお勧めします

センサーモード：フルサイズ

電子IS：切

メイン解像度：3840×2160以上

- メッセージのとおりメニューを設定する

データの確認と初期化をお勧めします

- 次の理由によりカードを使用できない。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する（ 41）。
 - カードに異常があるため、記録・再生できない。
 - カードの情報が取得できない。
 - パソコンなど他の機器で初期化されている。
 - カード内にパーティションが設定されている。
 - ファイルのバージョンが異なる

データを修復できませんでした

- クリップを修復できなかった。記録メディアに記録されているクリップをバックアップしたあと、修復に失敗したクリップを消去する（ 149）。
- カードの空き容量がないと修復できないことがある。不要なクリップを消去する（ 149）。

電圧が低下しました

電源を確認してください

- 電源（DC IN 12V端子）の入力電圧／残量（%）が、電源警告の設定値に達した（ 209）。電源を確認する。
- 電源が上記の状態のときに、RECボタンを押した。

バッテリー残量を確認してください

- バッテリーの残量が少ない。

バッテリー通信エラー

ご使用のバッテリーにCanonロゴはありますか？

- キヤノンの推奨以外のバッテリーを取り付けて、電源を入れた。
- キヤノン推奨のバッテリーを使用している場合は、カメラ本体またはバッテリーの故障の可能性がある。お客様相談センターにご相談ください。

バッテリー内部の温度が上昇しています

バッテリーによる電源供給が停止する可能性があります

ACアダプターを抜かないでください

- 温度が上昇した場合、自動的に電源供給を停止する場合があるため、ACアダプターを抜かない。

バッファオーバーです

記録を中止しました

- メモリーカードの書き込み速度が遅いため、記録を中断した。推奨のカードを入れる。
- 記録メディアに記録されているクリップをバックアップしたあと、記録メディアを初期化する（ 41）。

パワースームアダプター**温度が上昇したため操作できません**

- パワースームアダプターの温度が上昇している。温度が下がるまで使用を中止する。

パワースームアダプター**電源を確認してください**

- パワースームアダプターの電池残量が少ない。電池を入れ換える。

ファイル名が作成できません

- クリップ番号が最大になった。クリップをバックアップしてカードを初期化するか (□ 41)、クリップをすべて消す (□ 149)。
- 静止画番号が最大になった。MENU > 記録 / メディア設定 > 「静止画番号方式」を「オートリセット」にしてカードを初期化するか、静止画をすべて消す。

ファンエラー

- 冷却ファンが故障した可能性がある。数分後に電源が強制的に切れる。お客様相談センターにご相談ください。

レンズエラー**電源を入れなおしてください**

- 本機とレンズの通信エラーが発生した。本機の電源を入れ直す。

50.00 Hz (24.00 Hz) (59.94 Hz) で記録されています**CFexpress、SDカードデータの確認と初期化をお勧めします**

- メモリーカード内のクリップが異なるシステム周波数または動画形式で記録されている。このカードに記録するときは、カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する (□ 41)。XF-AVC、XF-AVC S、XF-HEVC Sクリップを再生するときは、本機のシステム周波数を、記録されているクリップと同じにする。

CFexpress、SDカードを確認してください

- メモリーカードにアクセスできない。カードが正しく入っているか、カードに不具合がないか確認する。
- メモリーカードにエラーがあり、記録や再生ができない。カードを出し入れするか、別のカードと入れ換える。
- マルチメディアカードを入れた。推奨のSDカードを入れる (□ 39)。
- 「カードを確認してください」が4秒後に消えて  または  が赤く点灯するときは、電源を切り、カードを出し入れする。 または  が緑色に点灯すれば、そのまま記録や再生ができる。それでも赤く点灯しているときは、動画と静止画をバックアップして初期化する (□ 41)。

CFexpress→SDカード (SDカード→CFexpress) 切り換えました

- リレー記録時に、他方のカードに切り換わった。

CFexpress→SDカード (SDカード→CFexpress) まもなく切り換えます

- 空き容量が少なくなったため、リレー記録によって、約1分後に記録先スロットが切り換わる。

スロット切り換えできません

- 撮影中など、スロットの切り換えができないときにスロットを切り換えた。撮影終了後にスロットを切り換える。

Lens**Power zoom adapter firmware update****Firmware update failed.****Try to update the firmware again.**

- パワースームアダプターのファームウェアの更新が正常に終了しなかった。再度アップデートを行う。

「Gamma/Color Space」(「HLG Color」) (「Over 100%」) (「White Level 100%」)**Look File登録時の設定と異なるため、Look Fileを使用できません**

- Lookファイルの登録後、カスタムピクチャーの一部の設定を変更すると、Lookファイルは無効になる。設定を戻すか、Lookファイルを登録し直す。

NDの枚数が変わりました**フォーカスを確認してください**

- 8 stopsと10 stopsは、NDフィルターの枚数が他の濃度と異なるため、ピントがずれることがある。フォーカスを調整する。

RAW以外への出力／サブ記録映像のノイズが増えます

- 主記録形式がRAWで、「Gamma/Color Space」のGammaが「Canon Log 2」「Canon Log 3」以外に設定されている。この設定ではプロキシ動画（SDカード）、各端子出力の映像にノイズが増えることがある。

SDカードへのRAW記録はできません

- メイン記録先を変更してください。

Shot Mark数オーバー

- ショットマーク数が最大の100個になったため、付加できない。

VIDEO端子に接続した機器やケーブルを確認してください

- 付属のLCDモニター接続専用。付属のモニターケーブルMC-5Uで接続する。

ネットワーク機能使用時

アクセスポイントからの応答がありません

- アクセスポイントが正しく動作しているか確認する。
- 「Wi-Fi接続の注意点とトラブル対処方法」を参考に対応する（[P.235](#)）。

アクセスポイントに接続できません

- 本機とアクセスポイントの暗号化方式が異なる。本機をアクセスポイントの設定に合わせる。

アクセスポイントに接続できませんでした

始めからやり直してください

- WPS（プッシュボタン方式）で接続するときは、あらかじめアクセスポイントの説明書をご覧になり、アクセスポイントがWPS起動状態になるまで、WPSのボタンを押してください。

イーサネットの接続が切れました

- ハブ、ルーターやサーバーの電源が入っていて正常に動作しているか確認する

カメラの温度が上昇したため

ネットワーク接続を切断しました

- カメラ内部の温度上昇により、ネットワークが切断された。本機の電源を切り、温度が下がるまで使用を中止する。

選択したSSIDのWi-Fiネットワークが見つかりません

- アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDを本機に設定する。
- アクセスポイントが正常に動作しているか確認して、もう一度接続を行う。

データセッションに対し、FTPサーバーからエラーが通知されました

- FTPサーバーが接続を切断した。FTPサーバーを再起動する。
- FTPサーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にする。
- FTPサーバーにある保存先フォルダのアクセス権を設定する。
- FTPサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか確認する。
- 記憶装置（ハードディスクなど）に空き容量があるか確認する。

転送先サーバーとの接続の安全性を確認できません

このサーバーを信頼して接続する場合は、「転送先サーバーを信頼」を「する」に設定してください

- 証明書が正しく設定されているか確認する。
- 証明書設定に関わらず、このサーバーを信頼して接続する場合は、「転送先サーバーを信頼」を「する」に設定する。

ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

- 本機と同じIPアドレスの機器が、同一ネットワーク内にあった。IPアドレスが重複している他機または本機のIPアドレスを変更する。
- DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、本機のIPアドレスが「手動設定」になっているときは、IPアドレスを「自動設定」にする。

複数のアクセスポイントを検出したため、接続できませんでした
始めからやり直してください

- 他のWi-Fi機器がWPSのプッシュボタン方式で接続を行っている。しばらくしてから操作するか、「WPS(PIN方式)」など他の接続方法で接続してください。

配信エラーが発生しました

- CVプロトコルのデータを送信先に送信できなかった。本機の送信先の「送信先サーバー」と「送信先ポート番号」を確認する。

ルート証明書が無効です

- ルート証明書の期限が切れている。MENU > 「 ネットワーク設定」 > 「Frame.io」 > 「ルート証明書」 > 「ルート証明書を読み出し」でルート証明書を読み込む。

A user with the same login name is already accessing the camera.

- 他のネットワーク機器が、すでに本機に接続している。他機の接続を解除する。

DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

- 本機の設定がIPアドレス「自動設定」になっている。DHCPサーバーを使用していない場合は、本機をIPアドレス「手動設定」にして設定を行う。
- DHCPサーバーを確認する。
 - DHCPサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか。
 - DHCPサーバーに割り当てられるアドレスに余裕はあるか。
- ネットワーク全体を確認する。
 - 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていないか。
 - 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定する。
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定する。

DNSサーバーから応答がありません

- 本機の設定がDNSアドレス「手動設定」になっている。DNSサーバーを使用していない場合は、本機をDNSアドレス「使わない」にして設定を行う。
- 使用するDNSサーバーと同じIPアドレスを本機に設定する。
- DNSサーバーを確認する。
 - DNSサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか。
 - DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定する。
- ネットワーク全体を確認する。
 - 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていないか。
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定する。
 - 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定する。

Frame.ioとのペアリングが無効です

再度ペアリングしてください

- ペアリングの有効期限が切れた、メニューの設定で解除した。MENU > 「 ネットワーク設定」 > 「Frame.io」 > 「ペアリング実行」を選んで再ペアリングする

Frame.ioとの通信に失敗しました

- ネットワーク接続やFrame.ioに問題が発生していないか確認する。

Frame.io転送時に

ファイルアクセスエラーが発生しました

- SDカードを確認する
 - メモリーカードカバーが開いている
 - 対応しているSDカードを確認する (📄 39)。
 - はじめて使用するときは、SDカードを本機で初期化する (📄 41)。
 - SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または🔒側になっているので、ロックを解除する。
 - SDカードに空き容量がない。別のカードと入れ換えるか、不要な動画と静止画を消す (📄 149)。

FTPサーバーから接続を拒否されました

- FTPサーバーが、特定のIPアドレスのみ接続を許可する設定になっている。「設定内容確認」で本機のIPアドレスを確認して、FTPサーバーの設定を変更する。

FTPサーバーから切断できません

サーバーからエラーが通知されました

- FTPサーバーに対する接続解除が、何らかの理由でうまくいかなかった。FTPサーバーとカメラの電源を入れなおす。

FTPサーバーから、ファイルの転送完了通知がありませんでした

- FTPサーバーからの転送完了通知を、何らかの理由で受けられなかった。FTPサーバーと本機の電源を入れ直し、再度FTP転送を行う。

FTPサーバーに接続できません

- FTPサーバーと同じIPアドレスを本機に設定する。
- 暗号化の認証方式が「オープン」の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになる。大文字、小文字も確認し、正しい認証用の暗号キーを本機に設定する。
- ポート番号は通常21（SFTPのときは22）で、本機とFTPサーバーとも同じポート番号を設定する。FTPサーバーのポート番号を本機に設定する。
- 設定したFTPサーバーのサーバー名が、DNSサーバーに正しく設定されているか確認する。また、使用するFTPサーバーのサーバー名が、本機に間違いなく設定されているか確認する。
- FTPサーバーを確認する。
 - FTPサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか。
 - FTPサーバーに設定しているIPアドレスと、本機に設定しているFTPサーバーのIPアドレスを、同じ設定にする。
 - セキュリティソフトウェアやブロードバンドルーターによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性がある。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにする。
 - 本機の設定で「パッシブモード」を「使う」にすると、FTPサーバーに接続できる場合がある。
 - ネットワーク管理者がいるときは、FTPサーバーのアドレスとポート番号を聞いて、その内容を本機に設定する。
- ネットワーク全体を確認する。
 - 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていないか。
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定する。
 - 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定する。

FTPサーバーに接続できません

サーバーからエラーが通知されました

- FTPサーバーで設定している最大接続数を超えて接続している。FTPサーバーに接続しているネットワーク機器を少なくするか、FTPサーバーの設定で最大接続数を増やす。

FTPサーバーにログインできません

サーバーからエラーが通知されました

- FTPサーバーにログインできなかった。本機のFTPサーバーの「ユーザー名」と「パスワード」を確認する。
- FTPサーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にする。
- フォルダ名をASCII文字で構成する。

Wi-Fiの暗号化方式が違います

- 本機とアクセスポイントの認証／暗号化方式が異なる。本機をアクセスポイントの設定に合わせる。

Wi-Fiの接続が切れました

- アクセスポイントなどのネットワーク機器に接続できなかった。
- コードレス電話機、電子レンジ、冷蔵庫などからの電波と干渉することがある。これらの機器から離れた場所で本機を操作する。

Wi-Fiの認証ができませんでした

- 本機とアクセスポイントの認証方式、認証用の暗号キーが異なる。本機をアクセスポイントの設定に合わせる。

Wi-Fiのパスワードが違います

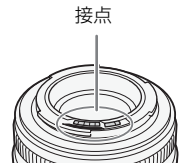
- 正しい認証用の暗号キーを本機とアクセスポイントに設定する。暗号化の認証方式が「オープン」の場合は、「FTPサーバーに接続できません」が表示される。

取り扱い上のご注意／日常のお手入れ

ここでは本機や電源とメモリーカードなどを取り扱うときに注意していただきたいことや、カメラ本体の日常のお手入れについて説明しています。

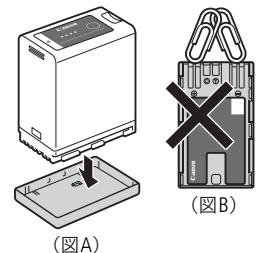
カメラ本体

- ホコリ・砂・水・泥・塩分の多い場所で使用・保管しないでください。本機は防水・防じん構造になっていませんので、これらが内部に入ると故障の原因となります。レンズにホコリや砂が付くのを防ぐため、使用後は、ホコリなどの少ない場所でレンズフードを外してレンズキャップを取り付けてください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布で、よくふき取ってください。万一、本機が水に濡れてしまったときは、早めにお客様相談センターにご相談ください。
- 磁石、モーターの近くや電波塔の近くなど、強い磁気や電波が発生する場所での使用は避けてください。映像や音声 が乱れたり、ノイズが入ったりすることがあります。
- カメラを強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）に向けしないでください。撮像素子などの内部の部品が損傷する恐れがあります。特に三脚を使用しているときやショルダーストラップを使って本機を持ち運ぶときは、本体の角度を変えて直射日光などが入らないようにしてください。本機を使用しないときは、レンズを外して、ボディキャップを取り付けてください。
- LCDモニターをつかんでもちあげたり、無理に収納したりしないでください。LCDモニターの接合部が破損することがあります。
- カメラのレンズ接点を手で触れないでください。接触不良や腐食の原因になることがあります。接点が腐食するとカメラが正しく動作しなくなることがあります。
- レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となり、カメラやレンズが正確に動作しないことがあります。
- 製品を長期間ご使用にならない場合は、ホコリが少なく、湿度の低い、30℃以下の場所に保管してください。
- SDI OUT端子（□ 156）、MON.端子（□ 157）、G-LOCK/SYNC/RET端子（□ 94、□ 102）に接続するケーブルについて
ケーブルを接続する前に、必ず本機および本機に接続された機器に電源またはバッテリーを接続してください。また、電源またはバッテリーを取り外す前に、必ずケーブルを取り外してください。



バッテリー

- バッテリーと本体端子（充電器の端子）の間に異物が入り込まないようにしてください。接触不良、ショート、破損の原因となります。バッテリーの端子は、乾いた布または綿棒などで定期的に清掃してください。
- バッテリーを持ち運ぶときや保管するときは、必ず端子カバーを取り付けてください（図A）。金属などでショートすると高熱や液漏れ、破損の原因となります（図B）。
- バッテリーを高温で長時間使ったり、フル充電後に放置したりすると、正しく表示されないことがあります。使用回数が多いバッテリーも正しく表示されないことがあります。なお、表示は目安としてご使用ください。



使用時間を長くするコツ

こまめに電源を切り、10℃～30℃のところで使用すると、長く使えます。スキー場などでバッテリーが冷たくなると、一時的に使用時間が短くなりますので、ポケットなどに入れて温めてから使用すると効果的です。

長い間保管するとき

- バッテリーの消耗を防ぐため本体から取り外し、乾燥した30℃以下のところで保管してください。
- バッテリーパック上面のランプが2個点灯するまで充電し（□ 25）、本体から取り外して保管してください。
- 半年に1回程度充電してください。

- ショート防止用端子カバーには□の穴があり、バッテリーに取り付けるときの向きによって□の穴から見える色が異なります。これを利用して端子カバーを取り付ければ、充電済みバッテリーを見分けることができます。
- 海外でも付属のバッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプター（AC100 ～ 240 V 50/60 Hzまでの電源に対応）を使用できます。お使いになる国のコンセント形状にあった変換プラグを使用してください。
- バッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプターを変圧器に接続しないでください。故障するおそれがあります。

メモリーカード

- カメラ本体／メモリーカードの故障や静電気などによるデータの損傷・消失に備えて、データはパソコンなどにバックアップしてください。なお、データ損傷および消失については、当社では一切の責任を負いかねます。
- 端子に触れないでください。汚れが付着し、接触不良の原因となります。
- 強い磁気が発生する場所で使わないでください。
- 高温・多湿の場所に放置しないでください。
- シールを貼らないでください。シールが差し込み口につまるおそれがあります。
- 落とす、ぬらす、強い衝撃を与えるなどしないでください。分解は絶対にしないでください。
- メモリーカードに記録されたデータは、消去や初期化をしても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消えません。譲渡・廃棄するときは、データを復元できないように、一度メモリーカードの初期化（□ 41）を行った後、本機にボディキャップを取り付けて最後まで撮影し、再度初期化を行います。これによって、情報漏洩を防いでください。

充電式内蔵電池

本機には充電式のリチウム電池が内蔵されており、日付などの設定を保持しています。この電池は本機を使用中、自動的に充電されますが、約3か月間使わないと完全に放電してしまいます。充電式リチウム電池を充電するときは、本機の電源を切り、電源（バッテリーまたはDC IN 12V端子）を取り付けてください。約24時間で充電できます。

カメラ本体を清掃する（日常のお手入れ）

大切なカメラをより長くお使いいただくために、日常のお手入れには十分注意してください。

カメラ本体

製品の汚れは乾いたやわらかい布で軽くふいてください。化学ぞうきんやシンナーなどの使用は、製品を傷めることがあるのでおやめください。

レンズ

レンズは常にきれいに保つようにしてください。レンズにホコリや汚れがついたときは、最初にブローアード表面のゴミ、ホコリを取り除き、それから汚れをふき取るようにしてください。

LCDモニター

- 汚れたときは市販の眼鏡クリーナー（布製）などで拭いてください。
- 温度差の激しいところでは、画面に水滴がつくことがあります。柔らかい乾いた布で拭いてください。

結露について

室温が高いとき、冷水の入ったコップの表面に水滴がつくことがあります。この現象を結露といいます。本機が結露した場合、そのままの状態ですると故障の原因になりますので注意してください。なお、次のような条件のときに結露が発生しやすくなります。

- 寒い所から急に暖かい所に移動したとき

- 湿度の高い部屋の中
- 夏季、冷房のきいた部屋から急に温度や湿度の高い所に移動したとき

結露したらどうする？

周囲の環境によって多少異なりますが、水滴が消えるまで約2時間程度放置してください。

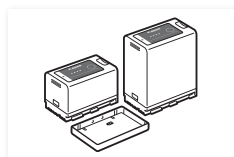
温度差のある場所へ移動するときは

バッテリーを取り外し、メモリーカードを取り出して、本機をビニール袋に空気がはいらないように入れて密閉します。移動先の温度になじんだら袋から取り出します。

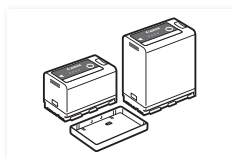
アクセサリ紹介

本機に対応する別売アクセサリは次のとおりです。

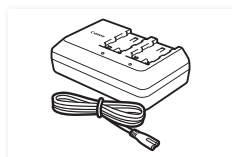
付属／別売アクセサリについては、キヤノンのホームページや、ホームページからダウンロードできる「CINEMA EOS SYSTEM システム拡張ユーザーガイド」(PDFファイル) もご覧ください。



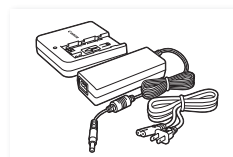
バッテリーパック
BP-A30N*1、BP-A60N*1



バッテリーパック
BP-A30*1、BP-A60*1



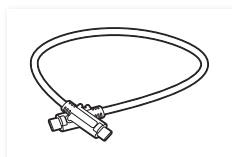
バッテリーチャージャー
CG-A10



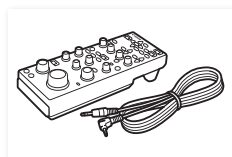
バッテリーチャージャー CG-A20と
コンパクトパワーアダプター
CA-CP300 B (CG-A20用)



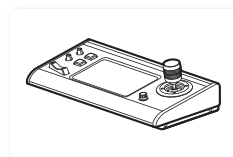
マウントアダプター
PL-RF



モニターケーブル
MC-5U



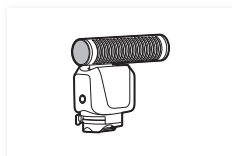
リモートコントローラー
RC-V100



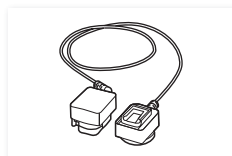
リモートカメラコントローラー
RC-IP100



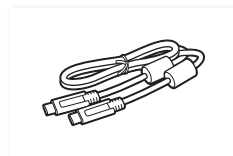
リモートカメラコントローラー
RC-IP1000



マルチアクセサリシュー
指向性ステレオマイクrophon
DM-E1D



オフカメラシューコード
OC-E4A



インターフェースケーブル
IFC-100U / IFC-400U

*1 このバッテリーパックは、カメラと通信することにより、バッテリー残量を分単位（目安）で確認できるインテリジェントリチウムイオンバッテリーです。

また、BP-A30/BP-A60使用時、次の機能は使用できません。

- LENS端子による通信
- カメラからマルチアクセサリシューへの給電

ご注意

アクセサリはキヤノン純正品のご使用をおすすめします。

このカメラでキヤノン純正以外のバッテリーをお使いになると、「バッテリー通信エラー」のメッセージが表示され、所定の操作が必要となります*。なお、純正以外のバッテリーに起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。

* Vマウントタイプバッテリーを除く。



このマークは、キヤノンのビデオ関連商品の純正マークです。キヤノンのビデオ機器をお求めの際は、同じマークもしくはキヤノンビデオ関連商品をおすすめします。

主な仕様

システム

- 記録方式

動画：

RAW

映像記録方式：Cinema RAW Light

音声記録方式：リニアPCM、24 bit、48 kHz、4 ch

ファイルフォーマット：CRM（Canon Raw Movie：キヤノン独自フォーマット）

XF-AVC

映像圧縮方法：MPEG-4 AVC / H.264

音声記録方式：リニアPCM、24 bit、48 kHz、4 ch

ファイルフォーマット：MXF

XF-AVC S、XF-HEVC S

映像圧縮方法：XF-AVC S MPEG-4 AVC / H.264、XF-HEVC S HEVC / H.265

音声記録方式：リニアPCM、24 bit、48 kHz、4 ch

MPEG-2 AAC-LC、16 bit、48 kHz、2 ch

ファイルフォーマット：MP4

WAV

音声記録方式：スロー & ファストモーション記録時の音声ファイル

リニアPCM、24 bit、48 kHz、4 ch

2スロット記録機能の音声記録時の音声ファイル

リニアPCM、16 bit、8 kHz、1 ch

ファイルフォーマット：BWF

静止画：DCF準拠、Exif Ver2.31準拠、静止画圧縮方法：JPEG

- 記録／再生信号形式

メイン動画：

RAW

ビットレート：2290 Mbps、2160 Mbps、2130 Mbps、1910 Mbps、1800Mbps、1780Mbps、1730 Mbps、1380 Mbps、1160 Mbps、1150 Mbps、1130 Mbps、1070 Mbps、954 Mbps、939 Mbps、916 Mbps、915 Mbps、886 Mbps、850 Mbps、732 Mbps、690 Mbps、611 Mbps、576 Mbps、574 Mbps、563 Mbps、553 Mbps、552 Mbps、479 Mbps、470 Mbps、451 Mbps、366 Mbps、306 Mbps、293 Mbps、287 Mbps、283 Mbps、240 Mbps、236 Mbps、230 Mbps、184 Mbps、154 Mbps、142 Mbps、118 Mbps、114 Mbps、113 Mbps、92 Mbps、77 Mbps、74 Mbps

解像度：6000×3164、4368×2304、2184×1152

深度：12 bit

フレームレート：59.94P、50.00P、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P

XF-AVC

ビットレート：1200 Mbps、1000 Mbps、900 Mbps、750 Mbps、600 Mbps、500 Mbps、480 Mbps、450 Mbps、375 Mbps、360 Mbps、300 Mbps、250 Mbps、240 Mbps、150 Mbps、125 Mbps、120 Mbps / Intra-frame

250 Mbps、150 Mbps、50 Mbps、25 Mbps / Long GOP

解像度：4096×2160、3840×2160、2048×1080、1920×1080

カラーサンプリング：4:2:2 10 bit

フレームレート：59.94P、59.94i、50.00P、50.00i、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P

XF-AVC S、XF-HEVC S

ビットレート：XF-AVC S

1200 Mbps、1000 Mbps、900 Mbps、750 Mbps、600 Mbps、500 Mbps、480 Mbps、450 Mbps、375 Mbps、360 Mbps、300 Mbps、250 Mbps、240 Mbps、150 Mbps、125 Mbps、120 Mbps / Intra-frame

250 Mbps、150 Mbps、100 Mbps、50 Mbps、35 Mbps / Long GOP
XF-HEVC S

225 Mbps、150 Mbps、135 Mbps、100 Mbps、50 Mbps、35 Mbps

解像度：4096×2160、3840×2160、2048×1080、1920×1080

カラーサンプリング：XF-AVC S XF-AVC S YCC422 10 bit、XF-AVC S YCC420 8 bit、XF-HEVC S YCC422 10 bit、
XF-HEVC S YCC420 10 bit

フレームレート：59.94P、50.00P、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P

プロキシ動画：

XF-AVC

ビットレート：35 Mbps / Long GOP

解像度：2048×1080、1920×1080

カラーサンプリング：4:2:0 8 bit

フレームレート：59.94P、59.94i、50.00P、50.00i、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P

XF-AVC S、XF-HEVC S

ビットレート：16 Mbps、9 Mbps、6 Mbps / Long GOP

解像度：2048×1080、1920×1080、1280×720

カラーサンプリング：4:2:0 10 bit、4:2:0 8 bit

フレームレート：59.94P、50.00P、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P

● 記録メディア

動画（RAW）：CFexpressカード CFexpress 2.0 Type B 準拠

動画（すべてのメイン記録形式）／静止画：SD / SDHC / SDXCメモリーカード*

* プロキシ動画以外のファイルの保存や読み出しにも使用。

● 撮像素子

フルサイズ裏面照射積層CMOSセンサー

総画素数*：約2670万画素

カメラ部有効画素数*：最大約1900万画素

* 1万の位を四捨五入

● レンズマウント

キヤノンRFマウント

● RFレンズ群（RF-Sレンズ／RFシネマレンズ含む）

● EFレンズ群（EF-Sレンズ／EFシネマレンズ含む。マウントアダプター EF-EOS R装着時）

● PLレンズ（マウントアダプター PL-RF装着時）

● 35mmフィルム換算時の焦点距離

■ センサーモード：フルサイズ

● 水平解像度が 6000 / 4096 / 2048 のとき：実焦点距離*×約1.06**

● 水平解像度が 3840 / 1920 のとき：実焦点距離*×約1.12**

■ センサーモード：Super 35 mm (Crop)

● 水平解像度が 4368 / 4096 / 2048 のとき：実焦点距離*×約1.46**

● 水平解像度が 3840 / 1920 のとき：実焦点距離*×約1.54**

■ センサーモード：Super 16 mm (Crop)

● 水平解像度が 2184 / 2048 のとき：実焦点距離*×約2.92**

● 水平解像度が 1920 のとき：実焦点距離*×約3.07**

* レンズの焦点距離 ** 変換係数

● 周辺光量補正／色収差補正／回折補正／歪曲収差補正

キヤノンのRF / EFレンズ、RF / EF シネマレンズで可能*。歪曲収差補正はRFレンズ／RFシネマレンズのみ。

* 一部のレンズは対応していません。

● シャッタースピード

スピード（1/3段ステップ、1/4段ステップ）、アングル、クリアスキャン、スロー、切

● アイリス

マニュアル、プッシュオートアイリス、オートアイリス

ステップ（1/2段、1/3段、ファイン）

● ISO感度／ゲイン

オート、マニュアル

ISO感度（1段、1/3段設定）：100～102400

ゲイン（ノーマル、ファイン設定）：－6 dB～54 dB

● NDフィルター

内蔵（OFF、2 stops、4 stops、6 stops、8 stops*、10 stops*）、電動式

* 「ND濃度拡張」使用時のみ。

● 露出

AEシフト、測光方式（スタンダード、スポットライト、バックライト）

- **ホワイトバランス**
 セットA、セットB、プリセット設定（太陽光 約5600K、電球 約3200K）*、色温度設定（2000K ～ 15000K）、AWB * 色温度は目安です。
 色温度（K）／色補正值（CC）による微調整（ホワイトバランスセット、AWB以外）
- **フォーカス**
 調整方法：マニュアル、ワンショットAF、連続AF、被写体検出AF、追尾
 AF方式：デュアルピクセルCMOS AF
- **感度**
59.94 Hz F10（59.94P時）、F14（29.97P時）
50.00 Hz F11（50.00P時）、F16（25.00P時）
 いずれも、ISO800、2000ルクス、反射率89.9 %時
- **Wi-Fi**
 無線LAN規格：IEEE802.11b/g/n（2.4 GHz帯）
 IEEE802.11a/n/ac（5 GHz帯）
 接続方法：インフラストラクチャー（WPS：プッシュボタン方式、WPS：PINコード方式、アクセスポイント検索、マニュアル）、カメラアクセスポイント
 認証方式：オープン、共有キー、WPA/WPA2/WPA3Personal、WPA/WPA2/WPA3-Enterprise
 暗号化方式：WEP-64、WEP-128、TKIP、AES
- **マイク**
 モノラルエレクトレットコンデンサマイク
- **静止画サイズ**
 4096×2160、3840×2160、2048×1080、1920×1080

入力端子

- **MIC端子**
 直径3.5 mm ステレオミニジャック（不平衡、プラグインパワー対応）
 感度：-72 dBV（ボリュームオート、フルスケール -18 dB）
 ATT：20 dB
 供給電圧：DC 2.4 V（バイアス抵抗2.2 kΩ）
 LINE時：-12 dBV（ボリュームセンター、フルスケール -18 dB）
- **REMOTE端子**
 直径2.5 mm ステレオミニミニジャック
- **INPUT1端子、INPUT2端子**
 ミニXLR 3ピンジャック（平衡）（①シールド、②ホット、③コールド）
 MIC時
 入力インピーダンス：600 Ω
 感度：-60 dBu（ボリュームセンター、フルスケール -18 dB）
 ATT：20 dB
 LINE時
 入力インピーダンス：10 kΩ
 感度：+4 dBu（ボリュームセンター、フルスケール -18 dB）
- **GRIP（カメラグリップ接続）端子**
 USB Type-C™ ジャック、キヤノン独自信号仕様（付属のカメラグリップ接続専用）

出力端子

- **MON.端子**
 BNCジャック
 映像：HD：SMPTE 292
 3G：SMPTE 424、SMPTE 425
 音声：SMPTE ST 299-1、SMPTE ST 299-2
 出力信号レベル：0.8 Vp-p
 出力インピーダンス：75 Ω
 その他：メニューにて3G-SDIマッピング方式を選べる。

- **VIDEO端子**
USB Type-C™ ジャック、キヤノン独自信号仕様（付属のLCDモニター接続専用）
- **SDI OUT端子**
BNCジャック
映像： HD： SMPTE 292
3G： SMPTE 424、 SMPTE 425
6G： SMPTE ST 2081
12G： SMPTE ST 2082
音声： SMPTE ST 299-1、 SMPTE ST 299-2
出力信号レベル： 0.8 Vp-p
出力インピーダンス： 75 Ω
その他：メニューにて3G-SDIマッピング方式を選べる。
- **HDMI OUT端子**
HDMI™ コネクター（タイプA）
タイムコードを重畳できる（独自規格）
映像／音声出力：HDMI仕様に準じる。
- **ヘッドホン端子**
Ø3.5 mm ステレオミニジャック
出力信号レベル： -17 dBV（32 Ω負荷、ボリューム最大）

入出力端子

- **USB端子**
USB Type-C™ ジャック、Super Speed USB(USB3.2 Gen1x1)相当、スマートフォン、GP-E2への接続が可能。
- **TIME CODE端子**
DIN1.0/2.3 ジャック端子
入力 入力インピーダンス： 100 kΩ
信号レベル： 0.5-4.5 Vp-p
出力 出力インピーダンス： 50 Ω
信号レベル： 1.3 Vp-p
- **G-LOCK/SYNC/RET端子**
DIN1.0/2.3 ジャック端子
入力
メニューの「Genlock入力」選択時
信号レベル： 1.0 Vp-p
入力インピーダンス： 75 Ω
メニューの「RET入力」選択時
映像： 3G-SDI（SMPTE 424、 SMPTE 425準拠）
HD-SDI（SMPTE 292準拠）
信号レベル： 0.8 Vp-p
入力インピーダンス： 75 Ω
出力
メニューの「HD Sync出力」選択時
信号レベル： 1.0 Vp-p
出力インピーダンス： 75 Ω
- **LENS端子**
丸型12 ピンジャック
- **イーサネット端子**
RJ45コネクター（1000BASE-T対応）

その他端子

- **DC IN 12V端子**
XLR 4 ピン
- **マルチアクセサリースキュー端子**
キヤノン独自仕様

電源その他

- DC IN 12V端子
入力：DC11.5V ～ 20V、10A（許容最大負荷電流）。XLR 4ピン コネクター
- バッテリー
DC 14.4V（バッテリーパック）
- 動作温度
0℃ ～ +40℃
- 外形寸法（幅×高さ×奥行き）
カメラ本体のみ：約142×135×135 mm
カメラ本体にカメラグリップ、ハンドルユニット、LCDモニター、LCDアタッチメントユニット、マイクホルダー、
バッテリー装着時：約361×274×363 mm
- 質量（カメラ本体のみ）
約1,540 g

ハンドルユニット

- 特長：マルチアクセサリシュー対応
- 外形寸法：約79.5×90.4×167.8 mm
- 質量：約300 g

LCDモニター

- パネル：3.5型（対角8.8 cm）、アスペクト比 16：9、約276万ドット、視野率100%、静電容量方式タッチパネル
- VIDEO端子：カメラ本体の接続専用
- 外形寸法：約113×73×30 mm
- 質量：約155 g

LCDアタッチメントユニット

- 特長：着脱可能、回転可能
- 外形寸法：約114.7×108.9×149.4 mm
- 質量：約260 g

カメラグリップ

- 特長：着脱可能、6°刻みで回転可能、操作ボタン／ダイヤル
- 外形寸法：約59.8×132.8×74.8 mm
- 質量：約270 g

バッテリーチャージャー CG-A20

- 定格入力：DC 24 V、1.8 A
- 定格出力：DC 16.7 V、1.5 A
- 使用温度：0℃ ～ +40℃
- 外形寸法（幅×高さ×奥行き）：約100×24×100 mm
- 質量：約145 g

コンパクトパワーアダプター CA-CP300 B (CG-A20用)

- 定格入力：AC 100 ～ 240 V、50 / 60 Hz、0.88 A (100V) ～0.43 A (240V)
- 定格出力：DC 24 V、1.8 A
- 使用温度：0℃～ +40℃
- 外形寸法（幅×高さ×奥行き）：約52.0×31.5×128.0 mm
- 質量：約219 g

バッテリーパック BP-A60N

- 使用電池：リチウムイオン（インテリジェントリチウムイオンバッテリー）
- 使用温度：0℃～ +40℃
- 公称電圧：DC 14.4 V
- 公称容量：6400 mAh / 93 Wh
- 外形寸法（幅×高さ×奥行き）：約41.5×82.5×69.7 mm
- 質量：約465 g

対応レンズと機能

ご購入いただいた時期によっては、レンズのファームウェアのアップデートが必要になることがあります。詳細については、CINEMA EOS SYSTEM製品情報をご覧ください。
PLレンズは、別売のマウントアダプター PL-RFを取り付けたときに使用できます。また、カメラ本体のLENS端子もしくは外部機器のLENS端子への接続が必要です。

レンズ	カメラからのアイリス調整			カメラからのズーム調整
	マニュアル	プッシュオート	オート	
RFレンズ	●*2	●*2	●*2	●*5
EFレンズ*1	●	●	—	●*3
オートアイリスに対応するEFレンズ	●	●	●	—
RF / EF*1 シネマレンズ、PLレンズ*1				
CN7x17 KAS S/E1*4 CN10x25 IAS S/E1*4 CN20x50 IAS H/E1*4 CN8x15 IAS S/E1*4	●	●	●	●
CN-E18-80mm T4.4 L IS KAS S CN-E70-200mm T4.4 L IS KAS S CN7x17 KAS S/P1*4 CN20x50 IAS H/P1*4 CN10x25 IAS S/P1*4 CN8x15 IAS S/P1*4 CN7x17 KAS T/P1*4 CN7x17 KAS T/R1	●*6	●*6	●*6	●*6
デュアルピクセルフォーカスガイドが使用可能なマニュアルフォーカスレンズ	—	—	—	—
CN-E15.5-47mm T2.8 L S CN-E15.5-47mm T2.8 L SP CN-E30-105mm T2.8 L S CN-E30-105mm T2.8 L SP				

*1 マウントアダプターが必要。

*2 RF600mm F11 IS STM、RF800mm F11 IS STMを除く。

*3 パワースームアダプター PZ-E1を装着したレンズのみ。

*4 「AEレスポンス」は非対応。

*5 パワースームアダプター PZ-E2を装着したレンズのみ。

*6 PLレンズは、カメラのLENS端子に12ピンケーブルを接続するとアイリスおよびズームの調整が可能。

レンズ	カメラからのフォーカス調整					フォーカスガイド	フォーカスポジションガイド
	マニュアル	ワンショットAF	連続AF	被写体検出AF	追尾		
RF / EF* ¹ レンズ	●* ²	●* ²	●* ²	●* ²	●* ²	●	●* ⁴
RF / EF* ¹ シネマレンズ、PLレンズ* ¹							
CN7x17 KAS S/E1 CN7x17 KAS T/R1 CN8x15 IAS S/E1 CN10x25 IAS S/E1	●	●	●	●	●	●	●
CN20x50 IAS H/E1 CN7x17 KAS S/P1* ³ CN20x50 IAS H/P1* ³ CN10x25 IAS S/P1* ³ CN8x15 IAS S/P1* ³ CN7x17 KAS T/P1* ³	●	—	—	—	—	—	●
CN-E18-80mm T4.4 L IS KAS S CN-E70-200mm T4.4 L IS KAS S	●	●	●	●	●	●	●
デュアルピクセルフォーカスガイドが使用可能なマニュアルフォーカスレンズ	—	—	—	—	—	●	—

*¹ マウントアダプターが必要。

*² RF5.2mm F2.8 L DUAL FISHEYEを除く

*³ カメラのLENS端子に12ピンケーブルを接続した場合

*⁴ RF35mm F1.4 L VCM、RF50mm F1.4 L VCM、RF24mm F1.4 L VCMのみ。

• オートアイリスに対応するレンズ

EFレンズ

EF85mm F1.4 L IS USM

EF70-200mm F4 L IS II USM

EF400mm F2.8 L IS III USM

EF600mm F4 L IS III USM

EFシネマレンズ（CINE-SERVO Lens、COMPACT-SERVO Lens のみ）

RFシネマレンズ（Primeレンズは除く）

• デュアルピクセルフォーカスガイドが使用可能なマニュアルフォーカスレンズ

CN-E14mm T3.1 L F

CN-E24mm T1.5 L F

CN-E35mm T1.5 L F

CN-E50mm T1.3 L F

CN-E85mm T1.3 L F

CN-E135mm T2.2 L F

CN-E20mm T1.5 L F

CN-E20-50mm T2.4 L F

CN-E14-35mm T1.7 L S

CN-E45-135mm T2.4 L F

CN-E31.5-95mm T1.7 L S

CN-R24mm T1.5 L F

CN-R35mm T1.5 L F

CN-R50mm T1.3 L F

CN-R85mm T1.3 L F

CN-R14mm T3.1 L F

CN-R20mm T1.5 L F

CN-R135mm T2.2 L F

• 「電源オフ時のレンズ収納」（ 209）に対応するレンズ

EF40mm F2.8 STM

EF-S 24mm F2.8 STM

EF50mm F1.8 STM

RF35mm F1.8 MACRO IS STM

RF85mm F2 MACRO IS STM

RF50mm F1.8 STM

RF24mm F1.8 MACRO IS STM

RF16mm F2.8 STM

動画の記録可能時間の目安

1回の記録でカードの空き容量がなくなるまで記録したときの記録時間です。

メイン動画（CFexpressカード）

記録形式	ビットレート	512 GB
RAW	2290 Mbps	27分
	2160 Mbps	29分
	2130 Mbps	29分
	1730 Mbps	36分
	1380 Mbps	46分
	1150 Mbps	55分
	1130 Mbps	56分
	1070 Mbps	59分
	915 Mbps	69分
	850 Mbps	74分
	732 Mbps	86分
	690 Mbps	91分
	574 Mbps	109分
	563 Mbps	112分
	552 Mbps	114分
	451 Mbps	139分
	366 Mbps	171分
	293 Mbps	213分
	287 Mbps	216分
	283 Mbps	216分
	230 Mbps	269分
	184 Mbps	324分
	142 Mbps	424分
	113 Mbps	528分
	92 Mbps	633分
	74 Mbps	779分

記録形式	ビットレート	512 GB
XF-AVC	1200 Mbps	53分
	900 Mbps	70分
	600 Mbps	104分
	480 Mbps	131分
	450 Mbps	140分
	360 Mbps	174分
	300 Mbps	206分
	250 Mbps	245分
	240 Mbps	259分
	150 Mbps	406分
	120 Mbps	502分
	50 Mbps	1044分
	25 Mbps	1943分
XF-AVC S	1200 Mbps	53分
	900 Mbps	71分
	600 Mbps	106分
	480 Mbps	133分
	450 Mbps	142分
	360 Mbps	177分
	300 Mbps	212分
	250 Mbps	254分
	240 Mbps	266分
	150 Mbps	422分
	120 Mbps	530分
	100 Mbps	635分
	50 Mbps	1237分
	35 Mbps	1740分
XF-HEVC S	225 Mbps	282分
	150 Mbps	422分
	135 Mbps	471分
	100 Mbps	635分
	50 Mbps	1237分
	35 Mbps	1740分

メイン動画（SDカード）

記録形式	ビットレート	512 GB	128 GB
XF-AVC	600 Mbps	105分	26分
	480 Mbps	131分	32分
	450 Mbps	140分	35分
	360 Mbps	174分	43分
	300 Mbps	206分	51分
	250 Mbps	245分	61分
	240 Mbps	259分	64分
	150 Mbps	406分	101分
	120 Mbps	502分	125分
	50 Mbps	1044分	261分
	25 Mbps	1943分	485分
XF-AVC S	600 Mbps	106分	26分
	480 Mbps	133分	33分
	450 Mbps	142分	35分
	360 Mbps	177分	44分
	300 Mbps	212分	53分
	250 Mbps	254分	63分
	240 Mbps	266分	66分
	150 Mbps	422分	105分
	120 Mbps	531分	132分
	100 Mbps	635分	158分
	50 Mbps	1237分	309分
	35 Mbps	1740分	435分

記録形式	ビットレート	512 GB	128 GB
XF-HEVC S	225 Mbps	282分	70分
	150 Mbps	422分	105分
	135 Mbps	471分	117分
	100 Mbps	635分	158分
	50 Mbps	1237分	309分
	35 Mbps	1740分	435分

バッテリーの充電時間の目安

バッテリーバック	BP-A60N（付属）	BP-A30N（別売）
充電時間*（バッテリーチャージャー CG-A20を使用時）	約310分	約175分

* 周囲の温度や充電状態によって異なります。

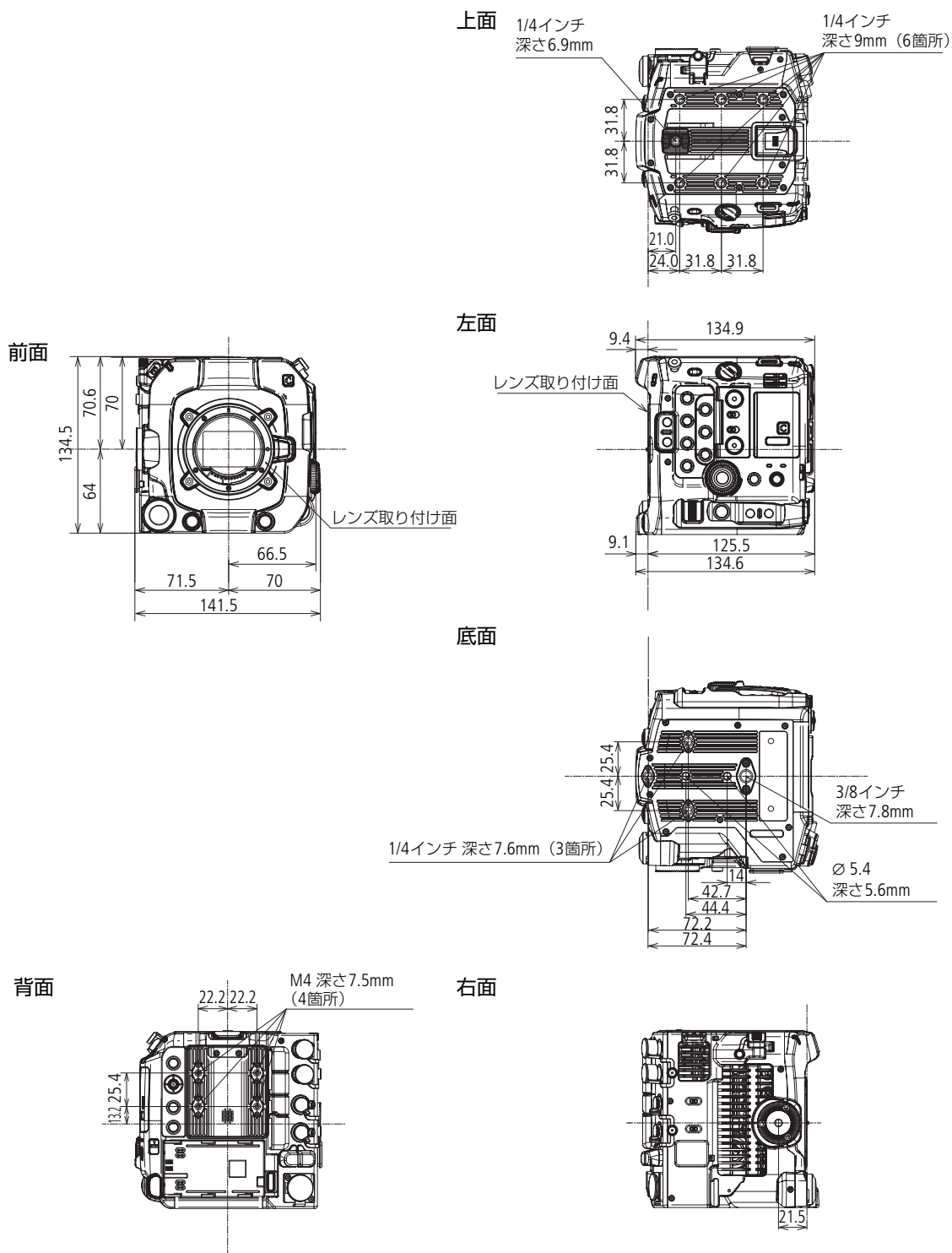
使用時間の目安

付属のバッテリー BP-A60Nと別売のBP-A30Nをフル充電したときの使用時間の目安は、次のとおりです。
Cfexpressカードのシングル記録時。LCDモニター／MON.端子／SDI OUT端子使用時。RF50mm F1.8レンズ装着時。

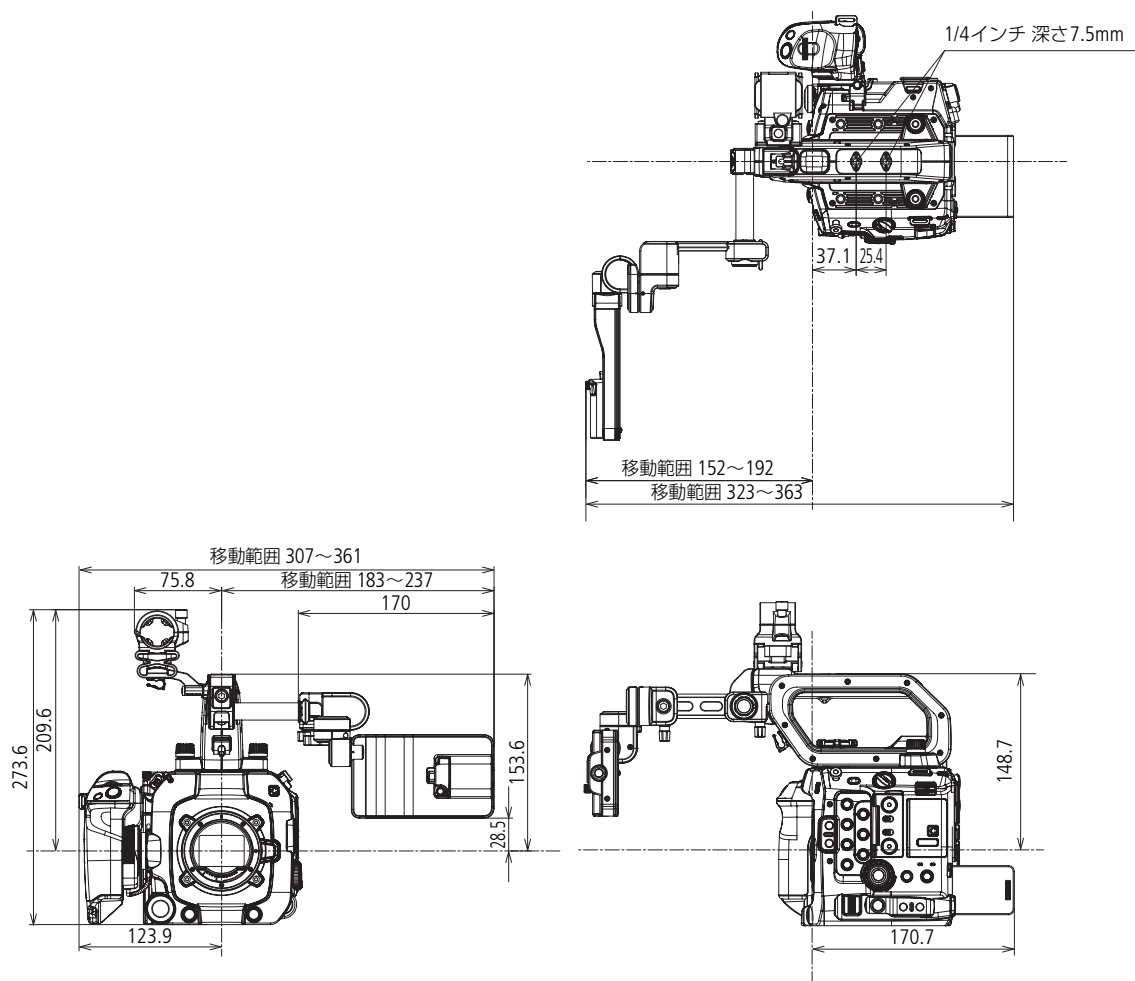
映像の信号形式						消費電力	使用時間	
センサーモード	メイン記録形式	解像度	フレームレート	色深度	ビットレート		BP-A60N (付属)	BP-A30N (別売)
フルサイズ	RAW ST	6000x3164	59.94P	12 bit	2.13 Gbps	32.5 W	約155分	約70分
Super 35mm (Crop)		4368x2304			1.13 Gbps	30.4 W	約165分	約80分
—	XF-AVC YCC422 10 bit	4096x2160		—	1.2 Gbps	31.6 W	約160分	約75分
		2048x1080			300 Mbps	29.7 W	約170分	約80分

最大消費電力：78 W

寸法図 (単位 : mm)

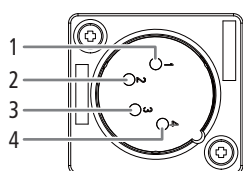


カメラグリップ、ハンドルユニット、マイクホルダー、LCDモニター（パネル開）、
LCDアタッチメントユニット、バッテリーパックBP-A60N装着時



電源入力端子のピン配置

DC IN 12V端子



- 1 GND
- 2 未結線

- 3 未結線
- 4 DC 11.5V~20V

索引

あ

アイリス	78
アクセサリ	246
アクセスポイント	168、177
アサインボタン	126
アナモフィックレンズ	124

い

イーサネット	169
色空間	130
色収差補正	34
インターバル記録	123
インデックス表示	
:クリップ、静止画	141
インフラストラクチャー	168

え

エラーメッセージ	236
----------	-----

お

オーディオリミッター	111
音声記録	43
音声出力チャンネル	163
音声を記録する	105
音声をモニターする	112
オンセット・グレーディング	22、160

か

カード	
:スロットを切り換える	41
回折補正	34
解像度	62
外部マイク／外部音声入力機器を接続する	108
拡大表示	86
カスタムディスプレイ	52
カスタムピクチャー	130
:プリセット	130
:Lookファイル	132
カメラアクセスポイント	168
カメラインデックス	45
カメラダイレクト設定	61
カラーサンプリング	62
カラーバー	113

ガンマ	130
-----	-----

き

キーロック	11
機能設定 (MODE)	170
吸気口	11

く

クリップ番号	45
クリップファイル名	45

け

結露	244
----	-----

さ

再生	
:クリップ／静止画を再生する	140
撮影	
:静止画を撮影する	51
:動画を撮影する	50
サブ動画記録	67

し

シーン	119
システム周波数	62
絞り値	78
シャッタースピード	70
修復	42
周辺光量補正	34
修理対応	265
出力信号形式	150
仕様	247
使用時間	257
常時記録	121

す

水準器	47
ズーム	93
スロー & ファストモーション記録	120

せ

静止画

- :記録する51
- :再生する140
- :静止画番号の付けかたを選ぶ200

接続設定 (SET)170

接続

- :外部モニター／レコーダーを接続する ...156
- :ヘッドホンでモニターする 112、145

設定データ139

ゼブラパターン95

センサーモード62

そ

測光方式80

た

タイムコード99

タイムコードを外部同期する102

ダイレクトタッチコントロール60

縦撮り58

ダブルスロット記録43

タリーランプ50

タリー OSD57

ち

チェックマーク148

つ

通信設定 (NW)170

て

テイク119

デジタルテレコン93

テストトーン113

デュアルピクセルフォーカスガイド85

電源警告25

電源

- :バッテリーを使う23
- :DC IN 12V端子を使う25

と

動画の記録方法43

トラブルシューティング229

ドロップフレーム99

に

ニックネーム179

ね

ネットワーク

- :機能設定171
- :接続状態183
- :接続設定179
- :通信設定175

の

ノンドロップフレーム99

は

排気口13

波形モニター114

バッテリー

- :本体に取り付ける／取り外す24

ハンドルユニット27

ひ

ピーキング85

日付・時刻35

ビットレート63

ふ

ファームウェア 33、209

ファンタム電源109

フォーカス

- :追尾90
- :被写体検出89
- :フォーカスアシスト機能85
- :マニュアルフォーカス84
- :連続AF87
- :ワンショットAF87
- :AFスピード88

フォルスカラー97

フォーカスポジションガイド86

ブラウザーリモート187

ブラックバランス49

フリーラン100

フレーム記録	122
フレーム表示	57
フレームレート	62
ブレ記録	121
プロキシ	68

へ

ベクトルスコープ	114
ヘッドホン端子	112

ほ

ホワイトバランス	81
:色温度／色補正值 (CC) 調整	82
:プリセット設定	82
:ホワイトバランスセット	81
:AWB	82

ま

マーカー	95
マイクの感度	111
マイクホルダー	19
マイメニュー	37

め

メイン記録形式	62
メイン動画	39、43、62
メタデータ	117
メッセージ	236
メニュー	
:基本操作	36
:メニュー一覧	196

も

文字入力	38、46
モノラルマイク	105

ゆ

ユーザービット	101
ユーザーメモ	117
ユーザー LUT	161

ら

ライブ映像	94
-------	----

り

リール番号	45
リセット	207
リターン信号	94
リファレンスビデオ信号	103
リモートカメラコントローラー	191
リモートカメラコントロールアプリ	192
リレー記録	43

る

ルート証明書	178
--------	-----

れ

冷却ファン	47
レックラン	100
レンズ	32
レンズファームウェア	33

ろ

録音レベル調整	110
---------	-----

わ

歪曲収差補正	34
--------	----

番号

2スロット記録機能	43
3G-SDIマッピング	156

その他

+48V	105
ABB	49
ACES	22
ACESproxy	22
AEシフト	80
AF枠	89
Canon Log 2 / Canon Log 3	131
Canonアプリ	174、194
CFexpressカード	
:カードを入れる／取り出す	40
:使用可能なCFexpressカード	39
:初期化	41
Cinema Gamut	130
Cinema RAW Development	165

Content Transfer Professional	165、166
CVプロトコル	174
DC IN 12V端子	25
DCI-P3	159
FEC（エラー訂正）	172
Frame.io	195
FTP転送	185
Gamma/Color Space	130
GENLOCK	103
HDMI OUT端子	157
HDRアシスト	159
HTTPS	183
INPUT端子	105
IPアドレス	177
IPストリーミング	186
IPv4	177
IPv6	181
ISO感度	73
Lookファイル	132
LUT	159
MIC（マイク）端子	105
MON.端子	157
Multi-Camera Control	192
ND濃度拡張	77
NDフィルター	77
OKマーク	148
RC-IP100／RC-IP1000	191
REMOTEA端子	125
RFレンズマウント	32
SDカード	
:使用可能なSDカード	39
:初期化	41
SDI OUT端子	156
SSID	177
TCP/IPv6	181
User Memo	117
Vectorscope	114
VIDEO端子	28
Waveform Monitor	114
Wi-Fi	168
WPS	168
XCプロトコル	191

XF Utility	164
------------	-----

商標について

- SD、SDHC、SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- CFexpress、CFexpress Type BロゴはCompactFlash Associationの商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Apple、macOS、App Storeは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Adobe、Camera to Cloud、Frame.ioおよびFrame.ioロゴはアメリカ合衆国およびその他の国々におけるAdobe（アドビ社）の商標または登録商標です。
- Avid、Media Composerは、米国および／またはその他の国におけるAvid Technology, Inc.またはその子会社の商標または登録商標です。
- Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。Wi-Fi CERTIFIED、WPA、WPA2、WPA3とWi-Fi CERTIFIEDロゴは、Wi-Fi Allianceの商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- JavaScriptは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interfaceという語、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- USB Type-C™ およびUSB-C™ はUSB Implementers Forumの商標です。
- DaVinci Resolve™ は、Blackmagic Design Pty. Ltd.の商標です。
- DCFロゴマークは、(社) 電子情報技術産業協会（JEITA）の「Design rule for Camera File system」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。



本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

使用許諾について

- This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and noncommercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.
- THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD("AVC VIDEO")AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM)

本機は、DCFに準拠しています。DCFは、(社) 電子情報技術産業協会（JEITA）で主として、デジタルカメラ等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

アクセサリは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリのご使用をおすすめいたします。なお、純正品以外のアクセサリの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
 2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
 3. 修理品をご送付の場合は、見本となる撮影データを記録した記録メディアを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。
-

修理を依頼されるときは

修理についてはお買い求めの販売店、もしくはお客様相談センターにお問い合わせください。

- 購入年月日、製品の型名、故障内容を明確にお伝えください。不具合内容を確認の上、修理方法をご案内いたします。
- 修理品を送付される場合は十分な梱包でお送りください。

■本書の記載内容は2024年11月現在のものです

製品の仕様および外観や本書の記載内容は、改良等のため予告なく変更することがあります。
最新の使用説明書については、キヤノンのホームページなどでご確認ください。

Canon

キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6